あわのみや みや うち い せき
粟宮宮内遺跡

－一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

2022.3

栃 木 県 教 育 委 員 会
公益財団法人とちぎ未来づくり財団

序

粟宮宮内遺跡は、栃木県南部の小山市粟宮地内に位置しています。この地域は県南における主要都市として発展するとともに、自然環境にも恵まれ、思川東岸には豊かな水田地帯も広がっています。

この度、一般国道４号線（粟宮歩道整備）建設に先立ち、路線内に所在する遺跡の取り扱いについて、関係機関と協議の上、記録保存を目的とした発掘調査を実施いたしました。

粟宮宮内遺跡は、平成 19 年度に県道新設に伴い大規模な調査が行われて以来、複数回調査が行われ、古墳時代から中世の大規模な遺跡であることが確認されています。今回の調査でも古墳時代から古代の遺構などが確認されました。また現在の国道４号は旧日光道中であることから、近世以降の遺構・遺物も多数確認されるなど、地域の歴史を解明する貴重な成果が得られています。

本報告書は、令和元年度（４次調査）、令和２年度（５次調査）に実施した発掘調査の成果をまとめたものです。本書が県民の皆様にとりまして、郷土の歴史を理解する一助になるとともに、各方面において広くご活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から報告書作成に至るまで、多大なる御協力をいただきました国土交通省、小山市教育委員会をはじめとする関係機関、並びに関係各位に対しまして、厚くお礼申し上げます。

令和４（2022）年３月

栃木県教育委員会

教育長　　荒川　政利

例　言

1　本書は、栃木県小山市粟宮地内に所在する粟宮宮内遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は、令和元年及び令和２年度国土交通省の事業のうち、一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に関する記録調査である。

3　調査は、国土交通省より公益財団法人とちぎ未来づくり財団へ業務委託され、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが、栃木県教育委員会事務局文化財課の指導のもと、実施したものである。

4　本遺跡の現地調査及び整理報告作業期間は以下の通りである。

令和元年度　発掘調査

期　間　　令和元（2019）年８月 22 日～令和２（2020）年３月 31 日

担当者　　調査課副主幹　　初山孝行

調査課嘱託調査員　加藤俊樹

令和２年度　発掘調査

期　間　　令和２年（2020）年５月１日～令和３（2021）年３月 31 日

担当者　　調査課副主幹　　江原　英

調査課係長　　谷中　隆

令和３年度　整理・報告

期　間　　令和３年（2021）年４月１日～令和４（2022）年３月 31 日

担当者　　整理課副主幹　　今平昌子

5　本書の執筆・報告書作成は今平昌子が行った。第４章第２・３節については嘱託調査員　杉浦昭博による。

6　粟宮宮内遺跡の調査にあたり、以下の事業を委託した。

令和元年度　基準点測量及び基準杭設定・航空写真撮影：中央航業株式会社

令和２年度　遺構オルソ画像作成・遺構図化：株式会社シン技術コンサル

令和３年度　遺物写真実測：株式会社シン技術コンサル

遺物写真撮影：株式会社大塚カラー

7　発掘調査中における遺構の写真撮影は各担当者が行った。

8　金属製品の保存処理・X 線撮影は有限会社武蔵野文化財修復研究所が行った。

9　陶磁器については、東京藝術大学の非常勤講師　水本和美氏のご教示をいただいた。

10　発掘調査・報告書作成にあたっては、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターの職員の他、次の方々から御指導・御協力をいただいた。

国土交通省　栃木県教育委員会事務局文化財課　小山市教育委員会

11　発掘調査の参加者は、次の通りである。

令和元年

池澤恵子　遠藤　茂　梅原美代子　川名子正美　佐藤常幸　田中　功　長田隆至　寶地戸一休

横山政雄　柳　秀晴

令和２年度

天野崇弘　池澤恵子　梅原美代子　川名子正美　佐藤常幸　田中　功　寶地戸一休　横山政雄

柳　秀晴

12　整理・報告書作成作業の参加者は次の通りである。

熊谷早苗　武田智子　長　道子　佐藤　愛　根本弥幸

13　本遺跡の調査概要は、埋蔵文化財センター年報・栃木県埋蔵文化財保護行政年報で報告されているが、本書をもって正式報告とする。

14　本遺跡の出土遺物・図面写真等資料等については、栃木県が保有し、栃木県埋蔵文化財センターに保管、公益財団法人とちぎ未来づくり財団埋蔵文化財センターが管理している。

凡　　例

1　遺跡

⑴　遺跡の略号は OY-AW（OYamashi-AWanomiya ）である。以前に調査した第１次～３次調査との別を明示するため、第４次調査に「４」（OY-AW ４）、第５次調査に「５」（OY-AW ５）の枝番を付す。

2　遺構

⑴　遺構の略号は、奈良国立文化財研究所が用いる SA（塀・柵列）・SD（溝）・SE（井戸）・SK（土坑）・P(ピット）に準拠する。

⑵　遺構図の縮尺は原則として１/60、カマドは１/30 を用いる。挿図中にスケールで示す。

⑶　セクション図中の「L」は線上が標高を示す。

⑷　方位は国家座標に拠っている。

⑸　土層堆積図の番号は原則堆積の順序を示すが、違う場合もある。

⑹　遺構図中の点線は推定ラインを示す。

3　遺物

⑴　実測図の縮尺は原則として１/ ４、陶磁器については１/ ３を用いる。挿図中にスケールで示す。

⑵　挿図中の遺物番号は、遺構毎の出土番号及び遺物観察表並びに写真図版の番号に対応する。

⑶　須恵器の断面図は黒塗りで示す。

⑷　施釉の範囲は―・―・―　で示している。

⑸　土器実測図のスクリーントーンは以下を示す。

・・・黒色処理　　・・・ガラス質溶解部　　・・・還元部

(6)　遺物実測図・拓影図で内外面を示したものは、左側に外面、右側に内面を基本に表示した。

(7)　土師器以外の酸化焔焼成の土器は土師質土器とした。

(8)　事実記載及び観察表中の［ ］付き数値は残存値、( ) 付き数値は推定値を示したものである。

(9) 胎土の色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会議事務局監修　財団法人日本色彩研究所色票監修　1996 年版）を参照した。

目　次

序
例 言 …… i
凡 例 …… ii
目 次 …… iii

第１章　調査にいたる経緯と経過
第１節　調査の経緯 …… 1
第２節　調査の経過 …… 2
第３節　調査の方法 …… 9
第２章　遺跡の環境
第１節　地理的環境 …… 10
第２節　歴史的環境 …… 12
第３章　確認された遺構と遺物
第１節　基本土層 …… 17
第２節　調査の概要 …… 18
第３節　第４次調査 …… 23
1.　G-1 区 …… 23
2.　G-2 区 …… 23
3.　G-3 区 …… 23
4.　G-4 区 …… 23
5.　G-5 区 …… 24
6.　G-6 区 …… 27
7.　G-7 区 …… 27
8.　G-8 区 …… 29
9.　G-9 区 …… 37
10.　G-10 区 …… 45
11.　G-11 区 …… 50
12.　G-12 区 …… 65
13.　G-13 区 …… 68
14.　G-21 区 …… 71
第４節　第５次調査 …… 73
1.　G-14 区 …… 73
2.　G-15 区 …… 90
3.　G-16 区 …… 91
4.　G-17 区 …… 93
5.　G-18 区 …… 96
6.　G-19 区 …… 100
7.　G-20 区 …… 100

第５節　その他の遺物 …… 111
第４章　まとめ
第１節　遺構と遺物 …… 115
1.　古代 …… 115
2.　中世～近世 …… 115
3.　近世以降 …… 115
第２節　粟宮について …… 116
第３節　道について …… 116

挿図目次

第１図　調査区全体図 …… 3
第２図　令和元年度調査区 …… 5
第３図　令和２年度調査区 …… 7
第４図　栃木県位置図 …… 10
第５図　栃木県地形区分図 …… 10
第６図　周辺地形区分図 …… 11
第７図　周辺遺跡分布図 …… 14
第８図　基本土層図 …… 17
第９図　令和元年度調査区 …… 21
第 10 図　G-1 区遺構実測図・遺構外出土遺物実測図 23
第 11 図　G-4 区 P-61 遺構実測図 …… 24
第 12 図　G-4 区遺構外出土遺物実測図 …… 25
第 13 図　G-5A 区 SI-48・50,SK-12・49,P-25・26・38・94 ～ 98 遺構実測図・SI-48 出土遺物実測図 …… 26
第 14 図　G-5B 区遺構実測図 …… 27
第 15 図　G-5 区遺構外出土遺物実測図 …… 28
第 16 図　G-6・7 区遺構実測図・G-7 区遺構外出土遺物実測図 …… 30
第 17 図　G-8A 区 SK-34・36・37 遺構実測図 …… 31
第 18 図　G-8B 区 SI-47,SK-56・57・70,P-62・69 遺構実測図 …… 32
第 19 図　G-8B 区 SI-47,SK-56・70 出土遺物実測図 …… 33
第 20 図　G-8 区遺構外出土遺物実測図 …… 35
第 21 図　G-9 区 SE-68,SK-31・33・63 ～ 67・72 ～ 74 遺構実測図 …… 38
第 22 図　G-9 区 SK-33・63 出土遺物実測図 …… 39
第 23 図　G-9 区遺構外出土遺物実測図 …… 41
第 24 図　G-10A 区 SK-17・27 ～ 30・32・35・77 遺構実測図 …… 42
第 25 図　G-10B 区 SK-14・46・51 ～ 55・58 ～ 60, P-71・75・76 遺構実測図（1） …… 43
第 26 図　G-10B 区 SK-14・46・51 ～ 55・58 ～ 60・92,P-71・75・76 遺構実測図（2）…… 44
第 27 図　G-10B 区 SK-52・53・55 出土遺物実測図 46
第 28 図　G-10 区遺構外出土遺物実測図 …… 47
第 29 図　G-11A 区 SK-42 ～ 44・80 ～ 88・91・99 遺構実測図 …… 52
第 30 図　G-11A・ B 区 SK-10・18・42・43 出土遺物実測図 …… 53
第 31 図　G-11B 区 SI-22・24,SK-10・11・13・15・18・20・23・78・79・93,P-19・21 遺構実測図（1） …… 56
第 32 図　G-11B 区 SI-22・24,SK-18・20・23・78・79,P-19・21 遺構実測図（2）…… 57
第 33 図　G-11B 区 SK-15 出土遺物実測図（1）…… 59
第 34 図　G-11B 区 SK-15 出土遺物実測図（2）…… 60
第 35 図　G-11B 区 SK-15 出土遺物実測図（3）…… 61
第 36 図　G-11A・B 区遺構外出土遺物実測図 …… 64
第 37 図　G-12 区 SK-9・16・41・45・89 遺構実測図 …… 66
第 38 図　G-12 区 SK-45 出土遺物実測図 …… 66
第 39 図　G-12 区遺構外出土遺物実測図 …… 67
第 40 図　G-13 区 SD-3,SK-2・4 ～ 8・90 遺構実測図 …… 69
第 41 図　G-13 区遺構外出土遺物実測図 …… 70
第 42 図　G-21 区 SK-39・40,P-1 遺構実測図 …… 71
第 43 図　G-21 区 SK-40 出土遺物実測図…… 72
第 44 図　G-21 区遺構外出土遺物実測図 …… 72
第 45 図　令和２年度調査区（1）…… 74
第 46 図　令和２年度調査区（2）…… 75
第 47 図　G-14B 区 SD-1・2 遺構実測図 …… 77
第 48 図　G-14C 区遺構実測図 …… 79
第 49 図　G-14C 区遺構外出土遺物実測図 …… 80
第 50 図　G-14D 区 SI-39・40・42,SK-35 ～ 38, P-43 遺構実測図（1）…… 81
第 51 図　G-14D 区 SI-39・40・42,SK-35 ～ 38, P-43 遺構実測図（2）…… 83
第 52 図　G-14D 区 SI-39・40・42 出土遺物実測図 84
第 53 図　G-14D 区遺構外出土遺物実測図 …… 85
第 54 図　G-15A 区遺構実測図 …… 86
第 55 図　G-15C・ D 区遺構実測図 …… 87
第 56 図　G-15B 区遺構実測図 …… 89
第 57 図　G-15 区遺構外出土遺物実測図 …… 90
第 58 図　G-16 区遺構実測図 …… 91
第 59 図　G-17A 区 SI-3,SK-21 ～ 23・25,P-24・26 ～ 29 遺構実測図（1）…… 92
第 60 図　G-17A 区 SI-3,SK-21 ～ 23・25,P-24・26 ～ 29 遺構実測図（2）・SK-22 出土遺物実測図 …… 93
第 61 図　G-17A 区遺構外出土遺物実測図 …… 95
第 62 図　G-17B 区遺構実測図 …… 95
第 63 図　G-18 区 SI-30・33,SK-31・44 ～ 47,P-32 遺構実測図（1）…… 97
第 64 図　G-18 区 SI-30・33,SK-31・44 ～ 47,P-32 遺構実測図（2） …… 99
第 65 図　G-18 区 SI-30 カマド遺構実測図 …… 100
第 66 図　G-18 区 SI-30・33,SK-47 出土遺物実測図 101
第 67 図　G-18 区遺構外出土遺物実測図 …… 103
第 68 図　G-20A 区 SI-6,P-7 ～ 16・19 遺構実測図 104
第 69 図　G-20A 区 SI-6 出土遺物実測図 …… 105

第 70 図　G-20B 区 SI-5,P-17・18 遺構実測図 … 107
第 71 図　G-20B 区 SI-5 出土遺物実測図 …… 108
第 72 図　G-20C 区 SI-4 出土遺物実測図 …… 108
第 73 図　G-20C 区 SI-4 遺構実測図 …… 109
第 74 図　G-20A・C 区遺構外出土遺物実測図 … 110
第 75 図　縄文・弥生土器出土遺物実測図 …… 111
第 76 図　第 4 次調査出土金属製品実測図 …… 112
第 77 図　第 5 次調査出土・不明区金属製品実測図 113
第 78 図　粟宮宮内遺跡時期別分布図 …… 117
第 79 図　日光道中と粟宮宮内遺跡 …… 119

表 目 次

第 1 表　周辺の遺跡 …… 15
第 2 表　粟宮宮内遺跡遺構一覧表 …… 18
第 3 表　G-1 区遺構外出土遺物観察表…… 23
第 4 表　G-4 区 Pit 一覧表 …… 24
第 5 表　G-4 区遺構外出土遺物観察表…… 25
第 6 表　G-5A 区 Pit 一覧表 …… 28
第 7 表　G-5A 区 SI-48 出土遺物観察表 …… 28
第 8 表　G-5 区遺構外出土遺物観察表…… 29
第 9 表　G-7 区遺構外出土遺物観察表…… 29
第 10 表 G-8B 区 Pit 一覧表 …… 33
第 11 表 G-8B 区 SI-47,SK-56・70 出土遺物観察表 … 34
第 12 表 G-8 区遺構外出土遺物観察表…… 36
第 13 表 G-9 区 SK-33・63 出土遺物観察表 …… 40
第 14 表 G-9 区遺構外出土遺物観察表…… 41
第 15 表 G-10B 区 Pit 一覧表…… 44
第 16 表 G-10B 区 SK-52・53・55 出土遺物観察表… 46
第 17 表 G-10 区遺構外出土遺物観察表 …… 48
第 18 表 G-11B 区 Pit 一覧表…… 53
第 19 表 G-11A・B 区 SK-10・18・42・43 出土遺物観察表…… 53
表 20 表 G-11B 区 SK-15 出土遺物観察表 …… 62
表 21 表 G-11 区遺構外出土遺物観察表 …… 64
表 22 表 G-12 区 SK-45 出土遺物観察表 …… 66
第 23 表 G-12 区遺構外出土遺物観察表 …… 67
第 24 表 G-13 区遺構外出土遺物観察表 …… 70
第 25 表 G-21 区 Pit 一覧表 …… 71
第 26 表 G-21 区 SK-40 出土遺物観察表 …… 72
第 27 表 G-21 区遺構外出土遺物観察表 …… 72
第 28 表 G-14 区遺構外出土遺物観察表 …… 80
第 29 表 G-14D 区 Pit 一覧表…… 83
第 30 表 G-14D 区 SI-39・40・42 出土遺物観察表 … 84
第 31 表 G-14D 区遺構外出土遺物観察表 …… 85
第 32 表 G-15 区遺構外出土遺物観察表 …… 90
第 33 表 G-17A 区遺構外出土遺物観察表 …… 93
第 34 表 G-17A 区 Pit 一覧表…… 95
第 35 表 G-17A 区 SK-22 出土遺物観察表 …… 96
第 36 表 G-18 区 Pit 一覧表 ……100
第 37 表 G-18 区 SI-30・33,SK-47 出土遺物観察表 …102
第 38 表 G-18 区遺構外出土遺物観察表 ……103
第 39 表 G-20A 区 Pit 一覧表……105
第 40 表 G-20A 区 SI-6 出土遺物観察表 ……106
第 41 表 G-20B 区 Pit 一覧表……106
第 42 表 G-20B 区 SI-5 出土遺物観察表 ……108
第 43 表 G-20C 区 SI-4 出土遺物観察表 ……108
第 44 表 G-20A・C 区遺構外出土遺物観察表……110
第 45 表 金属製品計測表 ……114

図 版 目 次

図版一　遺構（四次調査）
　令和元年度 調査区遠景（上空から）
図版二　遺構（四次調査）
　G-1 区 調査前（南から）
　G-1 区 土層堆積状態西壁南側（東から）
　G-1 区 精査状況北側（南から）
　G-4 区 調査前（北から）
　G-4 区 表土除去 2 回目（南から）
　G-4 区 土層堆積状態（西から）
　G-4 区 完掘（南から）
　G-5 区 調査前（北から）
図版三　遺構（四次調査）
　G-5 区 遺構確認状況（南から）
　G-5A 区 SI-48 土層堆積状態（南から）
　G-5A 区 SI-48 完掘（東から）
　G-5A 区 SI-50 完掘（東から）
　G-5A 区 SK-49 土層堆積状態（南から）
　G-5A 区 SK-49 完掘（東から）
　G-5A 区 完掘（南から）
　G-6 区 調査前（北から）
図版四　遺構（四次調査）
　G-6 区 表土除去完了状況（北から）
　G-7 区 調査前（北から）
　G-8 区 調査前（北から）
　G-8A 区 遺構確認状況（南から）
　G-8A 区 SK-34 土層堆積状態（西から）
　G-8A 区 SK-34・37 土層堆積状態（西から）
　G-8A 区 SK-37 土層堆積状態（西から）
　G-8A 区 SK-36 土層堆積状態（南から）
図版五　遺構（四次調査）
　G-8A 区 SK-36 完掘（南から）
　G-8B 区 SI-47 完掘（西から）
　G-8B 区 SK-56・57 土層堆積状態（南から）
　G-8B 区 SK-56 完掘（西から）
　G-8B 区 SK-57 完掘（西から）
　G-8B 区 SK-70 完掘（西から）
　G-8B 区 完掘（南から）
　G-9 区 遺構確認状況（南から）
図版六　遺構（四次調査）
　G-9 区 SK-31 土層堆積状態（東から）
　G-9 区 SK-31 完掘（東から）
　G-9 区 SK-33 土層堆積状態（東から）
　G-9 区 SK-33 完掘（南から）
　G-9 区 SK-64 完掘（北から）
　G-9 区 SK-66 完掘（東から）
　G-9 区 SK-67 完掘（南から）
　G-9 区 SE-68 土層堆積状態（西から）
図版七　遺構（四次調査）
　G-9 区 SE-68 完掘（東から）
　G-9 区 SK- 73 完掘（西から）

G-9 区 完掘（南から）
G-10 区 表土除去（北東から）
G-10A 区 遺構確認状況（北から）
G-10A 区 SK-27 土層堆積状態（東から）
G-10A 区 SK-17・35・77 完掘（南から）
G-10A 区 SK-27 完掘（南から）
図版八　遺構（四次調査）
G-10A 区 SK-28 土層堆積状態（東から）
G-10A 区 SK-29 南北土層堆積状態（西から）
G-10A 区 SK-29 完掘（西から）
G-10A 区 SK-32 完掘（南から）
G-10A 区 SK-35 南北土層堆積状態（西から）
G-10B 区 SK-46・52・53 土層堆積状態（東から）
G-10B 区 SK-53・54・14 完掘（南から）
G-10B 区 SK-55・59, P-75・76 完掘（南から）
図版九　遺構（四次調査）
G-10B 区 SK-58・60 完掘（南から）
G-10B 区 SK-56 土層堆積状態（西から）
G-10B 区 土層堆積状態東壁（西から）
G-10B 区 標準土層 , SK-46 土層堆積状態（東から）
G-10B 区 完掘（南から）
G-10B 区 完掘（南から）
G-10B 区 完掘（南から）
G-11 区 安全柵設置
図版一〇　遺構（四次調査）
G-11 区 遺構確認状況（南から）
G-11A 区 遺構確認状況（北から）
G-11A 区 SK-42 土層堆積状態（西から）
G-11A 区 SK-42 完掘（北から）
G-11A 区 SK-43 土層堆積状態（南から）
G-11A 区 SK-43 完掘（南から）
G-11A 区 SK-44 完掘（北から）
G-11A 区 SK-83 完掘（西から）
図版一一　遺構 (四次調査)
G-11A 区 完掘（北から）
G-11B 区 SI-22 土層堆積状態（西から）
G-11B 区 SI-22 完掘（南から）
G-11B 区 SI-24 カマド土層堆積状態（北西から）
G-11B 区 SI-24 カマド（南西から）
G-11B 区 SI-24 カマド完掘（南西から）
G-11B 区 SI-24 カマド完掘（南西から）
G-11B 区 SI-24 完掘（南西から）
図版一二　遺構（四次調査）
G-11B 区 SK-10・11 土層堆積状態（西から）
G-11B 区 SK-10・11・13・93 土層堆積状態（西から）
G-11B 区 SK-15 遺物出土状況アップ(北から)
G-11B 区 SK-15 完掘（南から）
G-11B 区 SK-18 完掘（南から）
G-11B 区 SK-20 土層堆積状態完掘（東から）
G-11B 区 SK-23 完掘（南から）
G-11B 区 南部 完掘（南から）
図版一三　遺構 (四次調査)
G-11B 区 完掘（南から）
G-11B 区 水没
G-11B 区 埋め戻し
G-12 区 SK-9 完掘（南から）
G-12 区 SK-41 完掘（北から）
G-12 区 SK-41・89 土層堆積状態（東から）
G-12 区 SK-41 完掘（北から）
G-12 区 SK-45 完掘（南から）
図版一四　遺構 (四次調査)
G-12 区 完掘（北から）
G-13 区 調査前（北から）
G-13 区 SK-2 完掘り（南から）
G-13 区 SD-3 土層堆積状態（西から）
G-13 区 SD-3 完掘（南から）
G-13 区 SK-5 墓坑確認状況アップ（南から）
G-13 区 SK-4・5 土層堆積状態（南から）
G-13 区 SK-4・5 完掘（南から）
図版一五　遺構 (四次調査)
G-13 区 SK-6 土層堆積状態（東から）
G-13 区 SK-8 土層堆積状態（南から）
G-13 区 SK-8 完掘（東から）
G-13 区 完掘（北から）
G-21 区 調査前（南から）
G-21 区 完掘（北から）
G-21 区 精査状況南端（北から）
G-21 区 SK-39 土層堆積状態（東から）
図版一六　遺構 (五次調査)
G-21 区 SK-39 土層堆積状態（東から）
G-21 区 SK-40 土層堆積状態（西から）
G-21 区 SK-40 完掘（西から）
G-21 区 甕出土状況（南から）
G-21 区 完掘（北から）
G-14B 区 調査状況（南西から）
G-14B 区 遺構確認状況（南東から）
G-14B 区 遺構確認状況（北から）
図版一七　遺構 (五次調査)
G-14B 区 SD-1・2 完掘（南から）
G-14B 区 完掘（北から）
G-14C 区 遺構確認状況（北から）
G-14C 区 完掘（南から）
G-14D 区 遺構確認状況（北から）
G-14D 区 SK-35・36 完掘（東から）
G-14D 区 SK-37 完掘（西から）
G-14D 区 SI-39 土層堆積状態（北西から）
図版一八　遺構 (五次調査)
G-14D 区 SI-39 土層堆積状態（南東から）
G-14D 区 SI-39・40 重複部土層堆積状態（北東から）
G-14D 区 SI-39 遺物出土状況（西から）
G-14D 区 SI-39 南部遺物出土状況（南西から）
G-14D 区 SI-39 カマド土層堆積状態（南から）
G-14D 区 SI-39 カマド土層堆積状態（西から）
G-14D 区 SI-39 カマド遺物出土状況（南から）
G-14D 区 SI-39 カマド完掘（南西から）
図版一九　遺構 (五次調査)
G-14D 区 SI-39 掘方完掘（西から）
G-14D 区 SI-39 カマド掘方土層堆積状態（西から）
G-14D 区 SI-40 土層堆積状態（南西から）
G-14D 区 SI-40 東壁土層堆積状態（西から）
G-14D 区 SI-40 北半土層堆積状態（北東から）
G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（南西から）
G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（南西から）
G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（北西から）
図版二〇　遺構 (五次調査)
G-14D 区 SI-40 北東部遺物出土状況（北から）
G-14D 区 SI-40 須恵器坏出土状況（西から）
G-14D 区 SI-40 カマド土層堆積状態（北東から）
G-14D 区 SI-40 カマド完掘（南東から）
G-14D 区 SI-40 床下ピット（西から）
G-14D 区 SI-40 掘方完掘（西から）
G-14D 区 SI-40 カマド掘方（南から）
G-14D 区 SI-40 土層堆積状態（北半西から）
図版二一　遺構 (五次調査)
G-14D 区 SI-42 遺物出土状況・土層堆積状態（西から）
G-14D 区 SI-42 遺物出土状況（北から）

G-14D 区 SI-42 遺物出土状況アップ
（北西から）
G-14D 区 SI-42 遺物・P-43 完掘（東から）
G-14D 区 SI-42 掘方完掘（北東から）
G-14D 区 P-43 土層堆積状態（北から）
G-14D 区 P-43 完掘（東から）
G-14D 区 全景（南から）
図版二二　遺構 (五次調査)
G-14D 区 全景（南から）
G-14D 区 遺構群全景（南から）
G-14D 区 全景（北から）
G-15A 区 遺構確認状況（北から）
G-15A 区 遺構確認状況（南から）
G-15B 区 遺構確認状況（南から）
G-15B 区 南部土層堆積状態（西から）
G-15B 区 中央部土層堆積状態（西から）
図版二三　遺構 (五次調査)
G-15C 区 表土除去状況（南東から）
G-15D 区 表土除去状況（北東から）
G-15D 区 北部土層堆積状態（西から）
G-15D 区 完掘（北から）
G-16 区 完掘（東から）
G-17A 区 遺構確認状況（南から）
G-17A 区 遺構確認状況（北から）
G-17A 区 SI-3 土層堆積状態（北から）
図版二四　遺構 (五次調査)
G-17A 区 SI-3 作業風景（北西から）
G-17A 区 SI-3 土層堆積状態（南から）
G-14A 区 SI-3 完掘（北から）
G-17A 区 SI-3 掘方完掘（西から）
G-17A 区 SK-21 土層堆積状態･完掘（東から）
G-17A 区 SK-22,P-27 完掘（西から）
G-17A 区 SK-23・24 完掘（北西から）
G-17A 区 SK-25,P-26・29 土層堆積状態
（西から）
図版二五　遺構 (五次調査)
G-17A 区 SK-25,P-26 完掘（西から）
G-17A 区 P-28 土層堆積状態（西から）
G-17A 区 完掘（南から）
G-17B 区 遺構確認状況（北から）
G-18 区 遺構確認状況（南東から）
G-18 区 SI-30・33 周辺西壁土層堆積状態
（南東から）
G-18 区 SI-30 内小刀出土状況（北から）
G-18 区 SI-30・33 作業風景（南から）
図版二六　遺構 (五次調査)
G-18 区 SI-30 付近東壁土層堆積状態
（北西から）
G-18 区 SI-30 土層堆積状態（北西から）
G-18 区 SI-30・33 土層堆積状態（東から）
G-18 区 SI-30 遺物出土状況（南から）
G-18 区 SI-30 北西部遺物出土状況（東から）
G-18 区 SI-30 遺物出土状況（北から）
G-18 区 SI-30 遺物出土状況（北西から）
G-18 区 SI-30 カマド煙道部土層堆積状態
（北東から）
図版二七　遺構 (五次調査)
G-18 区 SI-30 カマド袖部付近堆積状態
（南から）
G-18 区 SI-30 カマド土層堆積状態（西から）
G-18 区 SI-30 カマド袖内の芯材（南から）
G-18 区 SI-30 カマド完掘（北西から）
G-18 区 SI-30 掘方完掘（北から）
G-18 区 SI-33 土層堆積状態（南から）
G-18 区 SI-33 遺物出土状況・土層堆積状態
（東から）
G-18 区 SI-33 遺物出土状況（南から）
図版二八　遺構 (五次調査)
G-18 区 SI-33 遺物出土状況（北東から）
G-18 区 SI-33 土師器甕出土状況（南から）
G-18 区 SI-33 須恵器坏等出土状況（北から）
G-18 区 SI-33 須恵器蓋出土状況（南から）
G-18 区 SI-33 柱穴土層堆積状態（南から）
G-18 区 SI-33 柱穴と床面の状況（南から）
G-18 区 SI-33 新期柱穴完掘（東から）
G-18 区 SI-30・33 完掘（北から）
図版二九　遺構 (五次調査)
G-18 区 SI-33 古期柱穴土層堆積状態（東から）
G-18 区 SI-33 古期柱穴完掘（東から）
G-18 区 SI-33 掘方土層堆積状態（西から）
G-18 区 SI-33 掘方完掘（北から）
G-18 区 SI-30・33 調査風景（北から）
G-18 区 P-32 完掘（西から）
G-18 区 SK-44 ～ 47 完掘（北西から）
G-18 区 SK-46 土層堆積状態（西から）
図版三〇　遺構 (五次調査)
G-18 区 SK-47 完掘（西から）
G-18 区 全景（北から）
G-18 区 全景（南から）
G-19A 区 完掘（南から）
G-19A 区 土層堆積状態（西から）
G-19B 区 完掘（南から）
G-19B 区 完掘（南から）
G-20A 区 遺構確認状況及び土層堆積状態
（南西から）
図版三一　遺構 (五次調査)
G-20A 区 遺構確認状況（北から）
G-20A 区 SI-6 南半土層堆積状態（西から）
G-20A 区 SI-6 遺物出土状況（東から）
G-20A 区 SI-6 南半遺物出土状況（南東から）
G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況アップ
（北西から）
G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況アップ
（北から）
G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況（北から）
G-20A 区 SI-6 南側遺物出土状況アップ
（南から）
図版三二　遺構 (五次調査)
G-20A 区 SI-6 南側床面（東から）
G-20A 区 SI-6 北側完掘（北西から）
G-20A 区 SK-8・10・12 完掘（東上から）
G-20A 区 SK-10 完掘（西から）
G-20A 区 SK-9 完掘（西から）
G-20A 区 SK-10・13・14 完掘（北上から）
G-20A 区 SK-11 土層堆積状態（東から）
G-20A 区 SK-11 完掘（東から）
図版三三　遺構 (五次調査)
G-20A 区 SK-14 土層堆積状態及び
遺物出土状況（南から）
G-20A 区 SK-15 土層堆積状態（北から）
G-20A 区 P-16 土層堆積状態（東から）
G-20A 区 完掘（北から）
G-20A 区 南側完掘（南から）
G-20A 区 完掘（南から）
G-20A 区 埋め戻し状況（南から）
G-20B 区 遺構確認状況（南から）
図版三四　遺構 (五次調査)
G-20B 区 SI-5 確認状況（南東から）
G-20B 区 SI-5 土層堆積状態（南西から）
G-20B 区 SI-5 遺物出土状況（南東から）
G-20B 区 SI-5 カマド東西土層堆積状態（南東から）
G-20B 区 SI-5 カマド周辺遺物出土状況
（南から）
G-20B 区 SI-5 カマド周辺遺物出土状況

（南から）
G-20B 区 SI-5 床下含むカマド東西
土層堆積状態（南から）
G-20B 区 SI-5 古期床面の状況（南から）
図版三五　遺構 (五次調査)
G-20B 区 SI-5 古期床面の状況（北から）
G-20B 区 SI-5 東壁掘方土層堆積状態(西から)
G-20B 区 SI-5 東壁掘方土層堆積状態
（南西から）
G-20B 区 SI-5P1 完掘（東から）
G-20B 区 SI-5 掘方完掘（南から）
G-20B 区 SI-5 掘方カマド前面土層堆積状態
（南西から）
G-20B 区 SI-5 カマド右掘方ピット完掘
（南から）
G-20B 区 SK-17 完掘（東から）
図版三六　遺構 (五次調査)
G-20B 区 P-18 土層堆積状態（西から）
G-20B 区 完掘（南から）
G-20B 区 完掘（北から）
G-20B 区 埋め戻し状況（北から）
G-20C 区 中央部土層堆積状態（西から）
G-20C 区 遺構確認状況（南から）
G-20C 区 SI-4 遺物出土状況（東から）
G-20C 区 SI-4 土師器坏出土状況（南から）
図版三七　遺構 (五次調査)
G-20C 区 SI-4 土師器片出土状況（南から）
G-20C 区 SI-4P1 土層堆積状態（南から）
G-20C 区 SI-4P1 完掘（南から）
G-20C 区 SI-4 床下完掘（西から）
G-20C 区 撹乱 1 土層堆積状態（西から）
G-20C 区 撹乱 2 土層堆積状態（西から）
G-20C 区 完掘（北から）
作業風景（北から）
図版三八　遺物
G-1-1
G-4-1 ～ 5
G-5 SI-48-1
G-5-1 ～ 9・一括
図版三九　遺物
G-7-1 ～ 3
G-8B SI-47-1 ～ 3・一括
G-8B SK-70-7・8
G-8B SK-56-4・5・一括
G-8-1 ～ 3・5
図版四〇　遺物
G-8-4・6 ～ 10 ～ 17
図版四一　遺物
G-8-18 ～ 22・一括
G-9 SK-33-1 ～ 6・8 ～ 11
図版四二　遺物
G-9 SK-33-12・一括
G-9 SK-63-14・一括
G-9-1 ～ 7・一括
G-10B SK-52-1・2
G-10B SK-53-3・4
G-10B SK-55-5
図版四三　遺物
G-10B SK-55 一括
G-10-1 ～ 12・一括
G-11B SK-10-1
G-11B SK-18-3
図版四四　遺物
G-11B SK-15-1 ～ 8・10 ～ 13
G-11B SK-18 一括
G-11B SK-42-4 ～ 7
G-11B SK-43-8
G-11B SK-15-1 ～ 8・10 ～ 13
図版四五　遺物
G-11B SK-15-14 ～ 29
図版四六　遺物
G-11BSK-15-30・32 ～ 45・一括
G-11-1・3・4・一括
図版四七　遺物
G-11-2
G-12 SK-45-1・2・一括
G-12-1 ～ 4
G-13-1 ～ 4・一括
G-21 SK-40-1
図版四八　遺物
G-21 SK-40-2
G-21-1 ～ 4・一括
G-14C-1 ～ 6・一括
G-14D SI-39-1 ～ 3
G-14D SI-40-4
図版四九　遺物
G-14D SI-39 一括
G-14D SI-40-5・6
G-14D SI-42-7
G-14D-1 ～ 6
G-15-1
G-17A SK-22-2・一括
G-17A-1 ～ 5
図版五〇　遺物
G-17A 一括
G-17B 一括
G-18 SI-30-1・4・5・9
G-18 SI-33-13 ～ 17・20・21・一括
G-18-1
G-20A SI-6-1 ～ 4・7・9・10
G-20A-1
図版五一　遺物
G-20B SI-5-2
G-20C SI-4-1
G-20C-2
G-9 SK-33-9 ～ 11
G-11-17
G-13-25
表採
SK-485　出土漆器片・出土漆器痕
G-18 SI-33-1・2
G-18-3
図版五二　遺物
G-4-1・一括
G-8-2・3
G-9 SK-33-4 ～ 7・一括
G-9-8・一括
G-11 SK-15-12・13・一括
G-11 SK-18-15
G-11 P-19-16・一括
G-12-18
G-13-19・23
図版五三　遺物
G-13-20 ～ 22・24
G-21-26
G-14C-27・28・一括
G-14D29・30・SK-37一括
G-17A SI-3-32・34・一括
G-17B-31
G-18 SI-30-35・36
SK-485-38
G-18 SI 出土 -37

第１章　調査にいたる経緯と経過

第１節　調査の経緯

粟宮宮内遺跡第４次・５次調査は、国土交通省の行う「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業」に伴い、記録保存のための発掘調査として実施された。

粟宮宮内遺跡については、県土整備部から委託され、第１次～３次調査が行われている。

「緊急地方道路整備事業主要地方道小山環状線間中橋工区に伴う発掘調査」は平成９・12 年度に所在分布調査、平成 18 年度に確認調査、平成 19 年度の発掘調査、平成 20 年度の工事立ち会い調査を第１次調査とし、平成 22 年度に栃木県埋蔵文化財調査報告第 336 集『千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡』が刊行され、終了した。

「快適で安全な道づくり事業費（補助）主要地方道小山環状線間中工区に伴う発掘調査」は第２次調査が平成 27 年、第３次調査は平成 28 年に発掘調査が行われ、平成 28 年度に整理作業・報告書作成作業が行われた。平成 29 年３月 30 日に栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集『粟宮宮内遺跡』が刊行され、粟宮宮内遺跡の第１～３次調査分は終了した。

第４次・５次調査は国土交通省から委託され、第４次調査は令和元年、第５次調査は令和２年に発掘調査を行い、令和３年度に第４次・５次調査分の整理作業・報告書作成作業を行った。

「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業」の工事に先立ち、路線区内に位置する埋蔵文化財の取り扱いについて協議が行われた。第４次調査は、平成 30 年 12 月 13 日に現地協議が行われ、令和２年３月に国土交通省から見積書の提出の依頼がなされた。これを受け、令和元年８月 22 日付け国関整備交第 16 号「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する基本協定の締結について（協議）」と、令和元年８月 22 日付け国関整備交第 17 号「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する細目協定の締結について（協議）」にて、国土交通省と公益財団法人とちぎ未来づくり財団が協議を行い、両者間で協定が締結され、基本協定、細目協定ともに県文化財課も了承した。令和元年８月 22 日付け「発掘調査受委託契約書」にて、令和元年度の委託業務の契約が締結された。発掘調査着手後、現地調査の進捗、調査成果に併せ、調査費用について、国土交通省との間で調整が行われ、令和２年３月 30 日付け「発掘調査受委託変更契約書」にて、国土交通省と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託業務の変更契約が締結された。

第５次調査は、令和２年３月に見積書の提出の依頼がなされた。これを受け、令和２年５月１日付け国関整備交第６号「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査の実施に関する令和２年度契約について（回答）」にて、国土交通省から公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長あて、了承され、令和２年５月１日付け「発掘調査受委託契約書」にて、令和２年度の委託業務の契約が締結された。同日付けとち埋文第 13 号「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査受委託契約書の写しの提出について」を県文化財課に提出した。発掘調査着手後、現地調査の進捗、調査成果に併せ、調査費用について、国土交通省との間で調整が行われ、令和３年１月 18 日付け「発掘調査受委託変更契約書」にて、国土交通省と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託業務の変更契約が締結された。

整理作業・報告書作成作業は、令和３年４月１日付け「発掘調査受委託契約書」にて、国土交通省と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で令和３年度の委託契約が取り交わされ、委託業務の契約が締結された。調査費用について、国土交通省との間で調整が行われ、令和４年２月 21 日付け「発掘調査受委託変更契約書」にて、国土交通省と公益財団法人とちぎ未来づくり財団理事長との間で委託業務の変更契約

が締結された。

以上の契約を執行した結果、令和４年３月 30 日に本書が刊行され、粟宮宮内遺跡の「一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査」は令和４年３月 31 日、未調査部分を除き終了した。

第２節　調査の経過

粟宮宮内遺跡第４次・５次発掘調査は、令和元・２年度に現地調査を行い、令和３年度に整理作業・報告書作成作業を行った。以下に調査の概略を記す。

第４次調査　令和元年度　現地調査

調査範囲　　1,118㎡

調査費用　　当初　　２１，８３７，０００円（うち消費税及び地方消費税の額１，９８５，１８１円）

　　変更後　１６，６４９，６００円（うち消費税及び地方消費税の額１，５１３，６００円）

契約・調査期間　　令和元年８月 22 日～令和２年３月 31 日

調査の経過　平成 30 年 12 月 13 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所、県文化財課との現地協議

　　令和元年８月 26 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所との現地協議

　　令和元年８月 22 日～９月 26 日　発掘諸準備

　　令和元年９月 27 日～ 11 月 30 日　発掘作業

　　令和元年 10 月 31 日・12 月３日　航空写真撮影

　　令和元年 12 月９日　国土交通省宇都宮国道工事事務所との現地協議

第５次調査　令和２年度　現地調査

調査範囲　　1,316㎡

調査費用　　当初　　２８，２６５，６３０円（うち消費税及び地方消費税の額２，５６９，６０２円）

　　変更後　２４，８３８，８８０円（うち消費税及び地方消費税の額２，２５８，０８０円）

契約期間　　令和２年５月１日～令和３年３月 31 日

調査の経過　令和２年５月 13 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所、県文化財課との現地協議

　　令和２年５月１日～６月 19 日　発掘諸準備

　　令和２年６月 11 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所との電話による協議

　　令和２年６月 22 日～ 10 月 30 日　発掘作業・遺構測量・図化

　　令和２年７月 13 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所との現地協議

　　令和２年９月 30 日　国土交通省宇都宮国道工事事務所、県文化財課との現地協議

令和３年度　整理作業・報告書刊行作業

調査費用　　当初　　１５，８１４，０６６円（うち消費税及び地方消費税の額１，４３７，６４２円）

　　変更後　１６，８３８，８８０円（うち消費税及び地方消費税の額１，４７０，６０２円）

契約期間　　令和３年４月１日～令和４年３月 31 日

調査の経過　整理作業・報告書刊行作業

　　令和４年３月 30 日　報告書刊行

第３節　調査の方法

【現地調査】

交通量の多い国道４号線の歩道の調査である。歩行者・自転車等の安全対策のため、調査区域毎に調査区と道路の間にバリケードを設置して安全確保に努めた。調査区は細長いトレンチ状である。

調査区の表土除去は重機により行った。基本、調査区域毎に約２等分し、１回目の除去した排土を片側に置き、調査終了後、排土を移動させ、２回目の表土除去を行う。

その後、遺構確認作業及び国家座標に基づくグリッド杭を建植した。グリッドは 10 m四方とする。

遺構・遺物の調査については、以下を基本に行った。

令和元年度（第４次調査）

① 遺構確認後、調査区の壁により土層観察が出来るものは壁を使用し、状況に応じて土層観察用のベルト（セクションベルト）を設定、これを残し、覆土を除去した。

② 覆土除去後、土層堆積状況を記録（セクション図作成）し、写真撮影を行った。

③ セクションベルト除去後、出土遺物の位置・出土した高さを平板実測にて記録（遺物出土状況図作成）。写真撮影後、遺物の取り上げを行った。出土した遺物については、遺構ごとに記録した。

④ 調査区毎に平面図を作成、及び写真撮影。

⑤ 作図については、1/20 の縮尺を基本に行った。カマドについては 1/10 である。

⑥ 航空写真については、専門業者に委託した。

令和２年度（第５次調査）

① 遺構確認後、調査区の壁により土層観察が出来るものは壁を使用し、状況に応じて土層観察用のベルト（セクションベルト）を設定、これを残し、覆土を除去した。

② 調査区毎に写真撮影を行い、遺物の取り上げを行った。
土層堆積状況・平面図・遺物出土状況図の作成については、専門業者への委託による写真測量図化を行った。

遺構写真撮影はデジタルカメラを用いた。

調査終了後は埋め戻し、調査前の状況に復旧している。

【整理作業・報告書作成作業】

整理作業は栃木県埋蔵文化財センターで行った。

現地作成の実測図は、原図からセンターにおいてコンピュータートレースで図版化し、修正・補正を行った。

写真撮影図化による実測図の作成は、専門業者に委託し、修正・補正を行った。

出土遺物は、洗浄・注記作業後に接合作業を行い、欠失部分についてはクレイテックスを充塡し、復元及び補強、遺物の実測図作成を行った。一部の遺物については、写真実測の為の撮影を専門業者に委託した。図化した実測図は浄書（トレース）し、スキャニング・編集を行いデジタルデータ化し図版とした。

上記の作業に併行して、遺構・遺物の事実記載等の原稿執筆、遺物観察表等の表作成・執筆を行うとともに、遺物の写真撮影を行った。

報告書刊行に必要な原稿執筆と図版作成を行い、遺構・遺物図版、写真図版、原稿等と併せ割付し、入稿・校正後、刊行となった。

併せて、本報告書に係る遺物、遺構・遺物実測図・写真、空中写真等の成果品、各種台帳の整理を行い、収蔵庫・記録保管室に収納し、粟宮宮内遺跡発掘調査の全ての作業を完了した。

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

【位置】

粟宮宮内遺跡は栃木県小山市粟宮地内に所在する。

栃木県は関東平野の北部に位置し、東は茨城県、西は群馬県、南は埼玉県、北は福島県の各県に接する内陸県である。地理的には、阿武隈山地の南に連なる八溝山地からなる東部山地、関東平野の最奥部となる中央部平地、帝釈山地から足尾山地に連なる西部山地とに大きく三分でき、中央部平地は南に開け、北は福島県中通へと続く地形的特徴から、古来より、関東地方と東北地方を結ぶ交通路とされてきた。

小山市は栃木県の南部に位置する。東～南東境は茨城県と接する。人口約 17 万人を超える栃木県第２の都市であり、県南地域の中心である。県庁所在地である宇都宮市からは南方向約 30㎞に位置する。古くから交通の要衝として栄え、戦国時代には関東と東北地方を繋ぐ通路上にある。また、東京から 60㎞圏内の首都圏に含まれ、鉄道（JR 東北新幹線・宇都宮線、両毛線・水戸線）と国道（４号国道・新４号国道、50 号国道）が東西南北に走っている。市街は、市域中央部を南流する思川の東岸に広がる。縁辺部は、思川や市域東を田川、西部を巴波川が南流し、肥沃な農業集散地であるとともに、工業団地も造成され、発展している。

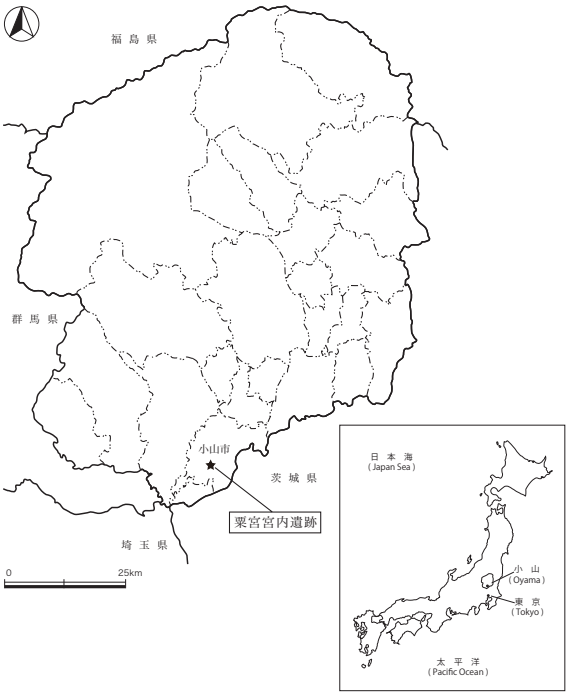
本遺跡の現況は、日光道中沿いに形成された集落を中心とする。

【地形】

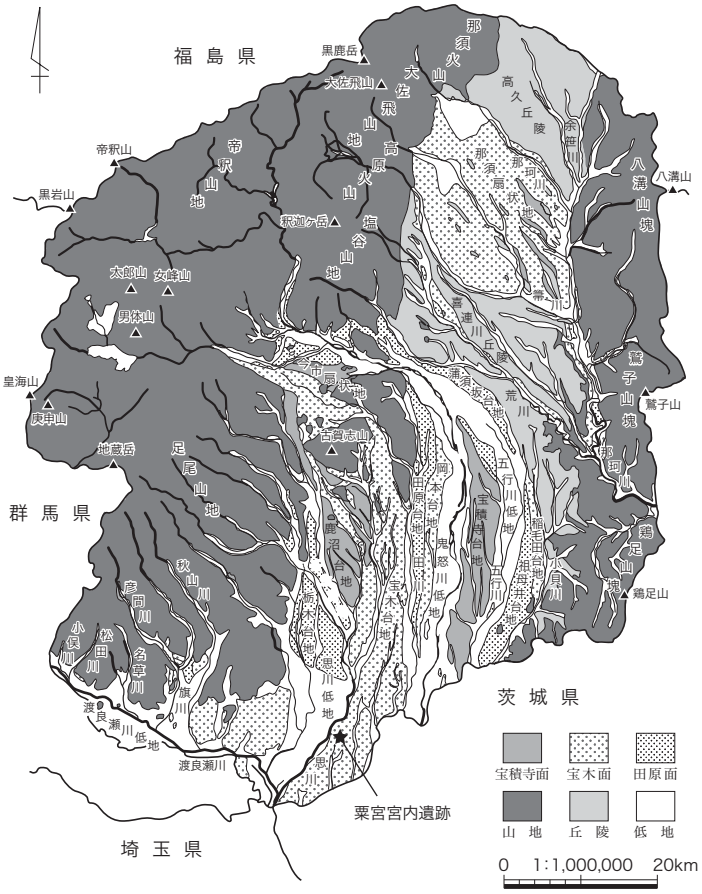
本遺跡周辺は、思川東岸、中央部平地西縁辺の南端部にあたる。

思川は、西部山地の前日光山地を源流とし、渡良瀬遊水池を経て渡良瀬川に注ぐ。河岸段丘を形成し、本遺跡をはじめ、多くの遺跡が存在する。

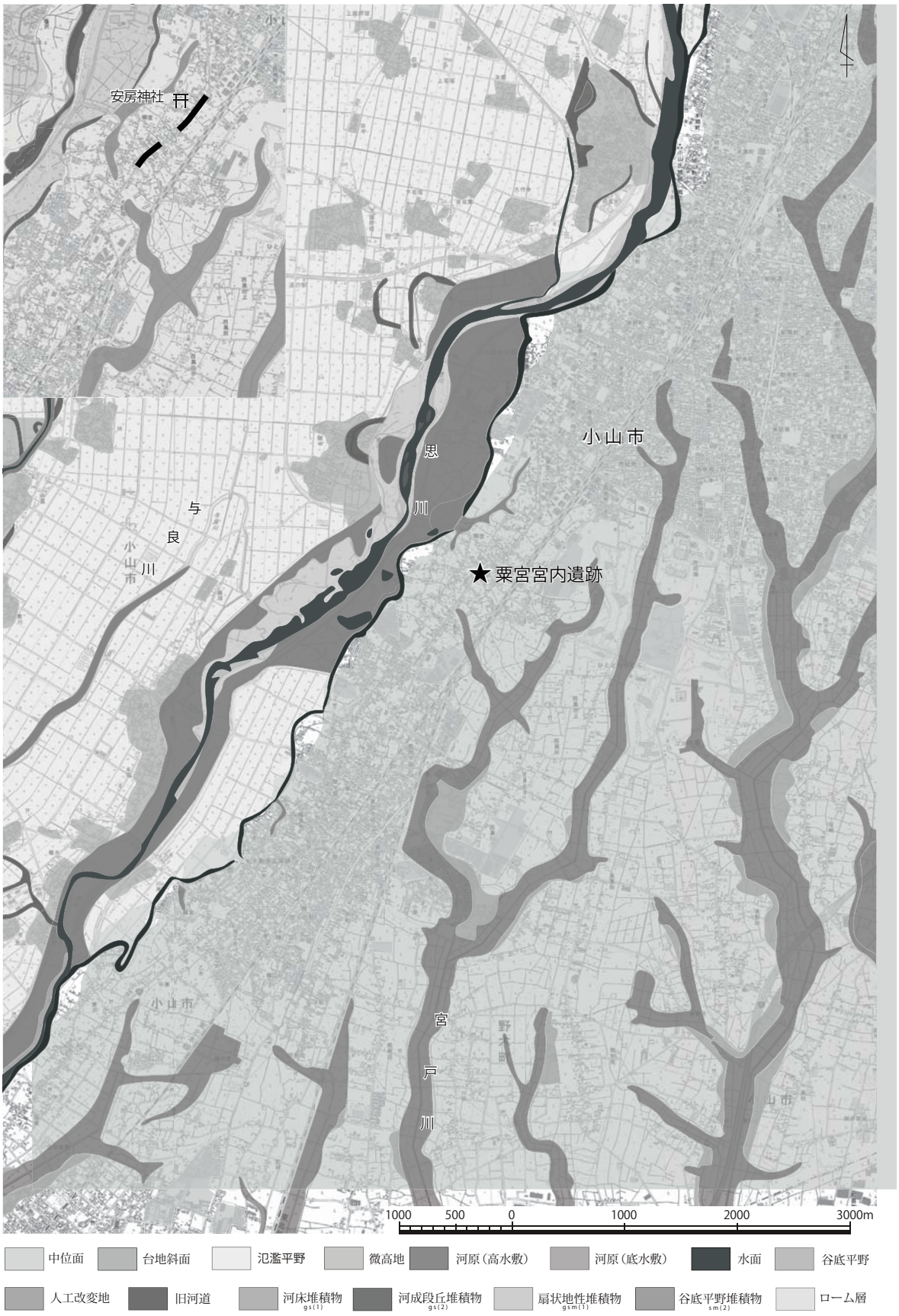
中央部平地は、主として、南流する河



第４図　栃木県位置図



第５図　栃木県地形区分図


安房神社
小山市
思
川
与
良
川
小山市
★粟宮宮内遺跡
小山市
宮
戸
川
1000 500 0 1000 2000 3000m
中位面
台地斜面
氾濫平野
微高地
河原（高水敷）
河原（底水敷）
水面
谷底平野
人工改変地
旧河道
河床堆積物 gs(1)
河成段丘堆積物 gs(2)
扇状地性堆積物 gsm(1)
谷底平野堆積物 sm(2)
ローム層

第６図　周辺地形区分図

川の浸食によってもたらされた細長い沖積低地と河岸段丘面とからなり、堆積した火山灰層（関東ローム層）の層序関係等によって、宝積寺面→宝木面→田原面→絹島低地（沖積低地）に形成時期が区分される。台地は概ね平坦で南北に延び、南に向かって緩やかに傾斜する。

本遺跡は田川と姿川に挟まれた宇都宮市域北部から南に続く台地で、ローム層中位の宝木面が形成する小山台地の西縁辺部に位置する。西側の思川低地とは明瞭な崖線によって区分される。小山台地は南流する複数の河川が形成する浸食谷が発達し、台地面を開析する。浸食谷は幅 100 m前後であり、谷底は水田としての利用が多い。

本遺跡は、遺跡東方約 1.25㎞の小山市神鳥谷付近から発する宮戸川に続く小支谷の北端部東側に位置する。本遺跡と西側に位置する千駄塚浅間遺跡とを分かつ小支谷である。本遺跡は小支谷ににより台地端部への広がりは確認されないが、思川に面する台地端部は僅かに張り出す地形である。

表層の土壌堆積状況は黒ボク土米神統である。風積の黒ボク土壌であり、台地の谷間に沿って分布する。表層腐植はやや淡く、下層は黄褐色である。土性は壌土である。

粟宮宮内遺跡の標高は 31.0 ～ 31.9 m、西側の思川低地面の標高は 15.0 m前後、比高 16.0 m前後である。

第２節　歴史的環境

今回調査された粟宮宮内遺跡の周辺の遺跡について、古い時代から順に見てみる。

【縄文時代】

調査区周辺では、前期から後期の土器片が出土する。

本遺跡周辺においては、前期から後期にかけての遺物の分布が広範囲にわたり確認されている。粟宮宮内遺跡（１）を含め、千駄塚浅間遺跡（26）、下国府塚星宮遺跡（2）、外城遺跡（13）、神鳥谷遺跡（16）、神鳥谷鍛冶町遺跡（18）、粟宮宮内東遺跡（25）、間々田牧ノ内遺跡（31）、西黒田遺跡（38）羽貫遺跡（39）などがあげられる。また、粟宮宮内北遺跡（21）では、前期黒浜式の竪穴住居跡２軒が調査されている。

【弥生時代】

本遺跡では中期の土器が出土する。

周辺の弥生時代の遺跡は少数で、中期の遺構・遺物は確認されていない。後期では間々田牧ノ内遺跡（31）が最も近い。後期末から古墳時代前期の住居跡４軒と方形周溝墓２基が確認されている。

南には乙女不動原亀田遺跡やその北側の乙女不動原北浦遺跡があり、また、小谷を挟んで隣接した八幡前遺跡でも後期の土器片が出土し、間々田六本木遺跡では住居跡１軒、礫が上層に出土する土坑２基が確認されている。

東では金山遺跡では住居跡１軒、田間遺跡では小銅鐸が出土している。中久喜にある八幡根東遺跡で住居跡２軒、土坑１基、西山遺跡で住居跡１軒、土坑３基が確認されるが、いずれも住居跡数軒と土坑の小規模な集落が殆どである。

【古墳時代】

周辺の主な集落遺跡としては、千駄塚浅間遺跡（26）、神鳥谷遺跡（16）、間々田牧ノ内遺跡（31）などがあげられる。千駄塚浅間遺跡（26）は昭和 61・62 年、平成３・４・19 年に調査が行われ、前期から後期の竪穴住居跡 160 軒以上が確認されている。神鳥谷遺跡（16）は昭和 57 年に調査が行われ、前期の竪穴住居跡６軒が確認された。間々田牧ノ内遺跡（31）は平成２年に小山市教育委員会により調査が行われ、竪穴住居跡 16 軒が確認されている。その後も調査が行われている。

周辺の主な古墳群としては、外城古墳群（12）、宮内古墳群（24）、千駄塚古墳群、間々田牧ノ内古墳群（32）、間々田八幡古墳群（33）などがあげられ、思川東岸の河岸段丘上に、南北に連続して古墳群が形成される。思川西岸は下国府塚周辺に、妙見古墳群（４）、国府神社古墳（５）、天神山古墳（６）、下国府塚愛宕神社古墳（７）などが散見される程度である。

【奈良・平安時代】

本遺跡では、主な集落遺跡としては、外城遺跡（13）、粟宮宮内北遺跡（21）、粟宮宮内東遺跡（25）などがあげられる。

特筆されるのは、本遺跡と小支谷を挟んだ近距離に位置する千駄塚浅間遺跡（26）である。平成３・４年に実施された発掘調査において大型掘立柱建物跡 35 棟、基壇建物跡３基、「寒川」・「厨」・「寒厨」の墨書土器が確認されている。同時期の竪穴住居が確認されないこと、区画溝内に複数時期におよぶ掘立柱建物跡が整然と配置されることなどから、官衙関連遺跡の可能性が指摘され、正倉域、もしくは「郡倉別院」と考えられている。

外城遺跡（13）は、11 次にわたる発掘調査において、竪穴住居跡 10 軒が確認されている。粟宮宮内北遺跡（21）は竪穴住居跡２軒、粟宮宮内東遺跡（25）は竪穴住居跡９軒が市教委の調査により確認された。

【中世】

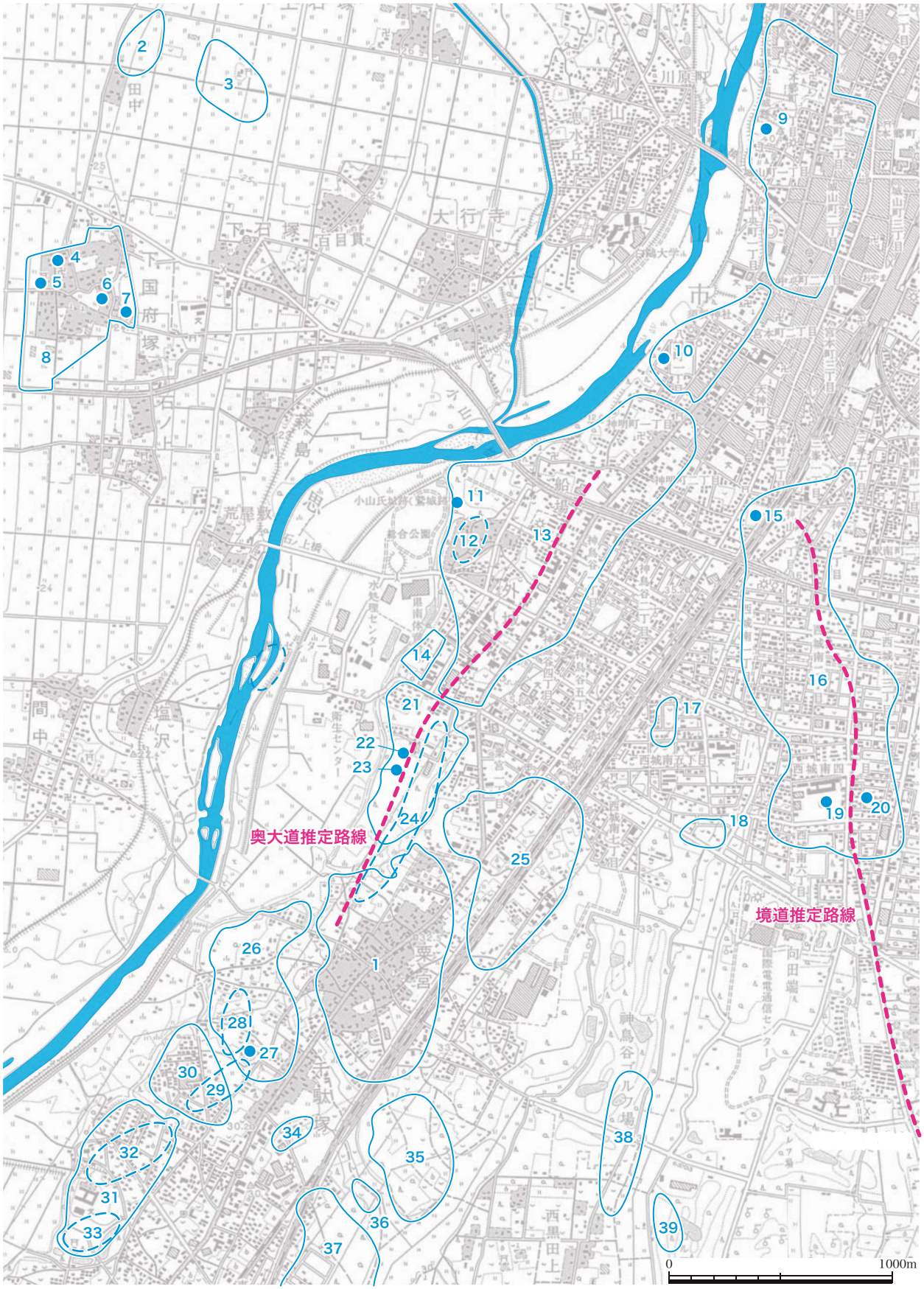
今回の調査においては、時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、近くを奥大道が通っていることを考えても、集落の一部が存在することは否定できない。

本遺跡周辺においては、小山氏関連の城跡や館跡が数多く確認される。

小山氏は、平安時代中頃に平将門の乱（935 年）を鎮圧したうちの一人である藤原秀郷の流れをくみ、６代後の政光から小山性を名乗る。平安時代末期から鎌倉時代初期にかけて、神鳥谷遺跡（16）内に所在する神鳥谷曲輪跡（15）に本拠地をおいたとされる。小字名「曲輪」・小名名「百間四面」が残り、規模は一辺 200 m程度の方形単廓と推定され、東側には土塁が残る。平成 19 年には、中央部分の発掘調査が行われ、道路跡・掘立柱建物跡・井戸跡などが確認されている。道路跡の道幅は両側の側溝を含め 7.0 m前後である。南南東方向に走る現在の境街道の道筋に向かうと推定され、小山義政の乱（1380 年）の際に、陣取り合戦が行われた大正寺跡（19）・大聖寺跡（20）に至る。

小山氏の主な居城としては、神鳥谷曲輪跡（15）の他に、国指定史跡である祇園城跡（９）・鷲城跡（11）の他、長福寺城跡（12）があげられる。いずれも、河岸段丘上に立地する平城であり、数次の調査が実施されている。祇園城跡（９）は、小山氏・後北条氏らが在城した 14 ～ 17 世紀初頭にかけての城郭である。北側の市民病院では約 400 基もの板碑が出土し、小山氏関連の墓域である可能性が指摘される。また、宮内１号土塁（22）・宮内２号土塁（23）は祇園城下への出入り口である四ヶ口（南口）の一部とされている。鷲城跡（11）は小山義政の乱（1380 年）において、義政が本城として立て籠もった城郭であり、長福寺城跡（10）は「新城」に比定される。小山氏に関連する氏族に由来すると推定される居館には、千駄塚浅間遺跡（26）内に所在する仮称「十二所館」、祇園城の西側、思川低地に所在する、粟宮氏の一族である石塚氏の館跡である石塚館跡（３）などがあげられる。

奥大道の調査は、粟宮宮内北遺跡（22）A・B 地点発掘調査、外城遺跡（13）第４・８・10 次調査区で実施される。外城遺跡（13）第 10 次調査は、平成 16 年に小山市教育委員会により調査され、南北約 30 mにわたり両側に側溝を持つ幅約 12.5 mの道路跡が確認される。北は祇園城東側、南はお鍋塚北側グランド内まで辿ることができる。延喜式内社安房神社の南西にあるお鍋塚の墓地には、凝灰岩製の層塔２基や、板碑、



第７図　周辺遺跡分布図

第１表　周辺の遺跡

No.	遺跡名	所在地	種別	時期	主な参考文献・備考
1	粟宮宮内遺跡	粟宮字宮内, 西添, 西道上	集落	縄文（前～後期）・古墳（後～終末期）・奈良・平安・近世	『市分布図』,『市 41 集』,『県 198・326・327・336 集』
2	下国府塚星宮遺跡	上国府塚字萩原・国府塚字田中	散布地	縄文（中～後期）	『市分布図』,『市史・原古』
3	石塚館跡	下石塚字星宮	館跡	中世（南北期）	『市分布図』,『小山市史』史料編 中世（以下『市史・中世』）
4	妙見古墳群	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
5	国府神社古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』
6	天神山古墳	下国府塚字国府	古墳	古墳	『市分布図』,『小山市立博物館報 第 12 号』
7	下国府塚愛宕神社古墳	下国府塚字塚越	古墳	古墳	『市分布図』
8	下国府塚遺跡	下国府塚字国府	散布地	古墳～中世	『市分布図』
9	祇園城跡	城山町 1 丁目	城跡	中世（室町）	『市分布図』,『市史・中世』,『市 12・23・41・42・43・46・51・52・54・55・59・60・65・67 集』,『県 88・183・198・217・231・233・242・262・268・278・285・288・298・306・315・326・327 集』・国指定史跡
10	長福寺城跡	八幡町 1 丁目	城跡	中世（南北期）	『市分布図』,『市史・中世』,『県 158・183 集』
11	鷲城跡	外城字外城	城跡	中世（南北期）	『市分布図』,『市史・中世』,『市 25・42・43・52・59 集』,『県 129・191・217・231 集』・国指定史跡
12	外城古墳群	外城字外城	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』,『県 33 集』・市指定史跡
13	外城遺跡	外城字上台	集落・道路跡	縄文（前期）～近世	『市分布図』,『市 41・46・51・60・64・65・68・72・78 集』,『県 105・139・198・233・242・278・285・298・315・326・327 集』
14	外城中台遺跡	外城字中台	集落	古墳～中世	『市分布図』,『市 72 集』,『県 298・306・326 集』
15	神鳥谷曲輪跡	神鳥谷字曲輪	館跡	中世（鎌倉初期）	『市分布図』,『市史・中世』,『市 77 集』,『県 326 集』
16	神鳥谷遺跡	神鳥谷	集落	縄文～平安	『市分布図』,『市 41 集』,『県 37・81・88・198・298・315・326・327 集』
17	神鳥谷田端遺跡	西城南 7 丁目	散布地	平安	『市分布図』,『県 37 集』
18	神鳥谷鍛治町遺跡	神鳥谷字鍛治町	散布地	平安	『市分布図』
19	大正寺跡	西城南 4 丁目	寺院跡	中世	
20	大聖寺跡	西城南 4 丁目	寺院跡	中世	『県 327 集』
21	粟宮宮内北遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文（前期）・平安	『市分布図』,『小山市史』通史編Ⅰ史料補遺編,『市 16 集』,『県 53・81・326 集』
22	宮内 1 号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』,『市史・原古』
23	宮内 2 号土塁	粟宮字宮内	土塁	不明	『市分布図』,『市史・原古』
24	宮内古墳群	粟宮字宮内	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』,『小山市立博物館報 第 10・11 号』,『県 53・153 集』・市指定史跡
25	粟宮宮内東遺跡	粟宮字宮内	集落	縄文（中期）～平安	『市分布図』,『市 19・20・39・41・42・43・51・65 集』,『県 81・153・198・231・242・285・306 集』
26	千駄塚浅間遺跡	粟宮子宮・千駄塚字浅間前・小火石・間々田字牧ノ内	官衙・集落・館跡	縄文（前～後期）・古墳（中～終末期）・奈良・平安・中世	『小山市遺跡分布図・地名表』〈改訂版〉（以下『市分布図』）,『小山市史』史料編 原始・古代（以下『市史・原古』）, 小山市文化財調査報告書　第 33・35・41・43・46・51・59 集
27	千駄塚古墳	千駄塚字浅間前	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』,『市 46・60・65 集』,『県 233・278 集』・県指定史跡
28	千駄塚小火石古墳群	千駄塚字小火石	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』
29	間々田牧ノ内北古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』
30	間々田牧ノ内北遺跡	間々田字牧ノ内	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』,『県 315 集』
31	間々田牧ノ内遺跡	間々田字牧ノ内	集落	縄文（前～中期）・古墳（後期）～平安	『市分布図』,『市史・原古』,『市 40 集』,『県 298・326・327 集』
32	間々田牧ノ内古墳群	間々田字牧ノ内	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』,『市 33・40・101 集』,『県 105・129・139・153・183 集』
33	間々田八幡古墳群	間々田字八幡	古墳	古墳	『市分布図』,『市史・原古』
34	道より東遺跡	千駄塚雷電前	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
35	中渋辺遺跡	粟宮字中渋辺	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
36	谷千合遺跡	千駄塚字谷千合	散布地	古墳・奈良～平安	『市分布図』
37	五料遺跡	間々田字五料	集落	古墳・奈良～平安	『市分布図』,『県 139・153・210・298・306・326・327 集』
38	西黒田遺跡	西黒田字正地	散布地	縄文（前期）～奈良	『市分布図』,『市 27 集』,『県 105 集』

五輪塔などの中世石造物が現存する。現在の地割りからも、更に南に延びるものと推定される。

お鍋塚の南西には、千駄塚浅間遺跡（26）もあり、郡衙跡と同じ敷地に、中世には館が営まれていた。不整な方形に堀が巡っていた。

【近世～近現代】

本遺跡においては、近世中葉から近現代の陶磁器の出土が多く確認される。時期を明瞭に推定し得る遺構はないが、本調査区における主体的な時期とみられる。本遺跡は、日光道中の間々田宿と小山宿の中間点にあたり、街道沿いに集落が形成されていたものと考えられる。また、小山評定の舞台となったとされる祇園城跡（９）内の小山御殿周辺は、平成 15 年から発掘調査が継続して実施され、様相が明らかにされつつある。

近代以降は栃木県令三島通庸による明治 17 年の陸羽街道の改修工事が行われ、現在の国道４号線のもとが整備され、現在に続いている。

遺跡の位置する小山市内の埋蔵文化財包蔵地の分布状況については、小山市教育委員会刊行『小山市遺跡分布図・地名表〈改訂版〉（1997 年）にて詳細な調査が行われており、市内 419 カ所の遺跡の報告がなされているので、詳しくはそちらを参照されたい。

現在の国道４号線の様子

第３章　確認された遺構と遺物

第１節　基本土層

本遺跡は、思川東岸にあり、標高 31.0 m前後の河岸段丘上に位置する。遺跡東方約 1.25 mの小山市神鳥谷付近から発する宮戸川が形成する枝葉状の小支谷に面する。

現況は市街地であり、調査区最上層は客土に覆われる。最上層には客土である砂利層が確認される。

基本的に南（４次調査部分）ではⅠ層の砂利層は浅く、ローム面まで浅いが、北（５次調査部分）では砂利層は深く、ローム面は深い。また、谷が入る。

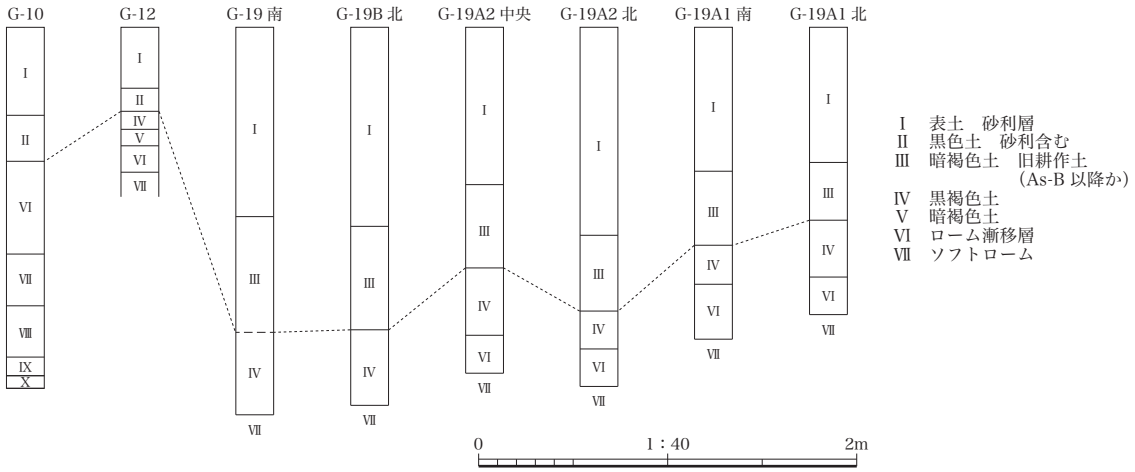
Ⅳ層までは撹乱を受ける層で、Ⅴ層以下は地山である。

４次調査Ｇ -10 区付近では以下のように分層される。

Ⅰ層　表土　砂利層
Ⅱ層　黒色土　砂利含む
Ⅲ層　黒褐色土　砂利多量・木根含む（Ⅰ～Ⅲ層は近現代の整地や埋め戻し）
Ⅳ層　ローム漸移層
Ⅴ層　ソフトローム
Ⅵ層　ハードローム
Ⅶ層　暗褐色土　ＢＢ上層
Ⅷ層　ＢＢ
Ⅸ層　ハードローム
Ⅹ層　ハードロームとＫＰの混層（ＫＰが層として確認できない）
ＸⅠ層　ハードロームなどの自然堆積層が確認される。

また、Ｇ -12・13 区では近世以降の整地か埋め戻しが行われている。

ａ層　黒色土・黒褐色土の混層。炭化物・焼土少量。しまりあり。粘性やや強い。（近世以降の整地または埋め戻し）
ｂ層　ａに類似するが、ローム粒子・ロームブロックやや多量、炭化物（φ 1.0 ～ 2.0㎝）少量。（近世以降の整地または埋め戻しか）
ｃ層　黄褐色土　灰黄褐色土（粘土か）と黒色土の混層。しまりあり。粘性強い。
ｄ層　黒褐色土　黒色土に炭化物と若干のローム粒子含む。しまりあり。粘性強い。
ｅ層　黒色土　黒色土に炭化物と若干のローム粒子含む。しまりあり。粘性強い。
５次調査では以下のように分層される。



第８図　基本土層図

Ⅰａ層　砂・砂利主体。（現代の路面の整地層）
Ⅰｂ層　黒褐色土　土壌の表土。
Ⅰｃ層　明褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量。部分的に砂利含む。やや古い段階の路面のための整地層である。さらに細かく２層に分層される。
-1　明褐色土　ローム主体。部分的に砂利含む。
-2　明褐色土　土壌主体。ローム粒子・ロームブロック少量　。部分的に砂利含む。
Ⅰｄ層　暗褐色土　炭化物微量。土壌の層で砂利は入らない。（撹乱層。土管に切られると考えられ、昭和かそれ以前）
Ⅰｅ層　暗褐色土　ローム粒子微量。緻密。（国道４号線舗装以前の耕作土か）
Ⅱａ層　やや明るい褐色土（中～近世か）
Ⅱｂ層　やや暗い褐色土（中～近世か）
Ⅲ層　暗褐色土　旧耕作土（As-B 以降か）
Ⅳ層　黒褐色土
Ⅴ層　暗褐色土
Ⅵ層　ローム漸移層
Ⅶ層　ソフトローム

本遺跡では鹿沼軽石層が層として確認されない。

第２節　調査の概要

本遺跡の調査区のうち、４次調査ではＧ -1 ～ 13・21 区、５次調査ではＧ -14 ～ 20 区の調査を実施した。調査は国道４号線の歩道部分の拡張のため、南北に細長いトレンチ状である。

Ｇ - ２・３・19 区については、 表土除去後、遺構が確認されず、すぐに埋め戻しを行ったため、作図していない。Ｇ - １・６・７区については、遺構は確認されていないが調査区の範囲は作図した。

確認された遺構は、４次調査は住居跡５軒、井戸跡１基、溝状遺構１条、土坑 75 基、ピット 17 基、５次調査は住居跡９軒、溝状遺構２条、土坑 13 基、ピット 20 基、合計すると住居跡 14 軒、井戸跡１基、溝状遺構３条、土坑 88 基、ピット 37 基である。

出土遺物は遺物収納箱 15 箱が出土する。縄文時代から近現代までの遺物が出土しているが、主体となるのは古代の住居跡から出土した土師器・須恵器の他、陶磁器や焙烙など、近世～近現代の遺物である。

また、鉄製品、銭貨、鉄滓などの金属製品の出土も確認されている。

第２表　粟宮宮内遺跡遺構一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-1	S-1	４次	G-21	42	2･25	-	N-34° -E	隅丸長方形	0.20	0.16	0.20	
SK-2	S-2	４次	G-13	40	2	14	N-30° -E	楕円形か	[1.10]	0.90	1.10	
SD-3	S-3	４次	G-13	40	2	14	N-56° -W	-	[2.10]	0.80	0.65	
SK-4	S-4	４次	G-13	40	2	14	N-46° -W	楕円形か	[1.00]	0.72	1.10	墓坑
SK-5	S-5	４次	G-13	40	2	14	N-42° -E	円形か	[1.00]	0.64	0.85	墓坑
SK-6	S-6	４次	G-13	40	2	15	N-25° -E	隅丸長方形か	1.48	[0.52]	0.56	
SK-7	S-7	４次	G-13	40	2	-	N-30° -W	楕円形	[1.28]	0.76	0.40	
SK-8	S-8	４次	G-13	40	2	15	N-47° -W	楕円形	[1.24]	[0.48]	0.68	
SK-9	S-9	４次	G-12	37	2	13	N-47° -W	楕円形	0.55	0.32	0.50	
SK-10	S-10	４次	G-11B	30･31	2･19	12･43	N-48° -W	長方形か	[0.28]	[0.08]	0.56	
SK-11	S-11	４次	G-11B	31	2	12	-	長方形か	-	-	0.52	断面図のみ
SK-12	S-49a	４次	G-5A	13	2	-	N-48° -E	長方形か	[0.66]	0.28	0.56	
SK-13	S-13	４次	G-11B	31	2	12	N-56° -W	長方形か	0.88	[0.48]	1.16	
SK-14	-	４次	G-10B	25	2	8	N-56° -W	隅丸長方形か	[0.25]	0.25	0.10	
SK-15	S-15	４次	G-11B	31･33 ～ 35･76	2･20･45	12･44 ～ 46･52	N-53° -W	方形か	2.00	[1.50]	1.68	
SK-16	-	４次	G-12	37	2	-	-	不明	0.65	-	0.65	断面図のみ
SK-17	S-35b	４次	G-10A	24	2	7	N-41° -W	隅丸長方形か	[1.04]	[0.28]	0.60	
SK-18	S-18	４次	G-11B	30 ～ 32･76	2･19･45	12･43･44･52	N-38° -E	長方形	1.16	0.36	0.28	
P-19	S-19	４次	G-11B	31･32･76	2･18･45	52	N-53° -W	円形	0.20	0.20	0.08	SI-6 より古

SK-20	S-20	4次	G-11B	31・32	2	12	N-60°-E	楕円形か	[1.92]	[0.40]	0.92	
P-21	S-21	4次	G-11B	31・32	2・19	-	N-45°-E	楕円形	0.28	0.16	0.08	
SI-22	S-22	4次	G-11B	31・32	2	11	N-56°-E	長方形	2.12	0.32	0.52	
SK-23	S-23	4次	G-11B	31・32	2	12	N-32°-E	長方形か	2.08	[0.32]	1.00	
SI-24	S-24	4次	G-11B	31・32	2	11	N-80°-E	長方形か	[2.08]	[1.60]	0.48	
P-25	P-7	4次	G-5A	13	2・6	-	N-0°	円形	0.16	0.16	0.16	
P-26	P-8	4次	G-5A	13	2・6	-	N-0°	円形	0.08	0.08	0.05	
SK-27	S-27	4次	G-10A	24	2	7	N-47°-W	隅丸長方形か	[1.72]	0.64	0.32	
SK-28	S-28b	4次	G-10A	24	2	8	N-56°-E	隅丸長方形	1.88	0.68	0.28	
SK-29	S-29	4次	G-10A	24	2	8	N-50°-E	隅丸長方形	[1.75]	1.95	0.60	
SK-30	S-28a	4次	G-10A	24	2	-	N-45°-W	隅丸長方形	[1.12]	0.88	0.36	
SK-31	S-31	4次	G-9	21	2	6	N-46°-E	長方形か	[1.75]	[1.60]	0.76	
SK-32	S-32	4次	G-10A	24	2	8	N-45°-E	隅丸長方形か	[1.20]	1.00	0.40	
SK-33	S-33	4次	G-9	21・22・76	2・13・45	6・41・42・51・52	N-49°-E	長方形か	[1.80]	1.64	0.76	
SK-34	S-37c・d	4次	G-8A	17	2	4	N-40°-E	長方形か	[2.12]	[0.80]	0.40	
SK-35	S-35	4次	G-10A	24	2	7・8	N-41°-W	隅丸長方形	1.52	0.72	0.60	
SK-36a	S-36	4次	G-8A	17	2	4・5	N-45°-E	長方形か	1.05	0.65	0.44	
SK-36b	S-36	4次	G-8A	17	2	4・5	N-45°-E	長方形か	[1.95]	0.55	0.44	
SK-37	S-37	4次	G-8A	17	2	4	N-40°-E	不整長方形か	3.08	[0.88]	0.40	
P-38	P-6	4次	G-5A	13	2・6	-	N-50°-E	不整形	0.32	0.28	0.40	
SK-39	S-39	4次	G-21	42	2	15	N-0°	円形	0.48	0.48	0.48	
SK-40	S-40	4次	G-21	42・43	2・26	16・47・48	N-85°-W	楕円形	[0.44]	0.36	0.40	
SK-41	S-41	4次	G-12	37	2	13	N-40°-E	不整長方形か	[1.20]	0.64	0.56	
SK-42	S-42	4次	G-11A	29・30	2・19	10・44	N-76°-E	楕円形	[2.16]	[1.56]	0.44	
SK-43	S-43c	4次	G-11A	29・30	2・19	10・44	N-46°-E	楕円形か	[0.55]	0.20	0.24	
SK-44	S-44	4次	G-11A	29	2	10	N-58°-E	不整方形	0.80	0.68	0.44	
SK-45	S-45	4次	G-12	37・38	2・22	13・47	-	楕円形か	[0.68]	[0.20]	0.10	
SK-46	-	4次	G-10B	25	2	8	N-45°-E	長方形か	-	-	0.20	断面図のみ
SI-47	S-47	4次	G-8B	18・19	2・11	5・39	N-48°-E	方形か	[2.28]	[0.24]	0.32	
SI-48a	S-48	4次	G-5A	13	2・7	3・38	N-48°-E	長方形か	[3.00]	[0.64]	0.25	
SI-48b	S-48	4次	G-5A	13	2・7	3・38	N-48°-E	長方形か	[2.45]	[0.35]	0.55	
SK-49	S-49	4次	G-5A	13	2	3	N-52°-E	長方形	[1.08]	0.64	0.52	
SI-50	S-50	4次	G-5A	13	2	3	N-50°-E	隅丸方形か	2.04	[0.60]	0.56	
SK-51a	S-51	4次	G-10B	25	2	-	N-20°-W	楕円形	0.55	0.35	0.05	
SK-51b	S-51	4次	G-10B	25	2	-	N-20°-W	楕円形	[0.45]	0.25	0.15	
SK-51c	S-51	4次	G-10B	25	2	-	N-20°-W	楕円形	0.25	0.20	0.05	
SK-52a	S-52	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42	N-51°-E	隅丸方形	[0.85]	[0.60]	0.35	
SK-52b	S-52	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42	N-20°-E	楕円形	0.30	0.25	-	
SK-53a	S-53	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42	N-43°-E	隅丸長方形	1.35	[1.20]	0.45	
SK-53b	S-53	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42	N-40°-W	隅丸長方形	0.25	0.20	-	
SK-53c	S-53	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42	N-42°-W	隅丸長方形	0.30	[0.15]	-	
SK-54a	S-54	4次	G-10B	25・26	2	8	N-42°-E	楕円形	[1.55]	[0.50]	0.25	
SK-54b	S-54	4次	G-10B	25・26	2	8	N-0°	円形	0.25	0.25	-	
SK-55a	S-55	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42・43	N-45°-E	隅丸長方形	[1.40]	[0.10]	-	
SK-55b	S-55	4次	G-10B	25～27	2・16	8・42・43	N-35°-E	隅丸長方形	[0.70]	[0.50]	0.35	
SK-56	S-56	4次	G-8B	18・19	2・11	5・39	N-46°-E	楕円形	1.56	[0.28]	0.52	
SK-57	S-57	4次	G-8B	18	2	5	N-48°-E	長方形か	2.48	[0.44]	1.08	
SK-58	S-60a	4次	G-10B	25・26	2	9	N-48°-E	隅丸長方形か	[1.00]	1.04	-	
SK-59	S-59	4次	G-10B	25・26	2	8・9	N-40°-E	楕円形か	[0.56]	[0.20]	0.48	
SK-60	S-60	4次	G-10B	25・26	2	9	N-0°	円形か	[1.08]	[0.28]	0.44	
P-61	S-61	4次	G-4	11	2・4・5	2	N-35°-E	方形	0.25	0.25	0.04	
P-62	S-62	4次	G-8B	18	2・10	-	N-35°-E	不整楕円形	0.44	0.28	0.12	
SK-63	S-63a	4次	G-9	21・22	2・13	42	N-17°-W	不整円形	0.48	0.48	0.12	
SK-64	S-64	4次	G-9	21	2	6	N-32°-W	不整楕円形	0.64	0.48	0.12	
SK-65	S-65	4次	G-9	21	2	-	N-43°-W	不整楕円形	0.52	0.28	0.12	
SK-66	S-66	4次	G-9	21	2	6	N-45°-W	楕円形か	0.36	[0.20]	0.24	
SK-67	S-67	4次	G-9	21	2	6	N-50°-E	長方形	1.52	0.68	0.24	
SE-68	S-68	4次	G-9	21	2	6・7	N-0°	円形	0.84	0.84	(1.52)	
P-69	S-69	4次	G-8B	18	2・10	-	N-0°	円形	0.24	0.24	0.12	
SK-70	S-70	4次	G-8B	18・19	2・11	5・39	N-50°-E	長方形か	[0.60]	0.48	0.32	
P-71	S-71	4次	G-10B	25・26	2・15	9	N-87°-E	長方形	0.24	0.16	0.16	
SK-72	S-72	4次	G-9	21	2	-	N-80°-E	長方形か	0.48	0.40	0.36	
SK-73	S-63b	4次	G-9	21	2	7	N-48°-E	楕円形	[0.60]	[0.36]	0.56	
SK-74	S-63c	4次	G-9	21	2	-	N-0°	円形	0.52	0.48	0.24	
P-75	S-55c	4次	G-10B	25・27	2・15	9	N-18°-W	楕円形	0.24	0.16	0.12	
P-76	S-55d	4次	G-10B	25・28	2・15	9	N-30°-W	楕円形	0.24	0.20	0.12	
SK-77	S-35c	4次	G-10A	24	2	7	N-47°-E	楕円形	2.00	[0.28]	0.16	
SK-78	S-22b	4次	G-11B	31・32	2	-	N-46°-E	長方形か	1.95	[0.60]	0.24	

SK-79	S-22c	4 次	G-11B	31・32	2	-	N-40° -E	長方形か	2.12	[0.36]	0.44	
SK-80	S-43e	4 次	G-11A	29	2	-	N-40° -E	楕円形か	0.90	[0.55]	0.12	
SK-81	S-43f	4 次	G-11A	29	2	-	N-45° -E	方形か	[1.68]	[0.56]	0.16	
SK-82	S-43b	4 次	G-11A	29	2	-	N-45° -E	長方形か	[2.60]	0.80	0.44	
SK-83	S-43g	4 次	G-11A	29	2	10	N-55° -E	長方形か	[0.36]	[0.32]	0.40	
SK-84	S-43d	4 次	G-11A	29	2	-	N-50° -E	長方形か	[1.88]	0.48	0.40	
SK-85	S-44b	4 次	G-11A	29	2	-	N-50° -W	楕円形か	[0.52]	[0.32]	-	
SK-86	S-44c	4 次	G-11A	29	2	-	N-46° -E	楕円形か	[0.64]	[024]	0.25	
SK-87	S-44d	4 次	G-11A	29	2	-	N-34° -E	隅丸長方形	0.84	0.52	0.24	
SK-88	S-44e	4 次	G-11A	29	2	-	N-61° -W	楕円形	0.60	0.50	0.36	
SK-89	-	4 次	G-12	37	2	13	-	不明	0.9	-	0.25	断面図のみ
SK-90	-	4 次	G-13	40	2	-	N-49° -W	楕円形か	[0.90]	[0.40]	0.95	
SK-91	-	4 次	G-11A	29	2	-	N-36° -W	不整長方形か	[0.80]	0.64	0.40	
SK-92	-	4 次	G-10B	25	2	-	N- 8 ° -E	不整長方形	[0.52]	0.24	-	
SK-93	-	4 次	G-11B	31	2	12	-	不明	[0.35]	-	0.55	断面図のみ
P-94	P-1	4 次	G-5A	13	2・6	-	N-0°	円形	0.24	0.24	0.12	
P-95	P-2	4 次	G-5A	13	2・6	-	N-48° -E	楕円形	0.12	0.08	0.04	
P-96	P-3	4 次	G-5A	13	2・6	-	N-51° -E	楕円形	0.28	0.24	0.20	
P-97	P-4	4 次	G-5A	13	2・6	-	N-0°	円形	0.12	0.12	0.04	
P-98	P-5	4 次	G-5A	13	2・6	-	N-51° -E	楕円形	0.28	0.20	0.48	
SK-99	-	4 次	G-11A	29	2	-	N-39° -W	楕円形	[0.70]	0.40	0.20	
SD-1	SD-1	5 次	G-14B	47	2	17	N-32° -W	-	[2.10]	0.35	0.10	
SD-2	SD-2	5 次	G-14B	47	2	17	N-40° -W	-	[0.95]	0.30	0.13	
SI-3	SI-3	5 次	G-17A	59・60・77	2・45	23・24・53	N-15° -E	長方形か	[2.60]	[1.60]	0.65	
SI-4	SI-4	5 次	G-20C	72・73	2・43	36・37・51	N-0°	長方形か	1.55	1.25	0.45	
SI-5	SI-5	5 次	G-20B	70・71	2・42	34・35・51	N-45° -E	長方形か	3.40	1.55	0.55	
SI-6	SI-6	5 次	G-20A	68・69	2・40	31・32・50	N-64° -E	隅丸長方形か	[2.85]	[1.10]	0.70	
P-7	S-7	5 次	G-20A	68	2・39	-	N-47° -E	不整楕円形	[0.65]	[0.30]	0.55	
P-8	S-8	5 次	G-20A	68	2・39	32	N-0°	円形	0.45	0.45	0.50	
P-9	S-9	5 次	G-20A	68	2・39	32	N-0°	不整楕円形	[0.50]	0.35	0.55	
P-10	S-10	5 次	G-20A	68	2・39	32	N-80° -E	不整楕円形	0.65	0.45	0.60	
P-11	S-11	5 次	G-20A	68	2・39	32	N-0°	円形	0.30	0.30	0.65	
P-12	S-12	5 次	G-20A	68	2・39	32	N-0°	円形	0.30	0.25	0.55	
P-13	S-13	5 次	G-20A	68	2・39	33	N-0°	楕円形	0.30	0.25	0.25	
P-14	S-14	5 次	G-20A	68	2・39	33	N-8° -E	不整形	0.40	0.30	0.10	
P-15	S-15	5 次	G-20A	68	2・39	33	N-0°	不整形	0.45	0.40	0.60	
P-16	S-16	5 次	G-20A	68	2・39	33	N-8° -E	楕円形	0.55	0.35	0.70	
P-17	S-17	5 次	G-20B	70	2・41	35	N-21° -W	楕円形	0.30	0.25	0.35	
P-18	S-18	5 次	G-20B	70	2・41	36	N-46° -E	不整楕円形	0.45	[0.35]	0.65	
P-19	S-19	5 次	G-20A	68	2・39	-	N-0°	楕円形	0.55	0.45	0.30	
20	-	5 次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK-21	S-21	5 次	G-17A	59・60	2	24	N-45° -W	楕円形	[0.35]	0.30	0.30	
SK-22	S-22	5 次	G-17A	59・60	2・33	24・49	N-40° -E	不整楕円形か	2.60	[0.8]	0.65	
SK-23	S-23	5 次	G-17A	59・60	2	24・49	N-65° -E	不整楕円形か	0.85	0.60	0.60	
P-24	S-24	5 次	G-17A	59	2・34	24	N-53° -W	不整円形か	0.50	0.40	0.45	
SK-25	S-25	5 次	G-17A	59・60	2	24・25・49	N-52° -E	不整形	2.10	[0.95]	0.85	
P-26	S-26	5 次	G-17A	59	2・34	24・25	N-0°	円形	0.30	0.30	0.95	
P-27	S-27	5 次	G-17A	59	2・34	24	N-86° -E	楕円形	0.40	0.30	0.65	
P-28	S-28	5 次	G-17A	59	2・34	25	N-65° -W	楕円形	[0.65]	0.50	0.60	
P-29	S-29	5 次	G-17A	59	2・34	24	N-0°	円形	0.25	0.25	0.55	
SI-30	SI-30	5 次	G-18	63 ～ 66・77	2・37・45	25 ～ 27・50・53	N-0°	長方形か	[2.90]	[1.80]	0.50	
SK-31	S-31	5 次	G-18	63・64	2	-	N-60° -W	楕円形	0.30	0.20	0.15	
P-32	S-32	5 次	G-18	63・64	2・36	29	N-0°	楕円形	0.35	0.30	0.25	
SI-33	SI-33	5 次	G-18	63 ～ 66	2・37	25・27 ～ 29・50	N-38° -E	長方形か	1.60	-	0.40	
34	-	5 次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SK-35	S-35	5 次	G-14D	50・51	2	17	N-62° -E	隅丸長方形	[1.80]	[0.50]	0.20	
SK-36	S-36	5 次	G-14D	50・51	2	17	N-48° -E	隅丸長方形	[1.00]	0.75	0.10	
SK-37	S-37	5 次	G-14D	50・51	2・45	17・53	N-40° -E	隅丸長方形	[1.05]	[0.85]	0.35	
SK-38	S-38	5 次	G-14D	50・51	2	-	N-40° -E	隅丸長方形か	[1.75]	0.60	0.25	
SI-39	SI-39	5 次	G-14D	50 ～ 52	2・30	17 ～ 19・48・49	N-69° -E	長方形	3.80	3.10	0.20	
SI-40	SI-40	5 次	G-14D	50 ～ 52	2・30	19・20・48・49	N -2° -E	長方形	[3.90]	[2.00]	0.40	
41	-	5 次	-	-	-	-	-	-	-	-	-	欠番
SI-42	SI-42	5 次	G-14D	50 ～ 52	2・30	20・21・49	N-40° -E	方形	2.50	[1.10]	0.40	
P-43	S-43	5 次	G-14D	50・51	2	21	N-0°	楕円形	0.45	0.40	0.70	柱穴
SK-44	S-44	5 次	G-18	63・64	2	29	N-21° -E	隅丸長方形	4.50	[0.75]	0.55	
SK-45	S-45	5 次	G-18	63・64	2	29	N-34° -E	長方形か	[0.65]	[0.35]	0.10	
SK-46	S-46	5 次	G-18	63・64	2	29	N-46° -W	長方形か	[1.80]	0.70	1.40	
SK-47	S-47	5 次	G-18	63・64	2	30	N-35° -E	隅丸長方形か	1.25	0.75	0.25	

※写真図版の番号については算用数字に置き換えている

第３節　４次調査

住居跡４軒、井戸跡１基、溝状遺構２条、土坑 77 基、ピット 18 基が確認されている。

Ｇ - １区～ 13 区、21 区を調査した。

１. Ｇ - １区

(1) 遺構

確認されていない。

(2) 遺構外の遺物 (第 10 図、第３表、図版三八)

磁器の碗の破片が出土している。

２. Ｇ - ２区

掘削後、すぐに埋め戻しを行ったため、図面は作成していない。

遺物も確認されていない。

３. Ｇ - ３区

掘削後、すぐに埋め戻しを行ったため、図面は作成していない。

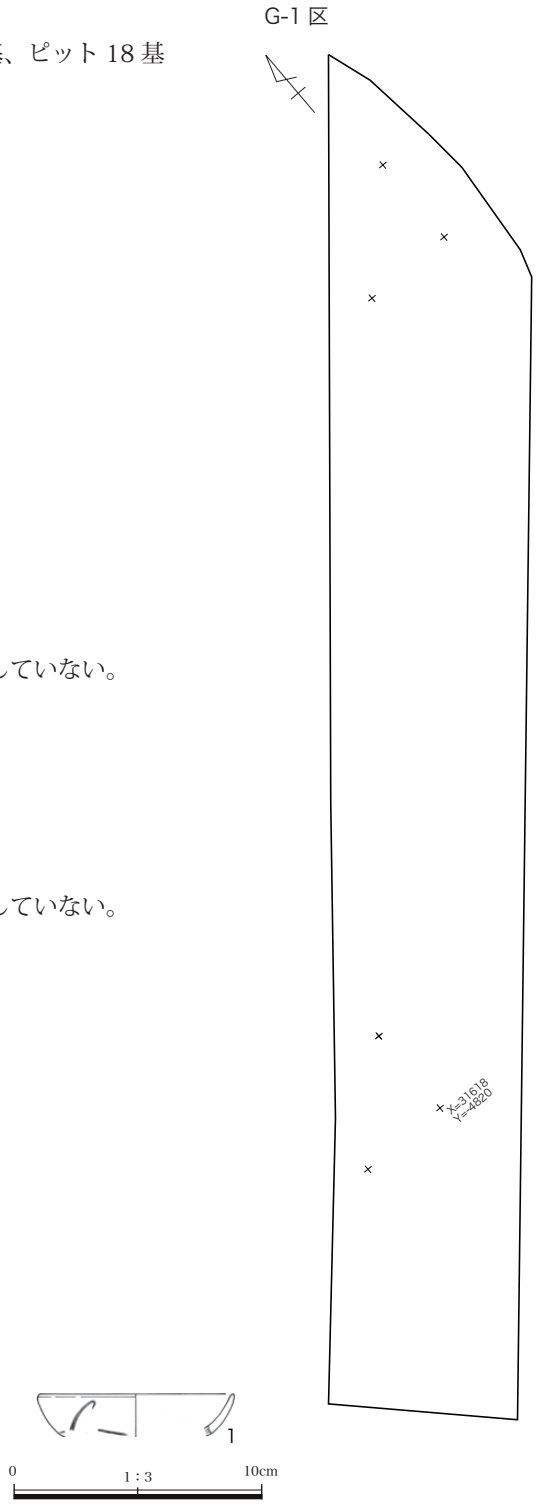
遺物も確認されていない。

４. Ｇ - ４区

調査区の半分が撹乱を受けている。

(1) 遺構

ピットが１基確認されている。



第 10 図　G-1 区　遺構実測図・遺構外出土遺物実測図

第３表　G-1 区遺構外出土遺物観察表

図版 No	No	種類器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
10	1	陶器 皿	口径 [4.0] 底径 - 器高 [1.7]	N8/0 灰白	砂粒少量	良好				G-1 表採一括	

(2) 遺構外の遺物（第 12・76 図、第５・45 表、図版三八・五二）

１は小さめの碗である。京焼を肥前で写したものをさらに瀬戸で写して焼いたもの。２は鉄釉である。３の皿は重ね焼き技法のひとつで「蛇の目釉剥ぎ」がみられる。４の香炉は灰釉である。瓦が１点出土している。18 世紀頃の遺物が多く出土している。

５. Ｇ - ５区

調査区の東側は撹乱を受けている。

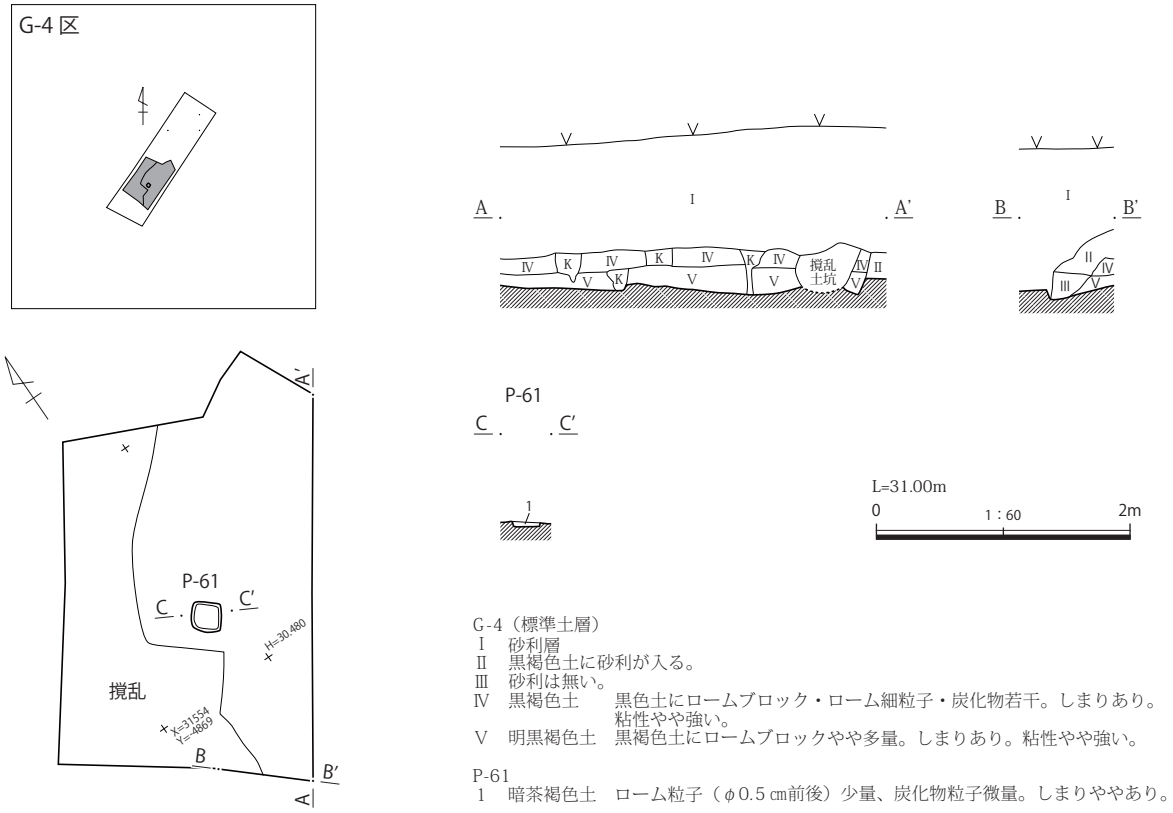
Ｂ区は遺構・遺物とも確認されていないため、Ａ区のみ報告する。

住居跡が２軒、土坑２基、ピット８基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ -48（第 13 図、第２・７表、図版三・三八）

位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　南西部をＩ層に撹乱されている。　平面形状･規模　ａ長軸 3.00 ｍ、



第 11 図　G-4 区　P-61 遺構実測図

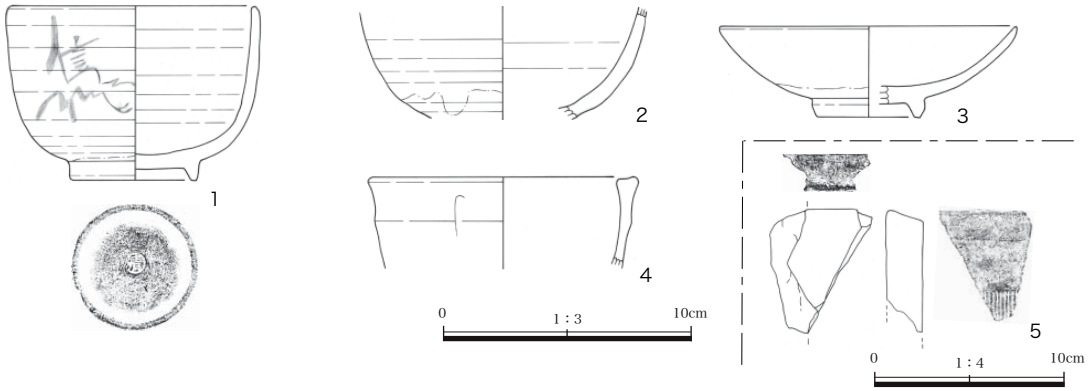
第４表　G-4 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-61	S-61	４次	G-4	11	２・４・５	２	N-35°-E	方形	0.25	0.25	0.04	

短軸は 0.64 m残存し、深さ 25㎝、b 長軸 2.45 m、短軸は 0.35 m残存し、深さ 55㎝の方形か。　**主軸方向**　Ｎ -48°- Ｅ　**覆土**　１層で、人為的な埋め戻しである。　**カマド・貯蔵穴・柱穴・壁溝**　確認されていない。　**底面**　凹凸がみられる。　**遺物の出土状態**　覆土中から出土している。　**時期**　不明。　**その他**　方形竪穴の可能性もある。　**出土遺物**　陶器の徳利の底部が出土している。調査の関係で遺構の一部のみが確認されているため、竪穴住居跡であれば遺構に伴わない可能性がある。図示できなかったが、土師質土器の皿の破片が出土している。

ＳＩ -50（第 13 図、第２表、図版三）

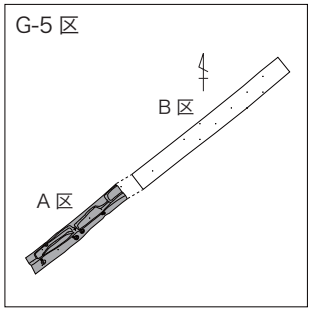
位置　調査区のほぼ中央。　**重複関係**　なし。　**平面形状・規模**　隅丸方形か。長軸 2.04 m、短軸 0.60 mが残存し、深さ 56㎝である。　**主軸方向**　Ｎ -50°- Ｅ　**覆土**　１層で、自然堆積か。　**カマド・貯蔵穴・柱穴・壁溝**　確認されていない。　**底面**　凹凸がみられる。　**遺物の出土状態**　覆土中から小破片が出土している。　**時期**　不明。近世以降の可能性もある。　**出土遺物**　図示できる遺物は出土していない。

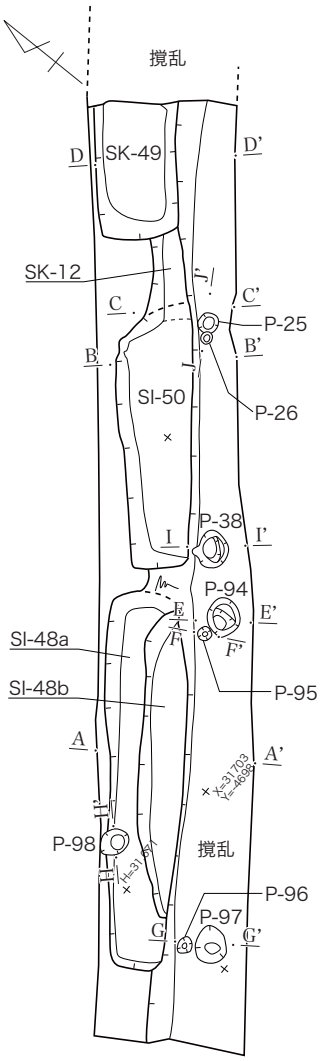


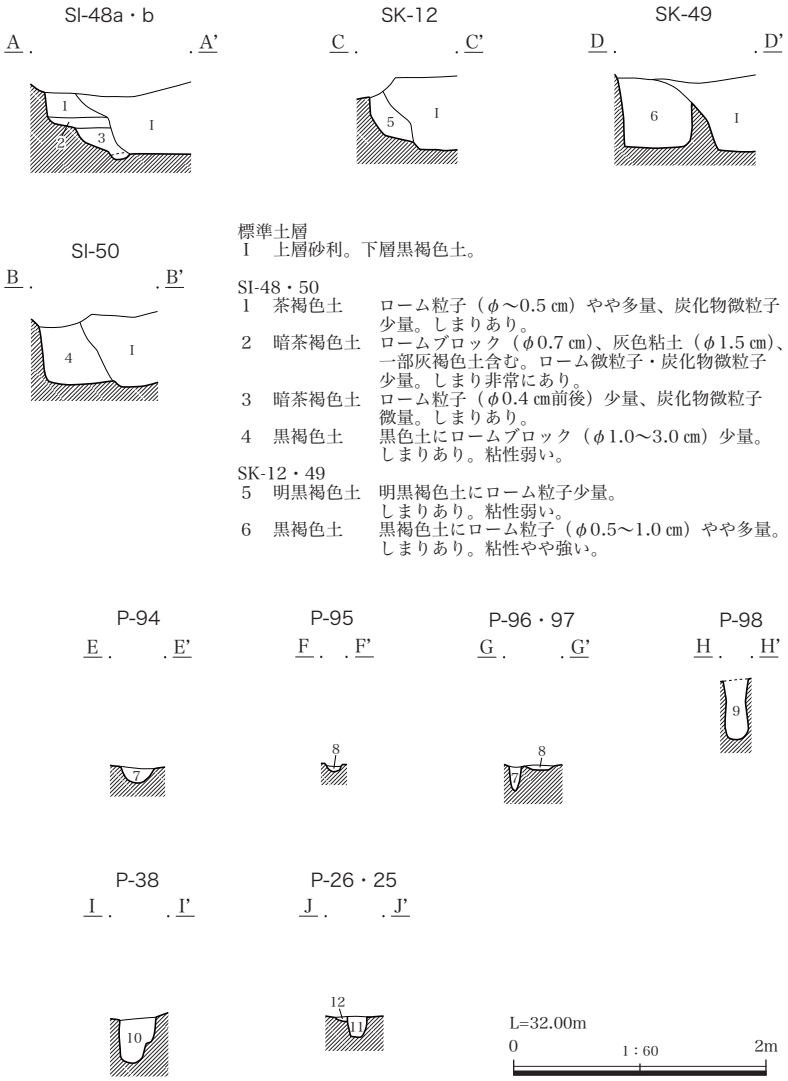
第 12 図　G-4 区　遺構外出土遺物実測図

第５表　G-4 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
12	1	陶器 碗	口径 9.9 底径 5.0 器高 7.0	2.5Y8/3 淡黄	緻密	良好	瀬戸・美濃	18C 前葉	京焼を肥前で写したものを瀬戸で写して焼いたもの	G-4 一括フク土	「清」の窯印あり
12	2	陶器 碗	口径 - 底径 - 器高 [4.4]	7.5YR3/2 黒褐	砂粒少量、礫微量	良好	瀬戸・美濃	18C	鉄釉（飴釉）	G-4 フク土一括	
12	3	陶器 皿	口径 (17.8) 底径 (4.2) 器高 3.6	10GY6/1 緑灰	やや緻密	良好	肥前（唐津）	近世	銅緑釉	G-4 フク土一括	
12	4	陶器 香炉	口径 (10.4) 底径 - 器高 [3.7]	10YR6/6 明黄褐	緻密	良好	瀬戸・美濃	18C 代	灰釉	G-4 フク土一括	
12	5	平瓦	長 6.5 幅 5.2 厚 2.0 重 52.96	N5/0 灰	砂粒少量、礫微量	良好			内面に櫛歯状工具痕	G-4 一括フク土	





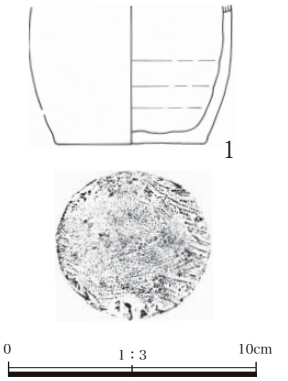


標準土層
Ⅰ　上層砂利。下層黒褐色土。

SI-48・50
1　茶褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）やや多量、炭化物微粒子少量。しまりあり。
2　暗茶褐色土　ロームブロック（φ0.7 ㎝）、灰色粘土（φ1.5 ㎝）、一部灰褐色土含む。ローム微粒子・炭化物微粒子少量。しまり非常にあり。
3　暗茶褐色土　ローム粒子（φ0.4 ㎝前後）少量、炭化物微粒子微量。しまりあり。
4　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ1.0～3.0 ㎝）少量。しまりあり。粘性弱い。

SK-12・49
5　明黒褐色土　明黒褐色土にローム粒子少量。しまりあり。粘性弱い。
6　黒褐色土　黒褐色土にローム粒子（φ0.5～1.0 ㎝）やや多量。しまりあり。粘性やや強い。

P-25・26・38・94～98
7　黒褐色土　黒褐色土にロームブロック（φ1.0 ㎝）多量。しまりあり。粘性弱い。
8　黒色土　黒色土にローム粒子少量。しまりややなし。粘性弱い。
9　黒褐色土　黒褐色土にロームブロック（φ1.0～2.0 ㎝）少量。しまりあり。粘性やや弱い。
10　茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
11　暗茶褐色土　ローム微粒子・炭化物微粒子少量。しまりあり。
12　茶褐色土　ローム微粒子・炭化物微粒子微量。しまりあり。



第 13 図　G-5A 区　SI-48・50，SK-12・49，P-25・26・38・94 ～ 98 遺構実測図・SI-48 出土遺物実測図

ＳＫ -12（第 13 図、第２表）

位置　Ａ区の北東。　重複関係　ＳＩ -50、ＳＫ -49 との新旧関係は不明である。Ｉ層に撹乱される。　平面形状・規模　長方形か。長軸 0.66 m、短軸 0.28 mが残存し、深さ 56㎝である。　主軸方向　Ｎ -48°- Ｅ　覆土　１層で人為的な埋め戻しか。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -49（第 13 図、第２表、図版三）

位置　Ａ区の北東。　重複関係　ＳＫ -12 との新旧関係は不明である。Ｉ層に撹乱される。平面形状・規模　長方形か。長軸 1.10 m、短軸 0.65 mが残存し、深さ 55㎝である。　主軸方向　Ｎ -51°- Ｅ　覆土　１層で、人為的に埋め戻されている。　底面　ほぼ平坦である。時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 15 図、第８表、図版三八）

１は吹き掛け技法の碗である。近代～現代の可能性があり、内面には白字で「山中製麺所」の周りに「精米・製○　製粉・製麺」とある。２は信楽の灰釉の碗、３と４は瀬戸・美濃産である。４の皿は蛇の目高台でコバルトを使用している。５は徳利、６は鉄釉の土鍋、７は瓶掛けの装飾で獅子である。孔は貫通しているが、内側は狭くなっている。灰釉の上に緑釉を施している。８と９は擂鉢。８は瀬戸・美濃で作られている。

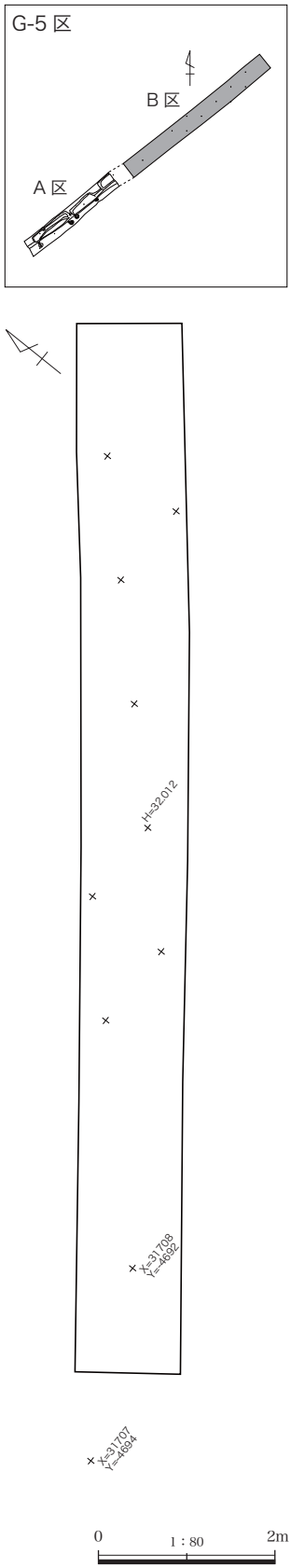
６. Ｇ - ６区

遺構・遺物とも確認されていない。

７. Ｇ - ７区

(1) 遺構

確認されていない。



第 14 図　G-5B 区　遺構実測図

(2) 遺構外の遺物（第 16 図、第９表、図版四・三九）

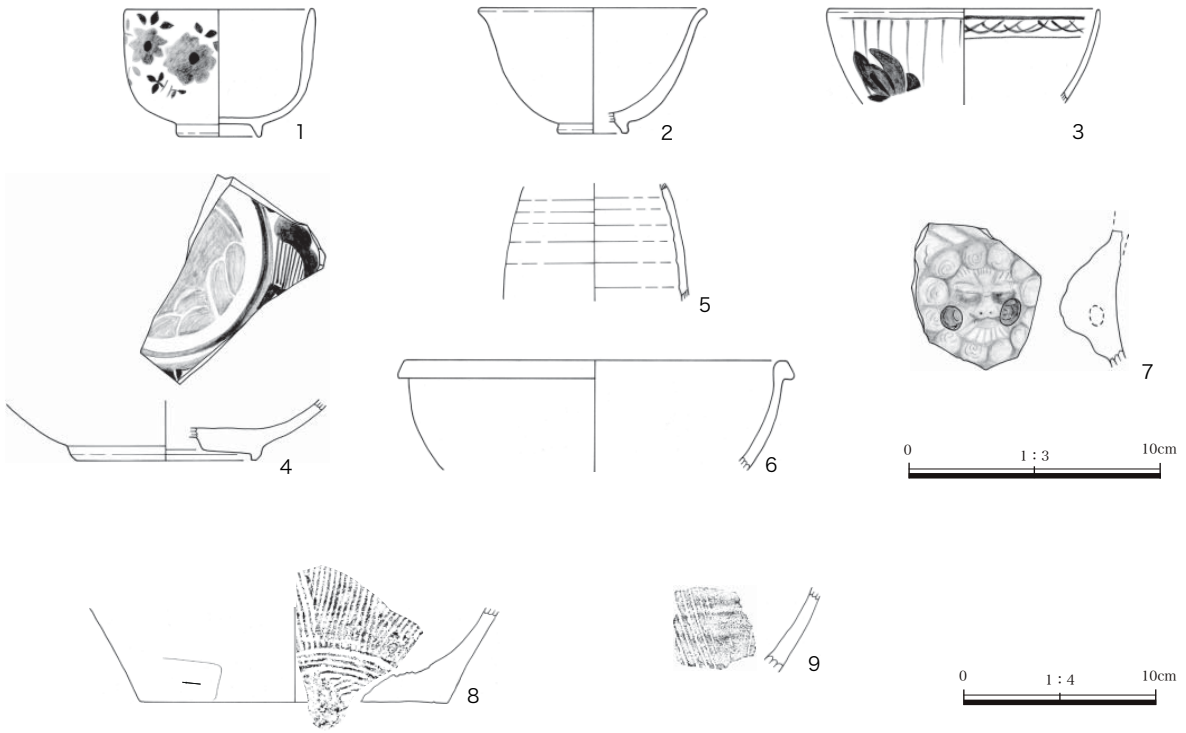
１は陶器の皿。火災にあった可能性が高く、表面が変質している。見込みに鉄絵が施される。その他、羽口が２点出土している。２はガラス質溶解が垂れ下がった状態である。内面は赤色変化が著しい。３は還元色と赤色変化部分が残存する。

第６表　G-5A 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-25	P-7	４次	G-5A	13	２・６	-	N-0°	円形	0.16	0.16	0.16	
P-26	P-8	４次	G-5A	13	２・６	-	N-0°	円形	0.08	0.08	0.05	
P-38	P-6	４次	G-5A	13	２・６	-	N-50° -E	不整形	0.32	0.28	0.40	
P-94	P-1	４次	G-5A	13	２・６	-	N-0°	円形	0.24	0.24	0.12	
P-95	P-2	４次	G-5A	13	２・６	-	N-48° -E	楕円形	0.12	0.08	0.04	
P-96	P-3	４次	G-5A	13	２・６	-	N-51° -E	楕円形	0.28	0.24	0.20	
P-97	P-4	４次	G-5A	13	２・６	-	N-0°	円形	0.12	0.12	0.04	
P-98	P-5	４次	G-5A	13	２・６	-	N-51° -E	楕円形	0.28	0.20	0.48	

第７表　G-5A 区 SI-48 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
14	1	陶器 徳利	口径　- 底径　6.0 器高　[5.6]	外面 7.5YR3/3 オリーブ黒 内面 10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒多量、 礫少量	良好	瀬戸・ 美濃			G-5　S-48 フク土一括	



第 15 図　G-5 区　遺構外出土遺物実測図

第８表　G-5 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
15	1	磁器 碗	口径 7.4 底径 3.2 器高 5.0	N8/0 灰白	緻密	良好		近代～現代（戦前まで）	吹き掛け 内面に白字で「山中製麺所」	G-5 フク土一括	
15	2	陶器 碗	口径 (8.8) 底径 (2.8) 器高 4.9	5Y7/1 灰白	緻密	良好	信楽		灰釉	G-5 フク土一括	
15	3	磁器 碗	口径 (10.6) 底径 - 器高 [3.7]	5GY8/1 灰白	緻密	良好	瀬戸・美濃			G-5 フク土一括	
15	4	磁器 皿	口径 - 底径 (7.1) 器高 [2.4]	N8/0 灰白	細砂粒少量	良好	瀬戸・美濃	19C 半ば	蛇の目高台	G-5 フク土一括	
15	5	陶器 徳利	口径 - 底径 - 器高 [4.6] 器厚 0.3	外面 5Y6/1 灰 内面 10YR7/4 にぶい黄橙	緻密	良好				G-5 フク土中	
15	6	陶器 土鍋	口径 (15.0) 底径 - 器高 [4.2]	外面 5YR3/2 暗赤褐 内面 5YR3/3 暗赤褐	砂粒微量	良好			鉄釉	G-5 フク土中	
15	7	陶器 瓶掛け	長 [5.7] 幅 [5.0] 厚 [2.3]	外面 7.5Y4/3 暗オリーブ 内面 7.5Y7/1 灰白	緻密	良好	瀬戸・美濃	近世	灰釉＋緑釉 獅子	G-5 フク土一括	
15	8	陶器 擂鉢	口径 - 底径 (16.0) 器高 [4.9]	外面 7.5YR3/ 3 暗褐 内面 7.5YR3/2 黒褐	砂粒・礫少量	良好	瀬戸・美濃			G-5 フク土中	
15	9	陶器 擂鉢	口径 - 底径 - 器高 [4.3] 器厚 0.7	外面 5YR4/6 赤褐 内面 10YR4/3 にぶい黄橙	砂粒微量、黒色粒子若干	良好				G-5 フク土中	

第９表　G-7 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
16	1	陶器 皿	口径 - 底径 (7.5) 器高 [1.1]	5Y4/1 灰	砂粒少量	良好	瀬戸・美濃	17C	鉄釉	G-7 フク土一括	
16	2	土製品 羽口	長 [13.94] 幅 7.08 厚 6.71 重 595.60	7.5YR7/4 にぶい燈	砂粒・透明粒子・黒色粒子少量	良好			胎土中に植物繊維が混入される	G-7 フク土一括	
16	3	土製品 羽口	長 [8.38] 幅 6.87 厚 6.49 重 259.27	7.5YR7/5 にぶい燈	砂粒・透明粒子少量、黒色粒子・金雲母微量	良好			胎土中に植物繊維が混入される	G-7 フク土一括	

８．Ｇ－８区

調査区の北側では１層がほぼ全面で確認されている。

住居跡１軒と土坑６基、ピット２基が確認されている。

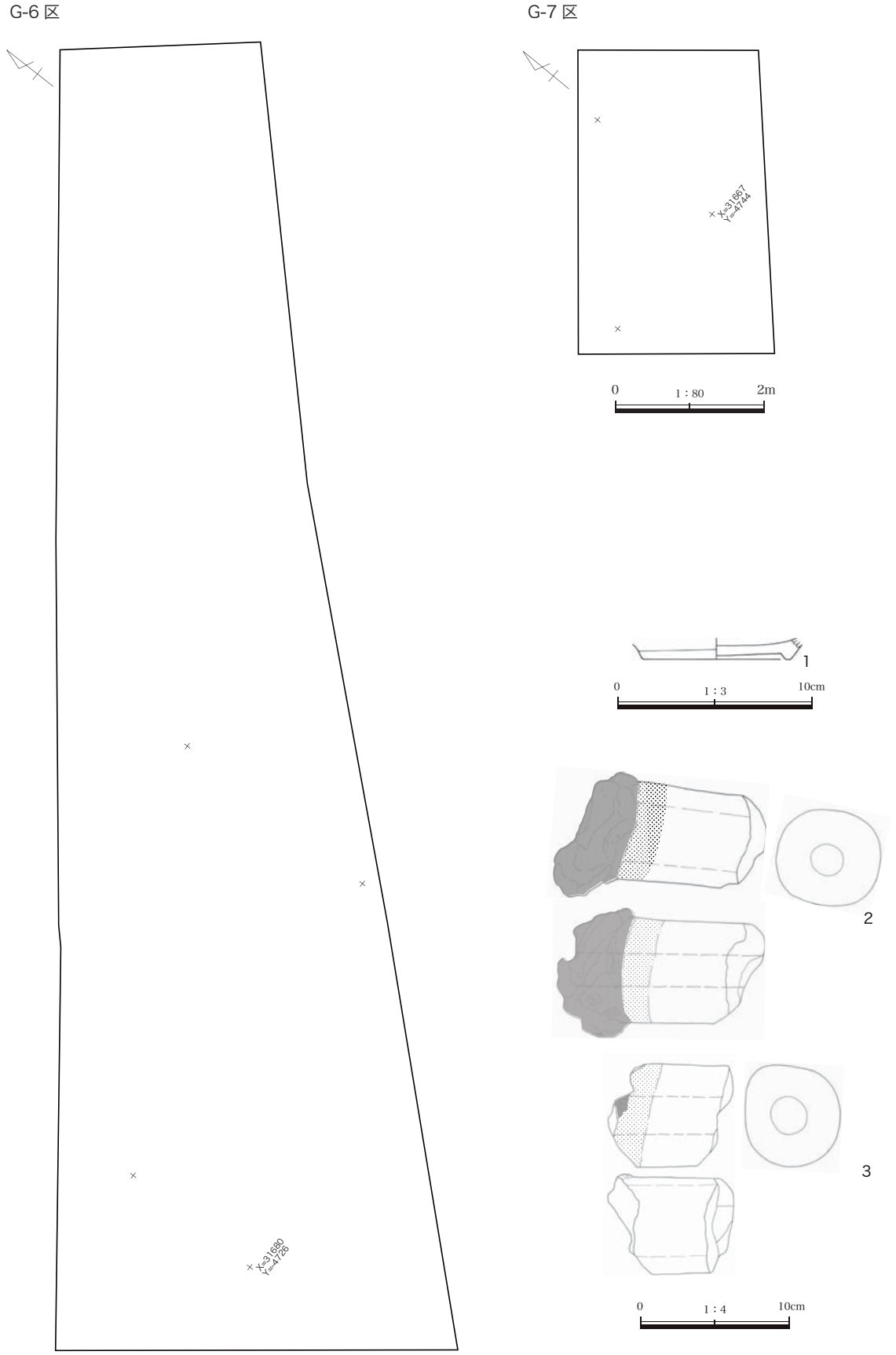
Ａ区とＢ区の二つに分割した。

Ａ区　土坑３基、が確認されている。

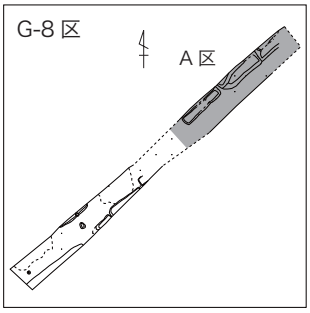
(1) 遺構

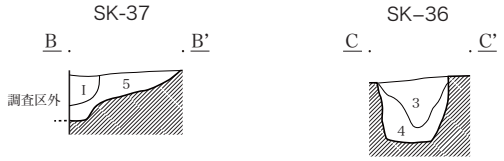
ＳＫ -34（第 17 図、第２表、図版四）

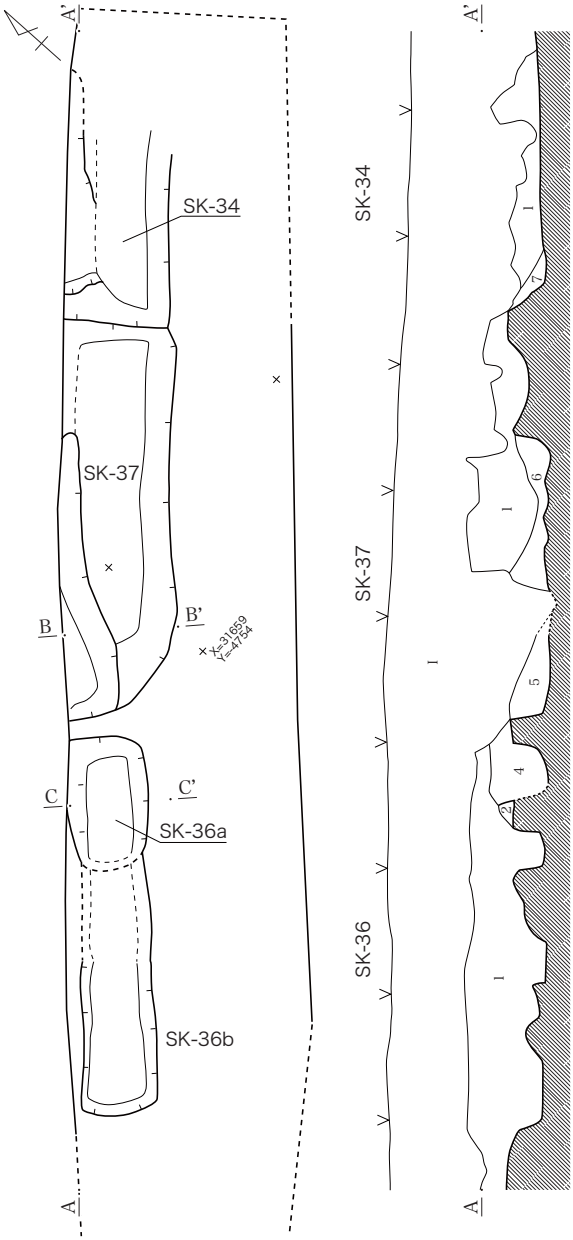
位置　Ａ区の北西。　重複関係　ＳＫ -37 と接する。新旧関係は不明。　平面形状・規模　長方形か。長



第 16 図　G-6・7 区　遺構実測図・G-7 区　遺構外出土遺物実測図







SK-34・36・37

Ⅰ　砂利層

1　暗茶褐色土　ロームブロック（φ～2.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）、炭化微粒子、焼土微粒子微量。しまりあり。木根・丸石（小型）の堆積検出。

2　暗黄褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）、炭化微粒子微量。しまりあり。

3　暗灰色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）微量。しまりあり。

4　茶褐色土　ローム粒子（φ～0.4 ㎝）少量、炭化物・炭化微粒子（φ1.0 ㎝）微量。しまりあり。

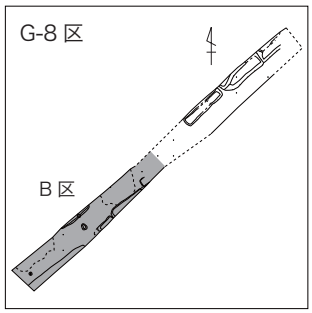
5　黒褐色土　ロームブロック（φ～2.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）少量、炭化微粒子微量。しまりあり。

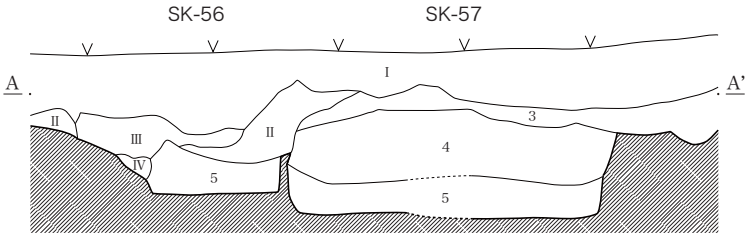
6　暗黄褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化粒子（φ0.2 ㎝前後）少量。しまりあり。

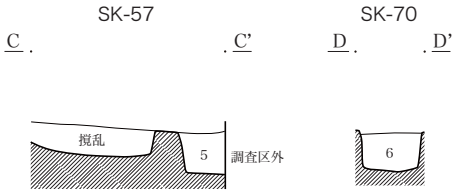
7　褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）やや多量。しまりあり。

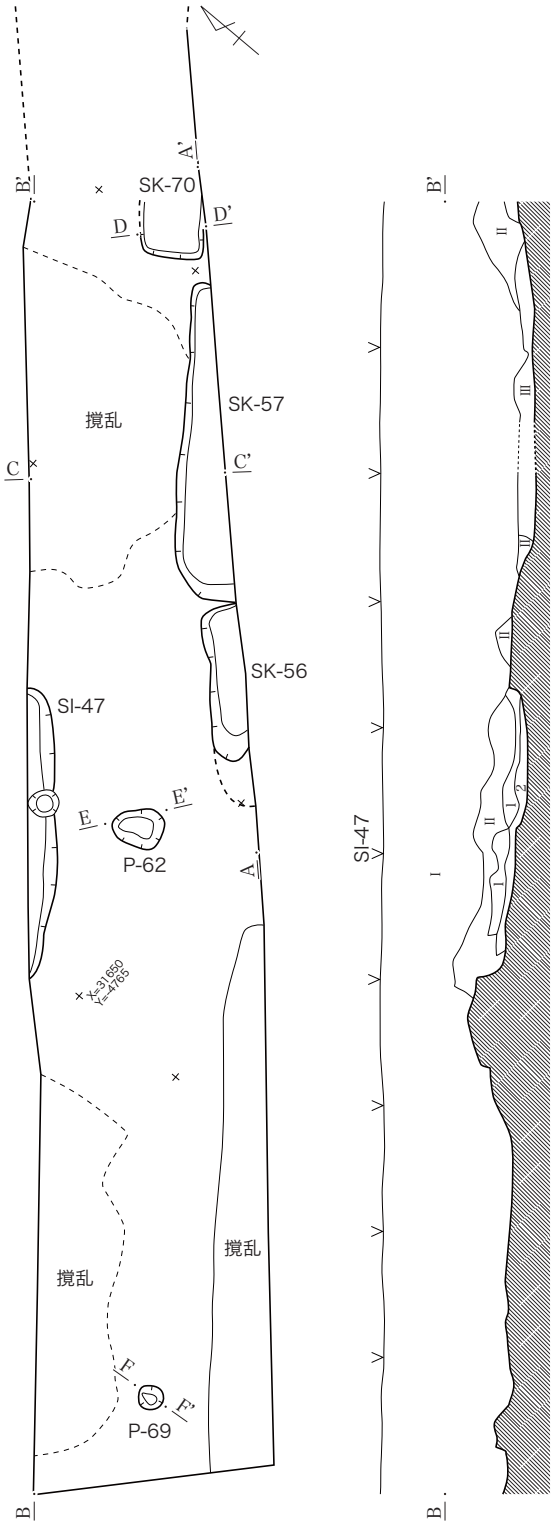
L=31.60m
0　1：60　2m

第 17 図　G-8A 区　SK-34・36・37 遺構実測図





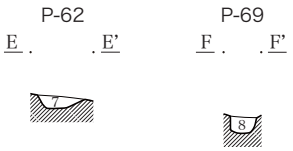




標準土層
Ⅰ　砂利層
Ⅱ　砂利検出
Ⅲ　砂利多量・木根検出
Ⅳ　漸移層

SI-47
1　暗茶褐色土　ローム粒子（φ0.3 ㎝前後）・炭化物粒子・焼土粒子少量。非常にしまりあり。
2　黒褐色土　ロームブロック（φ～4.0 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化物微粒子少量。非常にしまりあり。

SK-56・57・70
3　黒褐色土　ロームブロック（φ～1.0 ㎝）・ローム粒子少量。しまりあり。
4　黒褐色土　ロームブロック（φ1.0～2.0 ㎝）・ローム粒子やや多量、炭化物粒子（φ～0.7 ㎝）少量。しまりあり。
5　黒褐色土　ロームブロック（φ～1.0 ㎝）・ローム粒子少量。しまりあり。
6　暗茶褐色土　ローム微粒子やや多量、炭化物微粒子少量。しまりあり。



P－62・69
7　暗黄褐色土　ローム粒子（φ0.3 ㎝前後）、炭化物微粒子少量。しまりあり。
8　暗茶褐色土　ローム微粒子・炭化物粒子少量。しまりあり。一部灰白粘土含む。

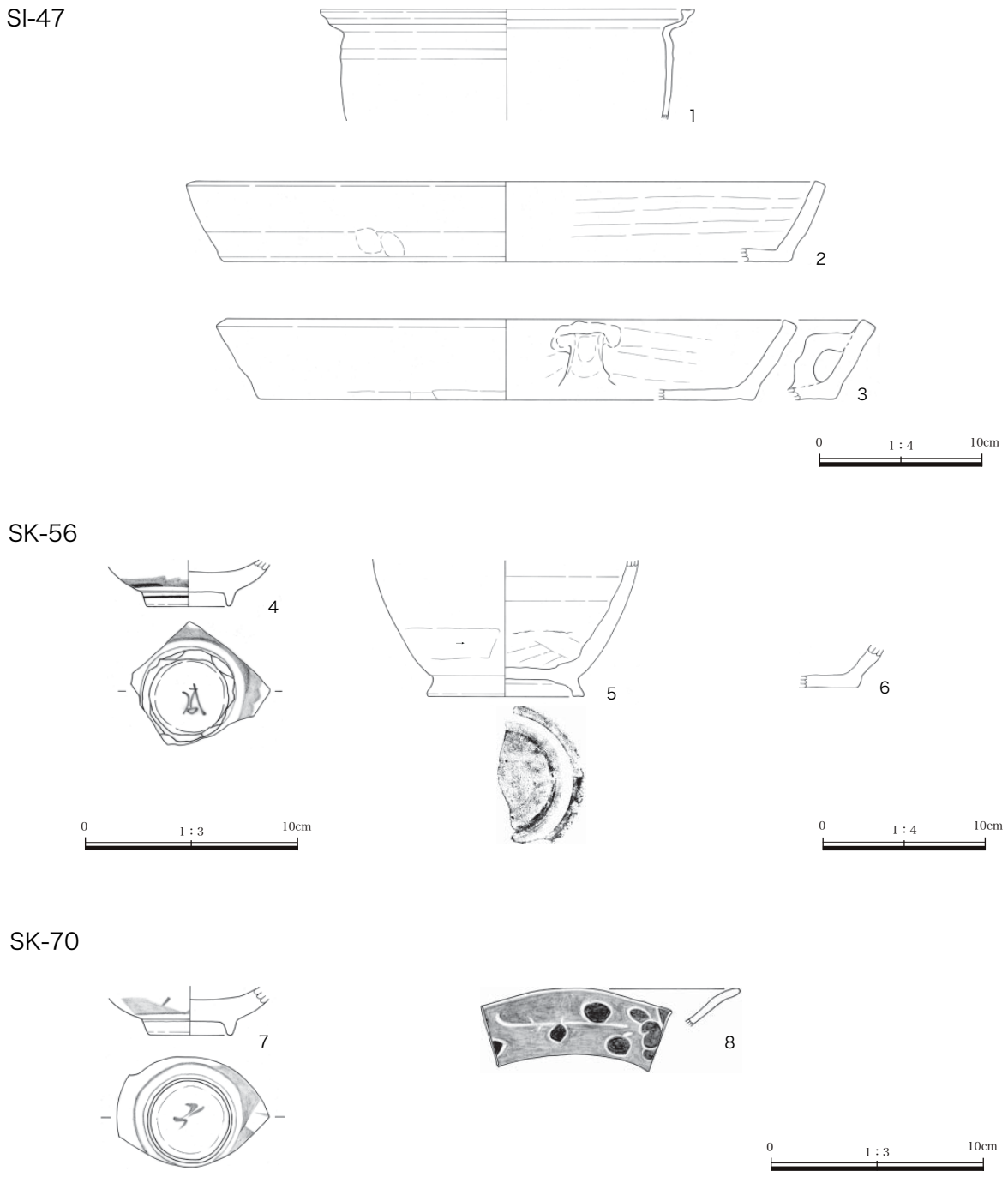
L=31.60m
0　1：60　2m

第 18 図　G-8B 区　SI-47，SK-56・57・70，P-62・69 遺構実測図

軸 2.12 m、短軸 0.80 mが残存し、深さ 40㎝である。　**主軸方向**　N -40° - E　**覆土**　２層で、自然堆積後、埋め戻されている。　**底面**　段を持つ。　**時期**　不明。　**出土遺物**　確認されていない。

第 10 表　G-8B 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-62	S-62	4 次	G-8B	18	2	-	N-35° -E	不整楕円形	0.44	0.28	0.12	
P-69	S-69	4 次	G-8B	18	2	-	N-0°	円形	0.24	0.24	0.12	



第 19 図　G-8B 区　SI-47，SK-56・70 出土遺物実測図

ＳＫ -36（第 17 図、第２表、図版四）

位置　Ａ区の北西。　重複関係　なし。　平面形状・規模　形状からａ・ｂに分かれる可能性が高い。ａ長軸 1.05 m、短軸 0.65 mが残存し、深さ 44㎝の長方形か。　ｂ長軸 1.95 m、短軸 0.55 mが残存し、深さ 44㎝の長方形か。　主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　ａは２層で、人為的に埋め戻された後、自然堆積している。底面　若干の凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -37（第 17 図、第２表、図版四）

位置　Ａ区の北西。　重複関係　ＳＫ -34 と接する。新旧関係は不明。　平面形状・規模　長方形か。長軸 3.08 m、短軸 0.88 mが残存し、深さ 40㎝である。　主軸方向　Ｎ -40°- Ｅ　覆土　２層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。段を持つ。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

Ｂ区　住居跡１軒と土坑３基、ピット２基が確認されている。

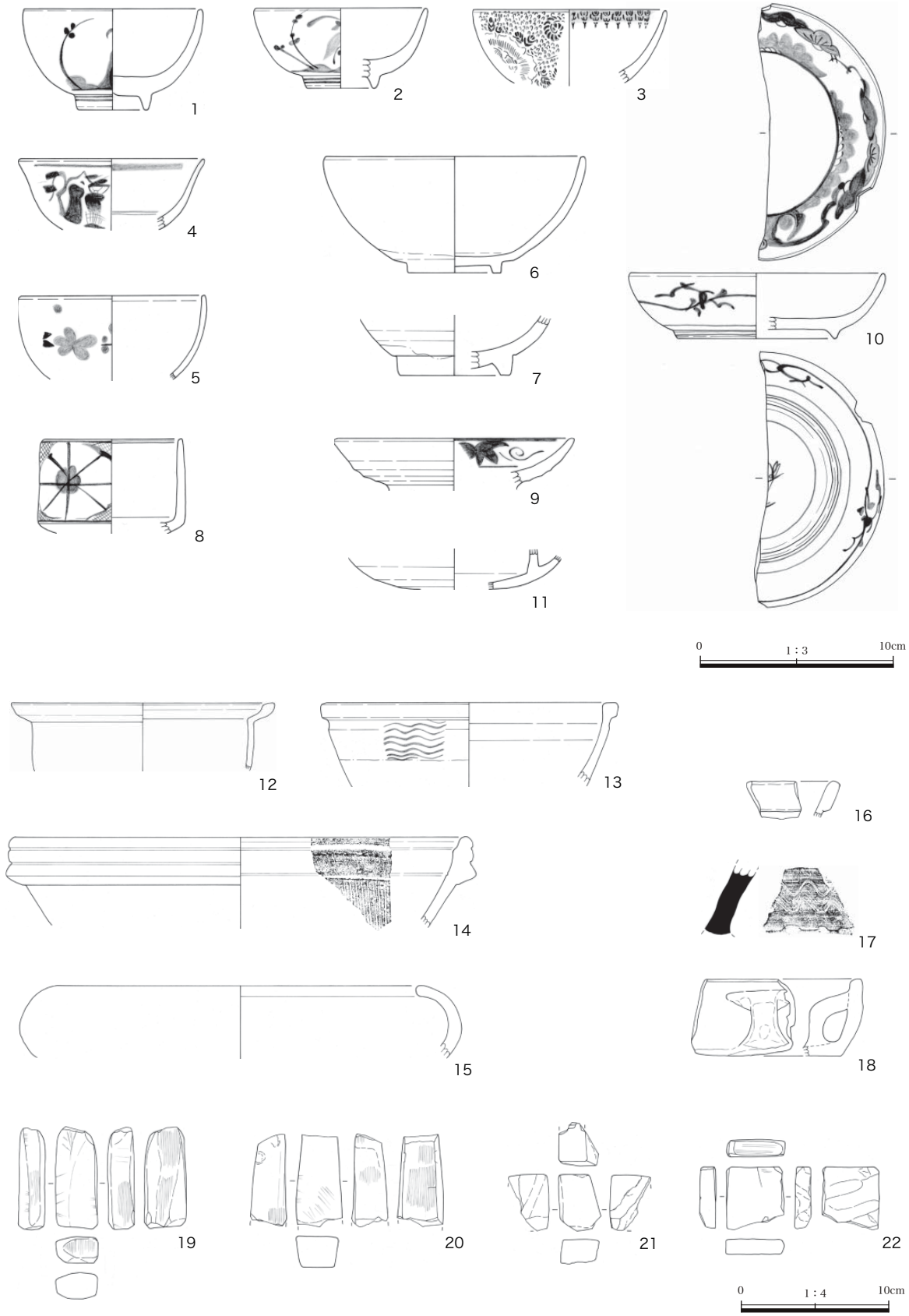
(1) 遺構

ＳＩ -47（第 18・19 図、第２・11 表、図版五・三九）

位置　Ｂ区の南西。　重複関係　なし。　平面形状・規模　方形か。長軸 2.28 m、短軸 0.24 mが残存し、深さ 32㎝である。　主軸方向　Ｎ -48°- Ｅ　覆土　２層で、人為的な埋め戻しである。　カマド・貯蔵穴・壁溝　確認されていない。　柱穴　１基東壁際に確認されている。　底面　凹凸がみられる。　遺物の出土状態　覆土中から出土している。　時期　不明。　その他　方形竪穴建物の可能性が高い。　出土遺物　陶器の甕の口縁部が出土している。２と３は焙烙である。図示できなかったが、羽口の破片や焼けた安山岩の砥石も出土している。

第 11 表　G-8B 区 SI-47,SK-56・70 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
19	1	陶器 甕	口径 (23.0) 底径 - 器高 [6.8]	7.5Y5/4 にぶい褐色	緻密	良好				G-8　S-47	
19	2	焙烙	口径 (38.1) 底径 (34.9) 器高 4.9	外面 7.5Y2/1 黒 内面 7.5Y2/1 黒	砂粒少量、 赤色粒子微量	良好			内外面スス・炭化物付着 黒化	G-8　S-47 フク土一括	
19	3	焙烙	口径 (34.5) 底径 (30.3) 器高 4.9	外面 7.5Y2/1 黒 内面 7.5Y2/1 黒	砂粒少量	良好			体部ナデ 平底　離砂 口縁部外面スス付着 内外面黒化	G-8　S-47 フク土一括	
19	4	磁器 碗	口径 - 底径 4.6 器高 [2.2]	5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前 （波佐見）	18C 前半		G-8　S-56 フク土一括	
19	5	陶器壺	口径 - 底径 (9.6) 器高 [8.5]	2.5Y7/1 灰白	砂粒少量、 黒色粒子微量	良好	東濃		胴部外面ヘラケズリ 底部ナデ 灰釉陶器	G-8　S-56 フク土一括	
19	6	焙烙	口径 - 底径 - 器高 2.6	外面 2.5Y3/1 黒褐 内面 2.5Y2/1 黒	砂粒多量	良好			底部以外内外面やや黒化	G-8　S-56 フク土一括	
19	7	磁器 碗	口径 - 底径 4.0 器高 [2.3]	5GY8/1 灰白	砂粒微量	良好	肥前 （波佐見）	18C 前半		G-8　S-70 フク土一括	
19	8	磁器 皿	口径 (18.0) 底径 - 器高 [1.8]	5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前	近世		G-8　S-70 フク土一括	



第 20 図　G-8 区　遺構外出土遺物実測図

第 12 表　G-8 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
20	1	磁器 碗	口径 (9.0) 底径 3.6 器高 5.2	10Y8/1 灰白	緻密	良好	肥前 (波佐見)	18C 以降	透明釉	G-8 フク土一括	
20	2	磁器 碗	口径 (8.8) 底径 (3.5) 器高 4.1	10GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	近世	内面 鉄分付着	G-8 フク土一括	
20	3	磁器 碗	口径 (9.8) 底径 - 器高 [3.7]	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好		近代	型紙摺り	G-8 フク土一括	
20	4	磁器 碗	口径 (9.6) 底径 - 器高 [3.4]	7.5GY8/1 明緑灰	やや緻密	良好	瀬戸・ 美濃	19C 初		G-8 フク土一括	
20	5	陶器 碗	口径 (9.6) 底径 - 器高 [4.2]	2.5Y8/1 灰白	緻密	良好	京都・ 信楽系		色絵	G-8 フク土一括	
20	6	陶器 碗	口径 (13.3) 底径 4.8 器高 [5.9]	2.5Y6/4 にぶい黄	緻密	良好	肥前	18C 前半	透明釉	G-8 フク土一括	
20	7	陶器 碗	口径 - 底径 (5.6) 器高 3.0	2.5Y4/3 オリーブ褐	緻密	良好	瀬戸・ 美濃	17C 後半 以降	灰釉	G-8 フク土一括	
20	8	磁器 碗	口径 (7.0) 底径 - 器高 [4.8]	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	18C 半ば 以降		G-8 フク土一括	
20	9	陶器 皿	口径 (12.2) 底径 - 器高 [2.6]	2.5Y8/2 灰白	砂粒微量	良好	瀬戸・ 美濃	17C 初	鉄絵	G-8 フク土一括	
20	10	磁器 皿	口径 (13.0 底径 (8.1) 器高 [3.4]	7.5Y8/1 明緑灰	明緑灰 細砂粒微量	良好	肥前 (波佐見)	18C 前半		G-8 フク土一括	
20	11	陶器 灯明皿	口径 - 底径 - 器高 [2.0]	7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒少量、 礫微量	良好			内面と外面の一部油煙	G-8 フク土一括	
20	12	陶器 小型鍋か	口径 (17.6) 底径 - 器高 [4.6]	5YR4/2 灰褐	緻密	良好			鉄釉	G-8 フク土一括	
20	13	陶器 鉢	口径 (20.0) 底径 - 器高 [5.5]	10YR4/2 灰黄褐	緻密	良好	肥前 (唐津)			G-8 フク土一括	
20	14	陶器 擂鉢	口径 (30.6) 底径 - 器高 [6.1]	5YR4/3 にぶい赤褐	砂粒少量、 礫微量	良好	備前	18C 代		G-8 フク土一括	
20	15	陶器 鉢か	口径 (24.8) 底径 - 器高 [4.9]	2.5Y8/1 灰白	緻密	良好		近代		G-8 フク土一括	
20	16	陶器 擂鉢	口径 - 底径 - 器高 [2.5] 器厚 0.9	5YR4/6 赤褐	砂粒微量	良好	備前			G-8 フク土一括	
20	17	須恵器 甕	口径 - 底径 - 器高 [4.6]	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 2.5Y7/1 灰白	砂粒少量	良好			櫛歯状工具による 波状文	G-8 フク土一括	
20	18	焙烙	口径 - 底径 - 器高 5.2 器厚 0.9	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒微量	良好			頸部ナデ　体部ナデ 離砂か 内外面やや黒化 内耳一部残存	G-8 フク土一括	
20	19	砥石	長 [6.79] 幅 2.84 厚 1.73 重 56.51		凝灰岩					G-8 フク土一括	
20	20	砥石	長 [6.09] 幅 3.18 厚 2.44 重 64.82		凝灰岩					G-8 フク土一括	
20	21	砥石	長 [3.77] 幅 [2.91] 厚 [1.62] 重 27.59		凝灰岩					G-8 フク土一括	
20	22	砥石	長 [4.21] 幅 [3.86] 厚 1.09 重 29.88		凝灰岩					G-8 フク土一括	

ＳＫ -56（第 18・19 図、第２・11 表、図版五・三九）

位置　Ｂ区の南東。　重複関係　ＳＫ -57 と接する。新旧関係は不明。　平面形状・規模　長方形か。壁はオーバーハングする。長軸 1.56 m、短軸 0.28 mが残存し、深さ 52㎝である。　主軸方向　Ｎ -46°- Ｅ　覆土　１層で､上層は撹乱を受ける。ＳＫ－ 57 と同時期に埋め戻している。　底面　若干の凹凸がみられる。　時期　近世か。　出土遺物　１は肥前で作られた 18 世紀前半のくらわんか碗の底部。５は、東濃で作られた灰釉陶器の壺である。混入か。図示できなかったが、羽口や焙烙、被熱を受けた礫が確認されている。

ＳＫ -57（第 18 図、第２表、図版五）

位置　調査区の南東。　重複関係　ＳＫ -56 と接する。新旧関係は不明。　平面形状・規模　長方形か。長軸 2.48 m、短軸 0.44 mが残存し、深さ 1.08m である。　主軸　方向　Ｎ -48°- Ｅ　覆土　３層で、ＳＫ -56 と同時期に埋め戻している。　底面　凹凸がみられる。　時期　近世以降か。　その他　方形竪穴建物の可能性もある。　出土遺物　図示できなかったが、羽口や焙烙、被熱を受けた礫が確認されている。

ＳＫ -70（第 18・19 図、第２・11 表、図版五・三九）

位置　Ｂ区のほぼ中央。　重複関係　なし。　平面形状･規模　長方形か。長軸 0.60 m､短軸 0.48 mが残存し、深さ 32㎝である。　主軸方向　Ｎ -50°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　近世の土坑か。　出土遺物　18 世紀前半の肥前で作られた磁器の碗と皿が出土している。図示できなかったが、他にも磁器の破片が確認されている。

(2) 遺構外の遺物（第 20・76 図、第 12・45 表、図版五・三九～四一・五二）

17 世紀初めから 18 世紀の陶磁器が出土している。１は肥前産のくらわんか碗。呉須で梅樹文を描く。２も肥前で、内面に鉄分が付着する。３は近代の型紙摺りで描かれる。コバルト発色。４は広東碗。瀬戸・美濃で作られたもの。５は色絵白磁胎の釉面に赤と緑の彩釉を使って上絵付けする。京都・信楽系。６は白泥打刷毛目に透明釉を施している。７も瀬戸・美濃産で灰釉。８は小さめの筒茶碗。呉須である。埼玉から搬入か。粟宮宮内遺跡の２次調査や宇都宮市の雀宮宿跡でも似たものが出土している。９は鉄絵。10 と 13 は肥前。11 は灯明皿で内面と外面の一部油煙が付着する。12 は鉄釉が施された小型の鍋と考えられる。14 と 16 は備前産の擂鉢。焼き締め陶器である。15 は鉢か。17 は須恵器の甕の口縁部の一部か。18 は焙烙。19 ～ 22 は凝灰岩の砥石である。古銭や釘なども出土している。図示できなかったが、粘板岩の砥石、緑泥片岩の板碑の破片、タールの付着した礫も出土している。

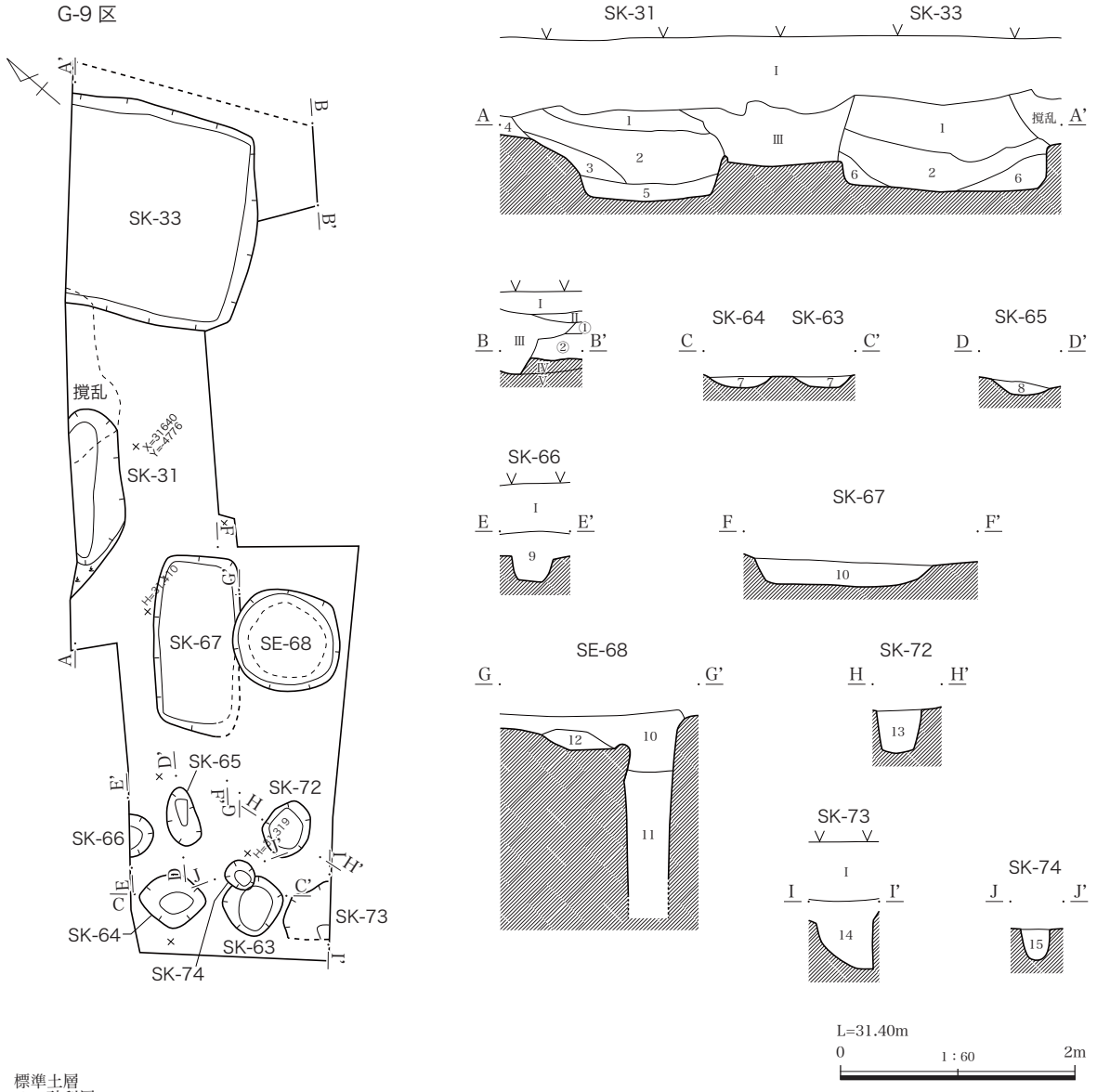
９．Ｇ - ９区

井戸１基と土坑 10 基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＥ -68（第 21 図、第２表、図版六・七）

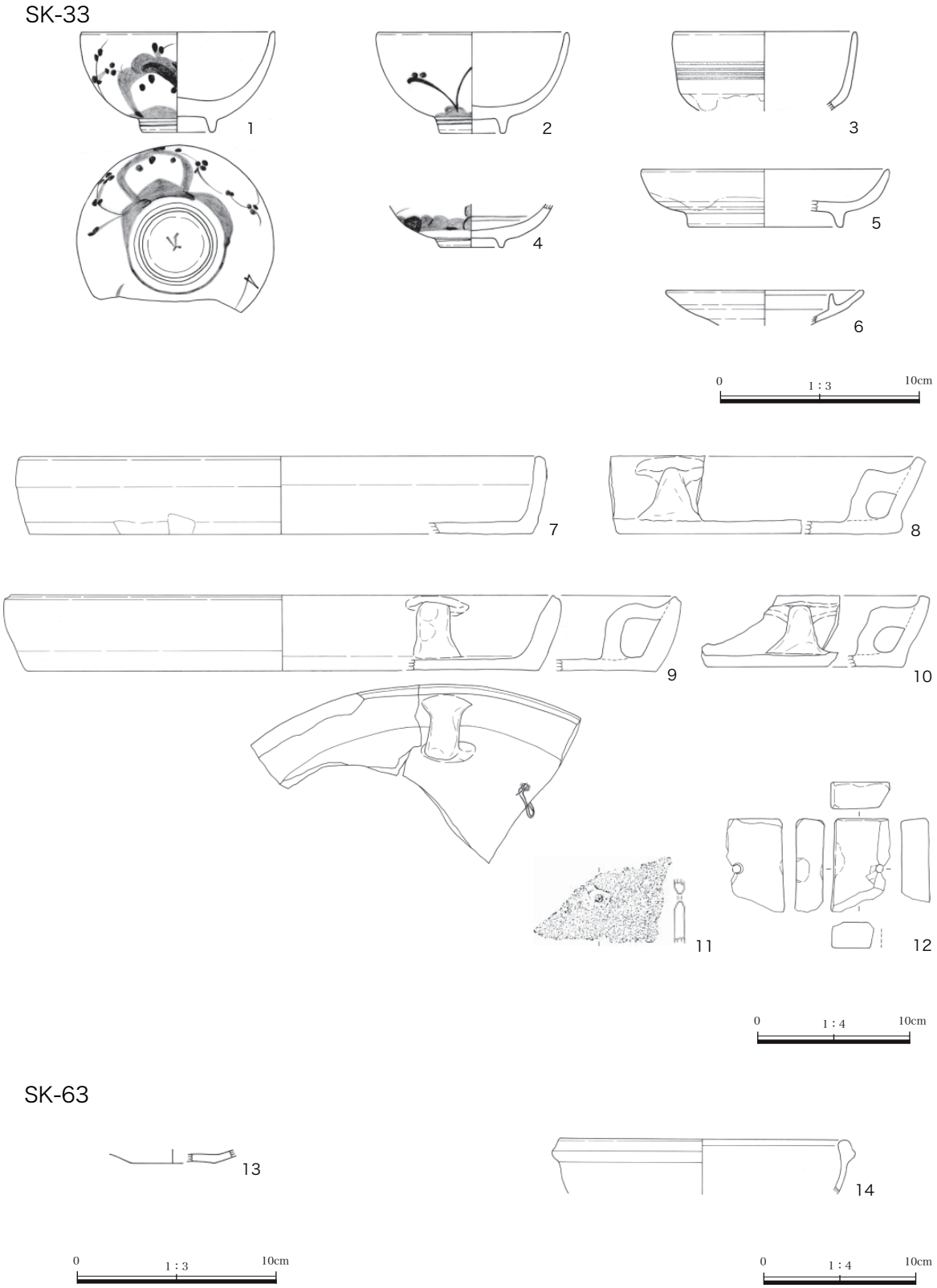
位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -67 より新しい。　平面形状・規模　径 0.84 m、深さ 1.50



標準土層
Ⅰ　砂利層
Ⅱ　黒色土　　砂利含む。
Ⅲ　黒褐色土　　砂利多量・木根含む。
①　黒褐色土　　黒色土より色調が淡い。ローム粒子（φ0.3 ㎝前後）含む。しまりあり。
②　茶褐色土　　一部赤褐色状になっている。ローム微粒子・炭化粒子微量。しまりあり。
Ⅳ　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化微粒子少量。しまりあり。ローム漸移層に相当。
Ⅴ　ソフトローム

SK-31・33
1　暗灰色土　　ローム粒子（φ～0.1 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。木根混入。
2　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化微粒子少量。しまりあり。木根混入。
3　明黒褐色土　ローム粒子（φ～0.7 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ～0.5 ㎝）少量。しまりあり。木根混入。
4　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化微粒子微量。しまりあり。
5　茶褐色土　　ローム粒子（φ～0.7 ㎝）、炭化微粒子微量。しまりあり。
6　暗茶褐色土　ロームブロック（φ2.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）、炭化微粒子少量。しまりあり。
SE-68，SK-63～67・72～74
7　暗灰色土　　ロームブロック（φ～1.0 ㎝）、ローム粒子（φ～0.5 ㎝）少量、炭化微粒子微量。しまりあり。
8　黒褐色土　　ローム微粒子少量、炭化粒子微量。しまりあり。
9　暗灰色土　　ロームブロック（φ2.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）、炭化物（φ1.0 ㎝）・炭化粒子（φ～0.5 ㎝）少量。しまりあり。
　　SK-63・64 の７層に類似。
10　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化微粒子微量。しまりあり。木根多量。
11　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）微量。ややしまりあり。
12　暗灰色土　　ロームブロック（φ2.0 ㎝前後）、ローム粒子（φ0.7 ㎝前後）、炭化微粒子少量。しまりあり。（別の遺構か）
13　暗茶褐色土　ロームブロック（φ1.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）、炭化微粒子、砂利少量。しまりあり。
14　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～0.3 ㎝）微量、炭化微粒子少量。しまりあり。
15　暗灰色土　　ロームブロック（φ～1.0 ㎝）、ローム粒子（φ～0.5 ㎝）少量、炭化微粒子微量。しまりあり。

第 21 図　G-9 区　SE-68，SK-31・33・63 ～ 67・72 ～ 74 遺構実測図



第 22 図　G-9 区　SK-33・63 出土遺物実測図

m以上の円形である。　主軸方向　N -53°- E　覆土　２層で、人為的な埋め戻しである。　底面　不明。時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -31（第 21・22 図、第 2・13 表、図版六）

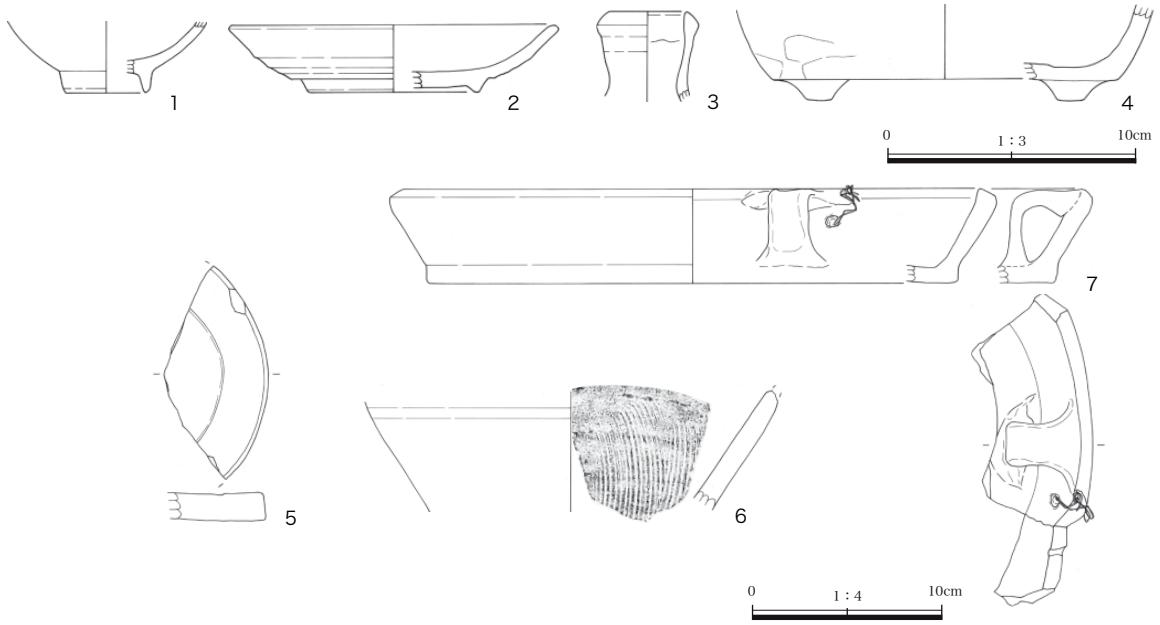
位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　Ⅲ層に撹乱されている。　平面形状･規模　長方形か。長軸 1.75 m、短軸 1.60 mが残存し、深さ 76㎝である。　主軸方向　N - 0°　覆土　５層で、４・５層は自然堆積、その上層は人為的な埋め戻しである。　底面　段を持つ。下段はほぼ平坦である。　時期　不明。　その他　方形竪穴建物か地下式坑の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -33（第 21・22・76 図、第 2・13・45 表、図版六・四一・四二・五一・五二）

第 13 表　G-9 区 SK-33・63 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測（ｃｍ・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
22	1	磁器 碗	口径　9.5 底径　4.0 器高　5.0	外面 7.5GY8/1 明緑灰 内面 2.5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前	18C 中～後半		G-9 SK-33 フク土一括	
22	2	磁器 碗	口径 (9.4) 底径　3.4 器高　5.0	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前 (波佐見)	18C 前 半		G-9 SK-33 フク土一括	
22	3	陶器 碗	口径 (9.0) 底径 - 器高 [3.9]	5Y7/1 灰白	緻密	良好	瀬戸・ 美濃	18C	灰釉＋鉄釉	G-9 SK-33 フク土一括	
22	4	磁器 碗	口径　- 底径　3.7 器高 [2.1]	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	18C 中～後半		G-9 SK-33 フク土一括	
22	5	陶器 皿	口径 (12.1) 底径 (8.0) 器高　2.9	5Y8/3 淡黄	砂粒少量	良好	瀬戸・ 美濃		灰釉か	G-9 SK-33 フク土一括	
22	6	陶器 灯明皿	口径 (9.7) 底径 - 器高 [1.7]	7.5YR5/4 にぶい褐	緻密	良好	在地			G-9 SK-33 フク土一括	
22	7	焙烙	口径 (34.4) 底径 (33.0) 器高　5.0	外面 5Y3/1 オリーブ黒 内面 5Y4/1 灰	砂粒少量、透明粒子・黒色粒子・白色粒子微量	良好			体部上半ナデ 下半ケズリ 平底　離砂 外面底部以外黒化	G-9 SK-33 フク土一括	
22	8	焙烙	口径　- 底径　- 器高　5.1	外面 5Y3/1 オリーブ黒 内面 5Y4/1 灰	砂粒少量、 白色粒子微量	良好			体部上半ナデ 下半ケズリ 平底　離砂 口縁～体部内外面黒化 補修孔あり	G-9 SK-33 フク土一括	
22	9	焙烙	口径 (35.6) 底径 (33.8) 器高　4.9	外面 10YR2/1 黒 内面 10YR4/1 褐灰	砂粒・ 白色粒子少量、 赤色粒子微量	良好			体部上半ナデ 下半ケズリ平底　離砂 口縁～体部外面スス・炭化物付着 口縁～体部内外面黒化 銅線残る補修孔あり	G-9 SK-33 一括	
22	10	焙烙	口径　- 底径　- 器高　4.6	外面 5Y3/1 オリーブ黒 内面 5Y4/1 灰	砂粒少量	良好			体部上半 ナデ下半 ケズリ 平底　離砂 口縁～体部内外面 スス付着 口縁～体部内外面 黒化	G-9 SK-33 フク土一括	
22	11	焙烙	口径　- 底径　- 器高　- 器厚　0.62	10YR5/3 にぶい黄褐	砂粒微量、 黒色粒子・ 赤色粒子若干	良好			内面ナデ 平底　離砂 補修孔あり	G-9 SK-33 フク土一括	
22	12	砥石	長　(6.11) 幅　(3.74) 厚　1.83 重　40.09		凝灰岩					G-9 SK-33 フク土一括	
22	13	陶器 灯明皿	口径　- 底径 (4.2) 器高 [0.6]	外面 2.5Y7/2 灰黄 内面 5YR4/4 にぶい赤褐	緻密	良好			鉄釉	G-9 S-63C フク土一括	
22	14	陶器 片口鉢	口径 (18.7) 底径　- 器高 [3.6]	5Y7/2 灰白	緻密	良好	瀬戸・美濃	近世		G-9 S-63A フク土一括	

位置　調査区の北。　重複関係　Ⅲ層に撹乱されている。　平面形状・規模　方形か。長軸 1.80 m、短軸 1.64 mが残存し、深さ 76㎝である。　主軸方向　N -49°- E　覆土　３層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。壁際にロームを掘り残している部分がみられる。　時期　近世の土坑。　その他　食器等を廃棄した穴か。方形竪穴建物か地下式坑の可能性もある。　出土遺物　１・２・４は肥前で作られた小丸碗。５は瀬戸・美濃産の皿。６は灯明皿である。７～１１は焙烙。８・９・11 は補修孔があり、９は銅線も残る。１２は凝灰岩の砥石で孔が貫通している。その他、キセルや古銭･鉄滓なども出土している。図示できなかったが、他にも羽口や火鉢の破片などが確認されている。

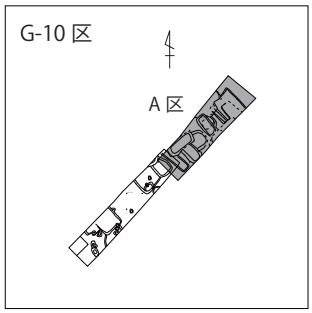


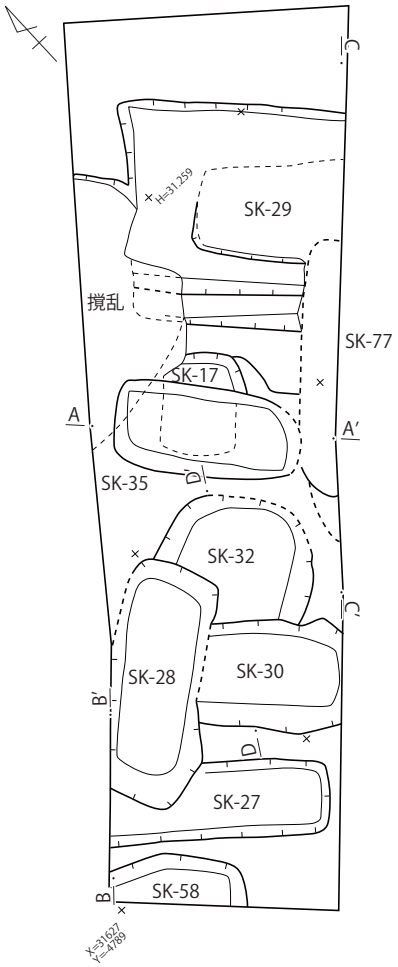
第 23 図　G-9 区　遺構外出土遺物実測図

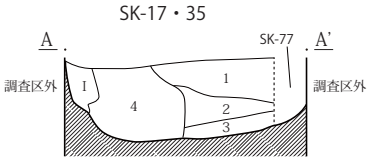
第 14 表　G-9 区遺構外出土遺物観察表

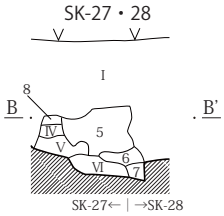
図版No	No	種類 器種	計測値 （㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
23	1	磁器 碗	口径　- 底径 (3.2) 器高 [2.9]	N8/0 灰白	緻密	良好	肥前	近代		G-9 フク土一括	
23	2	陶器 皿	口径 (12.8) 底径 (7.8) 器高　2.6	5Y7/3 浅黄	砂粒微量	良好	瀬戸・ 美濃	17C 代	灰釉 重ね焼きの痕跡あり	G-9 フク土一括	
23	3	陶器 徳利	口径 (3.0) 底径　- 器高 [3.6]	2.5Y6/6 明黄褐	緻密	良好	瀬戸・ 美濃	18C 半	灰釉	G-9 フク土一括	
23	4	土器 香炉	口径　- 底径 (11.0) 器高 [3.9]	内外面 7.5YR6/4 にぶい燈	砂粒中量	良好				G-9 フク土一括	
23	5	土製 円板か	長 [11.27] 幅 [5.14] 厚　1.48 径 (15.3)	上面 10YR5/4 にぶい黄燈 下面 10YR4/2 灰黄褐色	透明粒子多量、 砂粒・ 黒色粒子少量	良好				G-9 フク土一括	
23	6	陶器 擂鉢	口径　- 底径　- 器高 [6.3]	外面 7.5YR4/3 褐内面 7.5YR4/4 褐	砂粒少量、 礫微量	良好	瀬戸・ 美濃	近世	６本の櫛歯状工具による 擂目 口縁部を打ち欠いている	G-9 フク土一括	
23	7	焙烙	口径 (30.4) 底径 (28.0) 器高　4.9	外面 2.5Y2/1 黒 内面 2.5Y3/1 黒褐	砂粒少量	良好			体部ナデ　平底　離砂 口縁～体部外面スス・炭化物付着 底部外面以外黒化補修孔あり　銅線残る	G-9 フク土一括	

ＳＫ -63（第 21・22 図、第 2・13 表、図版四二）

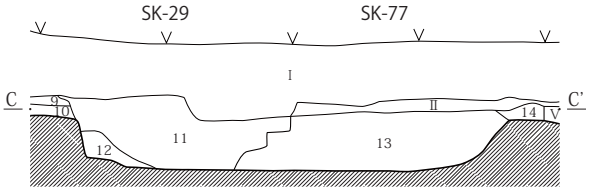


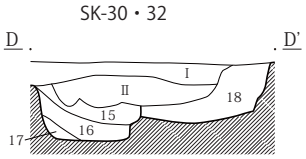


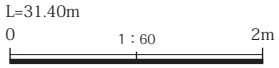




SK-17・35
1　明黒褐色土　明黒褐色土（赤い黒）・黒色土の混土層にロームブロック（φ0.5～3.0 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。
2　黒色土　黒色土にローム粒子（φ1.0 ㎝）少量。しまりなし。粘性弱い。
3　黒褐色土　黒色土とロームブロック（φ2.0 ㎝）の混土層。しまりあり。粘性弱い。
4　明黒褐色土　明黒褐色土・黒色土の混土層にローム粒子（φ0.3～0.5 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。







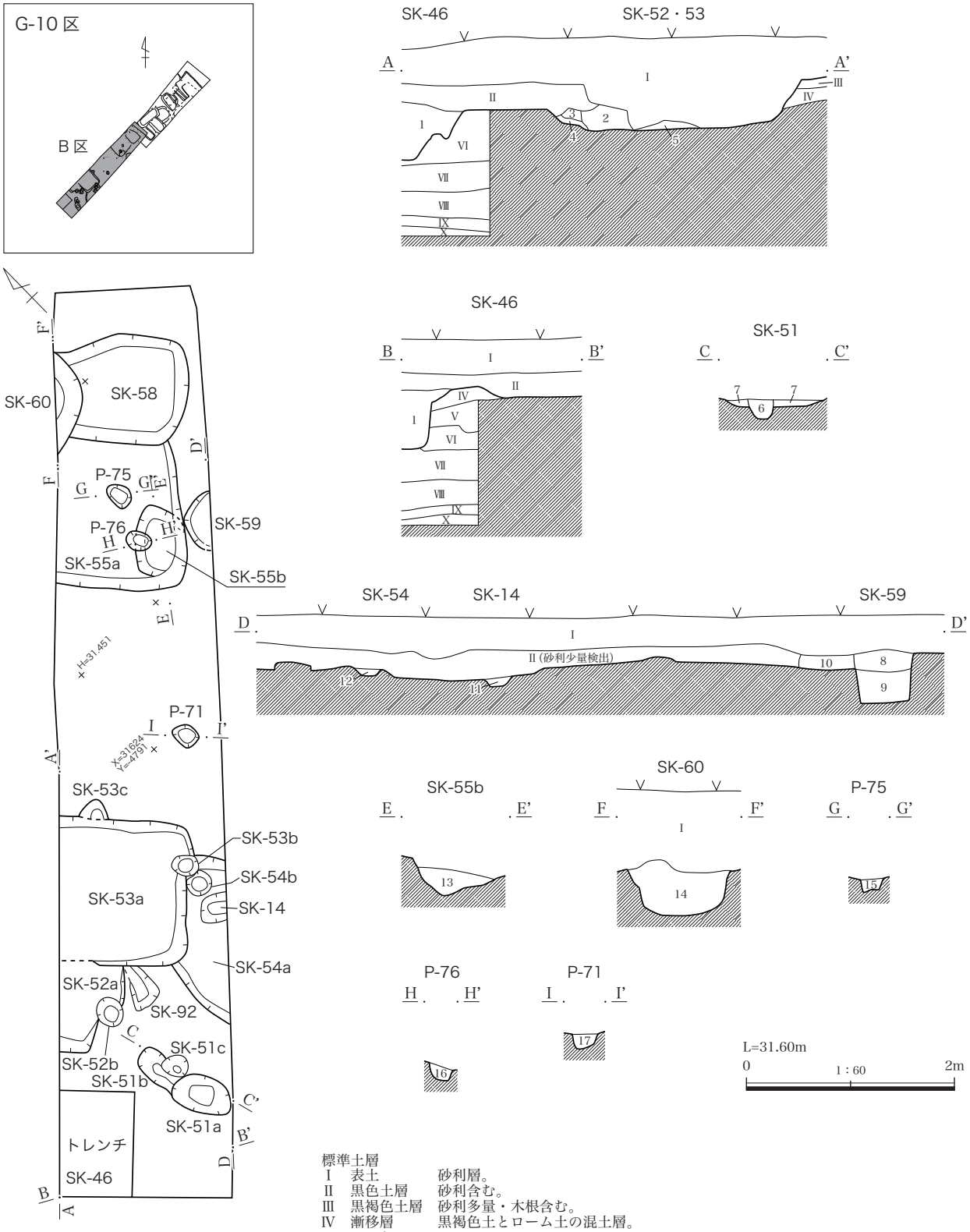
標準土層
Ⅰ　砂利層
Ⅱ　黒色土　砂利含む。
Ⅲ　黒褐色土　砂利多量・木根含む。
Ⅳ　暗黄褐色土　炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。（ローム漸移層）
Ⅴ　ソフトローム
Ⅵ　ハードローム

SK-27・28
5　黒褐色土　ロームブロック（φ3.0 ㎝）、ローム粒子（φ～3.0 ㎝）やや多量、炭化微粒子少量。しまりあり。SK-27 とは別の遺構又は掘り込みの覆土と推定。
6　暗茶褐色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）少量、炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。５層同様 SK-27 とは別の遺構又は掘り込みと推定。
7　暗茶褐色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）少量、炭化微粒子微量。ややしまりあり。
8　暗褐色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）・炭化微粒子微量。しまりあり。

SK-29・77
9　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）微量、炭化粒子（φ1.0 ㎝）含む。非常にしまりあり。
10　暗黄褐色土　ローム粒子（φ0.4 ㎝前後）やや多量。炭化微粒子微量。非常にしまりあり。
11　茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）少量。しまりあり。
12　黒色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝）微量。しまりあり。
13　黒褐色土　ロームブロック（φ～4.0 ㎝）、ローム粒子（φ～2.0 ㎝）多量、炭化粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量。非常にしまりあり。
14　暗灰色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ～0.7 ㎝）少量。非常にしまりあり。

SK-30・32
15　黒茶褐色土　黒色土とローム土・ローム粒子（φ1.0 ㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。
16　黒色土　黒色土にローム細粒子・ローム粒子（φ0.5 ㎝）少量。しまりなし。粘性弱い。
17　褐色土　ローム土に黒色土少量。しまりなし。粘性弱い。
18　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ3.0 ㎝）多量、炭化物若干含む。しまりなし。粘性弱い。

第 24 図　G-10A 区　SK-17・27 ～ 30・32・35・77 遺構実測図



標準土層
Ⅰ　表土　　砂利層。
Ⅱ　黒色土層　　砂利含む。
Ⅲ　黒褐色土層　砂利多量・木根含む。
Ⅳ　漸移層　　黒褐色土とローム土の混土層。
Ⅴ　ソフトローム
Ⅵ　ハードローム
Ⅶ　ＢＢ上層又はハードローム下層（ハードロームが薄く暗黒褐色を呈す）
Ⅷ　ＢＢ
Ⅸ　ハードローム
Ⅹ　ハードロームとＫＰの混土層（ハードロームにＫＰ粒子が多く混入）

第 25 図　G-10B 区　SK-14・46・51 ～ 55・58 ～ 60・92，P-71・75・76 遺構実測図（１）

SK-14・46・51～55・59～60
1　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ1.0～3.0 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。
2　暗黒褐色土　Ⅲ層にローム粒子を若干含む。しまりあり。粘性弱い。
3　黒褐色土　２層にローム土やや多量。しまりあり。粘性弱い。
4　暗褐色土　Ⅲ層とロームブロック（φ3.0～5.0 ㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。（壁面の崩落か）
5　暗褐色土　Ⅲ層とローム土、ロームブロック（φ1.0 ㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。
6　暗灰色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ～0.7 ㎝）少量。しまりあり。
7　暗灰色土　ローム粒子（φ0.4 ㎝前後）少量、炭化微粒子微量。しまりあり。６層より古い。
8　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）微量、炭化粒子（φ～0.2 ㎝）少量。非常にしまりあり。
9　砂利・白色粘土検出
10　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.5 ㎝）やや多量、（φ0.2 ㎝前後）炭化粒子（φ0.2 ㎝前後）少量。非常にしまりあり。
11　暗茶褐色土　ロームブロック（φ1.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）やや多量、炭化微粒子少量。非常にしまりあり。
12　黒褐色土　ローム粒子（φ0.4 ㎝前後）・炭化粒子少量。非常にしまりあり。
13　暗黄褐色土　全面にローム微粒子が散在。しまりあり。上端に攪乱土が一部残存。
14　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）・炭化微粒子少量、小礫微量。しまりあり。

P-71・75・76
15　黒褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）やや多量、炭化微粒子少量。しまりややあり。
16　黒褐色土　ローム粒子（φ～0.5 ㎝）やや多量、炭化微粒子少量。しまりややあり。
17　黒褐色土　ローム粒子（φ0.3 ㎝前後）・炭化微粒子少量。しまりややあり。

第 26 図　G-10B 区　SK-14・46・51 ～ 55・59 ～ 60，P-71・75・76 遺構実測図（２）

第 15 表　G-10B 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-71	S-71	４次	G-10B	25・26	2	9	N-87°-E	長方形	0.24	0.16	0.16	
P-75	S-55c	４次	G-10B	25・27	2	9	N-18°-W	楕円形	0.24	0.16	0.12	
P-76	S-55d	４次	G-10B	25・28	2	9	N-30°-W	楕円形	0.24	0.20	0.12	

位置　調査区の南。　重複関係　ＳＫ-74 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　径 0.48 m、深さ 12㎝の不整円形である。　主軸方向　Ｎ-17°-Ｗ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸が著しい。　時期　近世以降か。　出土遺物　陶器の灯明皿の底部と片口鉢の口縁部が出土している。図示できなかったが、他にも焙烙の破片が確認されている。

ＳＫ-64（第 21 図、第２表、図版六）

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 0.64 m、短軸 0.48 m、深さ 24㎝の不整楕円形である。　主軸方向　Ｎ-32°-Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-65(第 21 図、第２表)

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 0.52 m、短軸 0.28 m、深さ 12㎝の不整楕円形である。　主軸方向　Ｎ-43°-Ｗ　覆土　１層で、自然堆積か。　底面　凹凸が著しい。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-66（第 21 図、第２表、図版六）

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.36 m、短軸 0.20 mが残存し、深さ 24㎝である。　主軸方向　Ｎ-45°-Ｗ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを帯びて立ち上がる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-67（第 21 図、第２表、図版六）

位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　ＳＥ-68 より古い。　平面形状・規模　長軸 1.52 m、短軸 0.68 m、深さ 24㎝の長方形である。　主軸方向　Ｎ-50°-Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸

みを帯びて立ち上がる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -72（第 21 図、第２表）

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状･規模　長方形か。長軸 0.48 m、短軸 0.40 mが残存し、深さ 36㎝である。　主軸方向　Ｎ -80°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを帯びて立ち上がる、いくつかのピットの集合体である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -73（第 21 図、第２表、図版七）

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 0.60 m、短軸 0.36 m、深さ 56㎝が残存する楕円形である。　主軸方向　Ｎ -48°- Ｅ　覆土　１層で、自然堆積である。　底面　ほぼ平坦である。時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -74（第 21 図、第２表）

位置　調査区の南。　重複関係　ＳＫ -63 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　長軸 0.52 m、短軸 0.48 m、深さ 24㎝の円形である。　主軸方向　Ｎ - ０°　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。底面　丸みを帯びる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 23・76 図、第 14・45 表、図版四二・五二）

１は肥前で作られた碗。２・３・６は瀬戸・美濃産。２と３は灰釉で、２には重ね焼きの痕跡が残る。４は香炉で、脚部の１足が確認された。５は直径約 15㎝の土製の円板の一部である。６は６本歯の工具による擂目が施される擂鉢。口縁部を打ち欠いている。７は補修孔と銅線が残る焙烙である。古銭も出土している。近世～近代の遺物が出土している。

10. Ｇ -10 区

土坑 19 基、ピット３基が確認されている。

Ａ区とＢ区の二つに分割した。

Ａ区　土坑８基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＫ -17（第 24 図、第２表、図版七）

位置　Ａ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -35 より新しい。　平面形状･規模　隅丸長方形か。長軸 1.04 m、短軸 0.28 mが残存し､深さ 60㎝である。　主軸方向　Ｎ -41°- Ｅ　覆土　３層で､埋人為的な埋め戻しである。３層は貼床状に硬くしまっている。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -27（第 24 図、第２表、図版七）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -28 より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.72 m、短軸 0.64 mが残存し、深さ 32㎝である。　主軸方向　Ｎ -47°- Ｗ　覆土　確認できるのは１層で、人為的な埋め戻しである。Ｉ層に撹乱されている。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認され

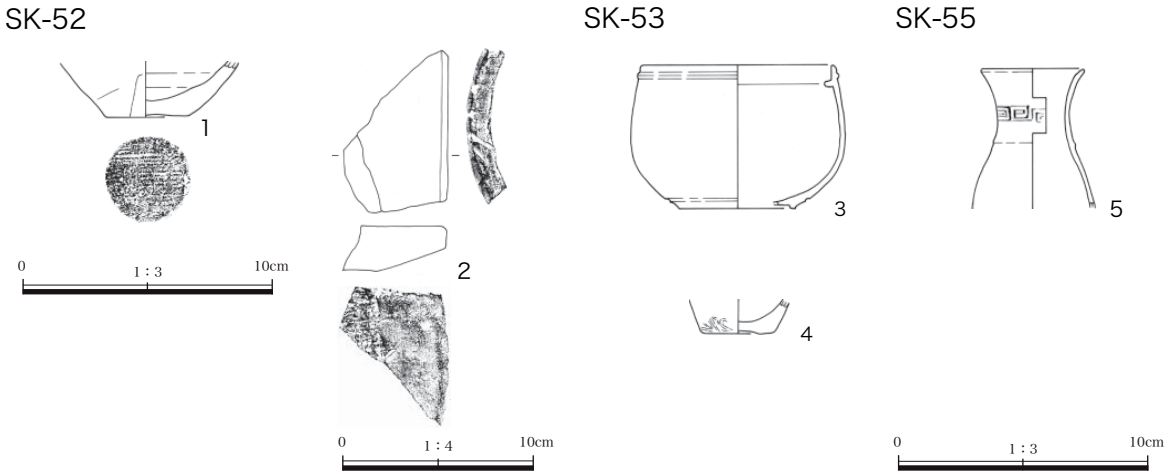
ていない。

ＳＫ -28（第 24 図、第２表、図版八）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -27 より古く、ＳＫ -30 より新しいと考えられる。Ｉ層に撹乱されている。　平面形状・規模　長軸 1.88 m、短軸 0.68 m、深さ 28㎝の隅丸長方形。　主軸方向　Ｎ -56°- Ｅ　覆土　確認できるのは２層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -29（第 24 図、第２表、図版八）

位置　Ａ区の南。　重複関係　Ｉ・Ⅱ層に撹乱されている。　平面形状・規模　長軸 1.75 m、短軸 1.95 m、深さ 60㎝の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ -50°- Ｅ　覆土　9・10・12 層は自然堆積、11 層は埋め戻しである。　底面　段を持つが、ほぼ平坦である。　時期　不明。　その他　方形竪穴建物の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。



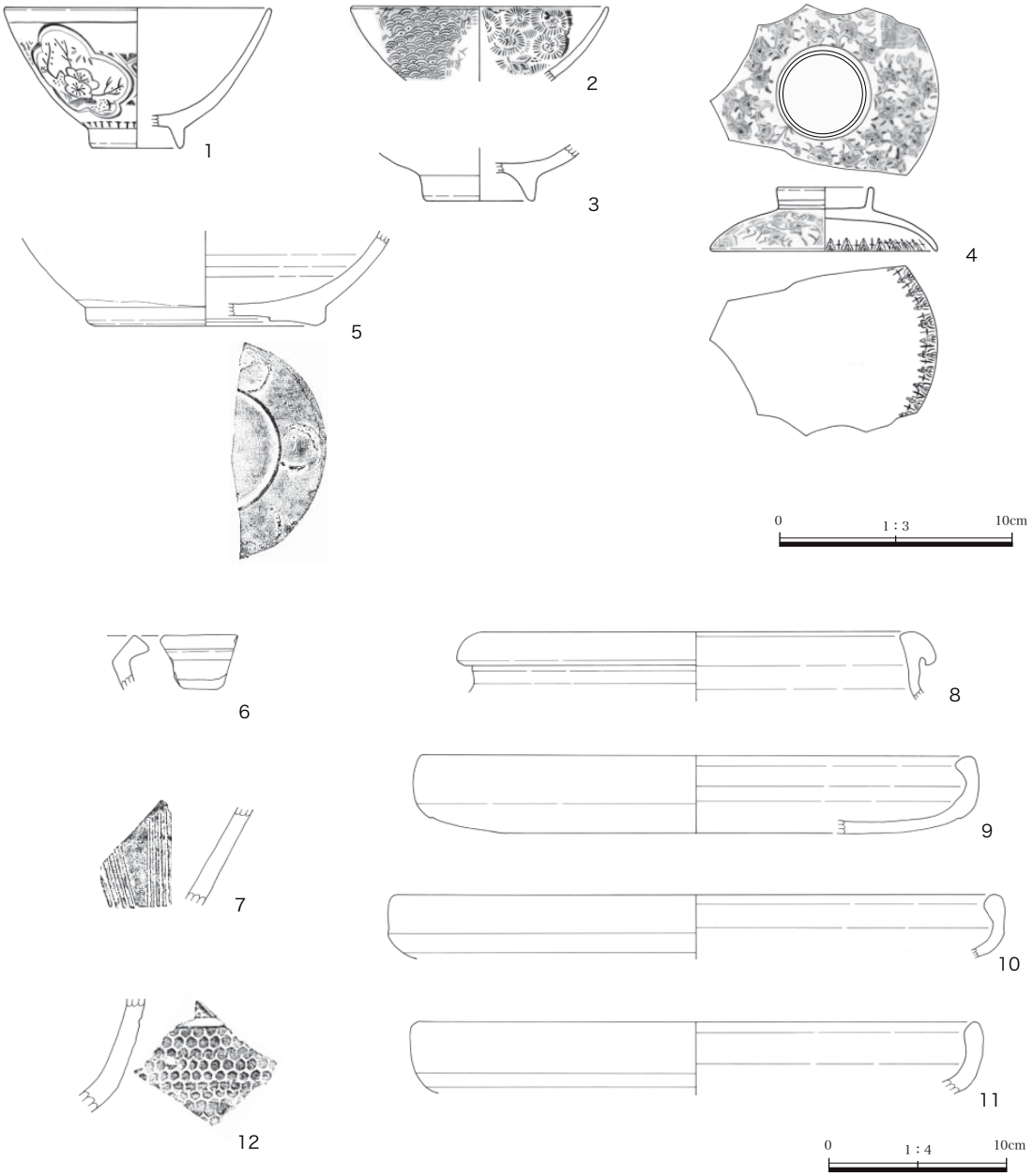
第 27 図　G-10B 区　SK-52・53・55 出土遺物実測図

第 16 表　G-10B 区 SK-52・53・55 出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
27	1	土師質 土器 Ⅲ	口径　- 底径　3.3 器高　[2.2]	外面 2.5YR6/2 灰黄 内面 2.5YR5/1 黄灰	砂粒少量、 黒色粒子微量	良好			底部回転糸切り 板目状圧痕あり	G-10 S-52 フク土一括	
27	2	丸瓦	長　5.38 幅　(14.4) 厚　2.38 重　81.02	N4/0 灰	緻密，礫若干	良好			端面調整ナデ 布目痕か	G-10 S-52 フク土一括	
27	3	陶器 急須	口径　(7.5) 底径　(4.6) 器高　5.6	外面 2.5YR3/2 暗赤褐 内面 2.5YR4/1 赤灰	緻密 , 礫若干	良好	常滑か		注口の痕跡あり	G-10 S-53 フク土一括	
27	4	ミニ チュア	口径　- 底径　2.8 器高　[1.3]	5YR6/6 橙	砂粒微量	良好			外面鉄分付着	G-10 S-53a フク土一括	
27	5	磁器 燗徳利	口径　(4.0) 底径　- 器高　[5.5]	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前			G-10 S-55a	

ＳＫ -30（第 24 図、第２表）

位置　Ａ区の南。　重重複関係　ＳＫ -32 より新しく、ＳＫ -28 より古いと考えられる。Ⅰ・Ⅱ層に撹乱されている。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.12 m、短軸 0.88 mが残存し、深さ 36㎝である。主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　３層で、17 層は自然堆積、15・16 層は埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。



第 28 図　G-10 区　遺構外出土遺物実測図

ＳＫ -32（第 24 図、第２表、図版八）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -28･30 より古いと考えられる。Ⅰ・Ⅱ層に撹乱されている。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.20 m、短軸 1.00 mが残存し、深さ 40㎝である。　主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -35（第 24 図、第２表、図版七・八）

位置　Ａ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -17 より古い。　平面形状・規模　長軸 1.52 m、短軸 0.72 m、深さ 60㎝の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ -41°- Ｗ　覆土　確認できるのは１層で、人為的な埋め戻しである。Ⅰ層に撹乱されている。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -77（第 24 図、第２表、図版七）

位置　Ａ区の北。　重複関係　Ⅰ・Ⅱ層に撹乱されている。　平面形状･規模　隅丸長方形か。長軸 2.00 m、短軸 0.28 mが残存し、深さ 16㎝である。　主軸方向　Ｎ -47°- Ｅ　覆土　２層で、人為的な埋め戻しである。

第 17 表　G-10 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
28	1	磁器 碗	口径 (11.4) 底径 (4.1) 器高　6.0	N8/0 灰白	緻密	良好		近代	ゴム判	G-10 フク土一括	
28	2	磁器 碗	口径 (10.8) 底径　- 器高 [3.2]	2.5GY8/1 灰白	緻密	良好		近代	型紙摺り	G-10 フク土一括	
28	3	陶器 碗	口径　- 底径 (5.1) 器高 [2.4]	2.5Y6/3　に ぶい黄	緻密	良好	肥前 （唐津）	18C 代		G-10 フク土一括	
28	4	磁器 蓋	口径 (9.6) 底径　4.0 器高　2.7	N8/0 灰白	緻密	良好		近代	型紙摺り	G-10 フク土一括	
28	5	陶器 壺	口径　- 底径 (13.0) 器高 [5.3]	内外面 5Y5/3 灰オリーブ 一部 2.5Y6/3 にぶい黄	緻密	良好				G-10 フク土一括	
28	6	陶器 石皿	口径　- 底径　- 器高 [2.9]	５Y8/2 灰白	砂粒少量	良好	瀬戸・ 美濃	近世	灰釉	G-10 フク土一括	
28	7	陶器 擂鉢	口径　- 底径　- 器高 [5.5] 器厚　0.85	外面 ５YR4/1 褐灰 内面 ５YR3/2 暗赤褐	砂粒少量	良好	瀬戸・ 美濃	近世	鉄釉 櫛歯状工具による擂目	G-10 フク土一括	
28	8	陶器 甕	口径 (24.0) 底径　- 器高 [3.9]	外面 7.5YR3/3 暗褐 内面 7.5YR3/1 黒褐	砂粒少量	良好			鉄釉	G-10 フク土一括	
28	9	焙烙	口径 (30.0) 底径　- 器高　4.3	外面 7.5YR2/1 黒 内面 7.5YR6/2 灰褐	砂粒少量、赤 色粒子微量	良好	江戸 近郊	19C か	体部ナデ 丸底　離砂 口縁部外面黒化	G-10 フク土一括	
28	10	焙烙	口径 (33.7) 底径　- 器高［3.5］	外面 7.5YR2/1 黒 外面 7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒・赤色粒 子少量、礫微 量	良好			体部上半ナデ 下半ケズリ 内面ナデ　丸底 口縁部外面スス付着・黒化	G-10 フク土一括	
28	11	焙烙	口径 (31.4) 底径　- 器高［4.0］	外面 7.5YR3/1 黒褐 外面 7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒少量、透 明粒子・黒色 粒子・白色粒 子・赤色粒子 微量	良好			体部上半ナデ 下半ケズリ 内面ナデ 丸底　離砂か	G-10 フク土一括	
28	12	瓦質土器 火鉢	口径　- 底径　- 器高［7.0］	N3/1 暗灰	砂粒微量	良好			内外面黒化	G-10 フク土一括	

底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　その他　方形竪穴建物の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。

Ｂ区　土坑 11 基、ピット３基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＫ -14（第 25 図、第２表、図版八）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　ＳＫ -54 との新旧関係は不明。Ⅰ・Ⅱ層に撹乱される。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 0.25 m、短軸 0.25 m、深さ 10㎝が残存する。　主軸方向　Ｎ -56°-W　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを帯びる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -46（第 25 図、第２表、図版八）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　ＳＫ -17 より古い。　平面形状・規模　深さ 20㎝の長方形か。断面で確認された。　主軸方向　不明。　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -51（第 25 図、第２表）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　ａ　長軸 0.55 m、短軸 0.35 m、深さ５㎝の楕円形。　ｂ　長軸 0.45 m、短軸 0.25 mが残存する、深さ 15㎝の楕円形。　ｃ　長軸 0.25 m、短軸 0.20 m、深さ５㎝の楕円形である。　主軸方向　Ｎ -20°-W　覆土　２層で、６は埋め戻し、７層は自然堆積である。　底面　ａとｂはほぼ平坦である。Ｃはピット上で丸みを帯びて立ち上がる。　時期　不明。　出土遺物　図示できなかったが、焙烙の破片が出土している。

ＳＫ -52（第 25 ～ 27 図、第２・16 表、図版八・四二）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　ＳＫ -92 より古く、ＳＫ -53a より古いか同じ時期。　平面形状・規模　ａ　長軸 0.85 m、短軸 0.60 m、深さ 35㎝の隅丸方形。ｂ　長軸 0.30 m、短軸 0.25 m、深さ不明の楕円形である。　主軸方向　Ｎ -51°- Ｅ　覆土　４層で、２・３・４層は自然堆積、５層は人為的な埋め戻しである。　底面　若干の凹凸がある。　時期　不明。　出土遺物　１は土師質土器の皿で、底面に板目状圧痕がみられる。２は丸瓦の一部で、側面はナデ、内面に布目痕が確認されている。

ＳＫ -53（第 25 ～ 27 図、第２・16 表、図版八・四二）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　ＳＫ -52 より新しいか同じ時期。　平面形状・規模　ａ長軸 1.35 m、短軸 1.20 m、深さ 45㎝の隅丸長方形。　ｂ長軸 0.25 m、短軸 0.20 m、深さ不明の隅丸長方形。　ｃ長軸 0.30 m、短軸 0.15 m、深さ不明の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ -40°- Ｅ　覆土　Ⅰ層に撹乱されているため不明である。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　その他　方形竪穴建物の可能性もある。　出土遺物　３は常滑の急須で、注口の痕跡がみられる。４はａから出土する。ミニチュアで、ままごと道具か。白化粧の痕跡がみられる。外面に鉄分が付着する。

ＳＫ -54（第 25・26 図、第２表、図版八）

位置　Ｂ区の南東。　重複関係　ＳＫ-25・53との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　ａ　長軸1.55ｍ、短軸0.50ｍ、深さ25㎝の楕円形。　ｂ　径0.25ｍ、深さ不明の円形である。　主軸方向　Ｎ-42°-Ｅ　覆土　Ⅰ・Ⅱ層に攪乱されているため不明である。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-55（第25～27図、第２・16表、図版九・四二・四三）

位置　Ｂ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ-17より古い。　平面形状・規模　ａ　長軸1.40ｍ、短軸1.10ｍ、深さ不明の隅丸長方形。　ｂ　長軸0.70ｍ、短軸0.50ｍ、深さ35㎝の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ-45°-Ｅ　覆土　１層で、埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　５は燗徳利で、内面下方は釉がかからない。その他、図示できなかったが、ａから土師質土器の皿や焙烙が出土している。

ＳＫ-58（第25図、第２表、図版九）

位置　Ｂ区の北。　重複関係　なし。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸1.00ｍ、短軸1.04ｍが残存し、深さ不明である。　主軸方向　Ｎ-　48°-Ｅ　覆土　不明。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-59（第25・26図、第２表、図版九）

位置　Ｂ区の北。　重複関係　なし。Ⅰ層の下面で確認される。　平面形状･規模　楕円形か。長軸0.56ｍ、短軸0.20ｍが残存し、深さ48㎝である。　主軸方向　Ｎ-０°　覆土　２層で、１層は自然堆積、２層は埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　近現代か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-60（第25・26図、第２表、図版九）

位置　Ｂ区の北。　重複関係　なし。　平面形状・規模　円形か。長軸1.08ｍ、短軸0.28ｍ残存し、深さ44㎝である。　主軸方向　Ｎ-０°　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを帯びる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-92（第25図、第２表）

位置　Ｂ区の南。　重複関係　ＳＫ-52より新しく、ＳＫ-53との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　不整長方形か。長軸0.52ｍ、短軸0.24ｍが残存し、深さは不明である。　主軸方向　Ｎ-８°-Ｗ　覆土　不明である。　底面　丸みを帯びる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第28図、第17表、図版四三）

１はゴム版で梅竹の図柄が絵付けされている。２は型紙摺りで、３は肥前産の呉器手碗。４はプリントかコバルトを使用する蓋である。５は底部外面に焼く時のトチン跡が残っている。６・７は瀬戸・美濃産で、６は灰釉、７は櫛歯状工具による摺目で、鉄釉が施される。８は丸底で、江戸近郊で作られた焙烙。10・11も焙烙で、丸底になるか。12は火鉢の破片で、内外面とも黒くなっている。

11. Ｇ -11 区

Ａ区とＢ区の二つに分割した。

住居跡２軒、土坑 24 基、ピット２基が確認されている。

Ａ区　土坑 14 基が確認されている。

ＳＫ -43 → 80 → 83 → 81 → 82 → 84 の順に掘削される。

(1) 遺構

ＳＫ -42（第 29・30 図、第２・18 表、図版一二・四四）

位置　Ａ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -104 より古い。　平面形状・規模　長軸 2.16 m、短軸 1.56 m が残存し、深さ 44 ㎝の楕円形である。　主軸方向　Ｎ -76°- Ｅ　覆土　１層で、遺構廃棄時に埋め戻している。　底面　若干の凹凸はみられるものの、ほぼ平坦である。　時期　近世～近代か。　遺物の出土状況　覆土中から出土している。　その他　地下式坑の可能性も考えられる。　出土遺物　４は小杉茶碗といわれる信楽で作られた陶器の碗である。５は瓶で益子産か。鉄釉が施されている。６は備前産の擂鉢。７は焙烙で外面が黒くなっている。

ＳＫ -43（第 29・30 図、第２・18 表、図版一二・四四）

位置　Ａ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -81 より新しい。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.55 m、短軸 0.20 mが残存し、深さ 24 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -46°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　中世以降か。　遺物の出土状況　覆土中から出土している。　出土遺物　８は土師質土器の皿で、内外面とも摩耗している。

ＳＫ -44（第 29 図、第２、図版一二）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -87 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　長軸 0.80 m、短軸 0.68 m、深さ 44 ㎝の不整方形である。　主軸方向　Ｎ -58°- Ｅ　覆土　不明である。　底面　若干の凹凸はみられるものの、ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

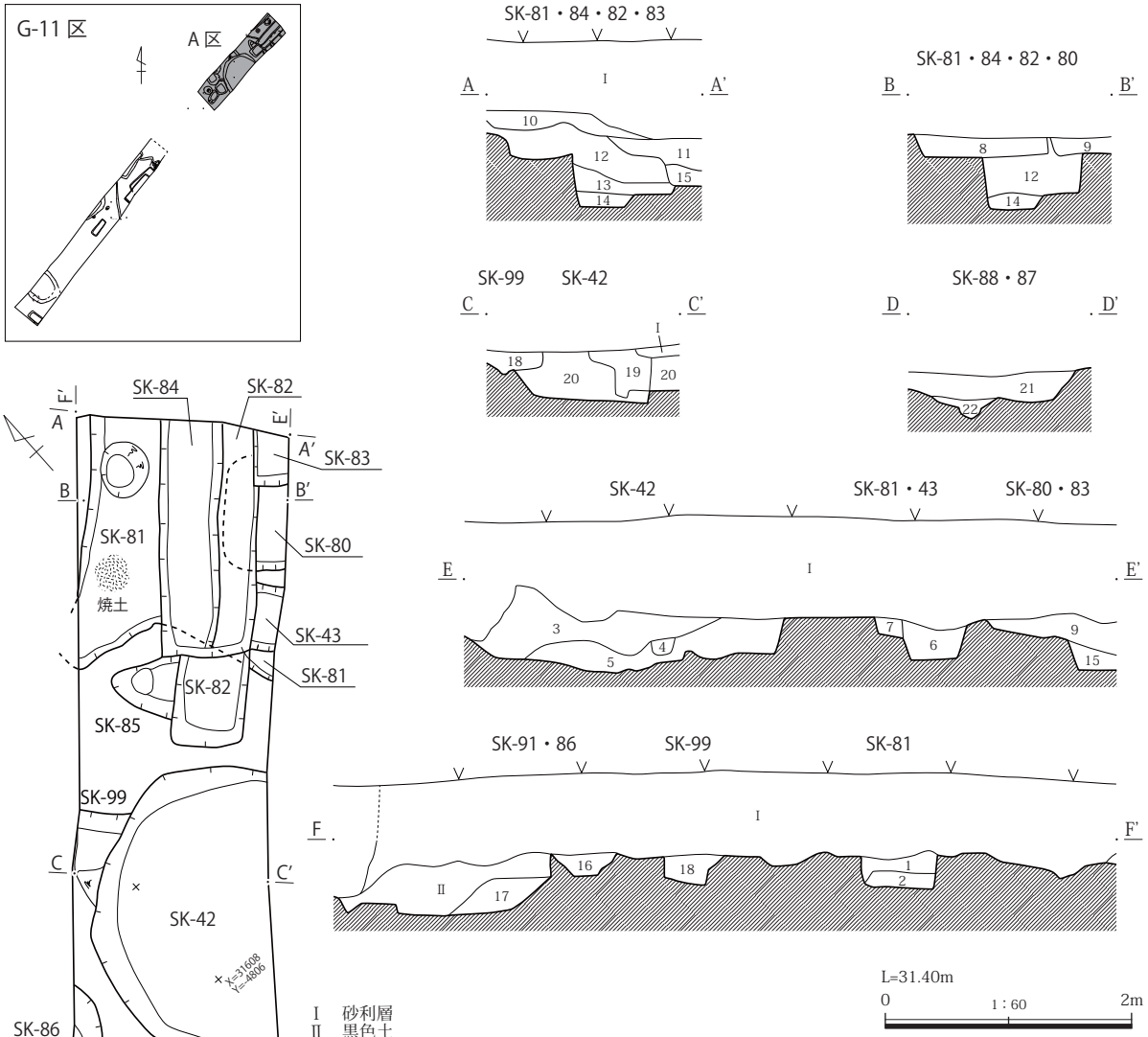
ＳＫ -80（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -82・84 より新しく、ＳＫ -81 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　楕円形か。長軸は推定 0.90 m、短軸 0.55 mが残存し、深さ 12 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -40°- Ｅ　覆土　１層で、自然堆積である。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -81（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -82・84 より新しい。　平面形状・規模　方形か。長軸 1.68 m、短 0.56 mが残存し、深さ 16㎝、西側隅が突出する。　主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　焼土が確認され、若干の凹凸がみられる。長軸 0.95 m、短軸 0.40 m、深さ不明のピットが確認された。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -82（第 29 図、第２表）



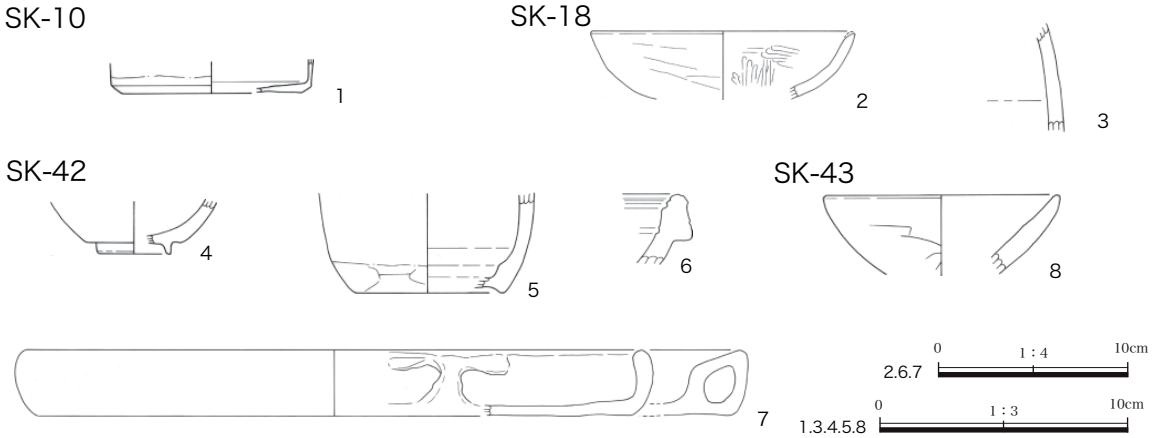
Ⅰ　砂利層
Ⅱ　黒色土

SK-42～44・80～88・91
1　黒褐色土　ローム粒子（φ0.4㎝前後）・炭化物微粒子微量。しまりあり。
2　黄褐色土　一部黒色土含む。ハードローム主体。しまりあり。
3　暗茶褐色土　ロームブロック（φ～2.0㎝）・ローム粒子（0.5㎝前後）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
4　黒褐色土　ローム微粒子・炭化物粒子微量。ややしまりあり。
5　暗灰色土　ロームブロック（φ～2.0㎝）・ローム粒子（0.5㎝前後）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
6　黒褐色土　ロームブロック（φ～1.5㎝）・ローム粒子（0.5㎝前後）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
7　黒褐色土　ローム粒子（φ～0.5㎝）やや多量、炭化物微粒子少量。しまりあり。
8　黒褐色土　ロームブロック（φ2.0㎝）、ローム粒子（φ0.5㎝前後）少量、炭化物微粒子微量。しまりあり。
9　黒褐色土　ローム微粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
10　暗灰色土　ロームブロック（φ1.0㎝）・ローム微粒子・炭化物微粒子微量。しまりあり。
11　黒褐色土　ロームブロック（φ1.5㎝）微量、ローム粒子（φ0.4㎝前後）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
12・13　暗灰色土　ロームブロック（φ2.0㎝）、ローム粒子（φ～0.5㎝）やや多量、炭化物微粒子微量。しまりあり。
14　黒褐色土　ロームブロック（φ1.5㎝）、ローム微粒子・炭化物粒子少量。しまりあり（8・9・12・13層より固くしまる）。
15　暗灰色土　ロームブロック（φ1.0㎝）微量、ローム粒子（φ～0.5㎝）少量、炭化物（φ1.0㎝）・炭化物微粒子微量。しまりあり。
16　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～0.5㎝）・炭化物粒子少量。しまりあり。
17　黒褐色土　ロームブロック（φ1.0㎝）、ローム粒子（φ0.4㎝前後）・炭化物粒子（φ0.3㎝前後）少量。しまりあり。
18　黒褐色土　ローム粒子（φ0.5㎝前後）少量、炭化物微粒子微量。しまりあり。
19　黒色土　ローム微粒子・炭化物粒子少量。しまりあり。
20　暗灰色土　ロームブロック（φ～4.0㎝）・ローム粒子やや多量、炭化物微粒子微量。しまりあり。
21　暗茶褐色土　ロームブロック（φ2.0㎝）・灰色粘土含む。ローム粒子（φ～1.0㎝）少量、炭化物粒子（φ～1.0㎝）微量。しまりあり。
22　黄褐色土　木根のえぐり込みによってしまりなし（ロームをえぐり込んでいる）。

第29図　G-11A区　SK-42～44・80～88・91・99遺構実測図

第 18 表　G-11B 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-19	S-19	４次	G-11B	31・32・76	2・18・45	52	N-53°-W	円形	0.20	0.20	0.08	
P-21	S-21	４次	G-11B	31・32	2・19	-	N-45°-E	楕円形	0.28	0.16	0.08	



第 30 図　G-11A・B 区　SK-10・18・42・43 出土遺物実測図

第 19 表　G-11A・B 区 SK-10・18・42・43 出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （ｃｍ・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
30	1	陶器 瓶	口径　- 底径 (7.1) 器高 [1.3]	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 一部 7.5YR3/3 暗褐 内面 7.5YR4/3 褐	砂粒少量	良好	瀬戸・ 美濃		鉄釉	G-11B S-10 一括	
30	2	土師器 坏	口径 (13.8) 底径　- 器高 [3.5]	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 7.5YR4/2 灰褐	砂粒少量、 黒色粒子微量	良好			口縁外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 口縁～胴部ヘラミガキ	G-11B SK-18 フク土一括	
30	3	陶器 徳利	口径　- 底径　- 器高 [4.3]	外面 2.5Y5/4 黄褐 内面 7.5YR4/3 褐	砂粒少量、 黒色粒子微量	良好	瀬戸・ 美濃	近世	漆か　付着する	G-11B SK-18	
30	4	陶器 碗	口径　- 底径 (3.8) 器高 [2.2]	2.5Y7/1 灰白	やや緻密	良好	信楽	18C 後半	透明釉	G-11A S-42 フク土一括	
30	5	陶器 瓶	口径　- 底径 (6.0) 器高 [4.1]	内外 7.5YR4/2 灰褐 一部 10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒少量、礫・ 黒色粒子微量	良好	益子か		鉄釉	G-11A S-42 フク土一括	
30	6	陶器 擂鉢	口径　- 底径　- 器高 [3.1] 器厚　1.0	5YR3/3 暗赤褐	砂粒少量	良好	備前		櫛歯状工具による擂目	G-11A S-42 フク土一括	
30	7	焙烙	口径 (32.5) 底径 (31.3) 器高　3.4	外面 7.5YR2/1 黒 内面 7.5YR4/2 灰褐	砂粒少量、 白色粒子・ 黒雲母微量	良好			体部ナデ 平底　離砂 体部外面スス付着 外面黒化	G-11A S-42 フク土一括	
30	8	土師質 土器 皿	口径 (9.4) 底径　- 器高 [3.1]	7.5Y7/3 浅黄	砂粒少量、 白色粒子・ 黒色粒子微量	良好			口縁～胴部ヨコナデ 内外面摩耗している	G-11A S-43 フク土一括	

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -84 より古い。　平面形状・規模　長方形か。長軸 2.60 m、短軸 0.80 mが残存し、深さ 44 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　２層で、遺構廃棄時の一括埋め戻し。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -83（第 29 図、第２表、図版一三）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -80 より新しく、ＳＫ -82 より古い。　平面形状・規模　長方形か。長軸 0.36 m、短軸 0.32 mが残存し、深さ 40 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -55°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -84（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -81・82 より古い。　平面形状・規模　長方形か。長軸 1.88 m、短軸 0.48 mが残存し、深さ 40 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -50°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。80・81・82 の覆土より硬く締まっている。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -85（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の北。　重複関係　ＳＫ -82 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.52 m、短軸 0.32 mが残存し、深さは不明である。　主軸方向　Ｎ -50°- Ｗ　覆土　不明。　底面　段を持つ。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -86（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -91 より古い。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.64 m、短軸 0.24 mが残存し、深さ 25 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -　46°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -87（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -88 より新しい。　平面形状・規模　長軸 0.84 m、短軸 0.52 m、深さ 24 ㎝の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ -34°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -88（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -87 より古い。　平面形状・規模　長軸 0.60 m、短軸 0.50 m、深さ 36 ㎝の楕円形である。　主軸方向　Ｎ -61°- Ｗ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。上層はⅡ層に撹乱される。　底面　段を持つ。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -91（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区の南。　重複関係　ＳＫ -86 より新しい。　平面形状・規模　不整長方形か。長軸 0.80 m、短軸 0.64 mが残存し、深さ 40 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -36°- Ｗ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。

底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -99（第 29 図、第２表）

位置　Ａ区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -42 より新しい。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.70 m、短軸 0.40 mが残存し、深さ 20 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -39°- Ｗ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。

底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

Ｂ区　住居跡２軒、土坑 10 基、ピット２基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ -22（第 31・32 図、第２表、図版一〇）

位置　Ｂ区の北。　重複関係　ＳＩ -24、ＳＫ -78･79 より古い。　平面形状･規模　長方形か。長軸 2.12 m、短軸 0.32 mが残存し、深さ 52 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -56°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。貼床と考えられる。　カマド・貯蔵穴・柱穴・壁溝　確認されていない。　底面　若干の凹凸がみられる。遺物の出土状態　覆土中から土師器の甕の破片が出土している。　時期　不明だが、古代の可能性は高い。出土遺物　図示できる遺物はない。

ＳＩ -24（第 31・32 図、第２表、図版一一）

位置　Ｂ区の北。　重複関係　ＳＩ -22 より新しく、ＳＫ -78・79 より古い。　平面形状・規模　長方形か。長軸 2.08 m、短軸 1.60 mが残存し、深さ 4 ㎝ある。　主軸方向　Ｎ -80°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。貼床か。　カマド　東カマドである。凸型の掘方で埋め戻し、灰色粘土でソデを構築する。天井部は崩落している。　貯蔵穴・柱穴・壁溝　確認されていない。　底面　若干の凹凸がみられる。　遺物の出土状態　出土していない。　時期　不明だが、古代の可能性は高い。　出土遺物　図示できる遺物はない。

ＳＫ -10（第 30・31 図、第２・18 表、図版一〇・四三）

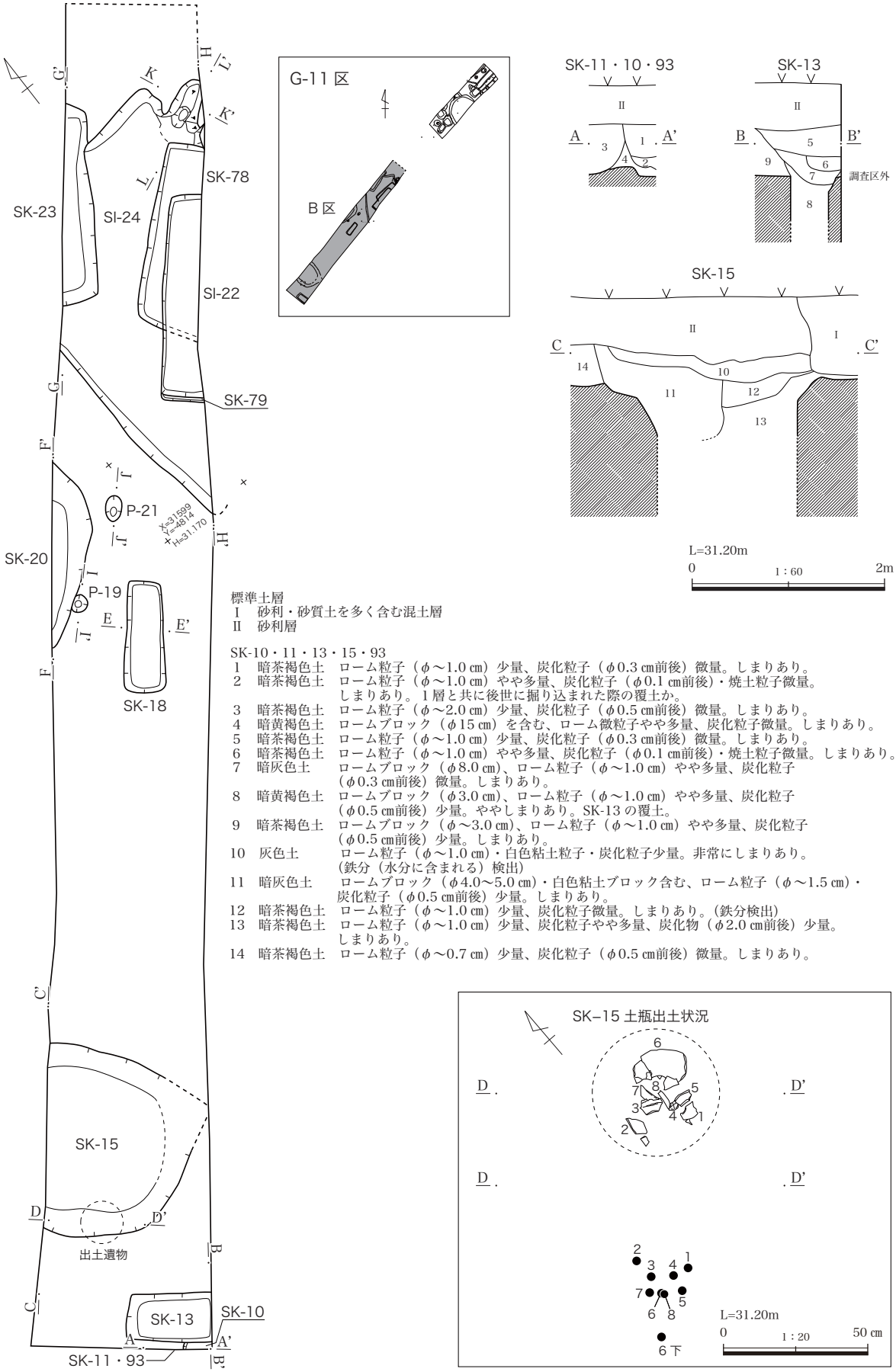
位置　Ｂ区の南端。　重重複関係　ＳＫ -11・13・93 より古い。　平面形状・規模　長方形か。長軸 0.28 m、短軸 0.08 mが残存し、深さ 56 ㎝である。　主軸方向　Ｎ -48°- Ｗ　覆土　確認されているのは１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　段を持つ。下段はほぼ平坦である。　遺物の出土状態　覆土中から確認されている。　時期　不明。　出土遺物　陶器の瓶が出土している。いわゆる袋物といわれるもので、瀬戸・美濃で作られる。外面は底部付近まで鉄釉が施されている。

ＳＫ -11（第 31 図、第２表、図版一〇）

位置　Ｂ区の南端。　重複関係　ＳＫ -10 より新しく、93 より古い。ＳＫ -13 との新旧関係は不明である。平面形状・規模　長方形か。断面でのみ確認される。深さ 52㎝である。　主軸方向　不明である。　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを帯びる　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -13（第 31 図、第２表、図版一〇）

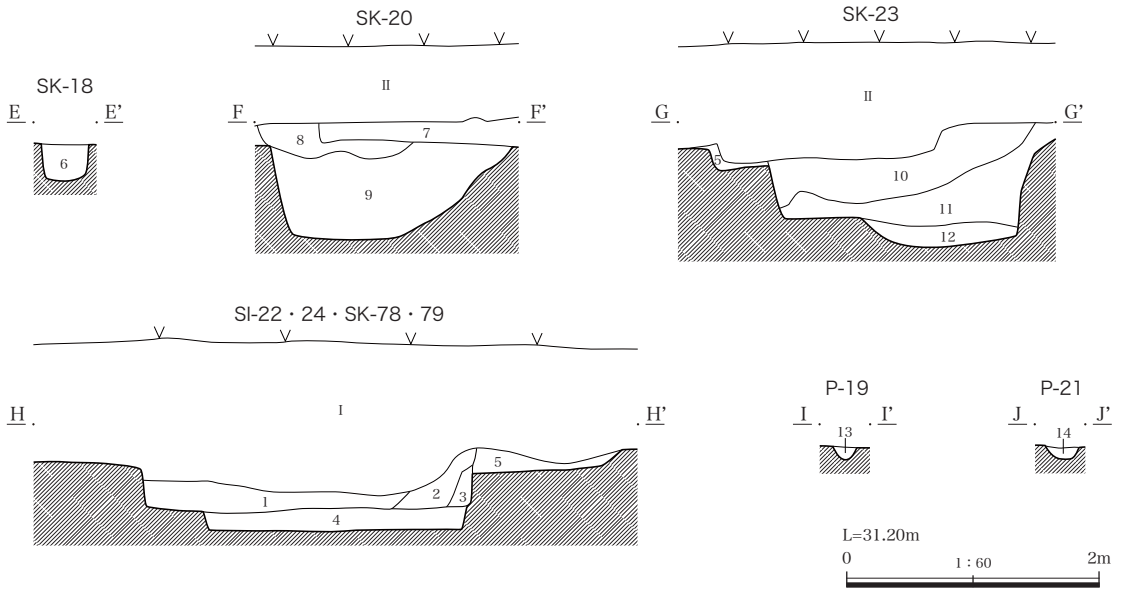
位置　Ｂ区の南端。　重複関係　ＳＫ -10 より新しく、ＳＫ -11・93 との新旧関係は不明である。断面で



標準土層
Ⅰ　砂利・砂質土を多く含む混土層
Ⅱ　砂利層

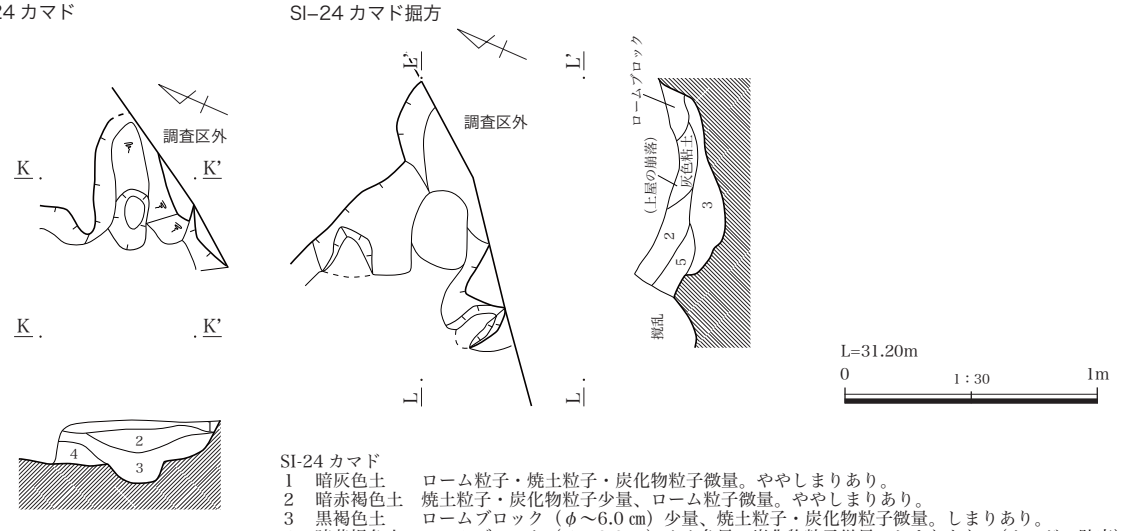
SK-10・11・13・15・93
1　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。
2　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ0.1 ㎝前後）・焼土粒子微量。しまりあり。１層と共に後世に掘り込まれた際の覆土か。
3　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～2.0 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）微量。しまりあり。
4　暗黄褐色土　ロームブロック（φ15 ㎝）を含む、ローム微粒子やや多量、炭化粒子微量。しまりあり。
5　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。
6　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ0.1 ㎝前後）・焼土粒子微量。しまりあり。
7　暗灰色土　ロームブロック（φ8.0 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ0.3 ㎝前後）微量。しまりあり。
8　暗黄褐色土　ロームブロック（φ3.0 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）少量。ややしまりあり。SK-13 の覆土。
9　暗茶褐色土　ロームブロック（φ～3.0 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）やや多量、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）少量。しまりあり。
10　灰色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）・白色粘土粒子・炭化粒子少量。非常にしまりあり。（鉄分（水分に含まれる）検出）
11　暗灰色土　ロームブロック（φ4.0～5.0 ㎝）・白色粘土ブロック含む、ローム粒子（φ～1.5 ㎝）・炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）少量。しまりあり。
12　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化粒子微量。しまりあり。（鉄分検出）
13　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化粒子やや多量、炭化物（φ2.0 ㎝前後）少量。しまりあり。
14　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～0.7 ㎝）少量、炭化粒子（φ0.5 ㎝前後）微量。しまりあり。

第 31 図　G-11B 区　SI-22・24，SK-10・11・13・15・18・20・23・78・79・93，P-19・21 遺構実測図（1）



標準土層
Ⅰ　砂利・砂質土を多く含む混土層
Ⅱ　砂利層

SI-22・24，SK-78・79
1　暗灰色土　ロームブロック（φ～2.0 ㎝）・ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）・炭化物粒子（φ～0.3 ㎝）少量。ややしまりあり。
2　暗茶褐色土　ロームブロック（φ1.0 ㎝）・ローム粒子（φ1.0 ㎝前後）少量、炭化物粒子（φ0.5 ㎝前後）微量。しまりあり。
3　暗茶褐色土　ロームブロック（φ4.0 ㎝）、炭化物（φ2.0 ㎝）含む、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
12 層を掘り込み、９層に切られる。11 層との関係から二次堆積土と推定。
4　黒褐色土　ロームブロック（φ1.0 ㎝）、ローム粒子（0.5 ㎝前後）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
5　暗灰色土　ロームブロック（φ1.0 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）・炭化物微粒子少量。しまりあり。
SK-18・20・23
6　暗灰色土　ロームブロック・ローム粒子やや多量、炭化物粒子微量。しまりあり。
7　暗茶褐色土　炭化物粒子（φ0.2～1.0 ㎝）少量、ローム粒子微量。しまりあり。
8　暗灰色土　ローム粒子（φ0.5 ㎝）・炭化物粒子少量。しまりあり。
9　暗黄褐色土　ローム粒子（φ～0.3 ㎝）・ロームブロック多量、（φ0.5～1.0 ㎝）炭化物粒子少量。ややしまりあり。
10　暗茶褐色土　ロームブロック（φ1.5 ㎝）、ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化物微粒子微量。ややしまりあり。
11　暗茶褐色土　ローム粒子（φ～1.0 ㎝）少量、炭化物微粒子・焼土粒子含む。ややしまりあり。
12　暗茶褐色土　ロームブロック（φ2.0 ㎝）、ローム粒子（φ0.5 ㎝前後）少量、炭化物粒子微量。しまりあり。
P-19・21
13　暗灰色土　ローム粒子少量、炭化物粒子微量。しまりあり。
14　黒褐色土　ロームブロック・ローム粒子少量、炭化物粒子微量。ややしまりあり。



SI-24 カマド
1　暗灰色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量。ややしまりあり。
2　暗赤褐色土　焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子微量。ややしまりあり。
3　黒褐色土　ロームブロック（φ～6.0 ㎝）少量、焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
4　暗黄褐色土　ロームブロック（φ～3.0 ㎝）やや多量、炭化物粒子微量。しまりあり。（カマドの貼床）
5　暗茶褐色土　炭化物（φ2.0 ㎝）、ロームブロック、ローム粒子（φ～0.7 ㎝）・炭化物微粒子少量。
しまりあり。（カマドの貼床か）

第 32 図　G-11B 区　SI-22・24，SK-18・20・23・78・79，P-19・21 遺構実測図（２）

確認された遺構より新しい。　平面形状・規模　長方形か。長軸 0.88 m、短軸 0.48 mが残存し、深さ 1.16 m以上である。　主軸方向　N -56° - W　覆土　４層で、６層は自然堆積、その他の層は人為的な埋め戻しである。　底面　不明である。深いため、掘削を断念した。　時期　不明。　その他　井戸の可能性も考えられる。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -15（第 31・33 ～ 35・76 図、第２・20・45 表、図版一〇・四四～四六・五二）

位置　Ｂ区のほぼ中央。　重複関係　なし。　平面形状・規模　方形か。長軸 2.00 m、短軸 1.50 mが残存し、深さ 1.68 mである。　主軸方向　N -53° - W　覆土　４層で、埋め戻している。11 層は掘り返しを行っているか別の遺構の可能性が高い。　底面　段を持つ。深いため、掘削を断念した。　遺物の出土状況　土瓶が壁際に貼り付いた状態で確認されている。　時期　近世以降か。　その他　食器類を捨てた穴か。井戸の可能性も考えられる。　出土遺物　１と４は肥前産の端反碗。絵柄が類似する。２は信楽産の碗で、５～７は肥前の酒盃で、５と６は白磁である。８と９は肥前産と考えられる皿で、蛇の目高台の呉須手である。９は山水文が描かれている。10 と 13 は肥前のものを写したもので陶胎染付。組皿か。12 は瀬戸・美濃産の丸皿で、13・14 は徳利で、14 は蛸唐草文を一筆で描いている。所謂お神酒徳利。15 は合子の蓋で、粟宮宮内遺跡第２次調査でも類似の蓋が出土している。16 は仏飯具の口縁部と考えられる。17 は灯明皿で鉄釉が施されている。18 は瀬戸・美濃産の片口の鉢。19・21 は益子産と考えられる壺。22 は甕の底部。23 は内面にも釉薬が施されている鉢を植木鉢として再利用したもので、内側から穿孔している。20 は土瓶の胴部か。24 ～ 29 は土瓶。27 と同一個体の可能性がある。24 は注口が残存する。24 と 25 は天井部に９本歯の櫛歯状工具による波状文が施される。26 も土瓶の注口部で３孔である。28 と 29 は土瓶の底部か。30・31 は備前産の擂鉢。32 は土師質の鉢、33 は瓦質の鉢である。34 ～ 36 焙烙、37 は瓦質土器の鉢、38 ～ 40 は火鉢、41 は不明の土器。42・43 は瓦、44 は黒色頁岩か粘板岩の碁石か。45 は安山岩製の石臼である。その他釘や鉄銭などの鉄製品も出土している。

ＳＫ -18（第 30 ～ 32・76 図、第２・18・45 表、図版一〇・四四・五二）

位置　Ｂ区のほぼ中央。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 1.16 m、短軸　0.36 m、深さ 28 cm の長方形である。　主軸方向　N -38° - E　覆土　１層で、遺構廃棄時に埋め戻している。　底面　段を持つ。下段はほぼ平坦である。　時期　不明。　遺物の出土状況　土師器や須恵器片、陶器や火鉢、焙烙も出土している。　出土遺物　２は土師器の坏、３は陶器の徳利の破片で、漆状の付着物がみられる。お歯黒壺に使用していた可能性が高い。その他、鉄製品も出土している。

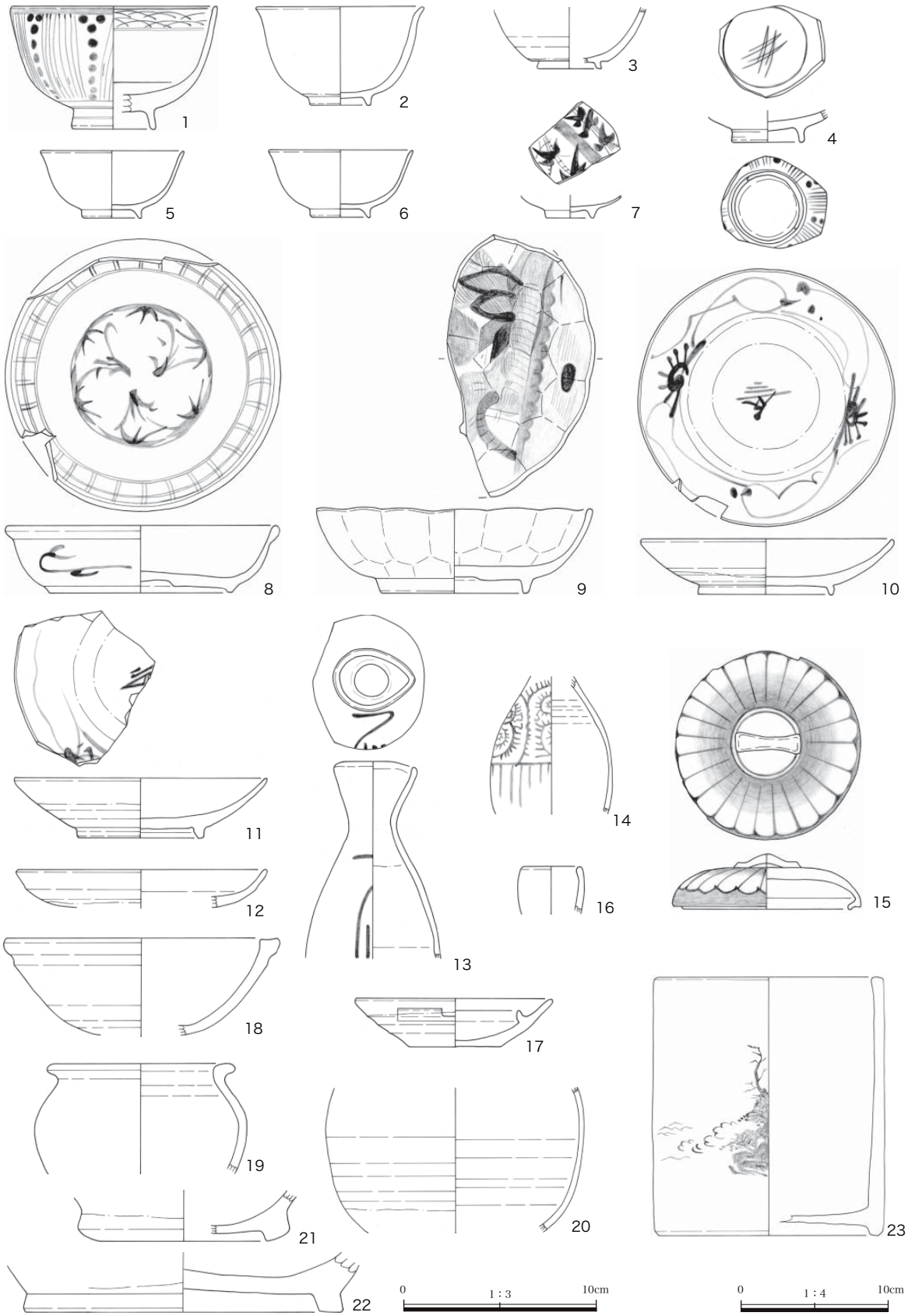
ＳＫ -20（第 31・32 図、第２表、図版一〇）

位置　Ｂ区のほぼ中央。　重複関係　Ｐ -19 との新旧関係は不明である。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 1.92 m、短軸 0.40 mが残存し、深さ 92㎝である。　主軸方向　N -60° - E　覆土　３層で、人為的な埋め戻しである。9 層は遺構廃棄時の埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。北側はなだらかに立ち上がる。

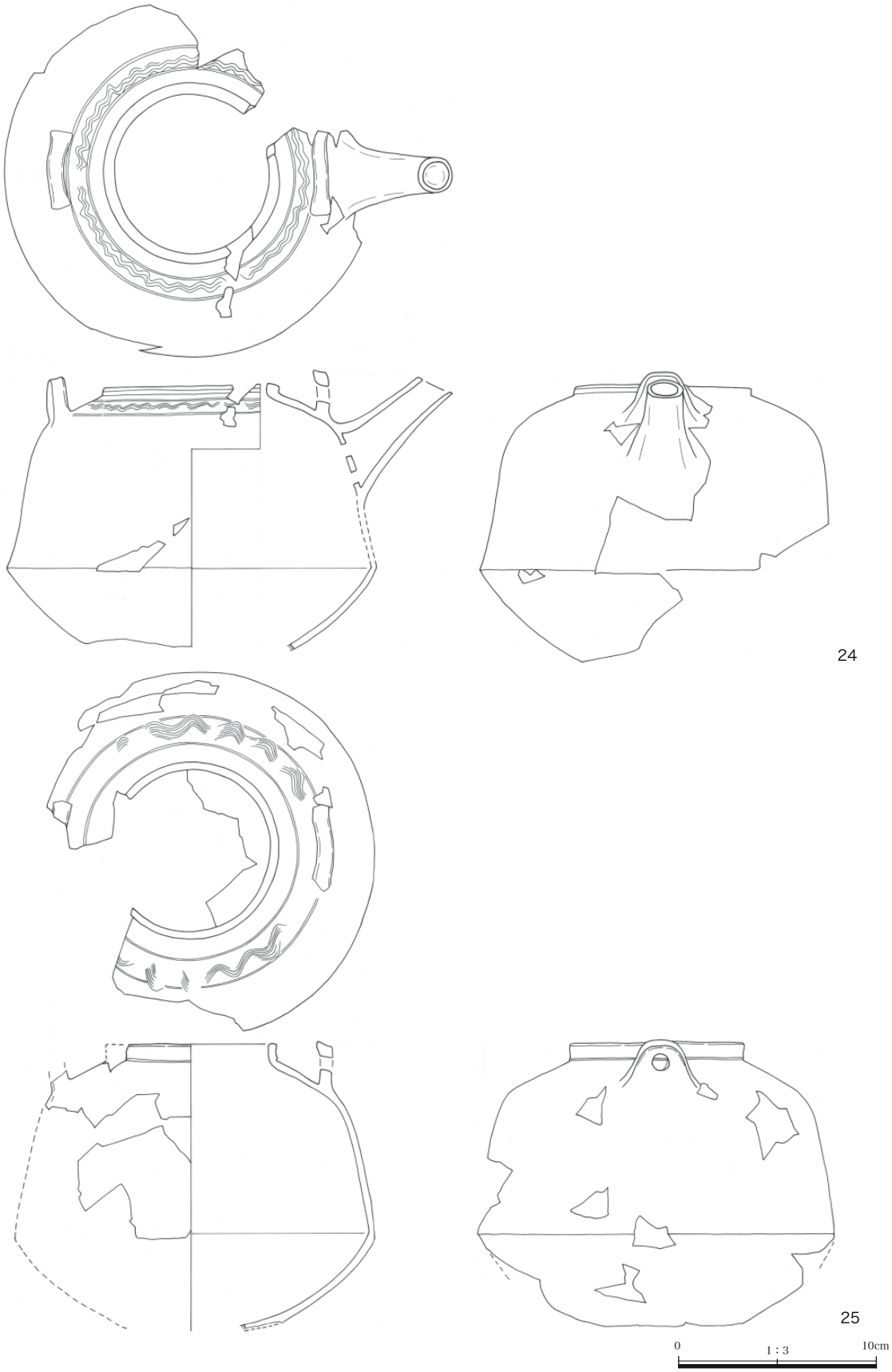
時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -23（第 31・32 図、第２表、図版一一）

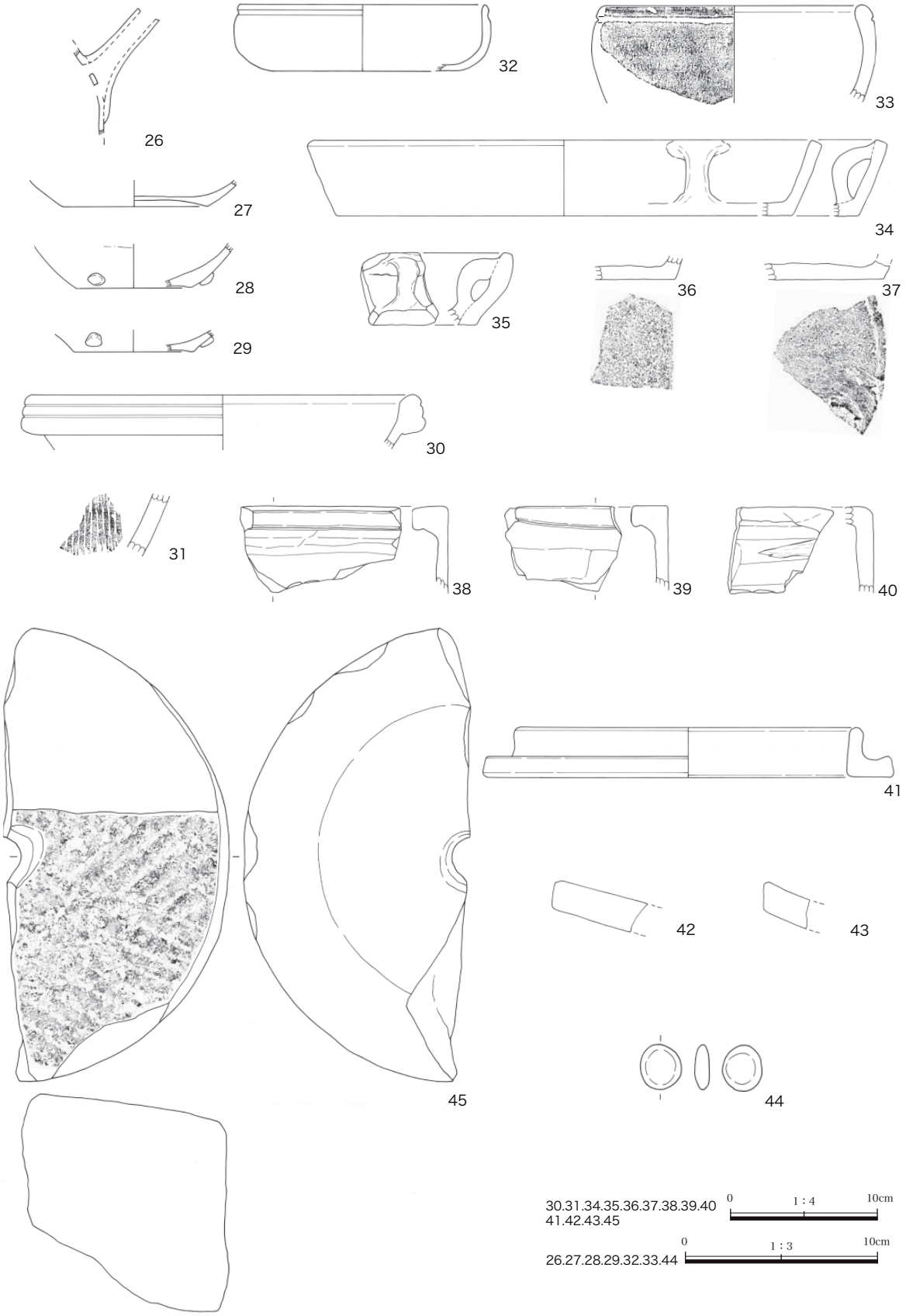
位置　Ｂ区の北。　重複関係　ＳＩ -24 より新しい。　平面形状・規模　長方形か。長軸 2.08 m、短軸



第 33 図　G-11B 区　SK-15 出土遺物実測図（１）



第 34 図　G-11B 区　SK-15 出土遺物実測図（２）



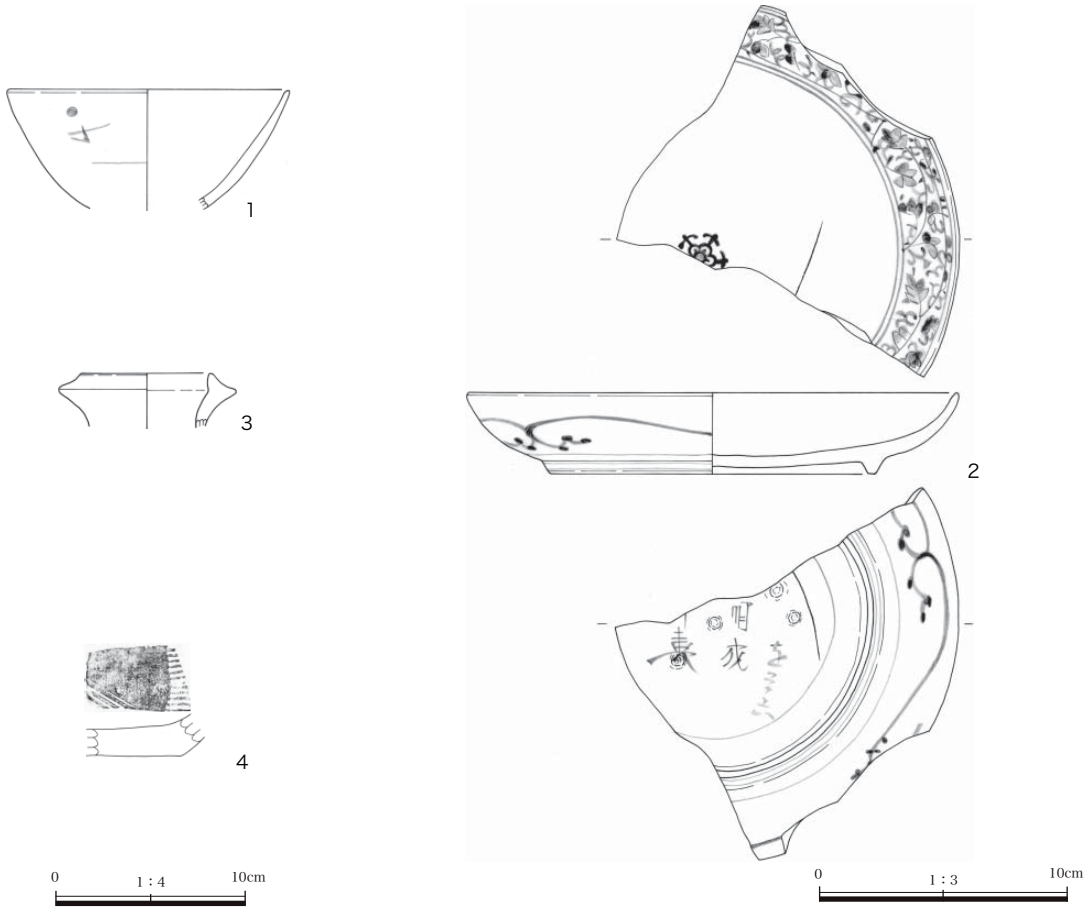
第 35 図　G-11B 区　SK-15 出土遺物実測図（３）

第 20 表　G-11B 区 SK-15 出土遺物観察表

図版No	No	種類　器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
33	1	磁器 碗	口径 (10.5) 底径 (4.3) 器高 6.3	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	19C		G-11 S-15 一括	
33	2	陶器 碗	口径 (8.5) 底径 (3.3) 器高 5.1	10Y7/1 灰白	緻密	良好	信楽	近世		G-11 S-15 一括	
33	3	陶器 碗	口径 - 底径 (3.9) 器高 [3.2]	2.5Y8/2 灰白	緻密	良好				G-11 S-15 一括	
33	4	磁器 碗	口径 - 底径 3.8 器高 [1.6]	外面 5B7/1 明青灰 内面 5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前	19C		G-11 S-15 一括	3 と同じ
33	5	磁器 酒盃	口径 7.3 底径 3.2 器高 3.4	5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前		白磁	G-11 S-15 一括	
33	6	磁器 酒盃	口径 (7.3) 底径 3.2 器高 3.4	5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前		白磁	G-11 S-15 一括 № 1	6 と同じ
33	7	磁器 酒盃	口径 - 底径 2.7 器高 [1.2]	10YR8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	近世		G-11 S-15 一括	
33	8	磁器 皿	口径 13.8 底径 10.0 器高 3.4	7.5GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前か	18C 末～ 19C か	透明釉	G-11 S-15 一括	
33	9	磁器 皿	口径 (14.3) 底径 (8.1) 器高 4.3	10YG8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前か	18C 末～ 19C か		G-11 S-15 一括	
33	10	陶器 皿	口径 13.0 底径 7.0 器高 2.8	2.5Y8/1 灰白	砂粒少量	良好			重ね焼の痕が残る	G-11 S-15 一括	11 と組むか
33	11	陶器 皿	口径 (13.0) 底径 (7.0) 器高 [3.1]	2.5Y8/1 灰白	砂粒少量	良好				G-11 S-15 一括	10 と組むか
33	12	陶器 丸皿	口径 (12.7) 底径 - 器高 [1.9]	5Y8/1 灰白	砂粒少量、礫若干	良好	瀬戸・美濃	近世	長石釉	G-11 S-15 一括	
33	13	陶器 徳利	口径 (4.0) 底径 - 器高 [10.1] くびれ径 2.5	外面 2.5Y7/1 灰白 内面 2.5Y8/1 灰白	緻密	良好		近世		G-11 S-15 一括	
33	14	磁器 徳利	口径 - 底径 - 器高 [7.1] 最大径 (6.3)	外面 7.5GY8/1 明緑灰 内面 2.5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前	19C		G-11 S-15 一括	
33	15	磁器 蓋 （合子）	端径 8.6 底径 - 器高 2.9	2.5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前	19C		G-11 S-15 一括	
33	16	陶器 仏飯具か	口径（3.2） 底径 - 器高 [2.4]	外面 2.5Y7/3 浅黄 内面 2.5Y7/2　灰黄	緻密	良好				G-11 S-15 一括	
33	17	陶器 灯明皿	口径 10.0 底径 4.7 器高 2.5	内外面 7.5YR3/4 暗褐 一部 2.5Y8/3 淡黄	緻密	良好			鉄釉	G-11 S-15 一括	
33	18	陶器 片口鉢	口径 (14.0) 底径 - 器高 [5.0]	2.5Y8/2 灰白	砂粒少量	良好	瀬戸・美濃	近世		G-11 S-15 一括	
33	19	陶器 壺	口径 (9.1) 底径 - 器高 [5.6]	7.5YR4/4 褐	砂粒少量	良好	益子か		鉄釉	G-11 S-15 一括	
33	20	陶器 瓶	口径 - 底径 - 器高 [7.5] 器厚 0.3	外面 7.5YR2/2 黒褐　一部 2.5Y6/2 灰黄 内面 10YR4/4 褐	細砂粒・黒色粒子微量	良好			鉄釉	G-11 S-15 一括	18 と同一個体か
33	21	陶器 壺	口径 - 底径 (8.5) 器高 [3.2]	外面 5YR4/3 にぶい赤褐 一部 2.5Y8/1 灰白 内面 5YR4/3 灰白	砂粒少量、礫微量	良好	益子か		鉄釉	G-11 S-15 一括	19 の底部か

33	22	陶器 甕	口径　- 底径 (16.4) 器高 [3.1]	外面 2.5Y8/2 灰白 内面 10YR4/3 にぶい黄褐	砂粒少量、 礫微量	良好				G-11 S-15 一括	
33	23	陶器 植木鉢	口径 (15.6) 底径 (14.9) 器高　17.5	5Y8/1 灰白	緻密	良好	信楽		植木鉢として再利用 内側から穿孔	G-11 S-15 一括	
34	24	陶器 土瓶	口径　8.9 底径　- 器高 (14.0) 最大径 18.1	外 10YR1.7/1 黒 内面 10YR4/2 灰黄褐	砂粒少量	良好			注口付 ９本歯の櫛歯状工具による 波状文か 外面下半スス付 着外面黒化	G-11 SI-15 No.2•3•5• 6•8 S-10 一括	
34	25	陶器 土瓶	口径 (8.5) 底径　- 器高 [14.4] 最大径 (18.4)	外面 2.5Y2/1 黒 内面 2.5Y3/1 黒褐	砂粒・ 金雲母少量	良好			９本歯の櫛歯状工具による 波状文か 内外面黒化	G-11SI-15 No.1•3•4• 6•7•8 SI-15 一括	
35	26	陶器 土瓶	注口　1.2 底径　- 器高 [6.5]	外面 2.5Y7/3 浅黄 内面 2.5Y7/2 灰黄	緻密	良好			注口の内部は３孔	G-11 S-15 一括	
35	27	陶器 土瓶	口径　- 底径 (7.6) 器高 [1.3]	外面 2.5Y6/2 灰黄 内面 10YR4/4 褐	細砂粒・ 黒色粒子微量	良好			鉄釉	G-11 S-15 一括	23 と 同一 個体 か
35	28	陶器 香炉か	口径　- 底径 (6.0) 器高 [2.3]	外面 2.5Y6/1 黄灰 内面 2.5Y8/2 灰白	緻密	良好				G-11 S-15 一括	
35	29	陶器 香炉か	口径　- 底径 (6.2) 器高 [1.1]	外面 10YR4/1 褐灰 内面 10YR4/2 灰黄褐	緻密	良好				G-11 S-15 一括	
35	30	陶器 擂鉢	口径 (25.9) 底径　- 器高 [3.9]	外面 5YR5/2 灰褐 内面 5YR4/2 褐灰	砂粒少量	良好	備前	近世	７本歯の櫛歯状工具による 擂目か	G-11 S-15 一括	
35	31	陶器 擂鉢	口径　- 底径　- 器高　- 器厚　0.6	外面 5YR5/4 にぶい赤褐 内面 5YR5/6 明赤褐		良好	備前			G-11 S-15 一括	
35	32	土器 鉢	口径 (12.6) 底径　- 器高 [3.4] 最大径 (13.3)	外面 7.5YR4/3 褐 内面 10YR3/2 黒褐	白色粒子・ 黒雲母微量、 赤色粒子若干	良好			口縁～胴部外面ヨコナデ 底部外面ヘラケズリ 口縁～底部内面ヨコナデ 口縁部内外面赤彩か 内外面黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	33	土器 鉢	口径 (13.4) 底径　- 器高 [5.0] 最大径 (14.7)	外面 10YR3/1 黒褐 内面 10YR4/1 褐灰	赤色粒子少量、 砂粒微量	良好			口縁部外面ヘラミガキ 口縁～胴部内面ナデ 外面 輪子の痕跡 口唇部外面黒色処理か 内外面黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	34	焙烙	口径 (33.7) 底径 (31.0) 器高　5.1	外面 7.5YR2/1 黒 内面 7.5YR5/4 明褐	砂粒少量、 白色粒子・ 黒色粒子微量	良好			ロクロ左回転 体部ナデ　離砂 胴下半部外面スス付着	G-11 S-15 一括 №.2	
35	35	焙烙	口径　- 底径　- 器高　4.9	外面 10YR3/1 黒褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	金雲母少量、 砂粒・ 赤色粒子微量	良好			離砂 外面やや黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	36	焙烙	口径　- 底径　- 器高 [1.5]	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 10YR5/2 灰黄褐	黒雲母少量	良好			離砂	G-11 S-15 一括	
35	37	瓦質土器 鉢	口径　- 底径　- 器高 [1.2]	外面 2.5Y5/1 黄灰 内面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒少量、 白色粒子微量	良好			脚が付いていた痕跡	G-11 S-15	
35	38	瓦質土器 火鉢か	口径　- 底径　- 器高 [5.8]	外面 10YR3/1 黒褐 内面 10YR5/1 褐灰	砂粒少量、 黒雲母微量	良好			口縁・胴部ナデ 内外面黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	39	瓦質土器 火鉢	口径　- 底径　- 器高 [5.8]	外面 2.5Y3/1 黒褐 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒少量、 黒雲母若干	良好			口縁・胴部ナデ 口縁部内面スス付着 内面黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	40	瓦質土器 火鉢	口径　- 底径　- 器高 [5.9]	外面 2.5Y3/1 黒褐 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒少量、 赤色粒子・ 黒雲母微量	良好			口縁・胴部 ナデ 内面 黒化	G-11 S-15 一括 №.2	
35	41	土師質 土器 不明	口径 (22.9) 底径 (27.9) 器高　3.4	外面 2.5Y4/1 黄灰 内面 2.5Y4/1 黄灰	砂粒・ 白色粒子微量、 黒雲母若干	良好			口縁・胴部ナデ 内外面黒化	G-11 S-15 一括 №.2	

35	42	平瓦	長　- 幅　- 厚　2.0 重　65.49	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y5/1 灰	砂粒・礫微量	良好				G-11 S-15 一括 №2	
35	43	平瓦	長　- 幅　- 厚　1.9 重　40.93	外面 5Y6/2 灰オリーブ 内面 5Y6/2 灰オリーブ	大粒の黒色粒子少量	良好				G-11 S-15	
35	44	碁石	長　2.3 幅　2.01 厚　0.72 重　5.56		黒色頁岩					G-11 S-15 一括	
35	45	石臼	長　31.2 幅　[15.6] 厚　15.0 重　8.850		安山岩					G-11 S-15 一括	



第 36 図　G-11A・B 区　遺構外出土遺物実測図

第 21 表　G-11 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
36	1	磁器 碗	口径 (11.2) 底径　- 器高 [4.7]	N8/0 灰白	やや緻密	良好		近代		G-11 フク土一括	
36	2	磁器 皿	口径 (19.5) 底径 (13.7) 器高　3.2	7.5GY8/1 明緑灰	細砂粒多量	良好	肥前 (南川原窯)	17C 後～ 18C 初頭以降	針支えの痕跡あり	G-11 フク土一括	
36	3	陶器 瓶	口径 (5.2) 底径　- 器高 [2.2]	7.5YR4/4 褐	緻密	良好		19C		G-11 フク土一括	
36	4	陶器 擂鉢	口径　- 底径　- 器高 [2.1]	7.5YR5/3 にぶい褐	礫少量、砂粒微量	良好	堺		櫛歯状工具による擂目	G-11 フク土一括	

0.32 mが残存し、深さ 1.00 mである。　主軸方向　N -32° - E　覆土　３層で、人為的な埋め戻しである。12 層は貼床か。　底面　段を持つ。ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -78(（第 31・32 図、第２表)

位置　Ｂ区の北。　重複関係　ＳＩ -22･24、ＳＫ -79 より新しい。　平面形状･規模　長方形か。長軸 1.95 m、短軸 0.60 mが残存し、深さ 24 ㎝である。　主軸方向　N -46° - E　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　その他　住居跡の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -79（第 31・32 図、第２表)

位置　Ｂ区の北。　重複関係　ＳＩ -22･24 より新しく、ＳＫ -78 より古い。　平面形状･規模　長方形か。長軸 2.12 m、短軸 0.36 mが残存し、深さ 44 ㎝である。　主軸方向　N -40° - E　覆土　２層で、３層は自然堆積、２層は人為的な埋め戻しである。　底面　ほぼ平坦である。ＳＫ -78 の底面と同じ高さである。　時期　不明。　その他　住居跡の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -93（第 31 図、第２表、図版一〇)

位置　Ｂ区の南端。　重複関係　ＳＫ -10･11 より新しく、ＳＫ -13 との新旧関係は不明である。　平面形状･規模　長方形か。断面でのみ確認された。幅 0.35 mが残存し、深さ 55 ㎝である。　主軸方向　不明である。　覆土　２層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 36・76 図、第 21・45 表、図版四六・四七)

１は碗、２は肥前産の皿で、ガラス焼き継ぎを施したのち、赤字で『を二十六』と書く。高級量産品。見込みにコンニャク印判で５弁花を、体部内面には花唐草文が描かれ、針支えの痕跡がみられる。３は瓶で、インク壺か。４は堺産の擂鉢である。その他、鉄滓が出土している。

12. Ｇ -12 区

土坑５基が確認されている。

(1) 遺構

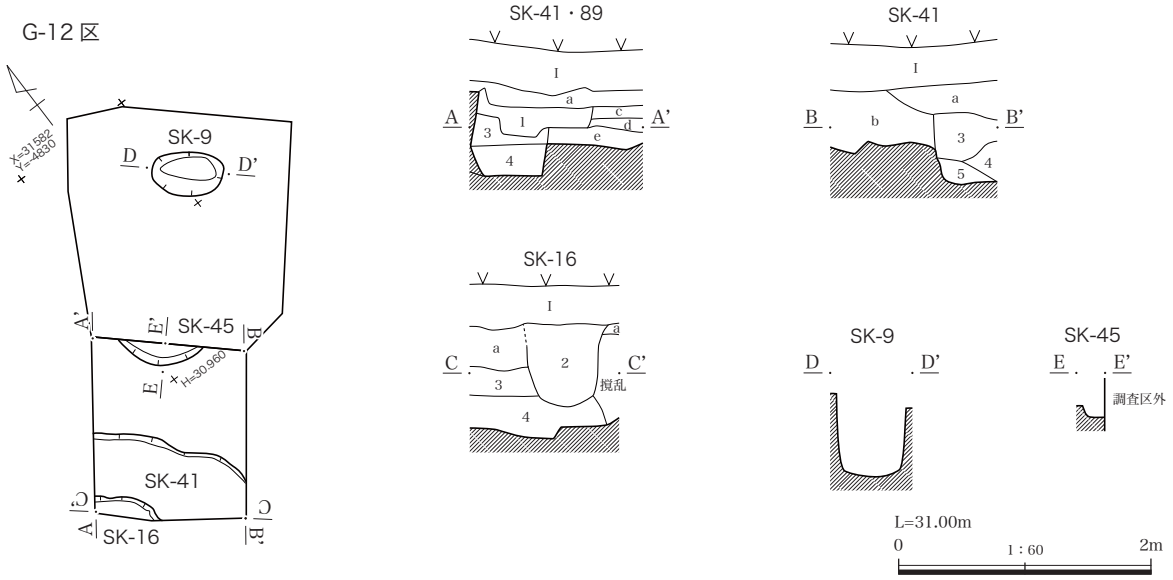
ＳＫ - ９（第 37 図、第２表、図版一三)

位置　調査区の北。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 0.55 m、短軸 0.32 m、深さ 50㎝の楕円形である。　主軸方向　N -47° - W　覆土　不明である。　底面　丸みを帯びる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -16（第 37 図、第２表)

位置　調査区の南。　重複関係　ＳＫ -41 より新しい。　平面形状・規模　断面で確認され、幅 0.65 m、深さは 65㎝である。　主軸方向　不明である。　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　丸みを

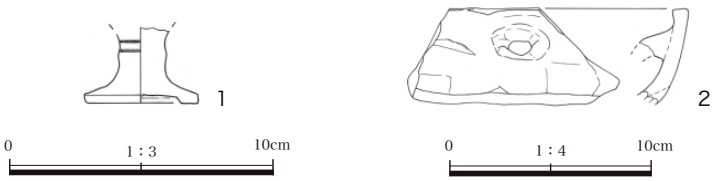
帯びる。　時期　近現代か。　出土遺物　確認されていない。



標準土層
Ⅰ　砂利層
a　黒色土・黒褐色土の混層。炭化物・焼土少量。しまりあり。粘性やや強い。
b　a層に類似するがローム粒子・ロームブロックやや多量、炭化物（φ1.0～2.0㎝）少量。
c　黄褐色土　　灰黄褐色土（粘土？）と黒色土の混層。しまりあり。粘性強い。
d　黒褐色土　　黒褐色土に若干の炭化粒子・焼土粒子含む。しまりあり。粘性強い。
e　黒色土　　黒色土に炭化物と若干のローム粒子含む。しまりあり。粘性強い。

SK-16・41・89
1　暗灰黄褐色土　灰黄褐色土（粘土？）と黒色土の混層。黒色土が少量混入したもの。しまりあり。粘性強い。
2　灰黒色土　　黒色土と灰白色粘土の混土層。礫（φ3.0～10.0㎝）多量。しまりなし。
3　明黒褐色土　　黒色土に若干の炭化物・ローム粒子・焼土粒子含む。しまりあり。粘性強い。
4　暗黄褐色土　　３層にローム粒子多量。しまりあり。粘性強い。
5　黒褐色土　　黒色土とロームブロック（φ5.0㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。（壁面の崩落か）

第 37 図　G-12 区　SK-9・16・41・45・89 遺構実測図



第 38 図　G-12 区　SK-45 出土遺物実測図

第 22 表　G-12 区 SK-45 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（㎝・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
38	1	磁器仏飯具か	口径　- 底径　4.2 器高　[2.8]	2.5GY8/1 灰白	細砂粒微量	良好	肥前	近世		G-12 S-45 フク土一括	
38	2	焙烙	口径　- 底径　- 器高　[4.7] 器厚　0.8	外面 7.5YR4/2 灰褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒・金雲母少量	良好			体部ナデ	G-12 S-45 フク土一括	

ＳＫ -41（第 37 図、第２表、図版一三）

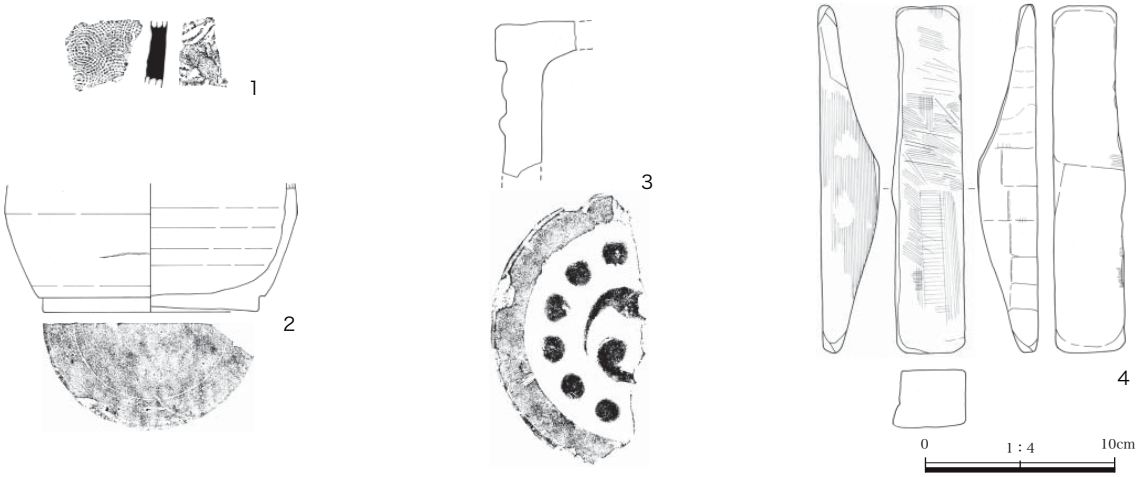
位置　調査区の南。　重複関係　a 層よりも古く、b 層より新しい。　平面形状・規模　不整長方形か。長軸 1.20 m、短軸 0.64 mが残存し、深さ 56㎝である。　主軸方向　N -40° - E　覆土　３層で、5 層は自然堆積、6・7 層は人為的に埋め戻される。　底面　ほぼ平坦である。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -45（第 37・38 図、第２・22 表、図版一三・四七）

位置　調査区の中央。　重複関係　なし。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.68 m、短軸 0.20 mが残存し、深さ 10㎝である。　主軸方向　不明である。　覆土　不明。　底面　若干の凹凸がみられる。　遺物の出土状態　覆土中から出土している。　時期　近世以降か。　出土遺物　１は肥前産の仏飯具か。２は焙烙で、胎土に金雲母が混入している。その他、図示できなかったが、土師器の甕の破片や焼粘土塊、土管も出土している。

ＳＫ -89（第 37 図、第２表、図版一三）

位置　調査区の南。　重複関係　ＳＫ -41 より新しい。　平面形状・規模　断面で確認され、幅は 0.9 m、



第 39 図　G-12 区　遺構外出土遺物実測図

第 23 表　G-12 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
39	1	須恵器 甕	口径　- 底径　- 器高［3.5］ 器厚　0.8	外面 5Y6/1 灰 内面 5Y6/1 灰	砂粒少量、黒色粒子・銀雲母微量	良好			胴部同心円タタキ	G-12 フク土一括	
39	2	陶器 徳利	口径　- 底径 (11.6) 器高 [6.8]	外面 7.5YR3/4 暗褐 内面 2.5Y7/2 灰黄	砂粒微量	良好	丹波	近世		G-12 フク土一括	
39	3	軒丸瓦	長 14.26 幅 7.97 厚 1.94 重 350.9	5Y5/1 灰	砂粒少量、白色粒子・黒色粒子微量	良好			左巻三巴 端面調整ナデ	G-12 フク土一括	
39	4	砥石	長 18.59 幅 3.75 厚 3.02 重 265.26		凝灰岩					G-12 フク土一括	

深さは25㎝である。　主軸方向　不明である。　覆土　１層である。a層の整地層により、固く締まっている。底面　段を持つ。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 39・76 図、第 23・45 表、図版四七・五二）

１は須恵器の甕の破片である。２は丹波産の徳利の底部である。３は丸瓦で、左巻三巴で、周りに珠文が施される。４は凝灰岩の砥石で、工具痕が残る。古銭も出土している。

13. G -13 区

溝１条、土坑７基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＤ - ３（第 40 図、第２表、図版一四）

位置　調査区の北寄り。　重複関係　ＳＫ - ２・４・５より古い。　平面形状・規模　長さ 2.10 m以上、幅 0.80 mで深さは 65㎝である。東西方向にほぼ直線に延びる。　主軸方向　N -56° - W　覆土　３層で、最下層の 11 層は人為的な埋め戻し、９・10 層は自然堆積である。　底面　丸みを帯びる。　時期　不明。出土遺物　確認されていない。

ＳＫ - ２（第 40 図、第２表、図版一四）

位置　調査区の中央寄り。　重複関係　ＳＤ - ３、ＳＫ -90 より新しい。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 1.10 m、短軸 0.90 mが残存し、深さ 1.10 m以上である。　主軸方向　N -30° - W　覆土　２層で人為的な埋め戻しと考えられる。　底面　水没しているため、不明である。　時期　近世以降の墓坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ - ４（第 40 図、第２表、図版一四）

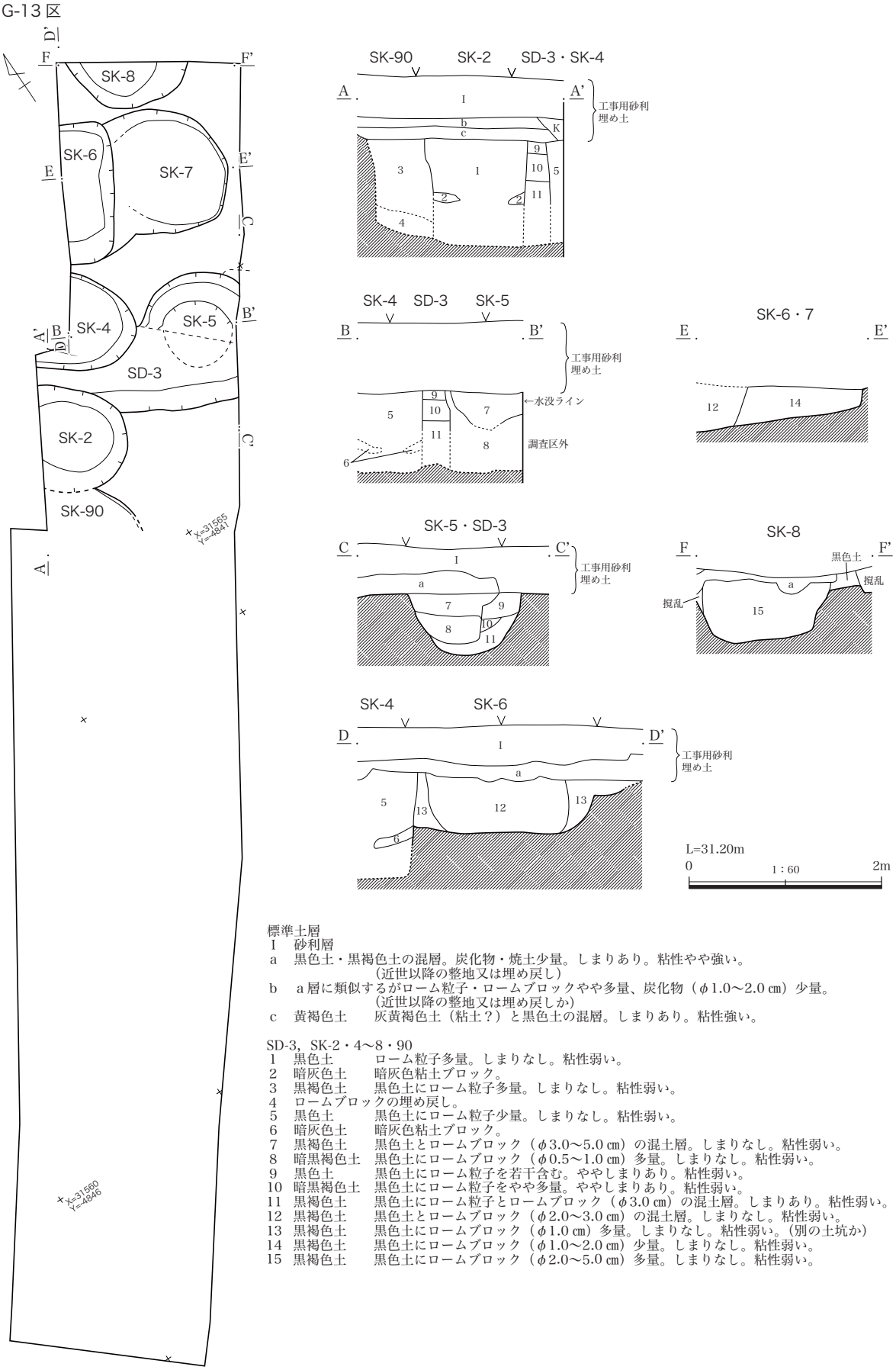
位置　調査区の北寄り。　重複関係　ＳＤ - ３より新しい。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 1.10 m、短軸 0.72 mが残存し、深さ 1.05 m以上である。　主軸方向　N -46° - W　覆土　２層で、自然堆積後、埋め戻されている。　底面　水没しているため、不明であるが、断面はほぼ平坦になっている。　時期　近世以降の墓坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ - ５（第 40 図、第２表、図版一四）

位置　調査区の北寄り。　重複関係　ＳＤ - ３より新しい。　平面形状・規模　円形か。長軸 1.00 m、短軸 0.64 mが残存し、深さ 85㎝である。　主軸方向　N -42° - E　覆土　２層で、自然堆積後、埋め戻されている。　底面　水没しているため、不明であるが、断面はほぼ平坦になっている。　時期　近世以降の墓坑か。出土遺物　確認されていない。

ＳＫ - ６（第 40 図、第２表、図版一五）

位置　調査区の北。　重複関係　ＳＫ - ７より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.48 m、短軸 0.52 mが残存し、深さ 56㎝である。　主軸方向　N -25° - E　覆土　２層で、人為的に埋め戻されている。



標準土層
Ⅰ　砂利層
a　黒色土・黒褐色土の混層。炭化物・焼土少量。しまりあり。粘性やや強い。
（近世以降の整地又は埋め戻し）
b　a 層に類似するがローム粒子・ロームブロックやや多量、炭化物（φ1.0～2.0 ㎝）少量。
（近世以降の整地又は埋め戻しか）
c　黄褐色土　灰黄褐色土（粘土？）と黒色土の混層。しまりあり。粘性強い。

SD-3，SK-2・4～8・90
1　黒色土　ローム粒子多量。しまりなし。粘性弱い。
2　暗灰色土　暗灰色粘土ブロック。
3　黒褐色土　黒色土にローム粒子多量。しまりなし。粘性弱い。
4　ロームブロックの埋め戻し。
5　黒色土　黒色土にローム粒子少量。しまりなし。粘性弱い。
6　暗灰色土　暗灰色粘土ブロック。
7　黒褐色土　黒色土とロームブロック（φ3.0～5.0 ㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。
8　暗黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ0.5～1.0 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。
9　黒色土　黒色土にローム粒子を若干含む。ややしまりあり。粘性弱い。
10　暗黒褐色土　黒色土にローム粒子をやや多量。ややしまりあり。粘性弱い。
11　黒褐色土　黒色土にローム粒子とロームブロック（φ3.0 ㎝）の混土層。しまりあり。粘性弱い。
12　黒褐色土　黒色土とロームブロック（φ2.0～3.0 ㎝）の混土層。しまりなし。粘性弱い。
13　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ1.0 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。（別の土坑か）
14　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ1.0～2.0 ㎝）少量。しまりなし。粘性弱い。
15　黒褐色土　黒色土にロームブロック（φ2.0～5.0 ㎝）多量。しまりなし。粘性弱い。

第 40 図　G-13 区　SD-3,SK-2・4 ～ 8・90 遺構実測図

13 層は掘り返しか別の遺構の可能性が高い。　底面　若干の凹凸がみられる。　時期　近世以降か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ - 7（第 40 図、第２表）

位置　調査区の北西。　重複関係　ＳＫ - 6 より新しい。　平面形状・規模　長方形か。長軸 1.28 m、短軸 0.76 mが残存し、深さ 40㎝である。　主軸方向　N -30° - W　覆土　1 層で、人為的に埋め戻されている。　底面　若干の凹凸がみられる。　時期　近世以降か。　出土遺物　確認されていない。

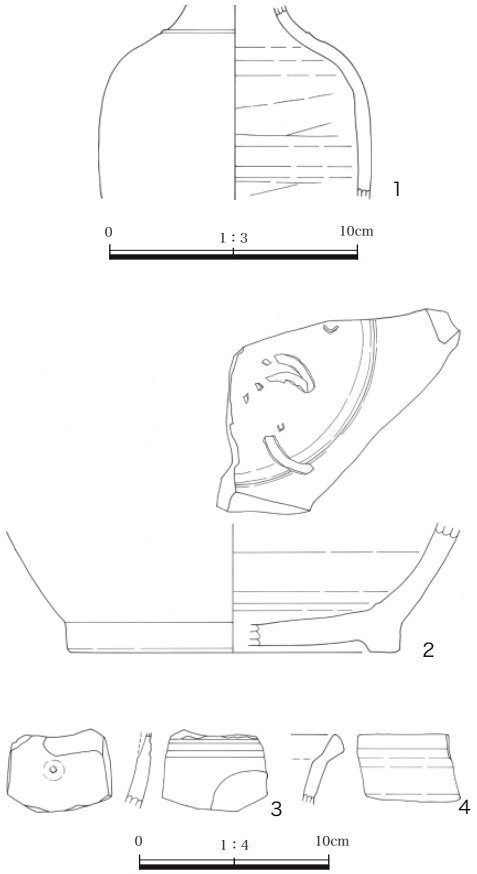
ＳＫ - 8（第 40 図、第２表、図版一五）

位置　調査区の北西。　重複関係　なし。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 1.24 m、短軸 0.48 mが残存し、深さ 68㎝である。　主軸方向　N -47° - W　覆土　1 層で、人為的に埋め戻されている。　底面　若干の凹凸がみられる。　時期　近世以降の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -90（第 40 図、第２表）

位置　調査区の中央寄り。　重複関係　ＳＫ - 2 より新しい。　平面形状・規模　楕円形か。長軸 0.90 m、短軸 0.40 mが残存し、深さ 95㎝である。　主軸方向　N -49 ° - E　覆土　2 層で、人為的に埋め戻されていると考えられる。　底面　水没しているため、不明である。　時期　近現代か。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 41・76 図、第 24・45 表、図版四七・五二・五三）



第 41 図　G-13 区　遺構外出土遺物実測図

第 24 表　G-13 区遺構外出土遺物観察表

図版 No	No	種類器種	計測値（㎝・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
41	1	陶器 徳利	口径　- 底径　- 器高 [7.7] 最大径 (10.8)	外面 7.5YR4/3 褐 内面 2.5Y8/2 灰白	緻密、礫若干	良好	瀬戸・美濃	近世	鉄釉 丹波を模す	G-13 フク土一括	
41	2	陶器 甕か	口径　- 底径 (17.3) 器高 [6.8]	外面 7.5YR1.7/1 黒 内面 7.5YR4/4 褐	緻密	良好			鉄釉	G-13 フク土一括	
41	3	土器 碗か	口径　- 底径　- 器高［4.2］ 器厚　0.8	外面 N1.5/0 黒 2.5YR4/8 赤褐　一部 7.5Y6/1 灰 内面 7.5YR7/6 橙	細砂粒微量、銀雲母若干	良好			胴部外面赤彩・黒彩 胴部内面鉄付着 周囲黒い	G-13 一括排土内	
41	4	陶器 鉢	口径　- 底径　- 器高 [3.7] 器厚　0.7	2.5Y5/2 暗灰黄	緻密	良好	肥前（唐津）	17C 後葉		G-13 フク土一括	

１は瀬戸・美濃の徳利。人形徳利の形をしており、丹波を模している。２は陶器の甕か。底部内面に重ね焼きの痕跡がみられる。３は外面に赤彩と黒彩が塗布される碗か。内面に鉄が付着し、その周囲は黒くなっている。４は肥前の唐津で作られた所謂皿鉢といわれる鉢である。その他、刀子や古銭、鉄滓も出土している。

14. G -21 区

土坑２基、ピット１基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＫ -39（第 42 図、第２表、図版一五）

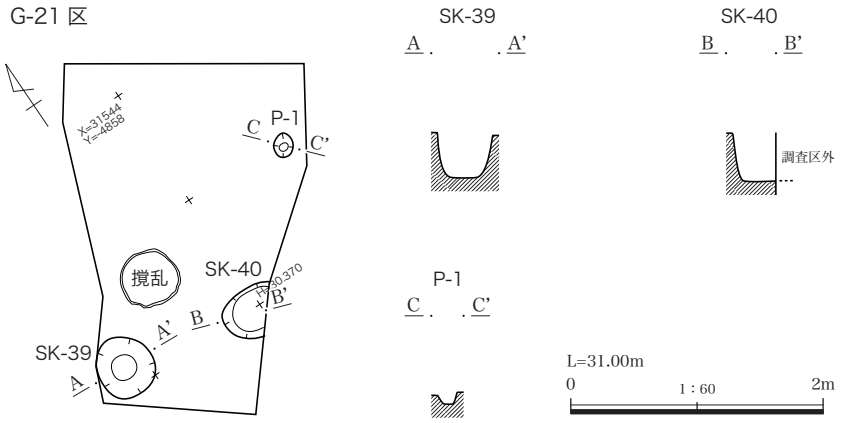
位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　径 0.48 m、深さ 48㎝の円形である。　主軸方向　N - 0°　覆土　不明である。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -40（第 42 図・43、第２・25 表、図版一六・四七・四八）

位置　調査区の南。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長軸 0.44 m、短軸 0.36 mが残存する、深さ 40㎝の楕円形である。　主軸方向　N -85° - W　覆土　不明である。　底面　凹凸がみられる。　時期　不明。　出土遺物　１と２は益子と考えられる蓋と甕。その他、土師質の火鉢が出土しているが、図示できなかった。

(2) 遺構外の遺物（第 44・76 図、第 27・45・77 表、図版四八・五三）

１は肥前の皿。ロクロで整形した後、輪花で型打成形した。蛇の目高台で、松竹梅環と唐草文が描かれている。２は不明の土器。３と４は焙烙で、３は耳部の一部が残る。４は丸底になる可能性が高い。その他、土師器の甕が調査区の中央から単独で出土している。平瓦も出土しているが図示できなかった。鉄製品も出土している。



第 42 図　G-21 区　SK-39・40，P-1 遺構実測図

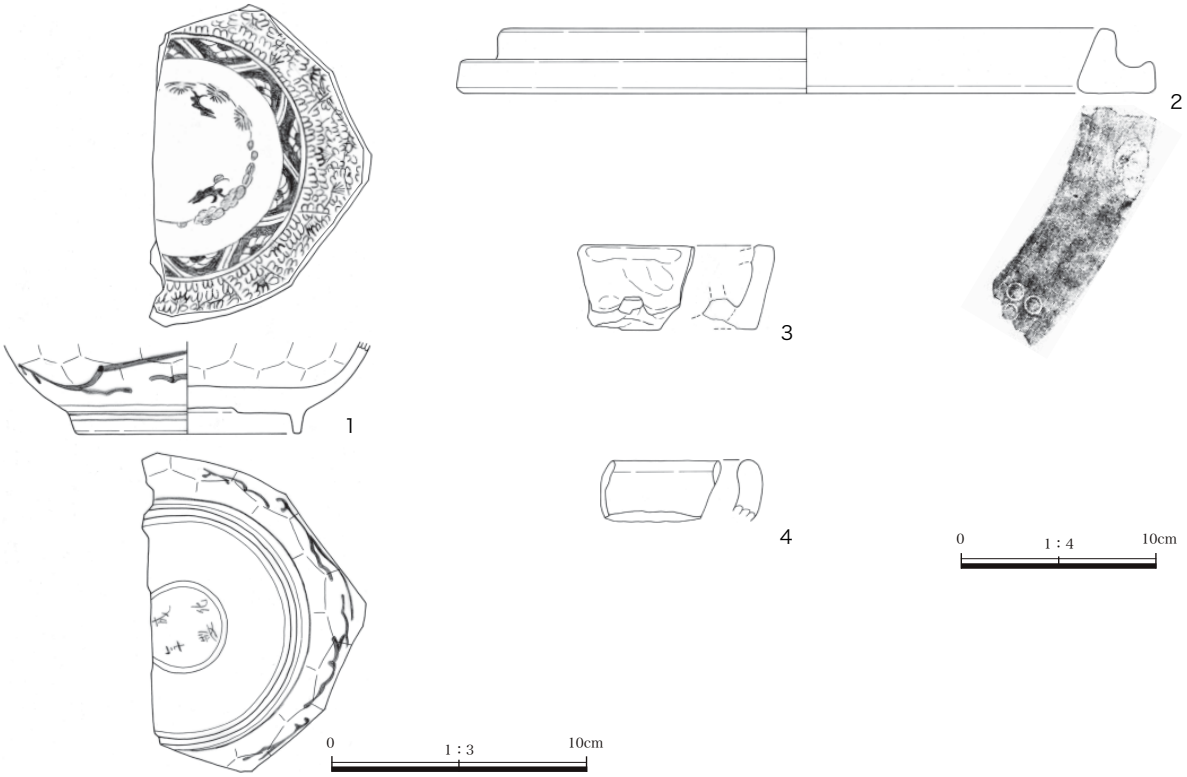
第 25 表　G-21 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-1	S-1	4 次	G-21	42	2・25	-	N-34° -E	隅丸長方形	0.20	0.16	0.20	

第 43 図　G-21 区　SK-40 出土遺物実測図

第 26 表　G-21 区 SK-40 出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
43	1	陶器 蓋	口径 (15.0) 底径　- 器高 [2.6]	5YR3/3 暗赤褐	砂粒・黒色粒子微量	良好	益子か		鉄釉	G-21 S-40 フク土一括	
43	2	陶器 甕	口径 (17.2) 底径　- 器高 [3.1]	5YR4/3 にぶい赤褐	砂粒・ 黒色粒子・ 白色粒子微量	良好	益子か		鉄釉	G-21 S-40 フク土一括	



第 44 図　G-21 区　遺構外出土遺物実測図

第 27 表　G-21 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
44	1	陶器 皿	口径　- 底径　9.4 器高 [3.6]	10GY8/1 明緑灰	緻密	良好	肥前	明治 (1465-1487) 銘のある 19C のもの	蛇の目高台	G-21 フク土一括	
44	2	土器 不明	口径 (30.0) 底径 (35.8) 器高　3.4	10YR4/1 褐灰	砂粒微量	良好			内外面スス・炭化物付着（一部除く） 文様あり	G-21 フク土一括	
44	3	焙烙	口径　- 底径　- 器高［4.4］ 器厚　1.1	外面 2.5Y6/3 にぶい黄 内面 2.5Y5/2 暗灰黄	砂粒微量	良好			体部ナデ	G-21 フク土一括	
44	4	焙烙	口径　- 底径　- 器高［3.1］ 器厚　1.2	外面 7.5YR4/1 褐灰 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒微量、赤色粒子若干	良好			体部ナデ 口縁部外面スス・炭化物付着	G-21 フク土一括	

第４節　５次調査

Ｇ -14 ～ 20 区を調査した。

住居跡９軒、溝状遺構２条、土坑 13 基、ピット 20 基が確認されている。

１. Ｇ -14 区

調査区はＡ～Ｃの３つに分かれる。

住居跡３軒、溝２条、土坑４基、ピット１基が確認されている。

Ａ区　掘削後、すぐに埋め戻しを行ったため、図面は作成していない。

遺物も確認されていない。

Ｂ区　溝２条が確認されている。

調査区の半分は土管より古い近代の撹乱を受けている。

(1) 遺構

ＳＤ - １（第 47 図、第２表、図版一七）

位置　調査区の北端。　重複関係　撹乱される。　平面形状・規模　長さ 2.10 m以上、幅 0.35 mで深さは 10cm である。底面は丸くなっており、北東方向にほぼ直線に延びる。　主軸方向　Ｎ -32° - Ｅ　覆土　人為的に埋め戻されている。　底面　凹凸がみられる。　時期　ＳＤ - １・２はほぼ同時期と考えられ、中世か古代の溝の可能性が高い。　出土遺物　確認されていない。

ＳＤ - ２（第 47 図、第２表、図版一七）

位置　調査区の北端。　重複関係　撹乱される。　平面形状・規模　長さ 0.95 m以上、幅 0.30 mで深さは 13cm である。北東方向の直線的な溝である。　主軸方向　Ｎ -40° - Ｅ　覆土　人為的に埋め戻されている。　底面　凹凸がみられる。　時期　中世か古代の溝の可能性が高い。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物

確認されていない。

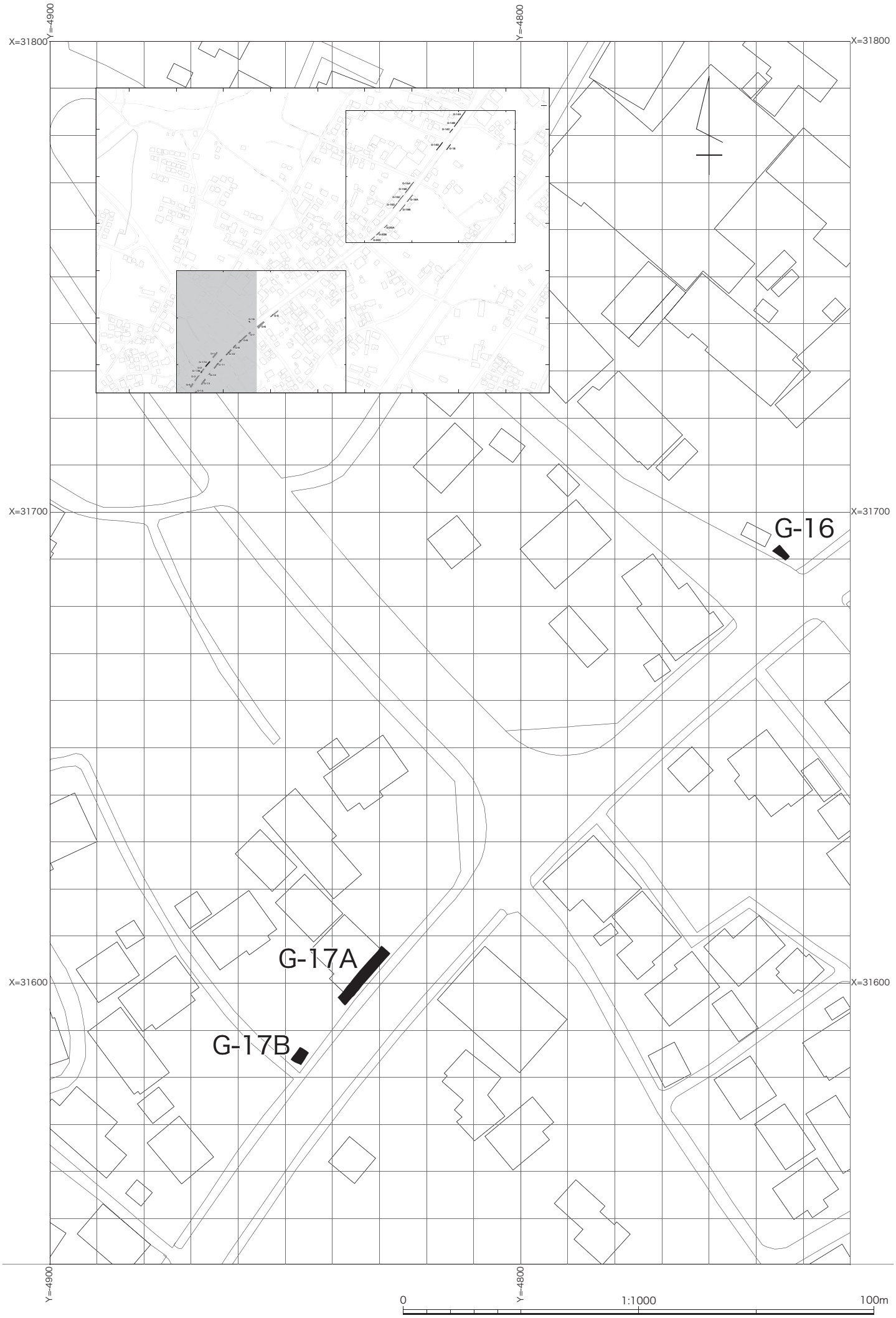
Ｃ区　ほぼ全体が撹乱されている。

(1) 遺構（第 48 図）

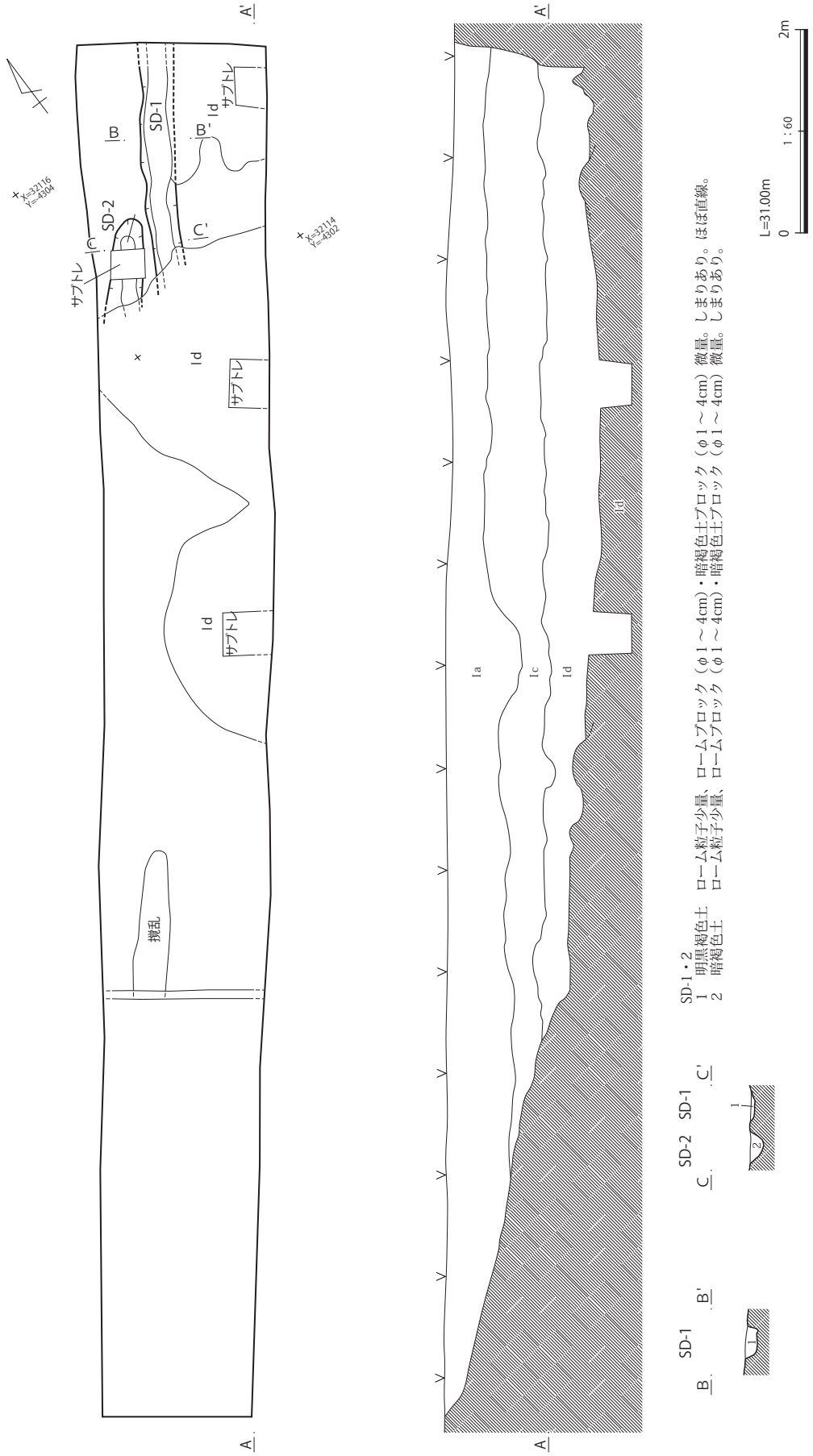
木製の桶状の遺構が確認されているが、覆土中からは昭和 30 年代のゴミが出土した。人為的に埋められている。遺物は近代から現代の陶磁器や鉄製品などが出土しているため、撹乱とした。

(2) 遺構外の遺物（第 49 図、第 28 表、図版四八）

調査区内からは陶磁器や火鉢、碍子、鉄製品などの近代から現代の遺物が出土している。１は型紙摺りの磁器の皿で日章旗の可能性のある図柄がある。２はコバルトを使用している。３は碍子で、電線とその支持物との間を絶縁するために用いる器具である。４と５は火鉢、６は浅めの焙烙である。釘と考えられる鉄製品も出土している。



第 45 図　令和２年度調査区（1）



第47図　G-14B区　SD-1・2遺構実測図

Ｄ区　住居跡３軒、土坑４基、ピット１基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ-39（第 50 ～ 52 図、第２・30 表、図版一七～一九・四八・四九）

位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　ＳＩ-40・ＳＫ-38 より古い。　平面形状・規模　全体を調査していないため、推測になるが、南北約 3.80 m、東西約 3.10 mの長方形、面積は約 12㎡、床面までの深さは 20㎝である。　主軸方向　Ｎ-69°-Ｅ　覆土　自然埋没である。　カマド　上部を壊し、一気に埋めている状態である。ＳＩ-39 の構築時に周辺を整地している可能性がある。　貯蔵穴・柱穴　カマドの東、北東隅には貯蔵穴の可能性のある掘り込みが確認された。明褐色土でしまっている。　床面　南中央壁の近くにも床下土坑がある。　壁溝　確認されていない。　遺物の出土状態　カマド内には逆位にした須恵器の坏があり、支脚として使用されていた可能性が高い。　時期　10 世紀前半。　出土遺物　土師器と須恵器が出土している。１はロクロ整形で、内面は黒色処理とヘラミガキが施されている。２と３の坏はロクロ整形の土師器で、底面は回転ヘラ切り、３の内面と口縁部外面に漆が付着する。

ＳＩ-40（第 50 ～ 52 図、第２・30 表、図版一九・二〇・四八・四九）

位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　ＳＩ-39 より新しい。　平面形状・規模　南北約 2.00 m、東西約 3.90 mが残存し、長方形で、床面までの深さは約 40㎝である。　主軸方向　Ｎ-２°-Ｅ　覆土　自然埋没である。　カマド　北側に焼土が確認され、カマドの可能性がある。　貯蔵穴・柱穴　南側中央壁際のピットは入口ピットの可能性が高い。　床面　４隅を掘り込む。　壁溝　カマド以外を全周すると考えられる。遺物の出土状態　土師器の坏と須恵器の坏が北東隅より、青磁の破片が覆土中より、陶器の破片も出土している。　時期　８世紀前半。　出土遺物　４の土師器の坏は平底で、内面にヘラミガキ、５の須恵器は底部に回転ヘラ切り後、ヘラケズリが施される。覆土中からは中世の青磁の碗の破片が出土した。

ＳＩ-42（第 50 ～ 52 図、第２・30 表、図版二〇・二一・四八・四九）

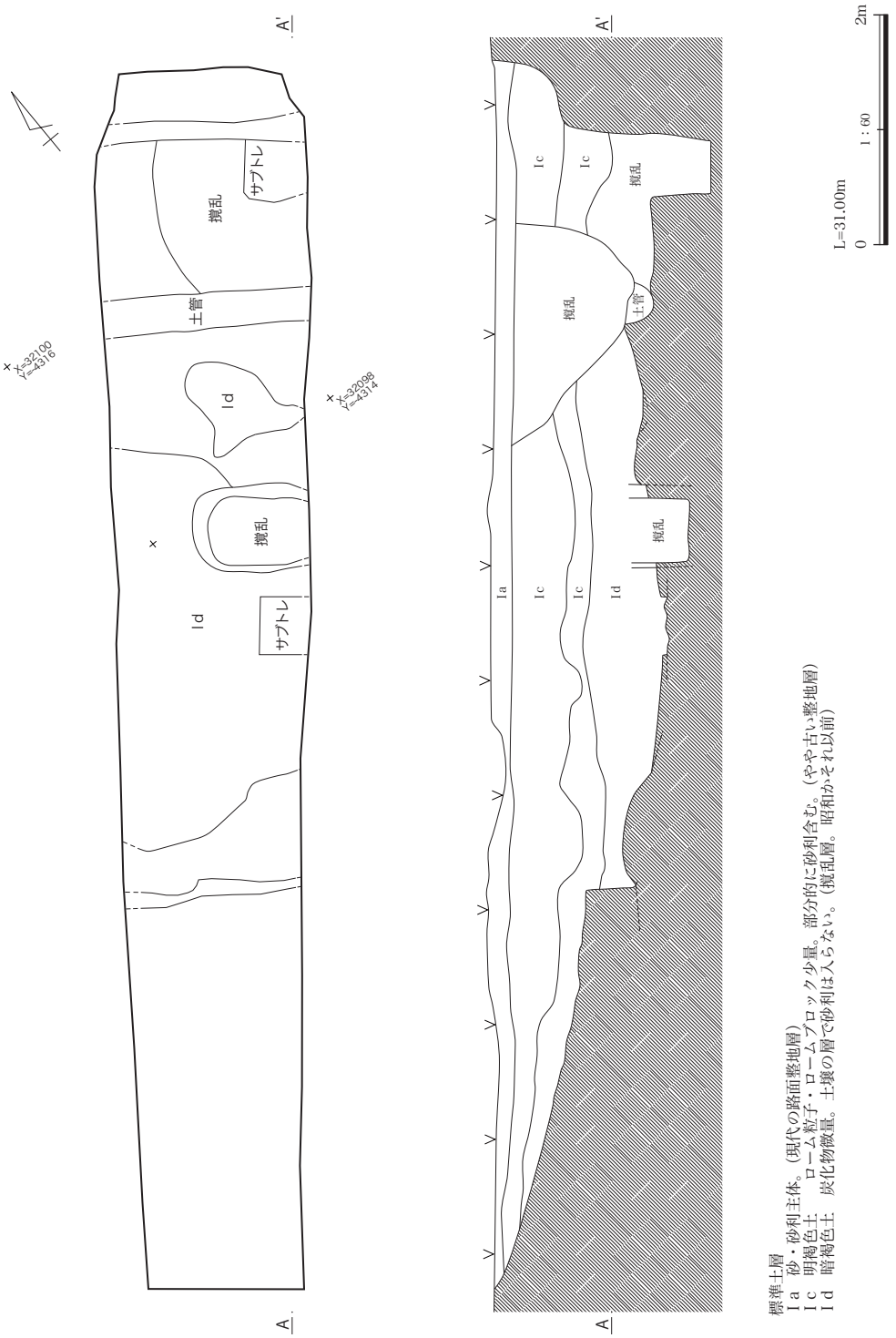
位置　調査区の南東隅。　重複関係　ＳＫ-38 より古い。　平面形状・規模　南北約 2.50 m、東西約 1.10 mが残存する。方形か。床面までの深さは約 40㎝である。　主軸方向　Ｎ-40°-Ｅ　覆土　自然埋没である。　カマド・貯蔵穴・柱穴　調査区内では確認されていない。　床面　ほぼ平坦である。　壁溝　調査区の壁面では確認されているが､面的には確認されなかった。 遺物の出土状態　覆土の中層より出土している。時期　８世紀前半。　出土遺物　土師器の坏で内面はヘラミガキが施される。

ＳＫ-35（第 50・51 図、第２表、図版一七）

位置　調査区の北。　重複関係　ＳＫ-36 より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.80 m、短軸 0.50 mが残存し、深さ 20㎝である。　主軸方向　Ｎ-62°-Ｅ　覆土　１層で自然埋没と考えられる。底面　凹凸がみられる。段を持つ。　時期　近現代の土坑か。　その他　他の遺構の可能性もある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ-36（第 50・51 図、第２表、図版一七）

位置　調査区の北。　重複関係　ＳＫ-35 より古い。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.00 m、短軸 0.75 mが残存し、深さ 10㎝である。　主軸方向　Ｎ-48°-Ｅ　覆土　１層で自然埋没か。　底面　凹凸



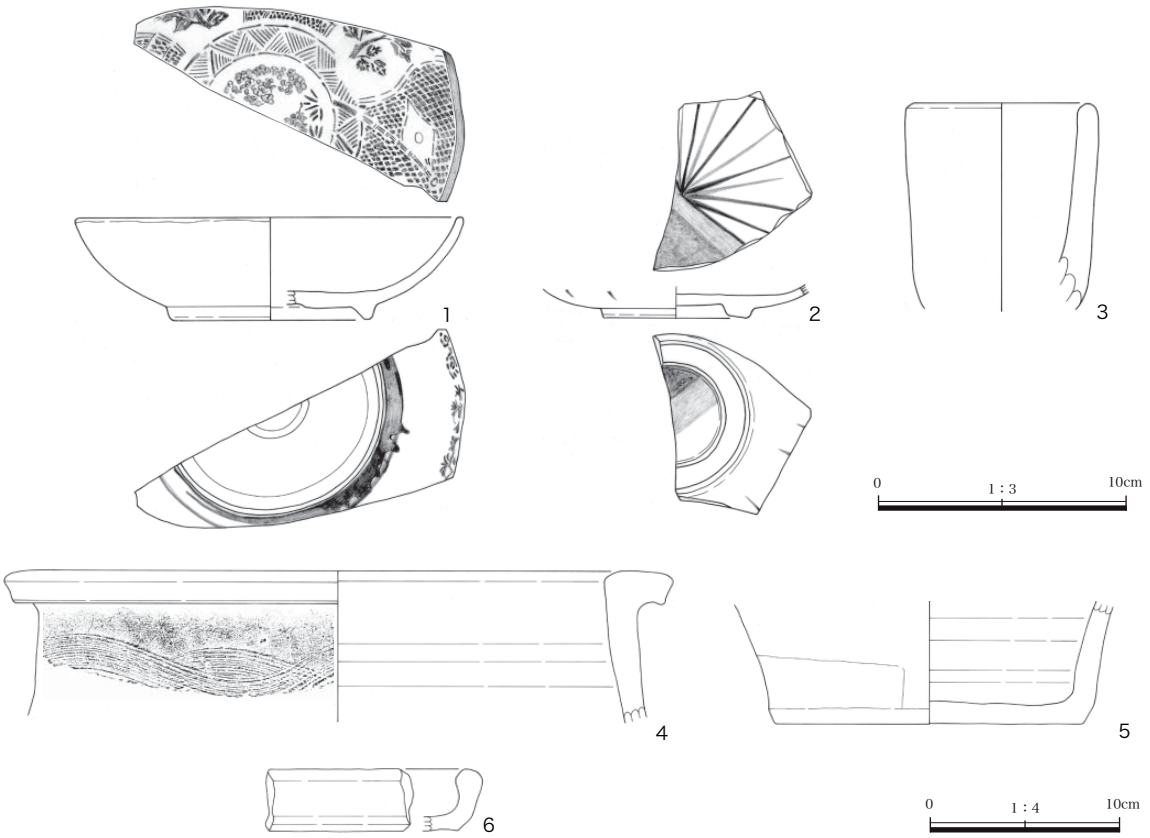
標準土層
Ⅰa　砂・砂利主体。（現代の路面整地層）
Ⅰc　明褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量。部分的に砂利含む。（やや古い整地層）
Ⅰd　暗褐色土　　炭化物微量。土壌の層で砂利は入らない。（撹乱層。昭和かそれ以前）

第48図　G-14C区　遺構実測図

がみられる。　時期　近現代の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -37（第 50・51 図、第２・45 表、図版一七・五三）

位置　調査区の北。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.05 m、短軸 0.85 mが残存し、深さ 35㎝である。　主軸方向　N -48° - E　覆土　４層に分層され、自然埋没である。白色粘土が上層に確認されている。



第 49 図　G-14C 区　遺構外出土遺物実測図

第 28 表　G-14C 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（㎝・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
49	1	磁器 皿	口径 (15.3) 底径 (8.5) 器高 [4.1]	N8/0 灰白	緻密	良好	瀬戸・美濃	1880 年代以降		G-14C 撹乱内	
49	2	陶器 皿	口径 - 底径 5.8 器高 [1.8]	2.5Y6/3 灰	やや緻密	良好		現代か		G-14C 木枠内	
49	3	磁器 碍子	口径 (7.0) 底径 - 器高 [8.2]	N8/0 灰白	緻密	良好				G-14C 撹乱内	
49	4	土師質土器 火鉢か	口径 - 底径 16.2 器高 [6.5]	N8/0 黒	砂粒多量、礫少量、赤色粒子微量	良好				G-14C 撹乱内	
49	5	土師質土器 火鉢	口径 (34.6) 底径 - 器高 [8.1]	10YR3/1 黒褐	砂粒多量、白色粒子少量	良好				G-14C 撹乱内	
49	6	焙烙	口径 - 底径 - 器高 [3.3]	外面 7.5YR1.7/1 黒 内面 7.5YR5/6 明褐	砂粒少量、礫微量	良好			内面荒れている 外面黒化	G-14C 撹乱内	

標準土層
Ⅰa　砂・砂利主体。（現代の路面整地層）
Ⅰc　明褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量。部分的に砂利含む。（やや古い整地層）
Ⅰd　暗褐色土　炭化物微量。土壌の層で砂利は入らない。（撹乱層。昭和かそれ以前）

SI-39
1　暗褐色土　　ローム粒子・焼土粒子微量。
2　明黒褐色土　焼土粒子・灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・灰白色粘土ブロック（～φ1cm）・焼土ブロック（～φ1cm）・炭化物粒子微量。
3　暗灰褐色土　灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ1～2cm）多量、焼土粒子・焼土ブロック（～φ1cm）少量、ローム粒子・炭化物粒子微量。
4　橙褐色土　　焼土粒子・焼土ブロック（φ1～3cm）多量、灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・灰白色粘土ブロック（～φ1cm）・炭化物粒子微量。
5　黄褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック（～φ1cm）・焼土粒子・灰白色粘土粒子微量。
6　黒褐色土　　ローム粒子少量、ロームブロック（φ1～2cm）微量。
7　暗褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量、灰白色粘土粒子少量。しまりあり。

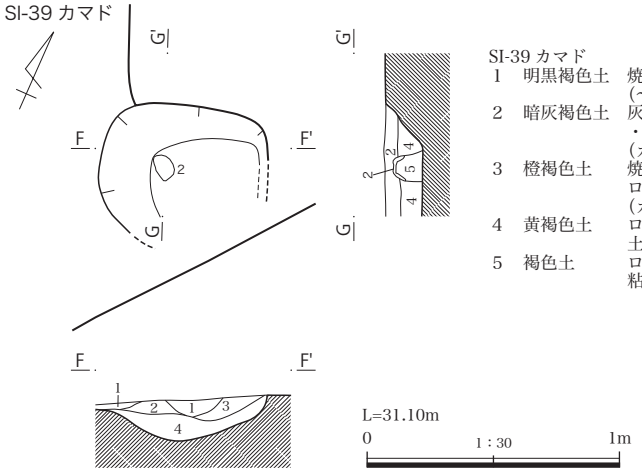
SI-40
10　暗灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりあり。
11　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック・炭化物粒子少量、焼土粒子微量。しまりあり。
12　暗灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック・炭化物粒子多量。しまりあり。
13　黒褐色土　　ローム粒子（特に下方）・ロームブロック多量、炭化物粒子微量。しまりややなし。
14　灰褐色土　　ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややなし。
15　黄褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりあり。
16　ローム粒子・ロームブロック（φ1～2cm）少量、焼土粒子・灰白色粘土粒子・焼土ブロック（φ0.5～1cm）微量。

SI-40 カマド
8　暗灰褐色土　ローム粒子少量、しまりあり。
9　黄褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量。（ロームと黒色土の人為埋土）
17　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック主体、焼土粒子微量。しまりあり。
18　灰褐色土　　灰色粘土ブロック・灰色粘土粒子・焼土粒子・焼土ブロック多量、炭化物粒子微量。しまりややあり。
19　黒褐色土　　焼土粒子・炭化物粒子多量、粘土ブロック・焼土ブロック少量。しまりややあり。

SI-42
18　暗灰褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック微量。しまりややなし。
19　黒褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりややあり。
20　暗褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量、炭化物粒子少量、焼土粒子微量。しまりあり。
21　淡褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量、粘土ブロック少量。しまりややあり。
22　黄褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややあり。

SK-35～38
23　淡灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。小礫含。
24　黒褐色土　　ローム粒子少量。しまりややなし。
25　暗灰褐色土　ローム粒子少量。しまりややなし。
26　淡灰褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック・砂少量。しまりややあり。
27　灰色砂層　　粘質砂層、1 層の土混じる。しまりややあり。
28　灰褐色土　　ローム粒子微量。しまりややあり。
29　黒褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややなし。
30　灰褐色土　　ロームブロック・ローム粒子多量。しまりややあり。撹乱か。

P-43
31　明灰褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック少量、炭化物粒子微量。しまりあり。
32　黒褐色土　　ローム粒子少量、炭化物粒子微量。しまりややなし。
33　暗褐色土　　ローム粒子多量。しまりややなし。



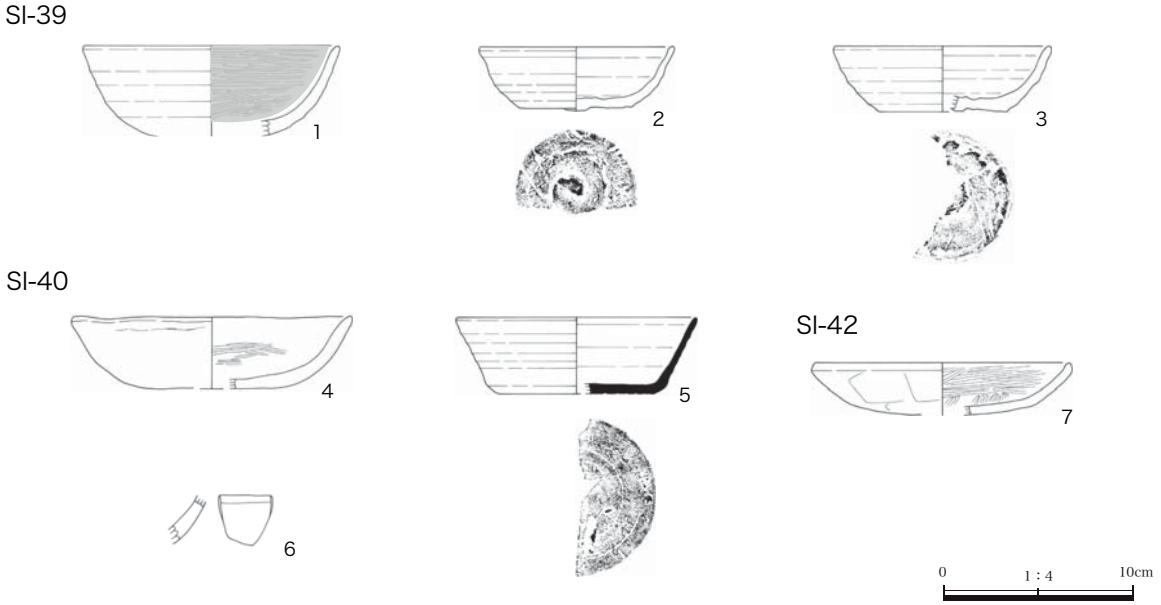
SI-39 カマド
1　明黒褐色土　焼土粒子・灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・灰白色粘土ブロック（～φ1cm）・焼土ブロック（～φ1cm）・炭化物粒子微量。
2　暗灰褐色土　灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ1～2cm）多量、焼土粒子・焼土ブロック（～φ1cm）少量、ローム粒子・炭化物粒子微量。（カマド天井）
3　橙褐色土　　焼土粒子・焼土ブロック（φ1～3cm）多量、灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・灰白色粘土ブロック（～φ1cm）・炭化物粒子微量。（カマドソデ崩落土）
4　黄褐色土　　ローム粒子多量、ロームブロック（～φ1cm）・焼土粒子・灰白色粘土粒子微量。（カマド内流入土）
5　褐色土　　ローム粒子・ロームブロック（φ1～2cm）少量、焼土粒子・灰白色粘土粒子・焼土ブロック（φ0.5～1cm）微量。

第 51 図　G-14D 区　SI-39・40・42，SK-35～38，P-43 遺構実測図（２）

第 29 表　G-14D 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-43	S-43	5 次	G-14D	50・51	2	21	N-0°	楕円形	0.45	0.40	0.70	柱穴

底面　凹凸がみられる。段を持つ。　**時期**　近現代の土坑か。　**出土遺物**　鉄製品が出土している。



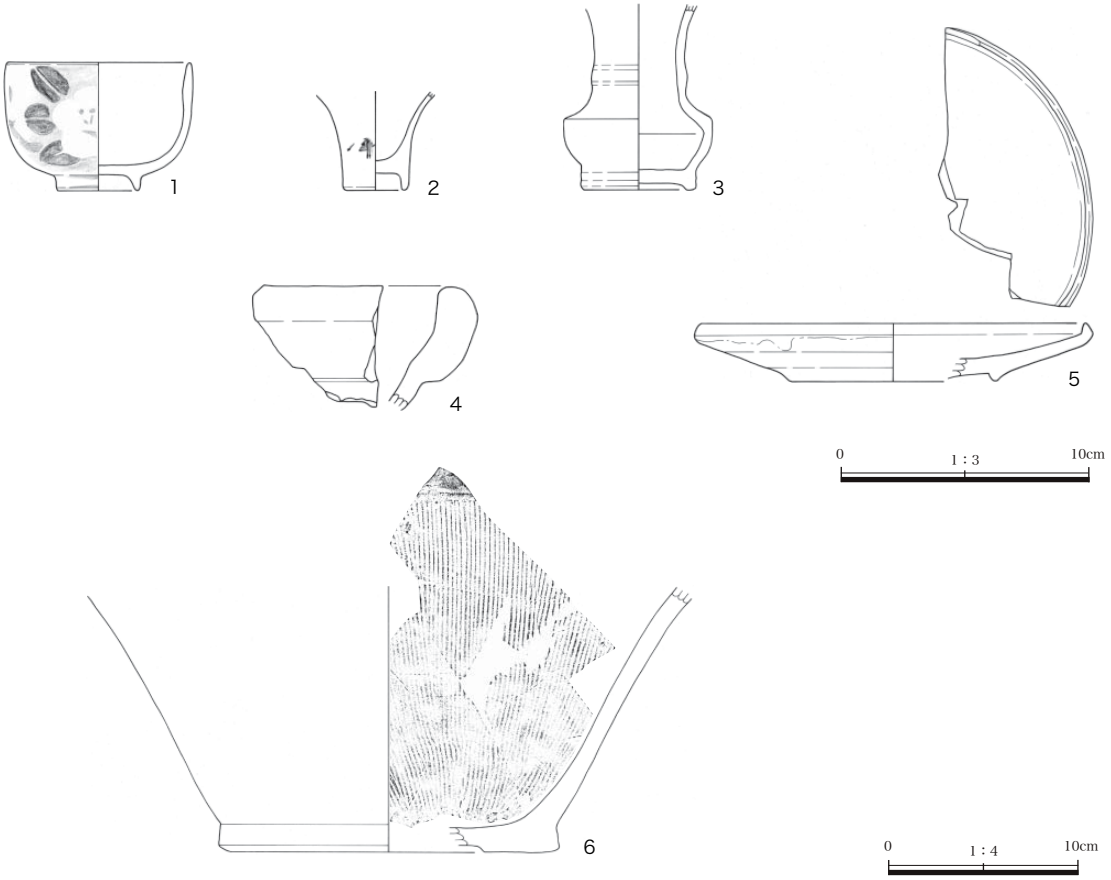
第 52 図　G-14D 区　SI-39・40・42 出土遺物実測図

第 30 表　G-14D 区 SI-39・40・42 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
52	1	土師器坏	口径（13.4） 底径　- 器高［4.7］	外面 10YR5/3 にぶい黄褐 内面 10YR2/1 黒	砂粒少量、赤色粒子若干	良好	口縁～底部内面黒色処理	ロクロ整形 水引痕顕著 口縁～底部内面ヘラミガキ	口縁部 1/6 残存	南西部西床上 3cm	G-14D SI-39 №1・貼床内	
52	2	土師器坏	口径（10.2） 底径（6.0） 器高　3.4	外面 10YR7/3 にぶい黄橙 内面 7.5YR7/6 橙	砂粒多量、透明粒子少量、赤色粒子微量	良好		ロクロ整形 底部回転ヘラ切り	口縁～底部 1/2 残存	ピットの上層	G-14D SI-39 №4	
52	3	土師器坏	口径（11.3） 底径（6.8） 器高　3.4	外面 10YR7/3 にぶい黄橙 内面 10YR7/3 にぶい黄橙	砂粒少量、礫若干	良好	口縁～体部内面・外面の一部漆付着 口縁～底部内面荒れている	ロクロ整形 水引痕顕著 底部回転ヘラ切り	口縁～底部 1/2 残存	南西部南床面直上	G-14D SI-39 №2•3	
52	4	土師器坏	口径（14.7） 底径（6.4） 器高［3.7］	外面 2.5Y5/8 明赤褐 内面 2.5Y5/6 明赤褐	砂粒・白色粒子少量、赤色粒子微量	良好	口縁～底部内面剥離する	口縁部外面ヨコナデ 胴部外面ヘラナデ 底部外面ヘラケズリ 口縁～底部内面ヘラミガキ	口縁～底部 1/4 残存	北東部覆土中	G-14D SI-40 №2•3•b	
52	5	須恵器坏	口径（12.8） 底径（8.2） 器高　4.0	外面 5Y7/1 灰白 内面 2.5Y7/1 灰白	砂粒少量、礫微量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 底部回転ヘラ切り後ヘラケズリ	口縁～底部 1/3 残存	北東部覆土中	G-14D SI-40 №1•4	
52	6	磁器碗か	口径　- 底径　- 器高 [2.6] 器厚　0.7	5Y5/2 灰オリーブ	緻密	良好	中国か		体部一部残存	覆土中	G-14D SI-40a	中世
52	7	土師器坏	口径（13.3） 底径　- 器高［2.7］	外面 7.5YR5/4 にぶい褐 内面 5YR5/6 明赤褐	砂粒少量、白色粒子・赤色粒子微量	良好	体～底部剥離 口縁部周辺摩耗する	口縁部外面ヨコナデ 胴～底部外面ヘラケズリ 口縁～底部内面ミガキ	口縁～底部 1/6 残存	北西部南床上 14cm	G-14D SI-42 №1	

ＳＫ -38（第 50・51 図、第２表）

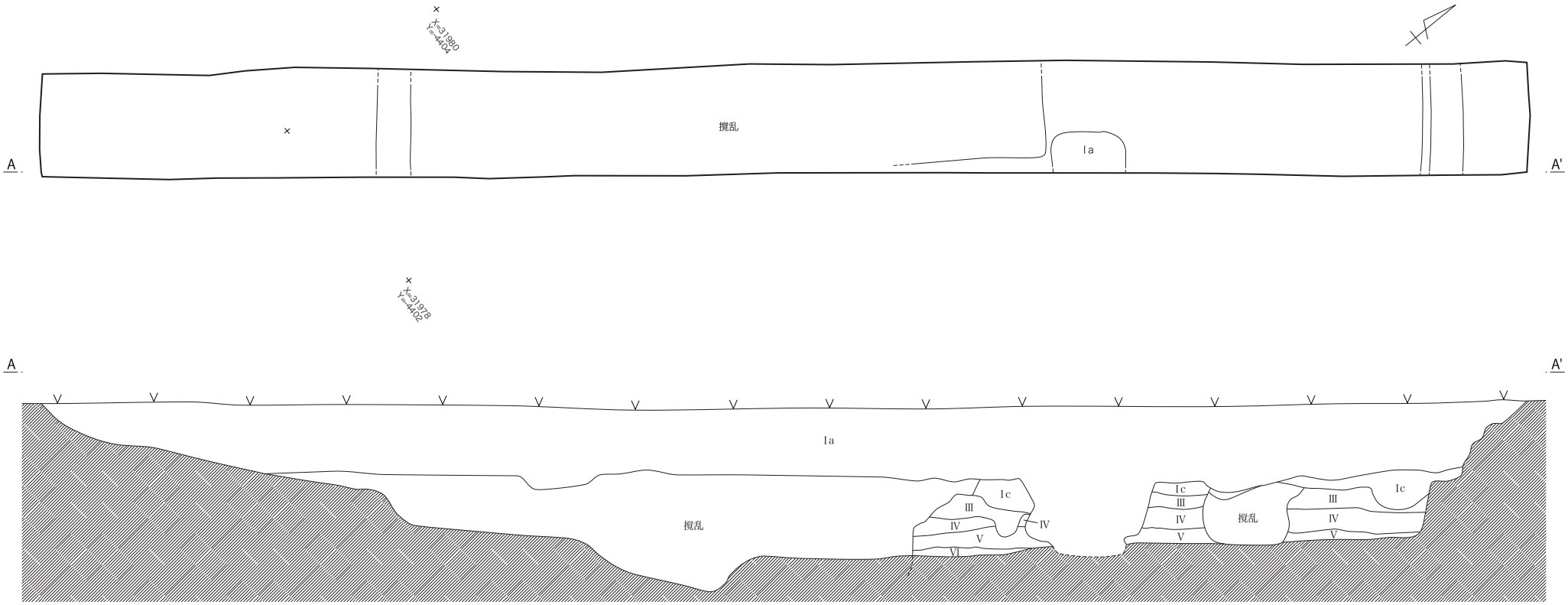
位置　調査区の南。　重複関係　ＳＩ -39・42 より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.8 m、



第 53 図　G-14D 区　遺構外出土遺物実測図

第 31 表　G-14 D区遺構外出土遺物観察表

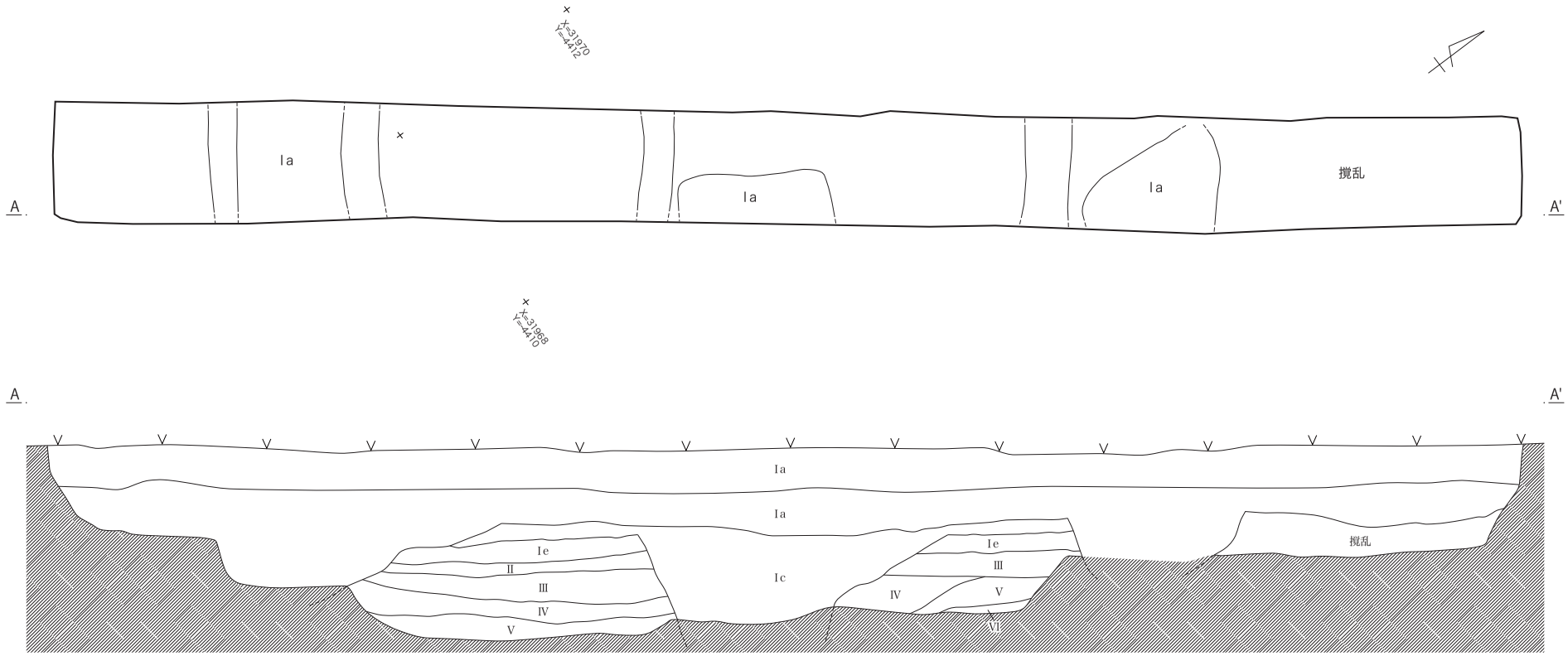
図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
53	1	磁器 碗	口径 (7.4) 底径 (3.2) 器高 5.1	N8/0 灰白	緻密	良好		1890 年代以降		G-14D 南	
53	2	磁器 猪口か ミニチュア	口径 - 底径 (2.3) 器高 [3.8] 最大径 (4.8)	N8/0 灰白	緻密	良好	瀬戸・美濃	近代	鉄分付着	G-14D 中央	
53	3	陶器 花瓶か	口径 - 底径 4.6 器高 [7.3] 最大径 5.9	5YR3/6 暗赤褐	やや緻密	良好	益子か	近代	鉄釉	G-14D 中央	
53	4	陶器 鉢か	口径 - 底径 - 器高 [5.3]	外面 7.5Y6/2 灰オリーブ 内面 7.5Y6/3 オリーブ黄	やや緻密	良好	益子か	近代	長石釉（一部青い）	G-14D 中央	
53	5	陶器 皿	口径 (15.4) 底径 (8.3) 器高 2.3	外面 5YR4/3 にぶい赤褐 内面 7.5YR6/4 にぶい橙	砂粒少量、礫若干	良好	益子か	近代	鉄釉 鉄絵が描かれる	G-14D 南	
53	6	陶器 擂鉢	口径 - 底径 (18.0) 器高 [14.0]	外面 5YR3/6 暗赤褐 内面 10YR6/4 にぶい黄橙	砂粒少量、白色粒子微量	良好	益子	近代	鉄釉	G-14D 中央	



G-15A 区
Ⅰa　現代の路面整地層　　砂利多量。
Ⅰc　やや古い路面整地層　上層に砂利層、下層に土壌の層がある。この層を覆土とする撹乱もある。近代か。
Ⅲ　暗褐色土　As-B 以降とみられる。
Ⅳ　黒褐色土
Ⅴ　暗褐色土
Ⅵ　ローム漸移層

L=32.50m
0　1：60　2m

第 54 図　G-15A 区　遺構実測図



G-15B 区
Ⅰa　現代の路面整地層　　砂利多量。
Ⅰc　やや古い路面整地層　上層に砂利層、下層に土壌の層がある。この層を覆土とする撹乱もある。近代か。
Ⅰe　暗褐色土　ローム粒子微量。緻密。(4 号舗装以前の耕作土か。旧耕作土)
Ⅱ　　褐色土　　(中世～近世か)
Ⅲ　　暗褐色土　As-B 以降とみられる（旧耕作土）
Ⅳ　　黒褐色土
Ⅴ　　暗褐色土
Ⅵ　　ローム漸移層

L=32.50m
0　1：60　2m

第 56 図　G-15B 区　遺構実測図

短軸 0.60 mが残存し、深さ 25㎝である。　**主軸方向**　N -40°- E　**覆土**　1 層で人為的な埋め戻しか。撹乱の可能性が高い。　**底面**　凹凸がみられる。　**時期**　近現代の土坑か。　**出土遺物**　確認されていない。

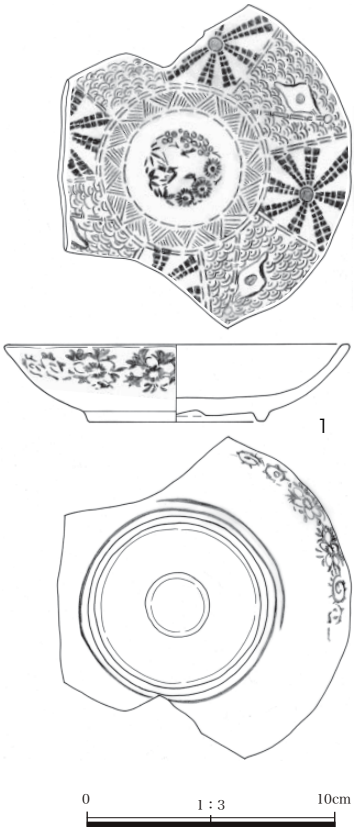
(2) 遺構外の遺物（第 53・77 図、第 31・45 表、図版四九）

１と２は磁器。１は吹き掛け技法で作られた碗。1890 年代以降の製品。２は瀬戸・美濃で作られたお猪口かミニチュア。３は花瓶と考えられる。４～６は陶器。４は長石釉が施され、外面の一部が青くなっている。５は鉄絵が描かれる。４～６は益子か。いずれも近代と考えられる。その他、刀子・釘と想定される鉄製品が出土している。

２. G -15 区

Ａ～Ｄの４つの調査区に分かれる。

近代と考えられる古い路面整地層が確認されている。



第 57 図　G-15 区　遺構外出土遺物実測図

第 32 表　G-15 区遺構外出土遺物観察表

図版 No	No	種類 器種	計測値 (㎝・g)	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
57	1	磁器 皿	口径 (13.4) 底径 7.4 器高 3.1	5GY8/1 灰白	緻密	良好		明治以降か		G-15	

ロームが低くなっているため、Ｂ区の東側からＣ区の北側に浅い谷が入ると考えられる。この辺りでは近世～現代の陶磁器が少量出土している。

Ｃ区　Ｉｂ層下面を掘り込む撹乱が確認されている。

(1) 遺構（第 54 ～ 56 図）

遺構は確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 57 図、第 32 表、図版四九）

明治以降の磁器が出土している。１は皿で、松竹梅環の周りに旗らしき模様が描かれている。日露戦争等の頃のものか。

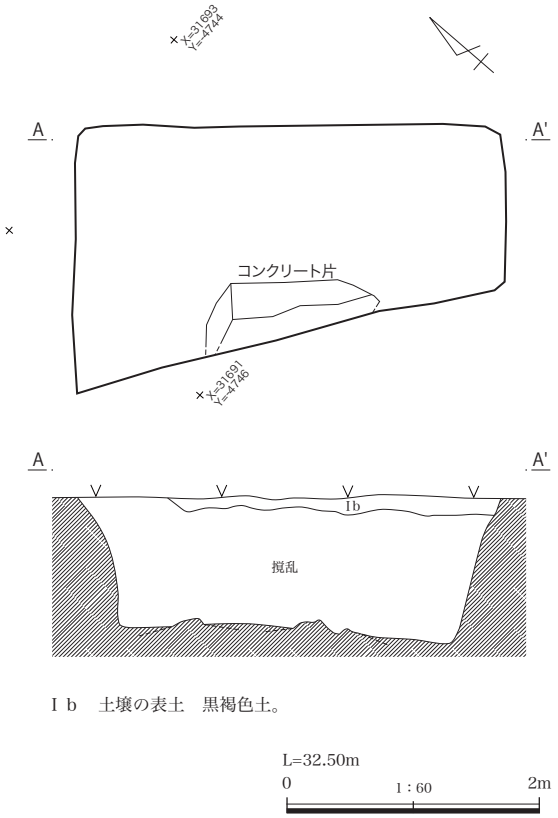
３．Ｇ -16 区

調査区はほぼ撹乱を受け、ハードローム層まで撹乱されている。

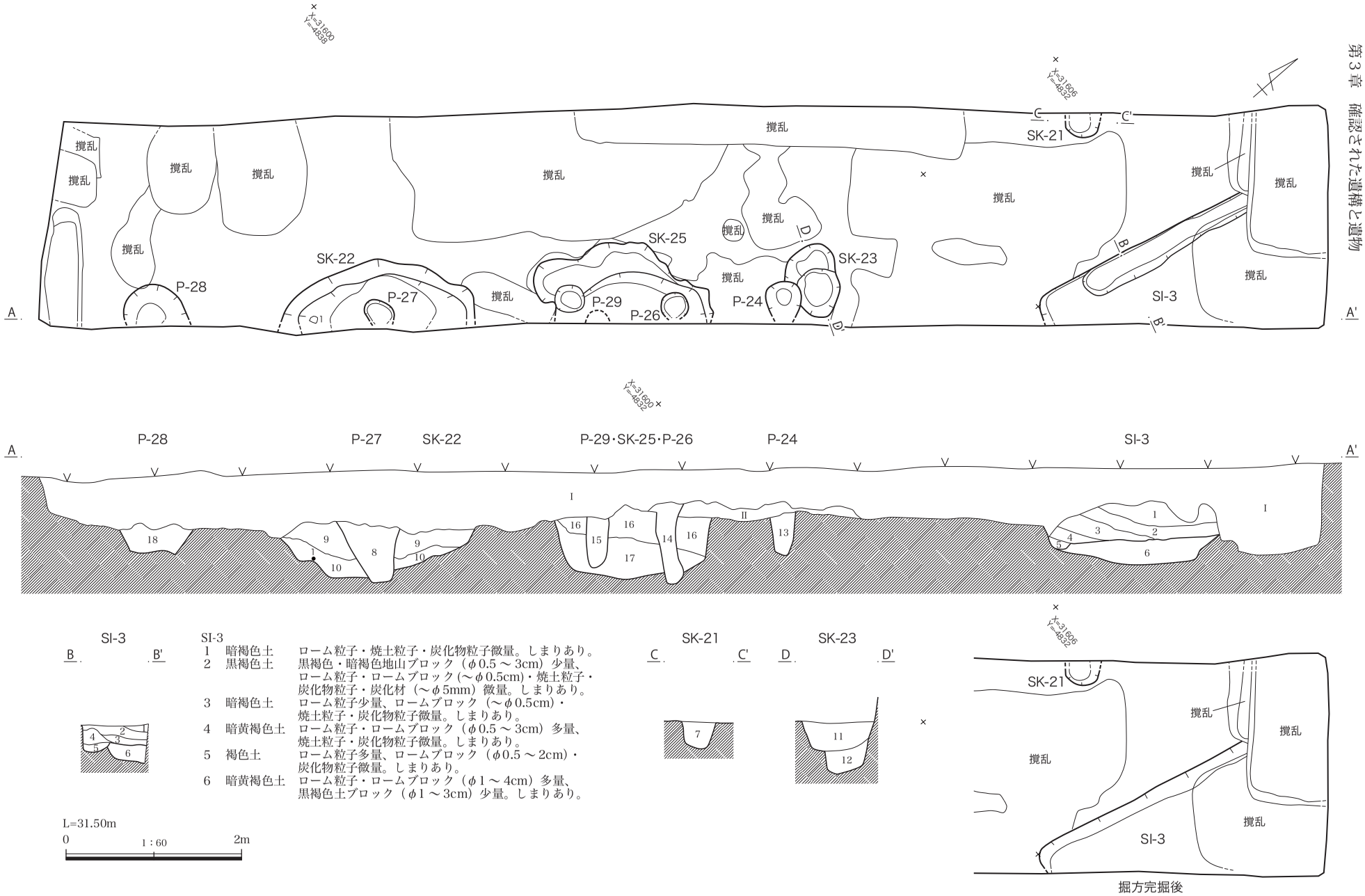
コンクリートの塊が確認されている。

遺構は確認されていない。

遺物の出土もほとんどなく、土師器の甕の破片が出土したのみである。



第 58 図　G-16 区　遺構実測図



第 59 図　G-17A 区　SI-3，SK-21 ～ 23・25，P-24・26 ～ 29 遺構実測図（1）

SK-21～23・25，P-24・26～29
７　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

SK-22
９　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック少量。しまりややあり。
10　淡褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。

SK-23
11　黒褐色土　ローム粒子・炭化物粒子多量、焼土粒子微量。しまりややあり。
12　灰褐色土　ローム粒子多量、炭化物粒子微量。しまりなし。

P-24
13　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややなし。

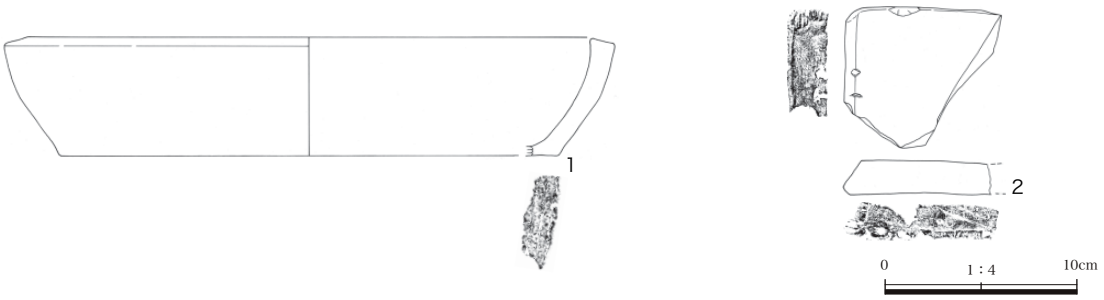
SK-25
16　淡灰褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりあり。
17　灰褐色土　　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややあり。

P-26
14　灰褐色土　　ロームブロック・粘土ブロック多量。木片・繊維含む。しまりなし。

P-27
８　暗褐色土　　ロームブロック・粘土ブロック・炭化物粒子多量。しまりややなし。

P-28
18　灰褐色土　　礫多量、ローム粒子・炭化物粒子少量。しまりなし。

P-29
15　暗褐色土　　炭化物粒子多量、ローム粒子・ロームブロック少量。しまりなし。



第 60 図　G-17A 区　SI-3，SK-21 ～ 23・25，P-24・26 ～ 29 遺構実測図（２）・SK-22 出土遺物実測図

４．G -17 区

調査区はＡとＢの２つに分かれる。

住居跡３軒、土坑９基、ピット６基が確認されている。

砂利や炭化物の混入する撹乱が多数確認されている。中央部には砂利と炭化物のほか、部分的に焼土が混入する撹乱が確認されている。

第 33 表　G-17A 区 SK-22 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
60	1	焙烙	口径 (31.8) 底径 (26.0) 器高 6.1	外面 7.5YR1.7/1 黒 内面 7.5YR4/3 褐	金雲母多量、砂粒・礫少量	良好			体部ナデ 平底　離砂 口縁～体部外面炭化物付着 胴部外面の燻しあり	G-17A SK-22 №1	
60	2	平瓦	長 [7.4] 幅 [7.8] 厚 1.8 重 111.58	N4/0 灰	砂粒・礫少量、黒色粒子微量	良好				G-17A SK-22 №2	

Ａ区　住居跡１軒、土坑４基、ピット５基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ－３（第 59・60・77 図、第２・45 表、図版二三・二四・五三）

位置　調査区の北東。　重複関係　撹乱を受けている。　平面形状・規模　長方形か。南北約 1.60 m、東西約 2.60 mが残存している。床面までの深さは 65㎝である。　主軸方向　Ｎ -15°- Ｅ　覆土　自然埋没である。炭化物が含まれる。　カマド・貯蔵穴・柱穴　確認されていない。　床面　床は平坦で、北側の方が硬く締まっている。　壁溝　広いＵ字状の壁溝が西壁際に確認されている。調査部分では全周している。時期　確認された状況から、古代の住居跡と考えられる。　出土遺物　33 と 34 は「寛永通宝」であり、流入したものと考えられる。

また、ＳＩ－３の北側の撹乱内からも鉄製品や古銭が出土している。江戸時代の撹乱と考えられる。

ＳＫ -21（第 59・60 図、第２表、図版二四）

位置　調査区の北西。　重複関係　なし。　平面形状･規模　楕円形か。長軸 0.35 m､短軸 0.30 mが残存し、深さ 30㎝である。　主軸方向　Ｎ -45°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しと考えられる。　底面　丸みを帯びる。　時期　現代の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -22（第 59・60 図、第２・33 表、図版二四・四九）

位置　調査区の南西。　重複関係　ＳＫ -35 より古い。　平面形状・規模　不整楕円形か。長軸 2.60 m、短軸 0.80 mが残存し、深さは 65㎝である。　主軸方向　Ｎ -40°- Ｅ　覆土　２層。自然埋没である。　底面　凹凸が著しい。　その他　撹乱状で、壁の立ち上がりは緩やかな程度だが掘り込みは比較的明瞭である。時期　近世～近代の土坑か。　出土遺物　焙烙や瓦が出土している。１の焙烙は胎土に金雲母が含まれる。外面は黒い。炭化物も付着する。２の瓦は平瓦である。

ＳＫ -23（第 59・60 図、第２表、図版二四・四九）

位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　P-24 より新しい。　平面形状･規模　不整楕円形か。長軸 0.85 m、短軸 0.60m が残存し、深さ 60㎝である。　主軸方向　Ｎ -65 °- Ｅ　覆土　２層で、人為的な埋め戻しと考えられる。　底面　若干の凹凸があり、段を持つ。　時期　現代の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -25（第 59・60 図、第２表、図版二四・二五・四九）

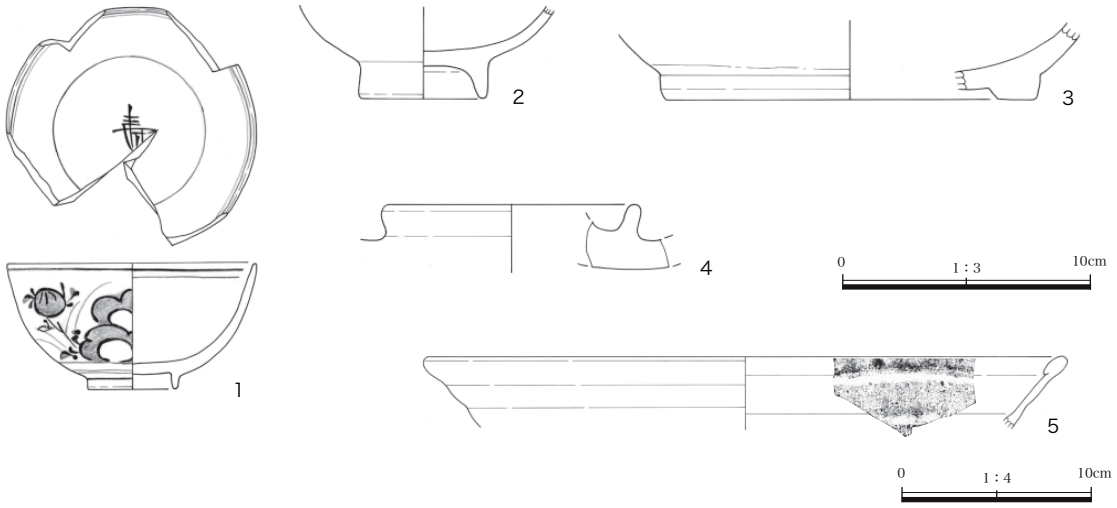
位置　調査区のほぼ中央。　重複関係　ＳＫ -36 より新しい。　平面形状・規模　長軸 2.10 m、短軸 0.95 mが残存し、深さ 85㎝の不整形である。　主軸方向　Ｎ -52°- Ｅ　覆土　２層で、自然埋没である。　その他　平面は撹乱状だが、掘り込みは明瞭である。　時期　近世から近代の遺構か。　出土遺物　瓦が出土している。

(2) 遺構外の遺物（第 61・77 図、第 35・45 表、図版四九・五〇）

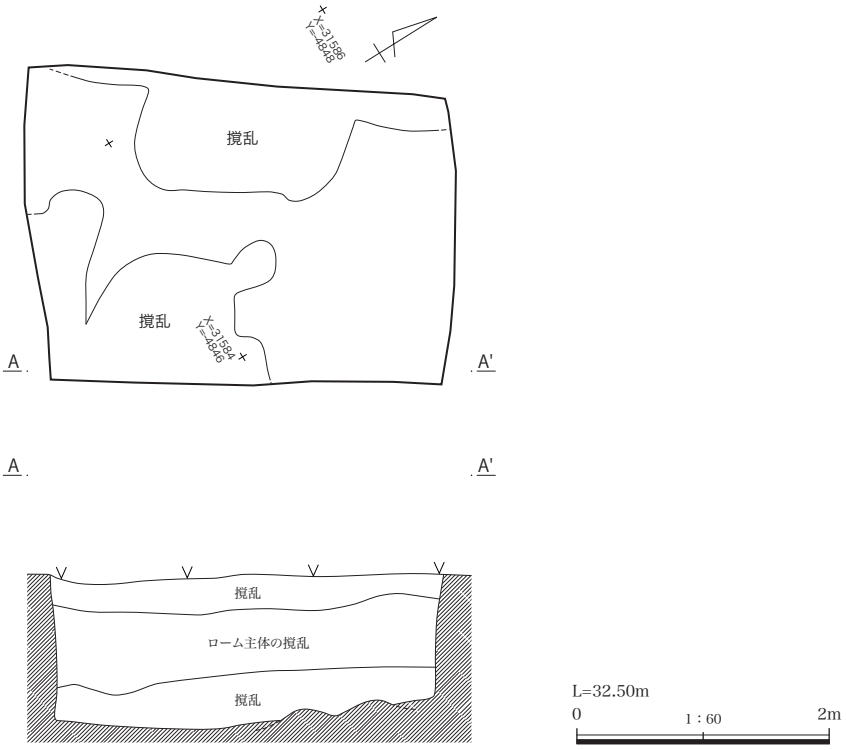
１と２は肥前産の碗。１は被熱を受けている。２は呉器手の碗。３は陶器の鉢で、笠原鉢と言われているものである。その他、釘や古銭などの鉄製品も出土している。

第 34 表　G-17A 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-24	S-24	５次	G-17A	59	２・34	24	N-53°-W	不整円形か	0.50	0.40	0.45	
P-26	S-26	５次	G-17A	59	２・34	24・25	N-0°	円形	0.30	0.30	0.95	
P-27	S-27	５次	G-17A	59	２・34	24	N-86°-E	楕円形	0.40	0.30	0.65	
P-28	S-28	５次	G-17A	59	２・34	24・25	N-65°-W	楕円形	[0.65]	0.50	0.60	
P-29	S-29	５次	G-17A	59	２・34	24	N-0°	円形	0.25	0.25	0.55	



第 61 図　G-17A 区　遺構外出土遺物実測図



第 62 図　G-17B 区　遺構実測図

第 35 表　G-17A 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	産地	年代	特徴	注記	備考
61	1	磁器 碗	口径 10.0 底径 3.5 器高 5.0	5GY8/1 灰白	緻密	良好	肥前		被熱受けている	G-17A	
61	2	陶器 碗	口径 - 底径 4.8 器高 [3.8]	2.5Y7/4 浅黄	砂粒微量	良好	肥前	17 ～ 18C		G-17A	
61	3	陶器 鉢	口径 - 底径 (14.7) 器高 [3.1]	外面 7.5Y8/2 灰白 内面 7.5Y8/3 淡黄	砂粒少量、礫微量	良好	瀬戸・美濃	17 ～ 18C		G-17A	
61	4	磁器 碍子か	口径 - 底径 (10.0) 器高 [2.7]	N8/0 灰白	砂粒微量	良好				G-17A	
61	5	陶器 擂鉢	口径 (33.4) 底径 - 器高 [3.8]	5YR4/2 灰褐	砂粒多量	良好	信楽	近世	鉄釉	G-17A	

Ｂ区　調査区はほぼ撹乱を受けている。遺構は確認されていない。確認できる地山はローム漸移層からソフトローム層。北端の地山は固く、硬化している。建物があったか、路面の可能性も考えられる。

遺物もほとんどなく、陶磁器片などが確認されている。

５. Ｇ -18 区

住居跡２軒、土坑５基、ピット１基が確認されている。

火山灰が確認され、Ａｓ - Ｂ以降に削平されている。

(1) 遺構

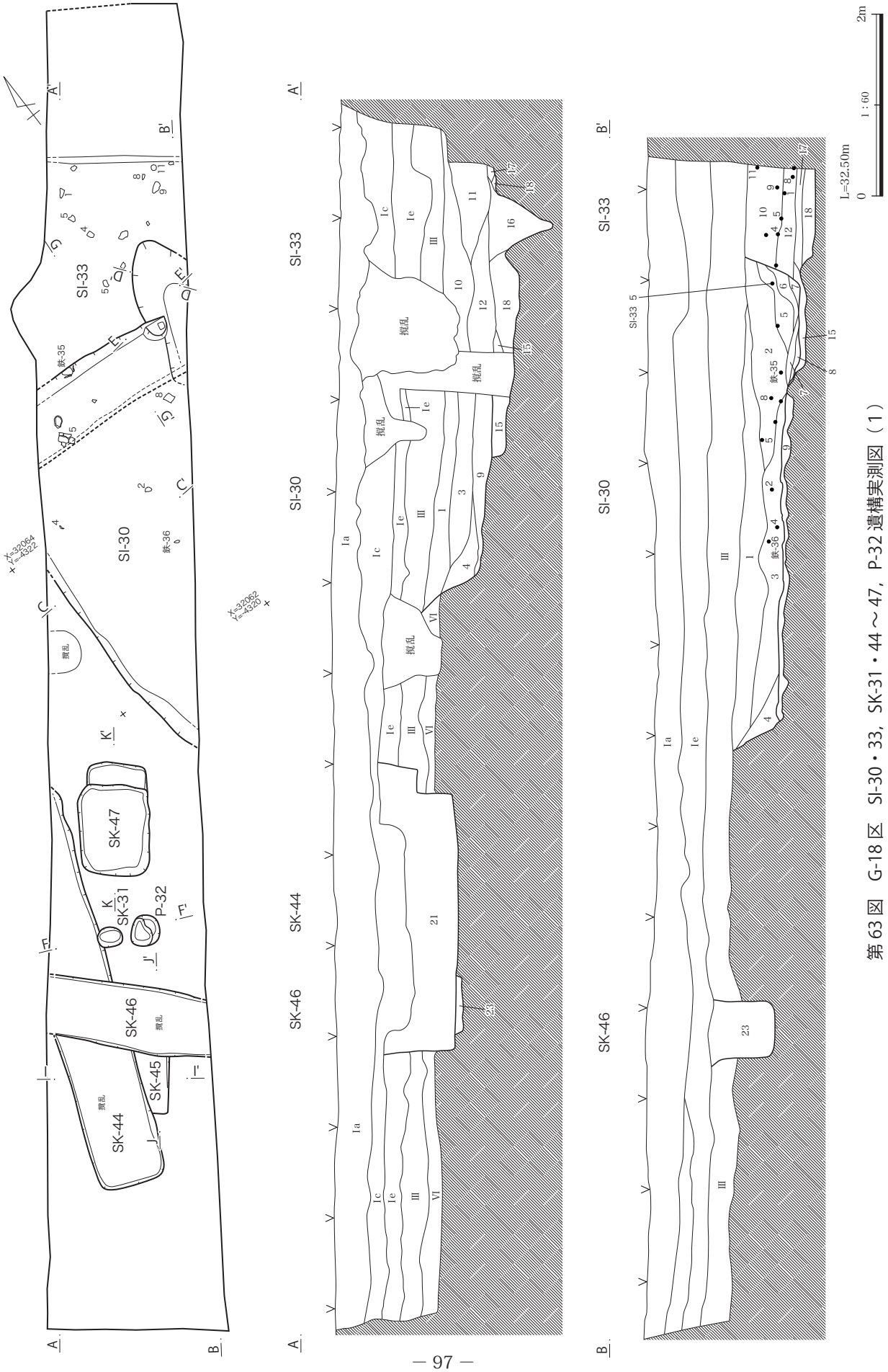
ＳＩ -30（第 63 ～ 66・77 図、第２・37・45 表、図版二五・二六・二七・五〇・五三）

位置　調査区の北。　**重複関係**　ＳＩ -33 より新しい。　**平面形状・規模**　長方形か。南北約 2.90 m、東西約 1.80 mが残存している。床面までの深さは 50㎝である。　**主軸方向**　Ｎ - ０°　**覆土**　自然埋没である。白色粘土が混入する。　**カマド**　ソデの芯材が直立している。角柱状の礫でホルンフェルス（チャート起源）である。ソデは灰白色粘土で構築されていたと考えられる。　**貯蔵穴・柱穴**　確認されていない。　**床面**　中央部は凹凸が見られる。掘方は深く、凹凸が激しい。　**壁溝**　確認されていない。　**遺物の出土状態**　１の皿がカマド内の下層より、鉄製の小刀や刀装具が床面より出土している。他は覆土中から出土している。**時期**　９世紀末～ 10 世紀か。

出土遺物　１と２はロクロ整形の土師器。３は内面に黒色処理が施される。５と７は武蔵型の甕、６は常総型の甕である。36 は小刀、37 は刀装具である。

ＳＩ -33（第 63 ～ 66・図、第２・37 表、図版二五・二七～二九・五〇）

位置　調査区の北。　**重複関係**　ＳＩ -30 より古い。　**平面形状・規模**　方形か。残存幅は約 1.60 mで、床面までの深さは 40㎝である。　**主軸方向**　Ｎ -38° - Ｅ　**覆土**　自然埋没である。炭化材が確認されている。**カマド・貯蔵穴**　確認されていない。　**柱穴**　貼床下より２基が確認されている。　**床面**　床面は硬化している。　**壁溝**　確認されていない。　**遺物の出土状態**　覆土中から出土している。　**その他**　拡張が確認さ



第63図　G-18区　SI-30・33，SK-31・44～47，P-32遺構実測図（1）

れた。掘方のピット床面から、拡張前に１回、拡張後２回の最大３時期が確認されている。　時期　７世紀末から８世紀初め。　出土遺物　１は皿。ロクロ整形である。３は黒色処理の土師器の坏である。13 ～ 17 は須恵器で、13 の高台付坏は内面が摩耗し、外面には自然釉が付着する。武蔵型の甕も出土している。

ＳＫ -31（第 63・64 図、第２表）

位置　調査区の南西。　重複関係　ＳＫ -44 より新しい。　平面形状・規模　長軸 0.30 m、短軸 0.20 m、深さ 15㎝の楕円形である。　主軸方向　Ｎ -60°- Ｗ　覆土　１層で、撹乱の可能性も考えられる。　底面　ほぼ平坦である。　時期　近現代の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -44（第 63・64 図、第２表、図版二九）

位置　調査区の南西。　重複関係　ＳＫ -45・46 より新しい。　平面形状・規模　長軸 4.50 m、短軸 0.75 mが残存し、深さ 55㎝の隅丸長方形である。　主軸方向　Ｎ -21°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　近現代の土坑か。　その他　イモ穴の可能性がある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -45（第 63・64 図、第２表、図版二九）

位置　調査区の南西。　重複関係　ＳＫ -44・46 より新しい。　平面形状・規模　長方形か。長軸 0.65 m、短軸 0.35 mが残存し、深さ 10㎝である。　主軸方向　Ｎ -34°- Ｅ　覆土　１層で、人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　近現代の土坑か。　その他　イモ穴の可能性がある。　出土遺物　確認されていない。

ＳＫ -46（第 63・64 図、第２表、図版二九）

位置　調査区の北。　重複関係　ＳＫ -45 より古く、36 より新しい。　平面形状・規模　長方形か。長軸 1.80 m、短軸 0.70 mが残存し、深さ 1.10mである。　主軸方向　Ｎ -46°- Ｗ　覆土　人為的な埋め戻しである。　底面　凹凸がみられる。　時期　近現代の土坑か。　その他　イモ穴の可能性がある。　出土遺物　確認されていない。

.

ＳＫ -47（第 63・64 図、第２表、図版三〇）

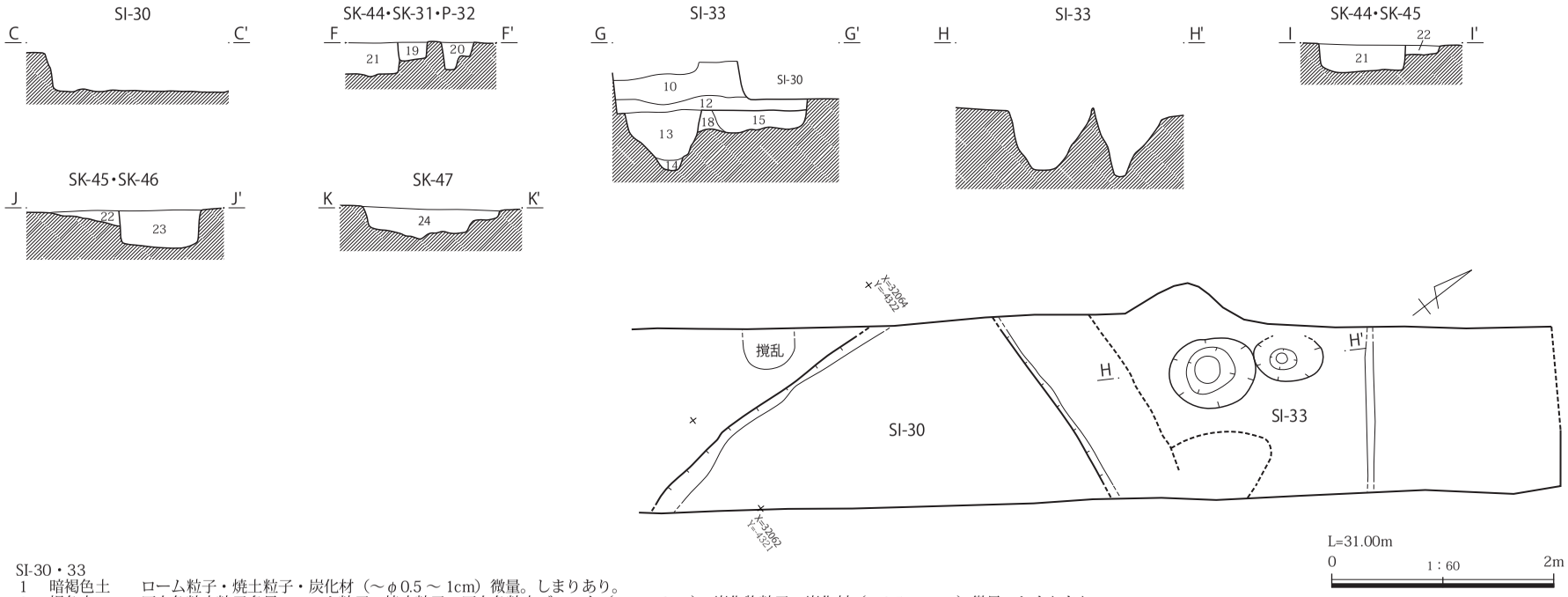
位置　調査区の北。　重複関係　ＳＫ -36 より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。長軸 1.25 m、短軸 0.75 m、深さ 25㎝である。　主軸方向　Ｎ -35°- Ｅ　覆土　自然埋没と考えられる。　底面　凹凸が著しく、段を持つ。　時期　近現代の土坑か。　出土遺物　確認されていない。

(2) 遺構外の遺物（第 67・77 図、第 38・45 表、図版五三）

土製紡錘車の破片が１点と釘も出土している。

６．Ｇ -19 区

掘削後、すぐに埋め戻しを行ったため、図面は作成していない。



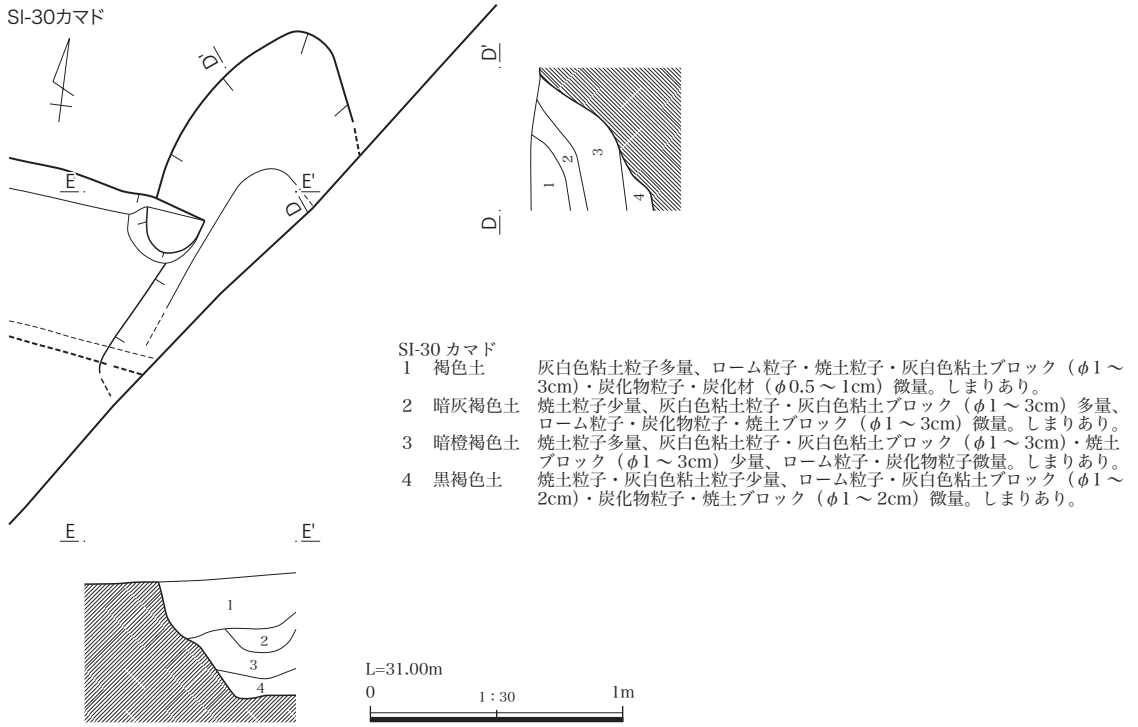
SI-30・33

1	暗褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化材（～φ0.5 ～ 1cm）微量。しまりあり。
2	褐色土	灰白色粘土粒子多量、ローム粒子・焼土粒子・灰白色粘土ブロック（φ1 ～ 3cm）・炭化物粒子・炭化材（φ0.5 ～ 1cm）微量。しまりあり。
3	明黒褐色土	ローム粒子少量、ロームブロック（φ1 ～ 3cm）・焼土粒子・炭化物粒子微量、しまりあり。
4	黒褐色土	ローム粒子多量、ロームブロック（φ1 ～ 3cm）少量。しまりあり。
5	暗灰褐色土	焼土粒子少量、灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ1 ～ 3cm）多量、ローム粒子・炭化物粒子・焼土ブロック（φ1 ～ 3cm）微量。しまりあり。
6	暗橙褐色土	焼土粒子多量、灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ1 ～ 3cm）・焼土ブロック（φ1 ～ 3cm）少量、ローム粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
7	黒褐色土	焼土粒子・灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・灰白色粘土ブロック（φ1 ～ 2cm）・炭化物粒子・焼土ブロック（φ1 ～ 2cm）微量。しまりあり。
8	暗黒褐色土	ロームブロック（φ0.5 ～ 2cm）少量、ローム粒子微量。しまりあり。
9	暗黄褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 6 cm）多量。しまりあり。
10	明黒褐色土	ローム粒子・焼土粒子・炭化材（φ0.5 ～ 1.5cm）微量。
11	暗褐色土	焼土粒子・灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・炭化材（～φ0.5cm）・焼土ブロック（φ0.5 ～ 1cm）・灰白色粘土ブロック（φ1 ～ 3cm）微量。しまりあり。
12	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ0.5 ～ 1cm）・焼土粒子微量。
13	褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 3cm）・黒色土粒子少量、黒色土ブロック（φ1 ～ 3cm）微量。
14	明黒褐色土	ローム粒子・黒色土粒子・黒色土ブロック（φ1 ～ 3cm）少量、ロームブロック（φ1 ～ 3cm）多量。しまりあり。
15	明褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 5cm）・黒色土ブロック（φ1 ～ 5cm）少量、明黄褐色ローム粒子・明黄褐色ロームブロック（φ1 ～ 2cm）微量。
16	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 5cm）少量、明黄褐色土ブロック（φ1 ～ 2cm）・黒色土ブロック（φ1 ～ 5cm）・灰白色粘土ブロック（φ0.5 ～ 1cm）微量。しまりあり。
17	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ0.5 ～ 1cm）少量、明黄褐色ロームブロック（φ0.5 ～ 1cm）・焼土ブロック（～φ0.5cm）・黒色土ブロック（φ0.5 ～ 1cm）微量。しまりあり。
18	褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 5cm）少量、明黄褐色土ブロック（φ1 ～ 2cm）・黒色土ブロック（φ1 ～ 5cm）微量。しまりあり。

SK-31・44～47・P-32

19	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック少量。しまりなし。
20	暗褐色土	ローム粒子多量。しまりややあり。
21	黒褐色土	ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。
22	黒褐色土	ロームブロック少量。しまりなし。
23	暗褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ2 ～ 4cm）多量。しまりなし。
24	黒褐色土	ローム粒子・ロームブロック（φ1 ～ 3cm）多量。しまりややなし。

第 64 図　G-18 区　SI-30・33，SK-31・44 ～ 47，P-32 遺構実測図（２）



第 65 図　G-18 区　SI-30 カマド遺構実測図

第 36 表　G-18 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-32	S-32	5 次	G-18	63・64	2	29	N-0°	楕円形	0.35	0.30	0.25	

遺物も出土していない。

7. G -20 区

調査区はＡ～Ｃの３つに分かれる。

住居跡３軒、ピット 13 基が確認されている。

Ｉｃはやや古い段階の路面のための整地層。14 Ｂ～Ｄ・15 Ａ・18・20 区まで確認されている。

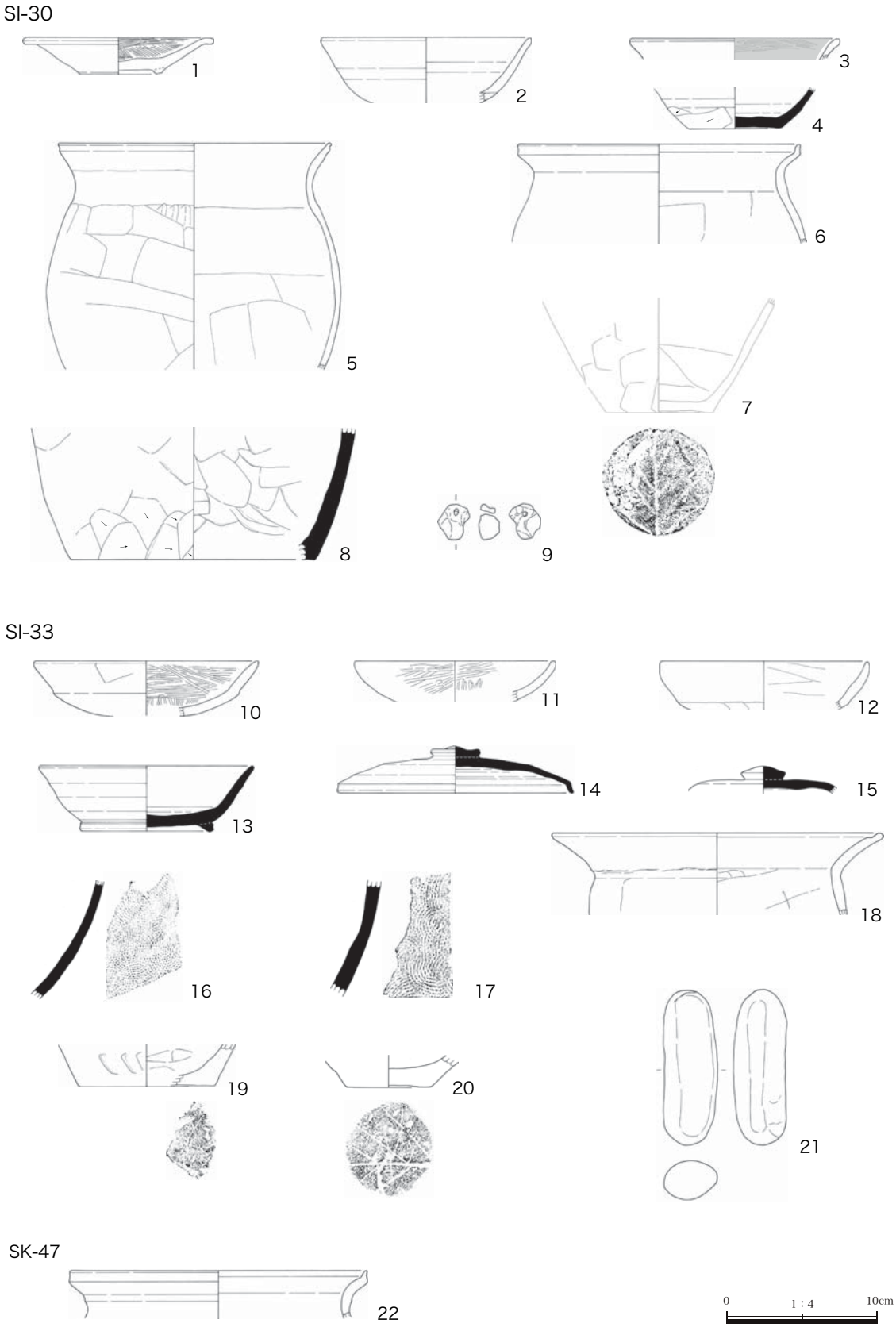
Ｉｄは土管より古いと考えられ、近代の撹乱層である。

Ａ区　住居跡が 1 軒、ピット 11 基が確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ - ６（第 67・68 図、第２・40 表、図版三一・三二・五〇）

位置　調査区の北。　重複関係　Ｐ -19 より古く、Ｐ - ７・15・19 より新しい。　平面形状・規模　隅丸長方形か。南北約 1.10 m、東西約 2.85 mが残存している。床面までの深さは 70㎝である。　主軸方向　Ｎ -64° - Ｅ　覆土　自然埋没である。白色粘土が混入する。　カマド　確認されていないが、ＳＩ -6 の北西部に粘土が多くみられることや、カマドのソデに使用された流紋岩質溶結凝灰岩が出土していることか



第 66 図　G-18 区　SI-30・33，SK-47 出土遺物実測図

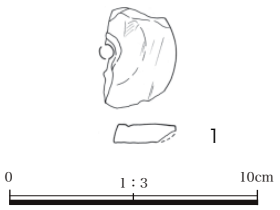
第 37 表　G-18 区 SI-30・33,SK-47 出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
66	1	土師器 皿	口径（12.1） 底径（5.5） 器高　2.4	外面 5YR6/6 橙 内 7.5YR5/6 明褐	砂粒少量、 赤色粒子微量	良好		ロクロ整形 口縁～底部外面ミガキ 口縁～底部内面ヨコナデ	口縁～底部 1/4 残存	覆土中 カマド内 下層	G-18 SI-30 カマド 下層	
66	2	土師器 坏	口径（13.7） 底径　- 器高［4.3］	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR5/2 灰黄褐	砂粒少量、 金雲母微量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 体部下端ナデ	口縁～体部 一部残存	覆土中	G-18 SI-30 №3	
66	3	土師器 坏	口径（13.8） 底径　- 器高［1.4］	外面 10YR6/4 にぶい黄橙 内 10YR1.7/1 黒	砂粒少量	良好	内面 黒色処理	口縁部外面ヨコナデ 口縁部内面ヘラミガキ	口縁部一部 残存	覆土中 カマド内	G-18 SI-30b カマド	
66	4	須恵器 坏	口径　- 底径（6.2） 器高［3.7］	外面 N5/0 灰 内面 10Y5/1 灰	砂粒多量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 体部下端ヘラケズリ 底部静止糸切り	体～底部 1/4 残存	覆土中	G-18 SI-30 №5	
66	5	土師器 甕	口径（18.0） 底径　- 器高［15.0］	5YR5/6 明赤褐	砂粒少量、 黒雲母微量	良好		口縁部外内面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ナデ	口縁～胴部 1/3 残存	覆土中	G-18 SI-30 №6	
66	6	土師器 甕	口径（18.7） 底径　- 器高［6.6］	5YR5/6 明赤褐	砂粒少量、 赤色粒子微量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部上半ナデ	口縁～胴部 一部残存	覆土中	G-18 SI-30 ５層	
66	7	土師器 甕	口径　- 底径　7.0 器高［7.7］	外面 10YR5/3 にぶい黄褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒多量	良好	胴～底部 外面　黒斑	胴部外面ヘラケズリ 底部外面ナデ・木葉痕 胴～底部内面ナデ	胴～底部 完存	覆土中	G-18 SI-30	
66	8	須恵器 甕	口径　- 底径（16.2） 器高［8.7］	外面 N5/0 灰 内面 N5/0 灰	砂粒少量	良好			胴下半～底 部一部残存	覆土中	G-18 SI-30 №8	
66	9	焼粘土 塊	長　2.40 幅　2.06 厚　1.30 重　2.75	5YR6/6 橙 5YR4/4 にぶい赤褐	砂粒・礫少量、 黒色粒子微量	良好			完存	覆土中	G-18 SI-30	
66	10	土師器 坏	口径 (14.8) 底径　- 器高 [3.6]	外面 7.5YR4/2 灰褐 内面 7.5YR5/4 にぶい褐	砂粒微量	良好	口縁～体部 内面 黒色処理 口縁部磨滅	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ヘラケズリ 口縁～体部内面ヘラミガキ	口縁～体部 一部残存	覆土中	G-18 SI-33 №7	
66	11	土師器 坏	口径 (13.2) 底径　- 器高 [2.7]	5YR5/6 明赤褐	砂粒微量	良好		内湾 口縁～体部外内面ヘラミガキ	口縁～体部 一部残存	覆土中	G-18 SI-33 西上層	
66	12	土師器 坏	口径 (13.7) 底径　- 器高 [3.2]	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR8/3 浅黄橙	砂粒・ 黒雲母微量	良好	口縁部内 面・口縁～ 体部外面 漆仕上げ	口縁部外面ヨコナデ 体部外面ヘラケズリ 口縁～体部内面ナデ	口縁～体部 一部残存	覆土中	G-18 SI-33 東上層	
66	13	須恵器 高台付 坏	口径 (14.0) 底径 (8.7) 器高　4.3	外面 5Y7/1 灰白 内面 5Y5/1 灰	砂粒少量	良好	外面 自然 釉内面 磨 耗	ロクロ整形 水引痕顕著 口縁～体部外面ナデ 口縁部内面ナデ	口縁～底部 1/4 残存	覆土中	G-18 SI-33 №4	
66	14	須恵器 蓋	口径 (15.8) 底径　- 器高 [3.1]	10YR4/2 灰黄褐	白色粒子少量、 砂粒微量	不良		ボタン状のつまみ ロクロ整形 水引痕顕著 口縁～体部ナデ 底部ヘラ切り	端～天井部 1/4 残存	覆土中	G-18 SI-33 №9・ 下層	
66	15	須恵器 蓋	口径　- 底径　- 器高 [1.7]	外面 5Y7/2 灰白 内面 N7/0 灰	砂粒・ 黒色粒子微量	良好	天井部外面 自然釉	宝珠状のつまみ ロクロ整形 水引痕顕著 口縁～体部外面ナデ 口縁部内面ナデ	天井部 1/2 残存	覆土中	G-18 SI-33 東上層	
66	16	須恵器 甕	口径　- 底径　- 器高　- 器厚　0.6	外面 2.5Y5/1 黄灰	砂粒・ 銀雲母少量	良好		胴部外面同心円タタキ 胴部内面ナデ	胴部一部 残存	覆土中	G-18 SI-33 東上層	
66	17	須恵器 甕	口径　- 底径　- 器高　- 器厚　0.9	外面 5Y5/1 灰	砂粒・銀雲母 少量	良好		胴部外面同心円タタキ 胴部内面ナデ	胴部一部 残存	覆土中	G-18 SI-33 №3	
66	18	土師器 甕	口径 (22.0) 底径　- 器高 [5.4]	5YR5/6 明赤褐	赤色粒子少量、 砂粒微量	良好		口縁部外内面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ヘラナデ	口縁～頸部 1/5 残存	覆土中	G-18 SI-33 №2	
66	19	土師器 甕	口径　- 底径 (8.9) 器高 [2.7]	外面 5YR5/6 明赤褐 内面 10YR6/3 にぶい黄橙	砂粒少量、 赤色粒子・ 金雲母微量	良好		胴部外面ヘラナデ 底部外面木葉痕 胴～底部内面ナデ	底部 1/4 残存	覆土中	G-18 SI-33	

66	20	土師器 甕	口径　- 底径　5.8 器高 [2.0]	外 10YR1.7/1 黒 内面 10YR5/3 にぶい黄橙	砂粒少量、 金雲母微量	良好		底部外面木葉痕 底部内面ナデ	底部完存	覆土中	G-18 SI-33 № 1	
66	21	編物石 か	長　10.28 幅　3.64 厚　2.59 重 151.24		安山岩				完存	貼床中	G-18 SI-33 掘方	
66	22	土師器 甕	口径 (19.7) 底径　- 器高［3.2］ 最大 (19.9) 器厚　0.6	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 10YR5/3 にぶい黄褐	透明粒子微量、 赤色粒子若干	良好		口縁部はＳ字状 口縁部外内面ヨコナデ	口縁部 1/8 残存	覆土中	G-18 S-47	

ら、近くに存在すると考えられる。　**貯蔵穴・柱穴**　確認されていない。　床面中央部は床面が硬化し、若干の凹凸がみられる。　**壁溝**　南西部で確認されている。　**遺物の出土状態**　北部は床面付近より、南部は覆土上層から出土している。　**時期**　ＳＩ - ６は９世紀中葉か。　**出土遺物**　１～３の内面はヘラミガキされ、黒色処理が施される。外面の底部周辺は手持ちヘラケズリ、底部は糸切りである。４と５は須恵器の坏で、体部下端ヘラケズリ、４は底部静止糸切り、５は回転糸切りである。６～８の常総型の甕が出土している。９は焼きが悪い須恵器の甕である。10 は住居跡より新しい時期の可能性が高い。

Ｂ区　住居跡が１軒、ピット２基が確認されている。



第 67 図　G-18 区　遺構外出土遺物実測図

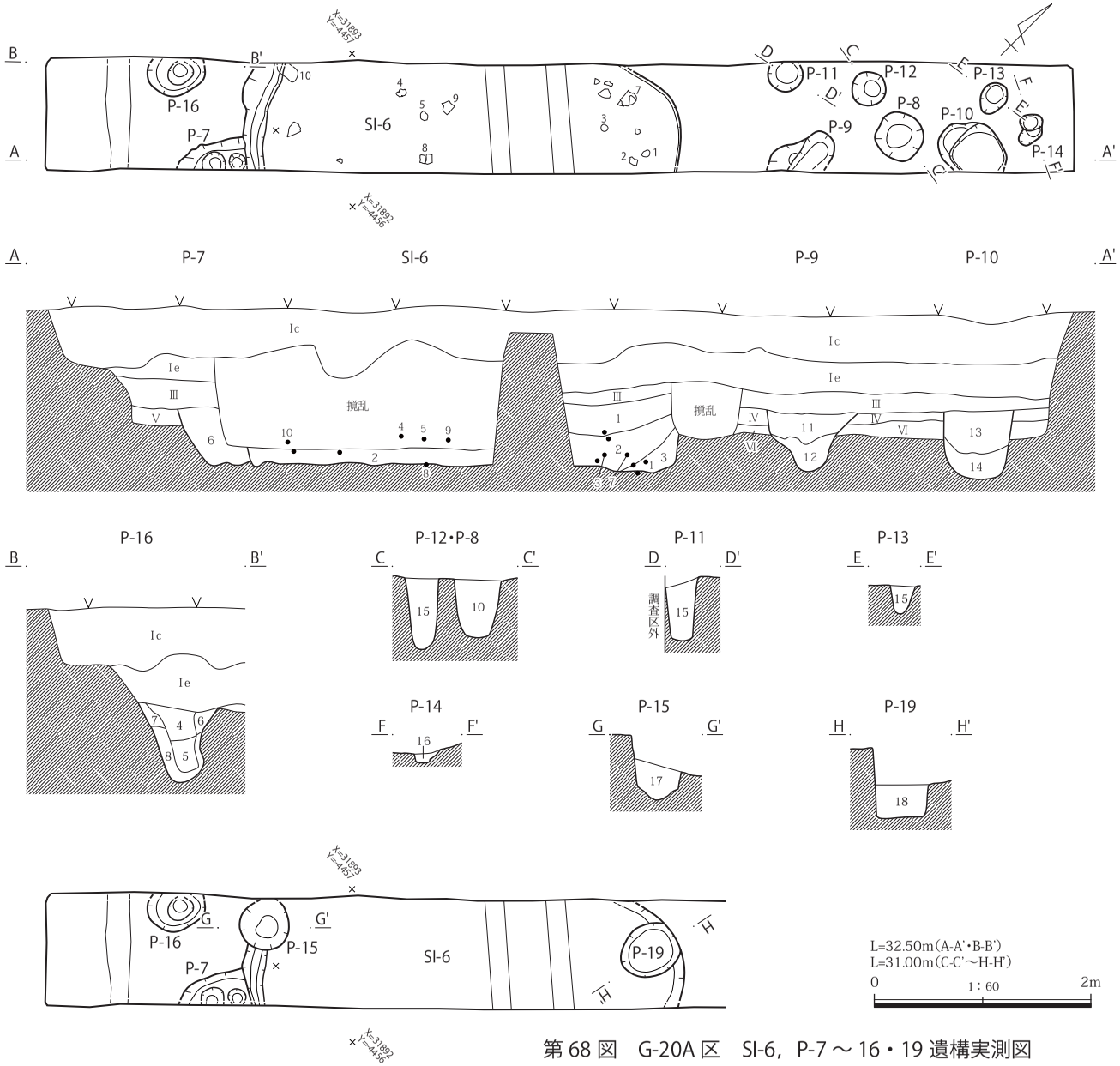
第 38 表　G-18 区遺構外出土遺物観察表

図版 No	No	種類 器種	計測値 （cm・ｇ）	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
67	1	土製 紡錘車	長 2.30 幅 2.01 厚 0.72 重 5.56	表 5YR5/4 にぶい赤褐 裏 7.5YR6/3 にぶい褐	白色粒子微量、 透明粒子・ 赤色粒子若干	良好	裏面剥離する	円盤状	1/2 残存	覆土中	G-18	

(1) 遺構

ＳＩ - ５（第 70・71 図、第２・42 表、図版三四・三五・五一）

　位置　調査区の南西。　**重複関係**　Ｐ -18 より古い。　**平面形状・規模**　長方形か。南北約 3.40 m、東西約 1.55 mが残存している。床面までの深さは 55㎝である。　**主軸方向**　Ｎ -45°- Ｅ　**覆土**　自然堆積である。灰白色粘土が混入する。　**カマド**　右側のソデが残存する。カマドの周辺は粘土が薄く層状に確認され、作り変えの可能性が考えられる。　**貯蔵穴**　カマドの右脇の床下より不整形の掘り込みが確認されている。埋め戻している。　**柱穴**　南西部の床下から確認されている。長軸は 0.65 mで段を持つ。　**床面**　カマド右



SI-6

1　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。緻密な土。

2　明黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子少量、ロームブロック（φ1～3cm）・炭化物粒子微量。しまりあり。

3　黒褐色土　ローム粒子・焼土粒子微量。しまりあり。

P-7～16・19

4　暗褐色土　ローム粒子少量、炭化物粒子微量。しまりややなし。

5　灰褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック・炭化物粒子少量。しまりややあり。

6　淡灰褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややなし。

7　淡灰褐色土　ローム粒子少量。しまりややあり。

8　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりあり。

9　黒褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～6cm）・黒色土ブロック（φ1～6cm）微量。しまりあり。上層はやや緻密。黒っぽい覆土。

10　黒褐色土　ローム粒子少量。しまりややなし。

11　黒褐色土　ローム粒子少量。しまりあり。

12　淡灰褐色土　ローム粒子やや多量、ロームブロック少量。しまりややあり。

13　灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量、炭化物粒子微量。しまりややあり。下方はローム粒子多量。

14　灰褐色土　10層よりローム粒子多い。

15　黒褐色土　ロームブロック多量。しまりややなし。

16　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりなし。

17　暗褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック（φ1～3cm）少量。しまりあり。ローム多い覆土。

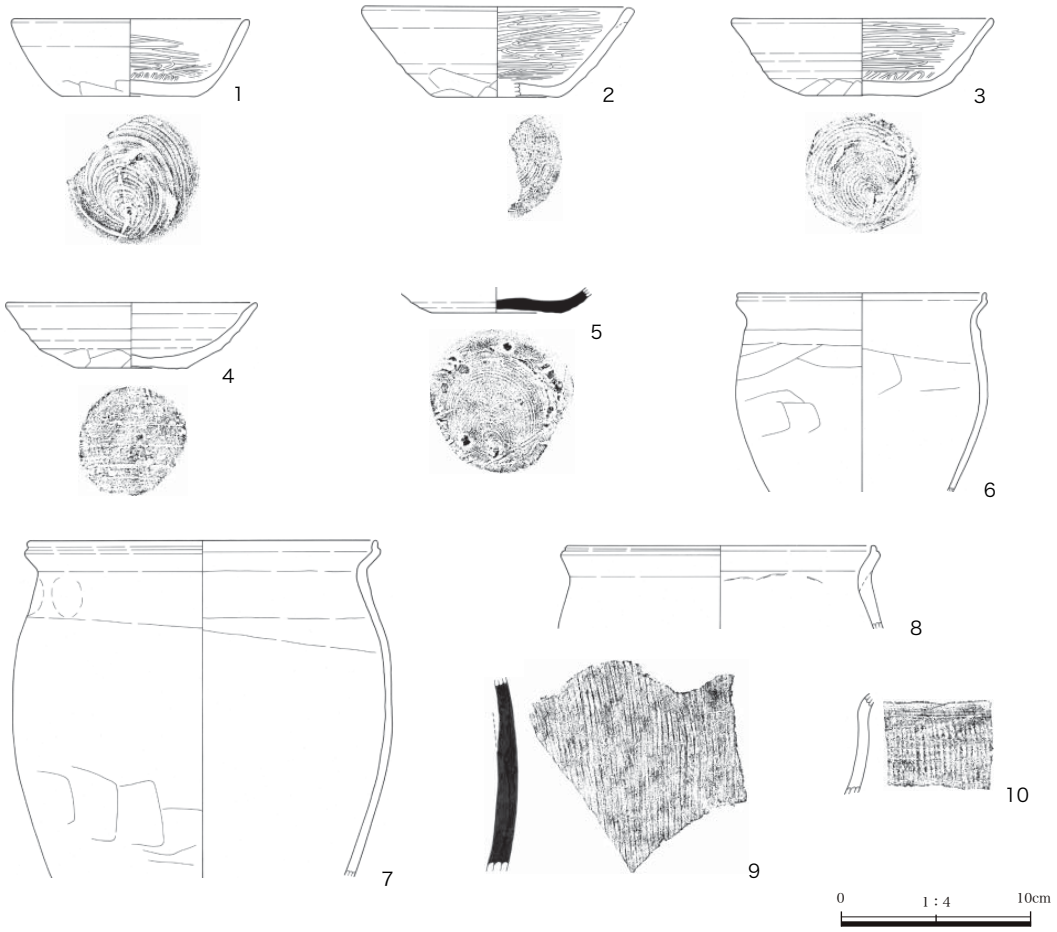
18　暗灰褐色土　ローム粒子少量、炭化物粒子微量。しまりややなし。

第 68 図　G-20A 区　SI-6，P-7 ～ 16・19 遺構実測図

第 39 表　G-20A 区 Pit 一覧表

遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-7	S-7	５次	G-20A	68	２・39	-	N-47°-E	不整楕円形	[0.65]	[0.30]	0.55	
P-8	S-8	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	円形	0.45	0.45	0.50	
P-9	S-9	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	不整楕円形	[0.50]	0.35	0.55	
P-10	S-10	５次	G-20A	68	２・39	32	N-80°-E	不整楕円形	0.65	0.45	0.60	
P-11	S-11	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	円形	0.30	0.30	0.65	
P-12	S-12	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	円形	0.30	0.25	0.55	
P-13	S-13	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	楕円形	0.30	0.25	0.25	
P-14	S-14	５次	G-20A	68	２・39	32	N-8°-E	不整形	0.40	0.30	0.10	
P-15	S-15	５次	G-20A	68	２・39	32	N-0°	不整形	0.45	0.40	0.60	
P-16	S-16	５次	G-20A	68	２・39	32	N-8°-E	楕円形	0.55	0.35	0.70	
P-19	S-19	５次	G-20A	68	２・39	-	N-0°	楕円形	0.55	0.45	0.30	

脇の壁際を除き、床面は硬化している。旧床面はローム主体で硬化している。掘り方は中央部を掘り下げる。**壁溝**　北東部で確認されている。　**遺物の出土状態**　カマドの右脇の覆土中から出土している。　**時期**　時期不明。　**出土遺物**　武蔵型の甕の破片や須恵器の坏や蓋が出土している。



第 69 図　G-20A 区　SI-6 出土遺物実測図

第 40 表　G-20A 区 SI-6 出土遺物観察表

図版No	No	種類器種	計測値（cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
69	1	土師器 坏	口径（12.4） 底径（7.0） 器高　4.0	外面 10YR5/3 にぶい黄褐 内 10YR1.7/1 黒	砂粒少量、 礫若干	良好	口縁～底部内面 黒色処理 口縁部内面荒れ ている	ロクロ整形 水引痕顕著口縁～体部 外面ヨコナデ 口縁部内面ヘラミガキ 体部下端ヘラケズリ 底部回転糸切り	口縁～底部 1/3 残存	床上 16cm	G-20A SI-6 № 1	
69	2	土師器 坏	口径（13.9） 底径（6.6） 器高　4.7	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 5YR5/6 明赤褐	砂粒多量	良好	口縁～底部内面 黒色処理	ロクロ整形 水引痕顕著 口縁部外面ナデ 口縁部内面ヘラミガキ 体部下端ヘラケズリ 底部回転糸切り	口縁～底部 1/4 残存	床面直 上・床下	G-20A SI-6 床面 •S-19 床下	
69	3	土師器 坏	口径（13.7） 底径　6.2 器高　4.0	外面 10YR5/4 にぶい黄褐 内面 5YR6/6 橙	白色粒子 少量、 砂粒微量	良好	口縁～底部内面 黒色処理	ロクロ整形 水引痕有 口縁～体部外面・口縁 部内面ヨコナデ 体部下端ヘラケズリ	口縁～底部 1/4 残存	北東部 床面 直上	G-20A SI-6 № 5	
69	4	土師器 坏	口径（13.1） 底径　6.0 器高　3.5	5YR7/6 橙	砂粒多量、 礫少量	不良		ロクロ整形 水引痕顕著 口縁～体部外面・口縁 部内面ヨコナデ 体部下端ヘラケズリ 底部静止糸切り	口縁～底部 1/3 残存	中央部 覆土 上層	G-20A SI-6 № 12	
69	5	須恵器 坏	口径　- 底径（6.8） 器高［1.3］	10YR7/2 にぶい黄橙	砂粒・白色 粒子微量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 体部外面ヨコナデ 口縁部内面ナデ 底部回転糸切り	底部完存	中央部 床面 直上	G-20A SI-6 № 10	
69	6	土師器 甕	口径（16.2） 底径　- 器高［4.3］	外面 7.5YR4/2 灰褐 内面 7.5YR3/1 黒褐	砂粒少量、 金雲母若干	良好	口縁部内面 黒化	口縁部外内面ヨコナデ	口縁部 1/3 残存	床面 直上	G-20A SI-6 № 16• 床面	
69	7	土師器 甕	口径（18.4） 底径　- 器高［17.8］ 最大径 (20.0)	外面 5YR6/6 橙 内面 5YR6/8 橙	砂粒少量、 白色粒子・ 赤色粒子微 量	良好		口縁部外内面ヨコナデ 胴部外面上半・内面ナ デ　胴部外面下半ヘラ ケズリ	口縁～胴部 1/3 残存	北東部 床面 直上	G-20A SI-6 № 4• 覆土 北	
69	8	土師器 甕	口径（13.0） 底径　- 器高［10.5］	外面 5YR6/6 橙 内面 5YR7/6 橙	砂粒多量、 礫若干	良好		口縁部外内面ヨコナデ 胴部外面ヘラケズリ 胴部内面ナデ	口縁～胴部 一部残存	床上 5cm	G-20A SI-6 № 9	
69	9	須恵器 甕	口径　- 底径　- 器高　- 器厚　1.0	外面 10YR5/1 褐灰 内面 10YR4/2 灰黄褐	白色粒子多 量、砂粒少 量	不良		胴部外面並行タタキ 胴部内面ナデ	胴部一部 残存	中央部 覆土 上層	G-20A SI-6 № 11	
69	10	須恵器 鉢	口径　- 底径　- 器高［5.2］	外面 10YR5/2 灰黄褐 内面 10YR5/3 にぶい黄褐	白色粒子少 量、砂粒微 量	不良		口縁部外面ヨコナデ 胴部外面並行タタキ 胴部内面ナデ 内面に指頭痕	頸～体部 一部残存	覆土中	G-20A SI-6 № 15	

第 41 表　G-20B 区 Pit 一覧表

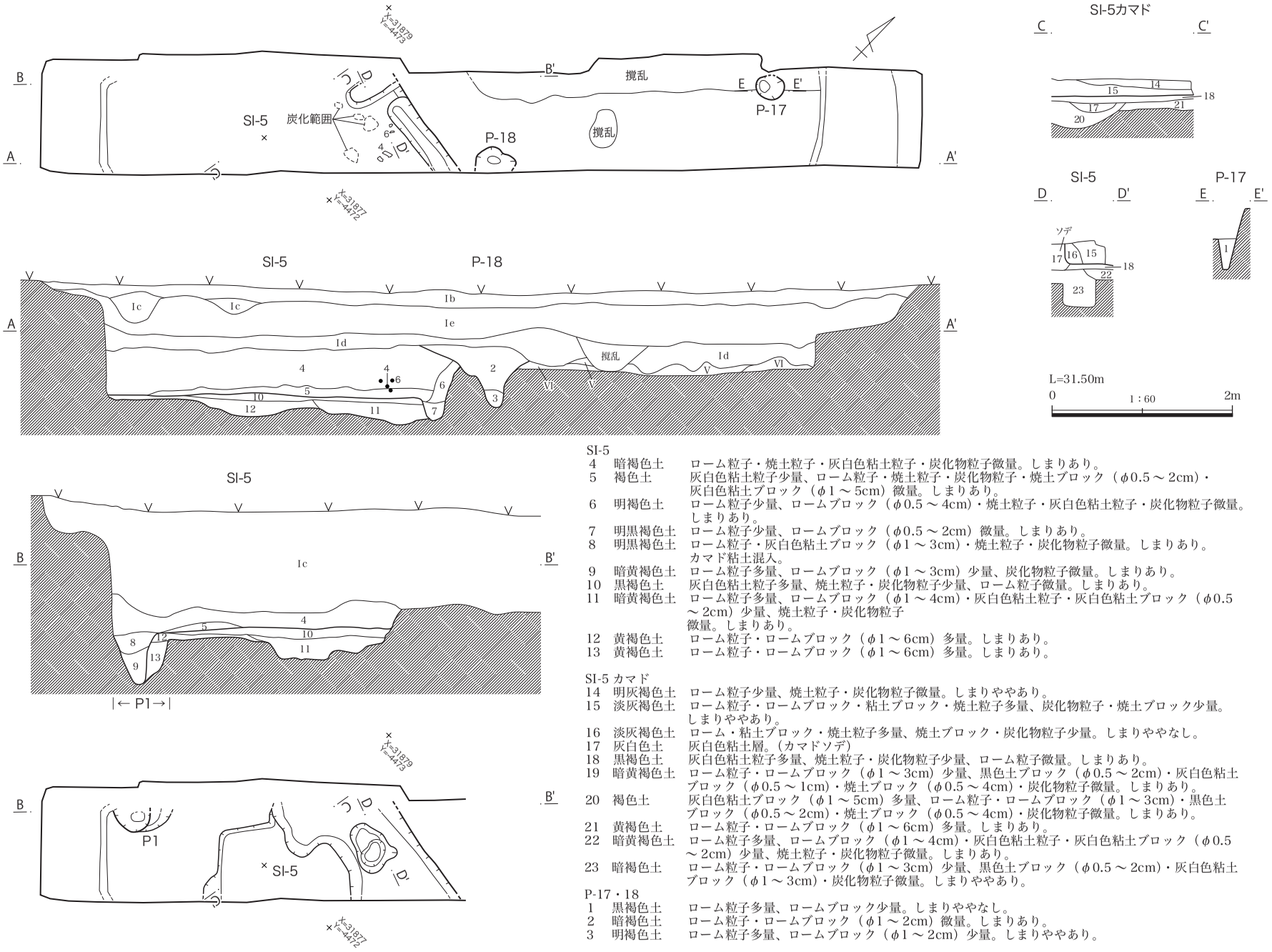
遺構番号	旧番号	調査年度	調査区	掲載図版	表	写真図版	主軸方向	形状	長軸	短軸	深さ	備考
P-17	S-17	5 次	G-20B	70	2・41	35	N-21°-W	楕円形	0.30	0.25	0.35	
P-18	S-18	5 次	G-20B	70	2・41	36	N-46°-E	不整楕円形	0.45	［0.35］	0.65	

Ｃ区　住居跡が 1 軒確認されている。

(1) 遺構

ＳＩ－４（第 72・73 図、第 2・43 表、図版三六・三七・五一）

位置　調査区の北東。　重複関係　なし。　平面形状・規模　長方形か。南北約 1.55 m、東西約 1.25 m が残存している。床面までの深さは 45cmである。　主軸方向　Ｎ－０°　覆土　自然堆積である。焼土と炭化物が混入する。　カマド　確認されていない。　貯蔵穴・柱穴　確認されていない。　床面　床面はロームをそのまま床面とする。北西部は貼床される。北西部から長軸 0.55 m、短軸 0.45 m、深さ 18cmの掘り方と考えられる掘り込みが確認されている。貼床を除去後、東側にも掘り込みが確認された。作り替えの可能性



SI-5

4　暗褐色土　ローム粒子・焼土粒子・灰白色粘土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
5　褐色土　灰白色粘土粒子少量、ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子・焼土ブロック（φ0.5～2cm）・灰白色粘土ブロック（φ1～5cm）微量。しまりあり。
6　明褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック（φ0.5～4cm）・焼土粒子・灰白色粘土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
7　明黒褐色土　ローム粒子少量、ロームブロック（φ0.5～2cm）微量。しまりあり。
8　明黒褐色土　ローム粒子・灰白色粘土ブロック（φ1～3cm）・焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。カマド粘土混入。
9　暗黄褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック（φ1～3cm）少量、炭化物粒子微量。しまりあり。
10　黒褐色土　灰白色粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子微量。しまりあり。
11　暗黄褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック（φ1～4cm）・灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ0.5～2cm）少量、焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
12　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～6cm）多量。しまりあり。
13　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～6cm）多量。しまりあり。

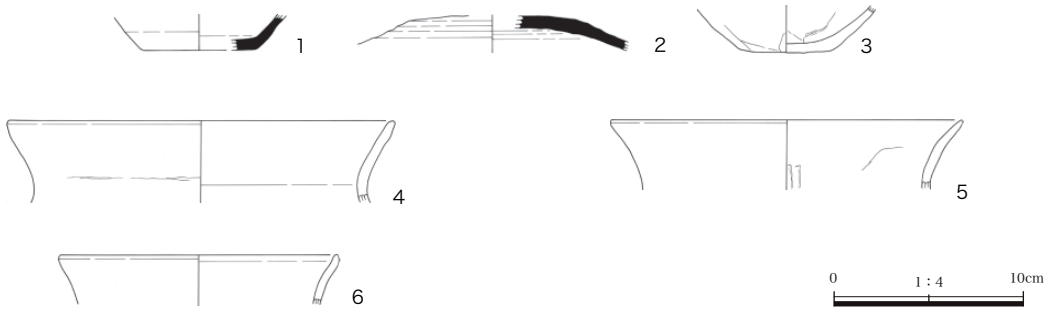
SI-5 カマド

14　明灰褐色土　ローム粒子少量、焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりややあり。
15　淡灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック・粘土ブロック・焼土粒子多量、炭化物粒子・焼土ブロック少量。しまりややあり。
16　淡灰褐色土　ローム・粘土ブロック・焼土粒子多量、焼土ブロック・炭化物粒子少量。しまりややなし。
17　灰白色土　灰白色粘土層。（カマドソデ）
18　黒褐色土　灰白色粘土粒子多量、焼土粒子・炭化物粒子少量、ローム粒子微量。しまりあり。
19　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～3cm）少量、黒色土ブロック（φ0.5～2cm）・灰白色粘土ブロック（φ0.5～1cm）・焼土ブロック（φ0.5～4cm）・炭化物粒子微量。しまりあり。
20　褐色土　灰白色粘土ブロック（φ1～5cm）多量、ローム粒子・ロームブロック（φ1～3cm）・黒色土ブロック（φ0.5～2cm）・焼土ブロック（φ0.5～4cm）・炭化物粒子微量。しまりあり。
21　黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～6cm）多量。しまりあり。
22　暗黄褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック（φ1～4cm）・灰白色粘土粒子・灰白色粘土ブロック（φ0.5～2cm）少量、焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
23　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～3cm）少量、黒色土ブロック（φ0.5～2cm）・灰白色粘土ブロック（φ1～3cm）・炭化物粒子微量。しまりややあり。

P-17・18

1　黒褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック少量。しまりややなし。
2　暗褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～2cm）微量。しまりあり。
3　明褐色土　ローム粒子多量、ロームブロック（φ1～2cm）少量。しまりややあり。

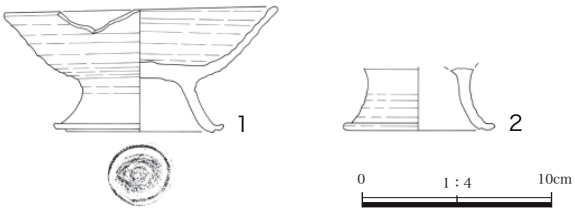
第70図　G-20B区　SI-5，P-17・18遺構実測図



第 71 図　G-20B 区　SI-5 出土遺物実測図

第 42 表　G-20B 区 SI-5 出土遺物観察表

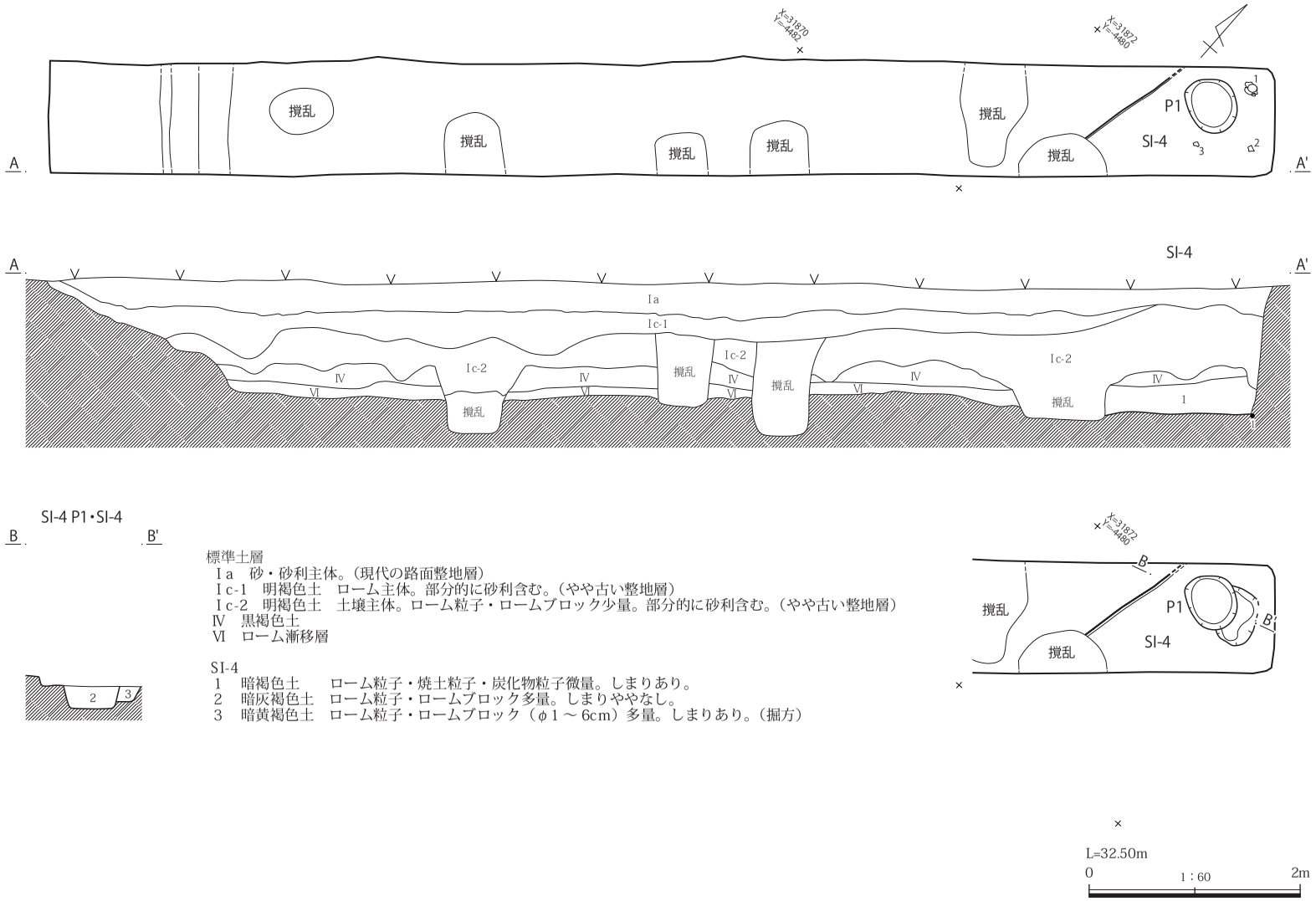
図版No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
71	1	須恵器 坏	口径 - 底径 (6.0) 器高 [1.8]	N5/0 灰	礫少量、砂粒微量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 底部二次調整ヘラケズリ	体～底部一部残存	P1 覆土中	G-20B SI-5 P1	
71	2	須恵器 蓋	口径 - 底径 (8.9) 器高 [1.8]	2.5Y5/1 黄灰	礫微量、砂粒若干	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 底部二次調整回転ヘラケズリ	天井部 1/4 残存	覆土中	G-20B SI-5	
71	3	土師器 甕	口径 - 底径 (4.7) 器高 [2.5]	外面 10YR4/2 灰黄褐 内面 10YR3/1 黒褐	砂粒少量、礫・黒色粒子・赤色粒子微量	良好		底部内面ヘラナデ 底部外面ヘラケズリ 底面はやや丸味をおびる	底部 1/4 残存	貼床内	G-20B SI-5 新期 貼床内	
71	4	土師器 甕	口径 (20.6) 底径 - 器高 [4.4]	5YR5/6 明赤褐	砂粒多量、赤色粒子・黒雲母少量	良好		口縁部外内面 ヨコナデ	口縁部一部残存	床上 16 cm	G-20B SI-5 №. 1	
71	5	土師器 甕	口径 (18.6) 底径 - 器高 [3.6]	5YR5/6 明赤褐	砂粒多量、赤色粒子・黒雲母少量	良好		口縁部ヨコナデ 胴部外面ナデ 胴部内面ヘラナデ	口縁部 1/4 残存	覆土中・壁構内	G-20B SI-5 壁溝内・カマド右壁溝内	
71	6	土師器 甕	口径 (14.8) 底径 - 器高 [2.6]	5YR6/8 橙	砂粒多量、赤色粒子少量、黒色粒子微量	良好	口縁部内外面 荒れている	口縁部ヨコナデ	口縁部一部残存	床面直上	G-20B SI-5 №. 3	



第 72 図　G-20C 区　SI-4 出土遺物実測図

第 43 表　G-20C 区 SI-4 出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 (cm・g)	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
72	1	土師器 高台付坏	口径 14.4 底径 7.0 器高 6.6	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR6/3 にぶい黄橙	砂粒多量、透明粒子微量	良好	口縁～体部内外面 油煙	ロクロ整形 水引痕顕著 口縁部ヨコナデ 底部二次調整回転ヘラケズリ	ほぼ完形	床面直上	G-20C SI-4 №. 1・床下	口縁の一部を欠き灯明具としている
72	2	土師器 高台付坏	口径 - 底径 (8.0) 器高 [3.2]	外面 10YR6/3 にぶい黄橙 内面 10YR7/3 にぶい黄橙	砂粒少量、白色粒子微量	良好		ロクロ整形 水引痕顕著 体～底部外面ヨコナデ 体～底部内面ナデ	脚部 1/6 残存	床面直上	G-20C SI-4 №. 3	



標準土層
Ⅰa　砂・砂利主体。（現代の路面整地層）
Ⅰc-1　明褐色土　ローム主体。部分的に砂利含む。（やや古い整地層）
Ⅰc-2　明褐色土　土壌主体。ローム粒子・ロームブロック少量。部分的に砂利含む。（やや古い整地層）
Ⅳ　黒褐色土
Ⅵ　ローム漸移層

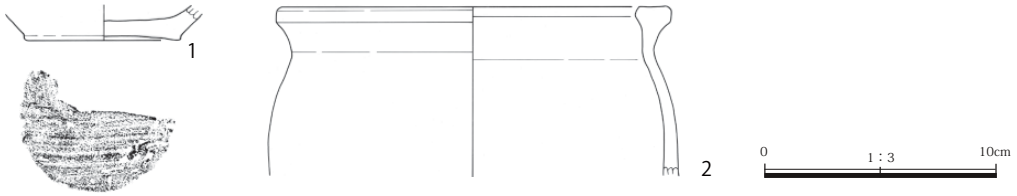
SI-4
1　暗褐色土　　ローム粒子・焼土粒子・炭化物粒子微量。しまりあり。
2　暗灰褐色土　ローム粒子・ロームブロック多量。しまりややなし。
3　暗黄褐色土　ローム粒子・ロームブロック（φ1～6cm）多量。しまりあり。（掘方）

第73図　G-20C区　SI-4遺構実測図

がある。 **壁溝**　確認されなかった。 **遺物の出土状態**　床面付近から出土している。 **時期**　10 世紀前半か。
出土遺物　１と２は高台付坏で、１は口縁部の一部を欠き、灯明具として使用した可能性がある。

(2) 遺構外の遺物（第 74 図、第 44 表、図版五一）

１は土師器の坏の底部で、底部切り離し後、ヘラケズリを施している。２は陶器の甕の破片である。



第 74 図　G-20A・C 区　遺構外出土遺物実測図

第 44 表　G-20A・C 区遺構外出土遺物観察表

図版No	No	種類 器種	計測値 （cm・g）	色調	胎土・石質	焼成	器面の状態	器形・整形の特徴	遺存状態	出土状態	注記	備考
74	1	土師器 坏	口径　- 底径（6.5） 器高［1.5］	外面 10YR5/3 にぶい黄褐 内面 10YR3/1 黒褐	砂粒少量	良好	内面黒い	底部外面ヘラケズリ 底部内面ナデ	底部 1/2 残存		G-20A	
74	2	陶器 甕	口径 (16.7) 底径 - 器高 [7.2]	7.5YR2/3 極暗褐	砂粒・礫若干	良好	益子か		鉄釉		G-20C	

第５節　その他の遺物

縄文土器（第 75 図、図版五一）

縄文時代の土器はＧ -18 区、ＳＩ -33 から２点出土している。

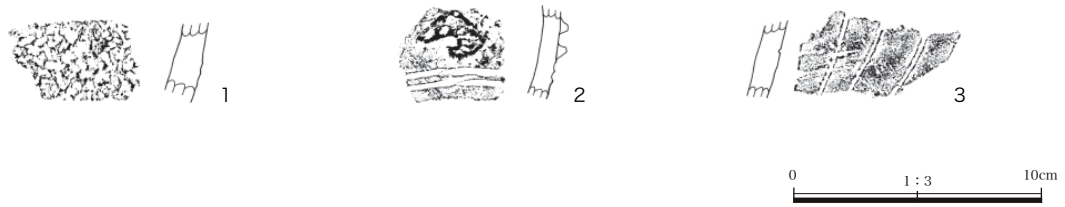
１は直前段反合撚を横位に施文する。胎土に繊維を含む。関山式である。

２はキザミを加えた「つ」の字状の隆帯の下に平行沈線を横位に配す。後期後葉の以降か。

弥生土器（第 75 図、図版五一）

弥生時代の土器はＧ -18 区から１点が出土している。

３はヘラ状工具による渦巻き文と想定される。ナデで整形後、１本ずつ施文している。胎土は砂粒多量、



第 75 図　縄文・弥生土器　出土遺物実測図

白色粒子少量、赤色粒子微量を含む。中期後半である。

出土遺構不明（第 77 図、図版五一・五三）

出土した場所が不明となってしまった遺構に、ＳＫ -485 がある。この土坑は９区か 11 区の西端に存在したが、どの遺構か分からない。９区のＳＫ -23 か 11 区のＳＫ -33 か。図版 51 のような漆器の破片や漆器片の残った土の塊も出土している。鉄製品も出土する。

金属製品（第 76・77 図、第 45 表、図版五一～五三）

本遺跡では、金属製品や鉄滓が出土している羽口も出土していることから、鍛冶関連の遺構が付近に存在した可能性が高い。

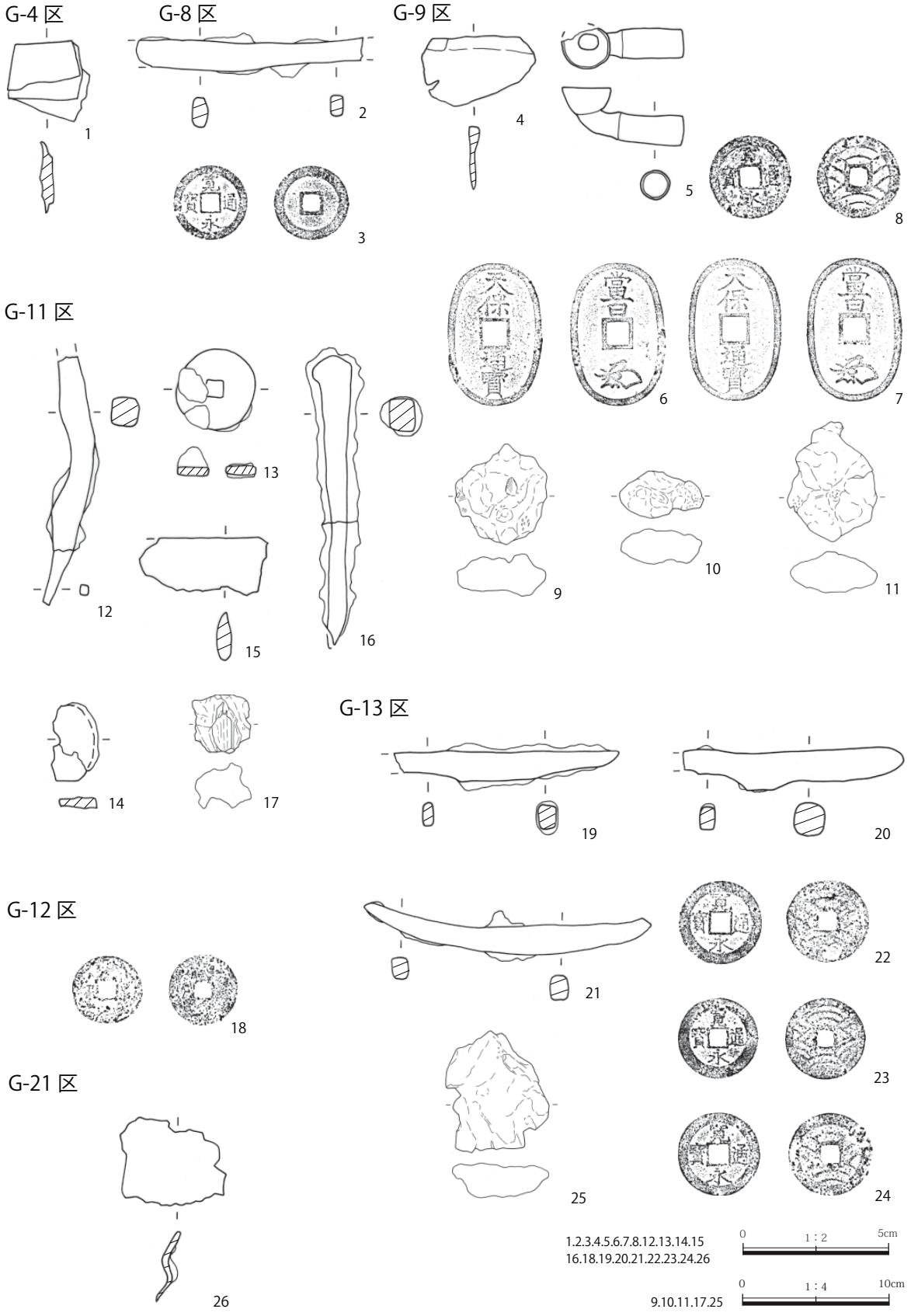
ＳＩ -30 からは 35 の刀子と 36 の鉄製の刀装具が出土している。

その他、釘なども確認されている。

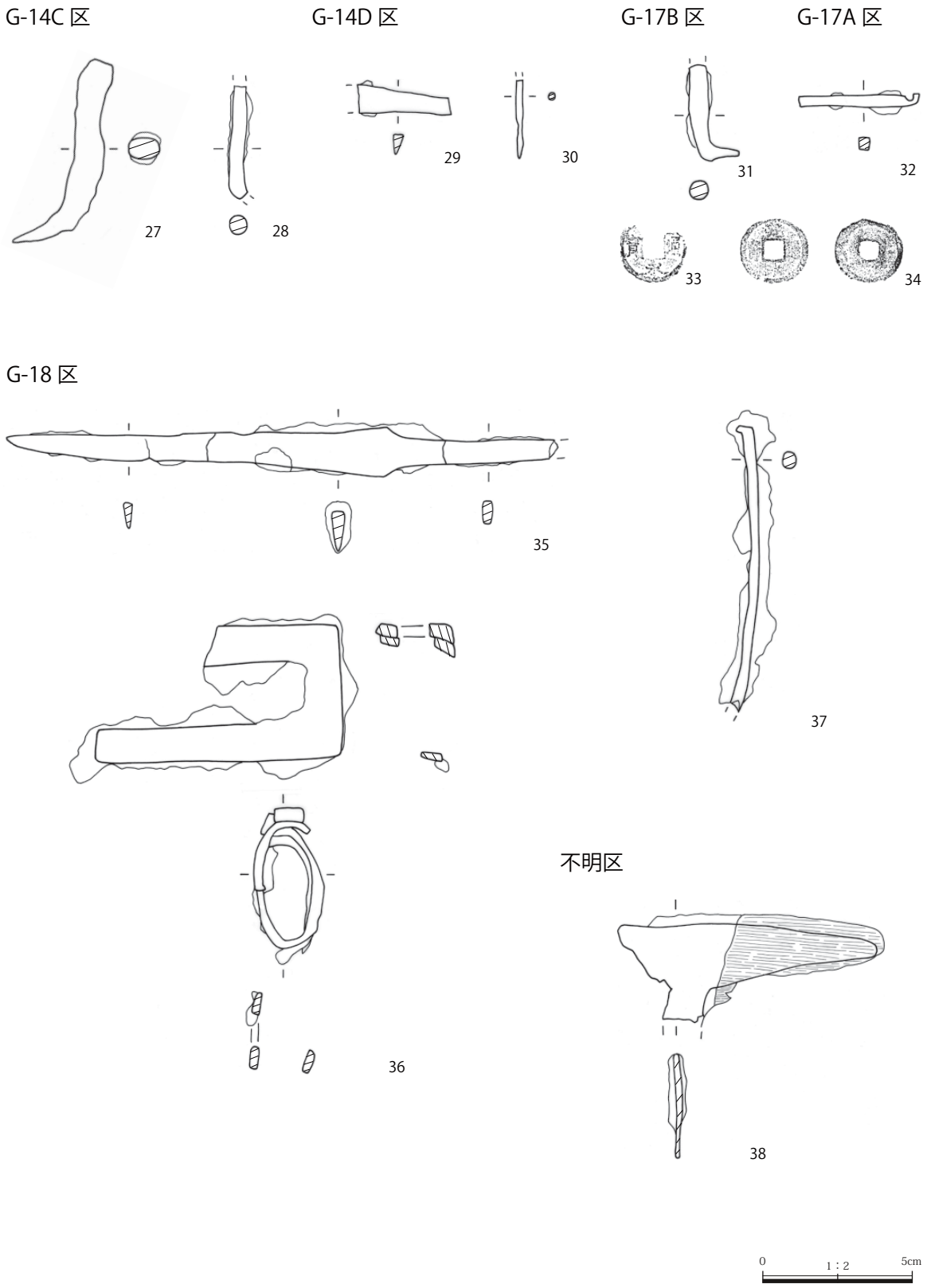
古銭は 11 点出土し、ほとんどが寛永通宝である。天保通宝も２点確認される。

鉄銭も１点出土している。14 も鉄銭の可能性がある。

金属製品についての詳細は、計測表に示している。



第 76 図　４次調査区出土金属製品実測図



第 77 図　５次調査区出土金属製品実測図

第 45 表　金属製品計測表

図版No	No	種類	調査	調査区	遺構	材質	長（cm）	幅（cm）	厚(cm)	孔（cm）	重（g）	注記	備考
76	1	不明鉄製品	4 次	G-4	調査区内	銅	2.70	2.76	0.34	-	3.79	G-4 一括フク土	
写真 52	一括	不明鉄製品	4 次	G-4	調査区内	鉄	-	-	-	-	1.78	G-4 一括 (フク土)	写真のみ
76	2	不明鉄製品	4 次	G-8	調査区内	鉄	[7.82]	1.03	0.59	-	9.96	G-8 一括	
76	3	古銭	4 次	G-8	調査区内	銅	2.55	2.55	0.13	孔幅 0.61	2.72	G-8 一括	「寛永通宝」
-	-	釘か	4 次	G-8	調査区内	鉄	-	-	-	-	4.30	G-8 一括	
-	-	不明鉄製品	4 次	G-8	調査区内	鉄	-	-	-	-	5.44	G-8 フク土一括	
76	4	不明鉄製品	4 次	G-9	SK-33	鉄	[4.04]	[2.47]	0.41	-	5.61	G-9 SK-33 一括	
76	5	キセル	4 次	G-9	SK-33	銅	9.63	1.01	0.98	-	4.18	G-9 SK-33 一括	
76	6	古銭	4 次	G-9	SK-33	銅	4.92	3.20	0.25	孔幅 0.84	19.12	G-9 SK-33 一括	「天保通寶」
76	7	古銭	4 次	G-9	SK-33	銅	4.95	3.22	0.23	孔幅 0.87	20.71	G-9 SK-33 一括	「天保通寶」
76	8	古銭	4 次	G-9	調査区内	銅	2.85	2.85	0.09	孔幅 0.70	4.58	G-9 一括	「寛永通宝」
写真 52	一括	不明鉄製品	4 次	G-9	調査区内	鉄	3.44	2.15	1.22	-	4.51	G-9 S-33 一括	写真のみ
76	9	鉄滓	4 次	G-9	SK-33	-	6.81	6.31	2.78	-	124.03	G-9 SK-33 一括	
76	10	鉄滓	4 次	G-9	SK-33	-	5.46	3.15	2.39	-	54.24	G-9 SK-33 一括	
76	11	鉄滓	4 次	G-9	SK-33	-	8.10	6.02	2.76	-	122.54	G-9 SK-33 一括	
写真 52	-	鉄滓	4 次	G-9	SK-33	鉄	-	-	-	-	14.11	G-9 SK-33 一括	写真のみ
写真 52	一括	不明鉄製品	4 次	G-9	調査区内	鉄	3.45	2.05	0.09	-	3.00	G-11 S-15 一括②	写真のみ
76	12	釘か	4 次	G-11	SK-15	鉄	[8.42]	9.57	9.47	-	11.79	G-11 S-15 一括 + SK-18	
76	13	鉄銭か	4 次	G-11	SK-15	鉄	2.71	2.63	0.37	-	5.30	G-11 S-15 一括	
76	14	円盤状鉄製品	4 次	G-11	SK-15	鉄	2.66	[1.60]	0.39	-	2.77	G-11 S-15	
76	15	不明鉄製品	4 次	G-11	SK-18	鉄	[4.25]	[1.90]	0.68	-	7.02	G-11 SK-18 フク土一括	
76	16	釘か	4 次	G-11	P-19	鉄	10.54	1.65	1.55	-	28.81	G-11 S-19 一括	
76	17	鉄滓	4 次	G-11	調査区内	-	3.95	3.72	2.96	-	4.18	G-11 一括	
76	18	古銭	4 次	G-12	調査区内	銅	2.35	2.35	0.15	孔幅 0.65	2.59	G-12 一括	「寛永通宝」
76	19	刀子か	4 次	G-13	調査区内	鉄	[7.72]	[0.94]	0.81	-	16.15	G-13 一括	
76	20	刀子か	4 次	G-13	調査区内	鉄	[7.64]	1.11	1.16	-	16.61	G-13 一括	
76	21	不明鉄製品	4 次	G-13	調査区内	鉄	9.78	1.22	0.77	-	14.82	G-13 一括	
76	22	古銭	4 次	G-13	調査区内	銅	2.84	2.84	0.14	孔幅 0.69	4.09	G-13	「寛永通宝」
76	23	古銭	4 次	G-13	調査区内	銅	2.80	2.80	0.14	孔幅 0.66	4.09	G-13	「寛永通宝」
76	24	古銭	4 次	G-13	調査区内	銅	2.85	2.85	0.20	孔幅 0.69	4.10	G-13	「寛永通宝」
76	25	鉄滓	4 次	G-13	調査区内	-	8.28	6.52	2.31	-	154.10	G-13 一括	
-	-	鉄滓	4 次	G-13	調査区内	-	-	-	-	-	20.84	G-13 一括 (フク土)	
-	-	古銭	4 次	G-13	調査区内	鉄	7.65	1.55	-	孔幅 1.35	20.61	G-13	
76	26	不明鉄製品	4 次	G-21	調査区内	鉄	[3.50]	[2.96]	0.40	-	6.07	G-21 表採	
77	27	釘か	5 次	G-14C	撹乱内	鉄	[6.63]	[1.06]	0.79	-	9.69	G-14C 撹乱内	
77	28	釘か	5 次	G-14C	調査区内	鉄	[3.75]	[0.65]	0.57	-	2.28	G-14C	
写真 53	一括	不明鉄製品	5 次	G-14C	調査区内	鉄	-	-	-	-	23.25	G-14C	写真のみ
77	29	刀子か	5 次	G-14D	調査区内	鉄	[3.07]	[1.06]	0.53	-	2.83	G-14D	
77	30	針か	5 次	G-14D	調査区内	鉄	[2.71]	[2.86]	2.81	-	0.40	G-14D	
写真 53	一括	不明鉄製品	5 次	G-14D	SK-37	鉄	-	-	-	-	3.13	G-14D S-37	写真のみ
77	31	釘か	5 次	G-17B	調査区内	鉄	[3.21]	0.84	0.59	-	2.54	G-17B	
77	32	不明鉄製品	5 次	G-17A	撹乱内	鉄	4.11	0.52	0.45	-	1.67	G-17A SI-3 北カクラン内	
77	33	古銭	5 次	G-17A	SI-3	銅	2.14	[1.50]	0.09	孔幅 0.72	0.86	G-17A SI-3	「寛永通宝」
77	34	古銭	5 次	G-17A	SI-3	銅	2.27	2.12	0.09	孔幅 0.68	1.71	G-17A SI-3	「寛永通宝」
写真 53	SI-3 一括	飾りか	5 次	G-17A	撹乱内	銅	1.98	[1.55]	0.06	-	0.61	G-17A SI-3 北カクラン内	写真のみ
77	35	小刀	5 次	G-18	SI-30	鉄	[18.34]	1.64	0.58	-	21.64	G-18 SI-30 №1	
77	36	刀装具	5 次	G-18	SI-30	鉄	4.54	2.34	0.36	-	15.06	G-18 SI-30 №2	
77	37	釘か	5 次	G-18	SI 出土	鉄	[9.48]	0.54	0.61	-	15.47	G-18 SI	
77	38	不明鉄製品	4 次	G-11 か	SK-485	鉄	[8.91]	[3.34]	0.28	-	28.39	SK-485	

第４章　まとめ

第１節　遺構と遺物

１．古代

奈良・平安時代の集落の一部が確認された。第５次調査の調査区に集中する（第 78 図）。

８世紀前葉から 10 ～ 11 世紀の住居跡 12 軒と溝２条である。トレンチ状の調査のため、住居跡の全体が不明であるが、一部の住居跡からはカマドも確認されている。土師器や須恵器・金属製品が出土した。

住居跡はＳＩ -33（Ｇ -18 区）→ＳＩ -40･42（Ｇ -14 Ｄ区）→ＳＩ - 5（Ｇ -20 Ｂ区）→ＳＩ - 6（Ｇ -20 Ａ区）→ＳＩ -30（Ｇ -18 区）→ＳＩ - 4（Ｇ -20 Ｃ区）・ＳＩ -39（Ｇ -14 Ｄ区）の順に営まれる。

８世紀後葉のＳＩ - 5が営まれた後、周辺で確認されている柱穴群は８世紀末から９世紀頃の掘立柱建物跡の可能性が高い。その後、９世紀中葉頃にＳＩ - 6が営まれる。

また、Ｇ - 7・８区付近から羽口や鉄滓なども出土していることから、鍛冶に関連する遺構が周辺に存在していたと考えられる。

２．中世～近世

溝２条と青磁の碗の破片、土師質土器の皿が各１点確認されている。皿の時期は、16 世紀と考えられる。

遺構としては､明確に中世と断定できる遺構はなく､４次調査のＳＩ -48(Ｇ - ５区)やＳＩ -47･ＳＫ -57(Ｇ - ８区)、ＳＫ -31・33（Ｇ - ９区）、ＳＫ -53（Ｇ -10 区）・ＳＫ -81（Ｇ -11 区）は方形竪穴建物や地下式坑と想定される土坑である。第 78 図の第４次調査の調査区に集中する（第 78 図）。

３．近世以降

近世から近代・現代に至るまでの土坑、時期不明の井戸が多数確認されている。遺構については明確な建物と断定できるものはない。遺物は陶磁器が大半を占め、その他焙烙・火鉢などが出土している。

遺物の出土は第４次調査の調査区に集中している。また、第５次調査区の南側の調査区でも遺物を伴う遺構が確認されている。このあたりまでが日光道中に関連すると想定される。

遺構では食器などを捨てた土坑も見つかっている。多くは磁器や陶器の茶碗や皿で、その中には明の時代の成化年製（明の元号で、1465 ～ 1487 年）と書かれた皿も出土している。

陶磁器は主に肥前や瀬戸・美濃産が多く確認され、一部在地のものも出土する。

焙烙は在地と想定されるものが多いが、栃木においてこの時期の編年はまだ確立されていないため、17 世紀以降であろう。一部、江戸近郊のものや金雲母を含む焙烙も混入する。

焙烙には紐で吊すための耳が内側に付いている。また、割れたところに穴を開け、針金で補修し、再使用していたものも存在する。

他にも茶道具の可能性が想定される遺物も出土していること、また江戸近郊で流通するものも一部搬入されていることもあり、日光道中の「立場」との関連が指摘される。

陶磁器から、遺跡の時期は 17 世紀～ 18 世紀初め、18 世紀半ば～ 19 世紀、19 世紀半ば以降の３時期に分けられる。

第２節　粟宮について

地名『アワノミヤ』は、現在も当地に鎮座する「延喜式」社、神名帳寒河郡二座の内「阿房神社」に因むと思われる。同社については、天慶二 (939) 年、藤原秀郷が戦勝祈願し社領寄進したとの伝承がある。

永徳二 (1382) 年二月付の「烟田重幹着到状」(烟田文書) によれば、小山義政の乱中の永徳元年七月、『粟宮口』で合戦があったことがわかる。これが史料上確認できる『粟宮』の初見である。

室町期、粟宮は小山氏の支配下にありながら古河公方御料所でもあり、明応九 (1500) 年と推定される足利政氏寄進状や年未詳足利高基・晴氏書状が残されている。天文五 (1536) 年と推定される「小山高朝伊勢役銭算用状写」(佐八文書) にも『あわのミヤ』が記され、当地は小山高朝から没収されたと思われる小山領十一郷に含まれていたが、この時、足利義氏の重臣野田左衛門大夫に宛行われたことがわかる。

戦国期、粟宮の在地領主は阿房神社神官粟宮氏であったらしい。粟宮氏は小山氏の配下にあったから、天正十 (1582) 年、小山秀綱が小田原北条氏に降ると、当地も実質的には北条氏照の支配下となったと思われる。

近世において粟宮は、慶長年中より小山藩領、元和五 (1619) 年に下総古河藩領、正徳二 (1712) 年幕府領、享保九 (1724) 年から下総結城領となった。また、粟宮は間々田宿の助郷村とされており、村内往還の長さ十八町余とある。

村内字上宿には通行人や伝馬人足、駕籠かきが休息するための「立場茶屋」が置かれた。その様子を渡辺崋山は、文政十三 (1830) 年に粟宮を通過した際、「松の根元に老婆が茶を煮て商っている」として高砂の翁にみたてて興がっている。

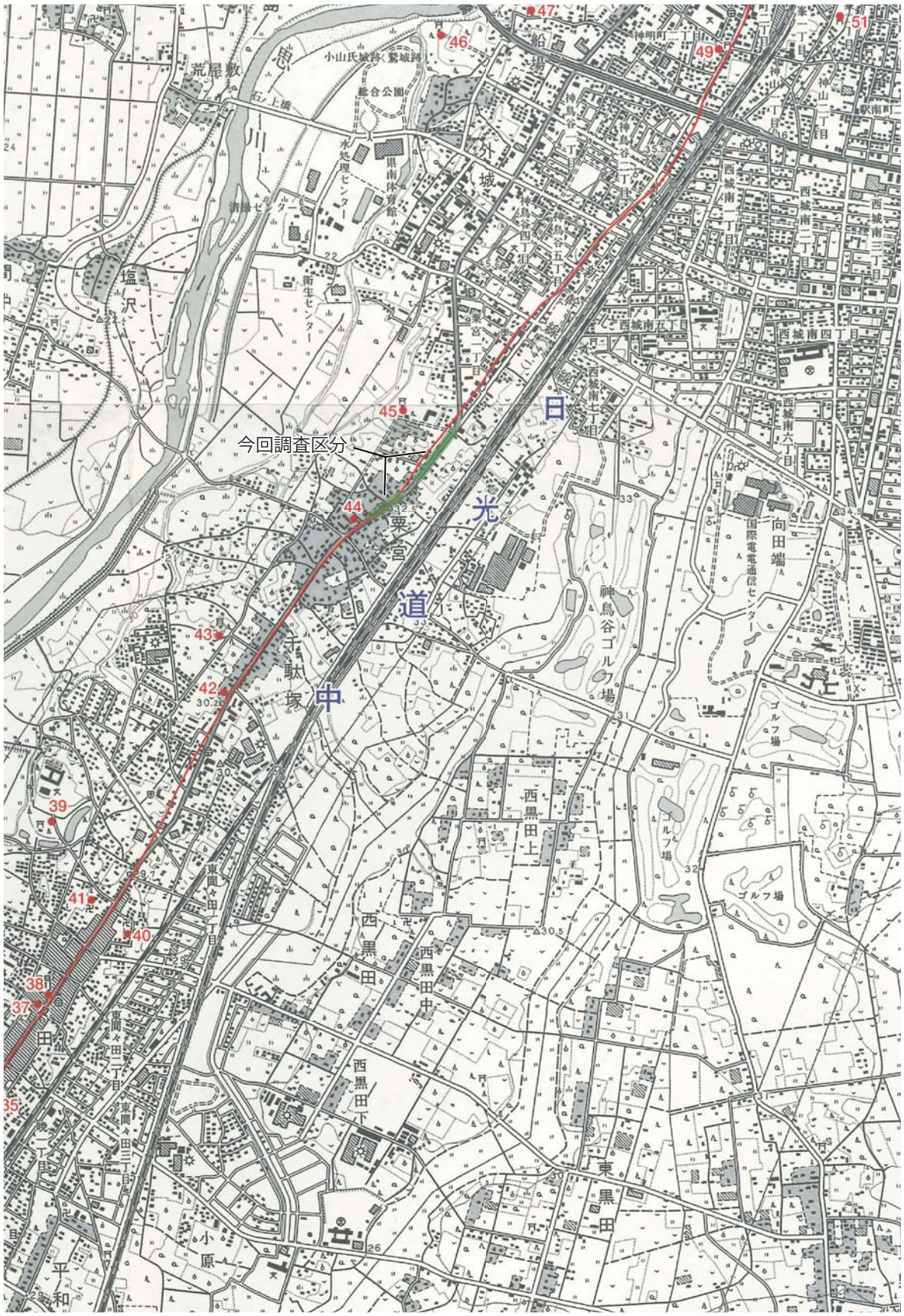
第３節　道について

古代律令国家の統治機関である下野国府は小山の北西約 10㎞にあったが、律令制の衰退と小山氏の守護職補任で、政治の中心は小山に移った。これとともに主要道としての重要性は、東山道から鎌倉と陸奥を結ぶ奥大道に移ったと考えられる。この奥大道が粟宮を通っていた。奥大道の具体的なルートは場所により不確定であるが、特に粟宮付近の奥大道 (中世の主要な道) に注目すれば、道筋は近世の日光道中よりも西側を通っていたらしい。ただし、宮内北遺跡などで道路状遺構が発見されている一方で、安房神社のすぐ西を通る古道跡もあって、道筋の変遷があったことが推察される。

近世日光道中筋については、粟宮より南西の間々田宿へは三十二町、北東の小山宿とは二十七町の距離があった。また、日光道中とは別に、いわゆる日光東街道武井宿から佐野道の生駒宿へ抜ける脇道 (間中道) も粟宮を通っていた。

日光道を含め、五街道の整備については、徳川秀忠の命により、慶長十 (1605) 年から、道幅 5 間 (約 9.1 m) で両側に並木敷 9 尺 (約 2.7 m) × 2(総幅約 14.5 m) とし、山間部ではこれを 2 間 (約 3.6 m) から 5 間とすることを基準に整備が進んだという。また別に、『家康百箇条』によれば、日光道などの大海道は道幅 6 間 (約 10.9 m) に定められたとされる。

いずれにしても、日光道中については、慶長頃から順次宿立が進んでいったが、奥州へ向かう基幹道路筋が固定し、伝馬役を担う宿駅が整備されたのは、寛永年間以降のことであった。なお、路面については、寛永頃から路面を砂利と砂で固める普請がなされていったが、これはなかなか徹底できなかったらしい。江戸の道でさえ『雨少しふりぬれば、泥ふかふして往来やすからず』の有様で、人々は高下駄を履いて泥道を歩いたという。(『慶長見聞集』) 粟宮付近でも路面に砂利や砂を敷く改修工事が行われた可能性はあるが、裏付ける資料がない。工事が行われたとしても一過性のものであっただろう。



『栃木県歴史の道調査報告書 第１集　付図録№1 日光道中（野木～大町新田）』を改変

0　1:25000　1000m

第 79 図　日光道中と粟宮宮内遺跡

明治 16 年、三島通庸が県令に着任すると、翌 17 年には旧日光道中 (陸羽街道、国道 6 号) の改修工事が一斉に行われた。これにより、道幅 4 間 (約 7.3 m) 以上、両側に 3 尺 (約 0.9 m) の側溝を備えた直線的な幹線道路が完成した。このときの工事の痕跡が今回の発掘において確認されている可能性は高い。

さらに大正 9 年、陸羽街道は「国道 4 号」と改称された。しかし、悪路の状態は容易に改善されず、昭和 30 年代に入っても舗装個所はわずかであったという。しかし、その後のモータリゼーションの進展により急速に路面の改良がなされ、現在に至っている。

付言すれば、調査区に接する西堀家が現在地に転居してきたのは幕末のことである。ここは江戸日本橋の豪商で幕末の志士大橋訥庵の義父大橋淡雅の生誕地であり、西堀家の祖三左衛門が明治五年に現在の酒造業を創業したという。同家には大正時代以前の長屋門、仕込み蔵などが現存している。

【参考文献】

新津　健 1998『鰍沢河岸跡』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 148 集　山梨県教育委員会
村石眞澄ほか 1998『鰍沢河岸跡Ⅱ』山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第 224 集　山梨県教育委員会
篠原浩恵 2017『粟宮宮内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 386 集 栃木県教育委員会・公益財団法人とちぎ未来づくり財団
鈴木康浩ほか 1996『越名西遺跡・越名河岸跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 174 集 栃木県教育委員会・(財) 栃木県文化振興事業団
吉田 哲ほか 2011『千駄塚浅間遺跡・粟宮宮内遺跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 336 集 栃木県教育委員会・(財) とちぎ未来づくり財団
植木茂雄 猪瀬亜沙美 2015『雀宮宿跡』栃木県埋蔵文化財調査報告第 374 集 栃木県教育委員会・公益財団法人とちぎ未来づくり財団
小山市教育委員会 1990『鷲城跡』小山市文化財調査報告第 258 集
齋藤弘 2012「遺跡が語る中世の小山」『中世関東武士の研究 下野小山氏』第六巻 戎光　祥出版
栃木県立博物館 2019『第 123 回企画展 下野の鎌倉街道』
栃木県教育委員会 2008『栃木県歴史の道調査報告書』日光道中 日光道中壬生通り 関宿通り多功道
三浦浄心 1906『慶長見聞集』国立国会図書館デジタルコレクション
栃木県史編さん委員会 1982『栃木県史 通史編七　近現代二』
栃木県史編さん委員会 1986『小山市史 通史編Ⅱ近世』
小山市教育委員会 2009『建造物調査報告書』小山市文化財調査報告書第 75 集
平凡社 1988『日本歴史地名大系　栃木県の地名』第九巻
日光街道ルネッサンス 21 推進委員会　H15 『栃木の日光街道』
国土交通省ＨＰ 「道の歴史」

写 真 図 版

令和元年度 調査区遠景（上空から）

図版二　遺構（四次調査）

G-1 区 調査前（南から）

G-1 区 土層堆積状態西壁南側（東から）

G-1 区 精査状況北側（南から）

G-4 区 調査前（北から）

G-4 区 表土除去２回目（南から）

G-4 区 土層堆積状態（西から）

G-4 区 完掘（南から）

G-5 区 調査前（北から）

G-5 区 遺構確認状況（南から）

G-5A 区 SI-48 土層堆積状態（南から）

G-5A 区 SI-48 完掘（東から）

G-5A 区 SI-50 完掘（東から）

G-5A 区 SK-49 土層堆積状態（南から）

G-5A 区 SK-49 完掘（東から）

G-5A 区 完掘（南から）

G-6 区 調査前（北から）

図版四　遺構（四次調査）

G-6 区 表土除去完了状況（北から）

G-7 区 調査前（北から）

G-8 区 調査前（北から）

G-8A 区 遺構確認状況（南から）

G-8A 区 SK-34 土層堆積状態（西から）

G-8A 区 SK-34・37 土層堆積状態（西から）

G-8A 区 SK-37 土層堆積状態（西から）

G-8A 区 SK-36 土層堆積状態（南から）

G-8A 区 SK-36 完掘（南から）

G-8B 区 SI-47 完掘（西から）

G-8B 区 SK-56・57 土層堆積状態（南から）

G-8B 区 SK-56 完掘（西から）

G-8B 区 SK-57 完掘（西から）

G-8B 区 SK-70 完掘（西から）

G-8B 区 完掘（南から）

G-9 区 遺構確認状況（南から）

図版六　遺構（四次調査）

G-9 区 SK-31 土層堆積状態（東から）

G-9 区 SK-31 完掘（東から）

G-9 区 SK-33 土層堆積状態（東から）

G-9 区 SK-33 完掘（南から）

G-9 区 SK-64 完掘（北から）

G-9 区 SK-66 完掘（東から）

G-9 区 SK-67 完掘（南から）

G-9 区 SE-68 土層堆積状態（西から）

G-9 区 SE-68 完掘（東から）

G-9 区 SK- 73 完掘（西から）

G-9 区 完掘（南から）

G-10 区 表土除去（北東から）

G-10A 区 遺構確認状況（北から）

G-10A 区 SK-27 土層堆積状態（東から）

G-10A 区 SK-17・35・77 完掘（南から）

G-10A 区 SK-27 完掘（南から）

G-10A 区 SK-28 土層堆積状態（東から）

G-10A 区 SK-29 南北土層堆積状態（西から）

G-10A 区 SK-29 完掘（西から）

G-10A 区 SK-32 完掘（南から）

G-10A 区 SK-35 南北土層堆積状態（西から）

G-10B 区 SK-46・52・53 土層堆積状態（東から）

G-10B 区 SK-53・54・14 完掘（南から）

G-10B 区 SK-55・59，P-75・76 完掘（南から）

G-10B 区 SK-58・60 完掘（南から）

G-10B 区 SK-59 土層堆積状態（西から）

G-10B 区 土層堆積状態東壁（西から）

G-10B 区 標準土層，SK-46 土層堆積状況（東から）

G-10B 区 完掘（南から）

G-10B 区 完掘（南から）

G-10B 区 完掘（南から）

G-11 区 安全柵設置

G-11 区 遺構確認状況（南から）

G-11A 区 遺構確認状況（北から）

G-11A 区 SK-42 土層堆積状態（西から）

G-11A 区 SK-42 完掘（北から）

G-11A 区 SK-43 土層堆積状態（南から）

G-11A 区 SK-43 完掘（南から）

G-11A 区 SK-44 完掘（北から）

G-11A 区 SK-83 完掘（西から）

G-11A 区 完掘（北から）

G-11B 区 SI-22 土層堆積状態（西から）

G-11B 区 SI-22 完掘（南から）

G-11B 区 SI-24 カマド土層堆積状態（北西から）

G-11B 区 SI-24 カマド（南西から）

G-11B 区 SI-24 カマド完掘（南西から）

G-11B 区 SI-24 カマド完掘（南西から）

G-11B 区 SI-24 完掘（南西から）

G-11B 区 SK-10・11 土層堆積状態（西から）

G-11B 区 SK-10・11・13・93 土層堆積状態（西から）

G-11B 区 SK-15 遺物出土状況アップ（北から）

G-11B 区 SK-15 完掘（南から）

G-11B 区 SK-18 完掘（南から）

G-11B 区 SK-20 土層堆積状態完掘（東から）

G-11B 区 SK-23 完掘（南から）

G-11B 区 南部 完掘（南から）

G-11B 区 完掘（南から）

G-11B 区 水没

G-11B 区 埋め戻し

G-12 区 SK-9 完掘（南から）

G-12 区 SK-41 完掘（北から）

G-12 区 SK-41・89 土層堆積状態（東から）

G-12 区 SK-41 完掘（北から）

G-12 区 SK-45 完掘（南から）

G-12 区 完掘（北から）

G-13 区 調査前（北から）

G-13 区 SK-2 完掘（南から）

G-13 区 SD-3 土層堆積状態（西から）

G-13 区 SD-3 完掘（南から）

G-13 区 SK-5 墓坑確認状況アップ（南から）

G-13 区 SK-4・5 土層堆積状態（南から）

G-13 区 SK-4・5 完掘（南から）

G-13 区 SK-6 土層堆積状態（東から）

G-13 区 SK-8 土層堆積状態（南から）

G-13 区 SK-8 完掘（東から）

G-13 区 完掘（北から）

G-21 区 調査前（南から）

G-21 区 完掘（北から）

G-21 区 精査状況南端（北から）

G-21 区 SK-39 土層堆積状態（東から）

図版一六　遺構（五次調査）

G-21 区 SK-39 土層堆積状態（東から）

G-21 区 SK-40 土層堆積状態（西から）

G-21 区 SK-40 完掘（西から）

G-21 区 甕出土状況（南から）

G-21 区 完掘（北から）

G-14B 区 調査状況（南西から）

G-14B 区 遺構確認状況（南東から）

G-14B 区 遺構確認状況（北から）

G-14B 区 SD-1・2 完掘（南から）

G-14B 区 完掘（北から）

G-14C 区 遺構確認状況（北から）

G-14C 区 完掘（南から）

G-14D 区 遺構確認状況（北から）

G-14D 区 SK-35・36 完掘（東から）

G-14D 区 SK-37 完掘（西から）

G-14D 区 SI-39 土層堆積状態（北西から）

G-14D 区 SI-39 土層堆積状態（南東から）

G-14D 区 SI-39・40 重複部土層堆積状態（北東から）

G-14D 区 SI-39 遺物出土状況（西から）

G-14D 区 SI-39 南部遺物出土状況（南西から）

G-14D 区 SI-39 カマド土層堆積状態（南から）

G-14D 区 SI-39 カマド土層堆積状態（西から）

G-14D 区 SI-39 カマド遺物出土状況（南から）

G-14D 区 SI-39 カマド完掘（南西から）

G-14D 区 SI-39 掘方完掘（西から）

G-14D 区 SI-39 カマド掘方土層堆積状態（西から）

G-14D 区 SI-40 土層堆積状態（南西から）

G-14D 区 SI-40 東壁土層堆積状態（西から）

G-14D 区 SI-40 北半土層堆積状態（北東から）

G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（南西から）

G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（南西から）

G-14D 区 SI-40 遺物出土状況（北西から）

G-14D 区 SI-40 北東部遺物出土状況（北から）

G-14D 区 SI-40 須恵器坏出土状況（西から）

G-14D 区 SI-40 カマド土層堆積状態（北東から）

G-14D 区 SI-40 カマド完掘（南東から）

G-14D 区 SI-40 床下ピット（西から）

G-14D 区 SI-40 掘方完掘（西から）

G-14D 区 SI-40 カマド掘方（南から）

G-14D 区 SI-40 土層堆積状態（北半西から）

G-14D 区 SI-42 遺物出土状況・土層堆積状態（西から）

G-14D 区 SI-42 遺物出土状況（北から）

G-14D 区 SI-42 遺物出土状況アップ（北西から）

G-14D 区 SI-42 遺物・P-43 完掘（東から）

G-14D 区 SI-42 掘方完掘（北東から）

G-14D 区 P-43 土層堆積状態（北から）

G-14D 区 P-43 完掘（東から）

G-14D 区 全景（南から）

G-14D 区 全景（南から）

G-14D 区 遺構群全景（南から）

G-14D 区 全景（北から）

G-15A 区 遺構確認状況（北から）

G-15A 区 遺構確認状況（南から）

G-15B 区 遺構確認状況（南から）

G-15B 区 南部土層堆積状態（西から）

G-15B 区 中央部土層堆積状態（西から）

G-15C 区 表土除去状況（南東から）

G-15D 区 表土除去状況（北東から）

G-15D 区 北部土層堆積状態（西から）

G-15D 区 完掘（北から）

G-16 区 完掘（東から）

G-17A 区 遺構確認状況（南から）

G-17A 区 遺構確認状況（北から）

G-17A 区 SI-3 土層堆積状態（北から）

G-17A 区 SI-3 作業風景（北西から）

G-17A 区 SI-3 土層堆積状態（南から）

G-17A 区 SI-3 完掘（北から）

G-17A 区 SI-3 掘方完掘（西から）

G-17A 区 SK-21 土層堆積状態・完掘（東から）

G-17A 区 SK-22,P-27 完掘（西から）

G-17A 区 SK-23・24 完掘（北西から）

G-17A 区 SK-25,P-26・29 土層堆積状態（西から）

G-17A 区 SK-25,P-26 完掘（西から）

G-17A 区 P-28 土層堆積状態（西から）

G-17A 区 完掘（南から）

G-17B 区 遺構確認状況（北から）

G-18 区 遺構確認状況 (南東から)

G-18 区 SI-30・33 周辺西壁土層堆積状態（南東から）

G-18 区 SI-30 内小刀出土状況（北から）

G-18 区 SI-30・33 作業風景 (南から)

G-18 区 SI-30 付近東壁土層堆積状態（北西から）

G-18 区 SI-30 土層堆積状態（北西から）

G-18 区 SI-30・33 土層堆積状態（東から）

G-18 区 SI-30 遺物出土状況（南から）

G-18 区 SI-30 北西部遺物出土状況（東から）

G-18 区 SI-30 遺物出土状況（北から）

G-18 区 SI-30 遺物出土状況（北西から）

G-18 区 SI-30 カマド煙道部土層堆積状態（北東から）

G-18 区 SI-30 カマド袖部付近土層堆積状態（南から）

G-18 区 SI-30 カマド土層堆積状態（西から）

G-18 区 SI-30 カマド袖内の芯材（南から）

G-18 区 SI-30 カマド完掘（北西から）

G-18 区 SI-30 掘方完掘（北から）

G-18 区 SI-33 土層堆積状態（南から）

G-18 区 SI-33 遺物出土状況・土層堆積状態（東から）

G-18 区 SI-33 遺物出土状況（南から）

G-18 区 SI-33 遺物出土状況（北東から）

G-18 区 SI-33 土師器甕出土状況（南から）

G-18 区 SI-33 須恵器坏等出土状況（北から）

G-18 区 SI-33 須恵器蓋出土状況（南から）

G-18 区 SI-33 柱穴土層堆積状態（南から）

G-18 区 SI-33 柱穴と床面の状況（南から）

G-18 区 SI-33 新期柱穴完掘（東から）

G-18 区 SI-30・33 完掘（北から）

G-18 区 SI-33 古期柱穴土層堆積状態（東から）

G-18 区 SI-33 古期柱穴完掘（東から）

G-18 区 SI-33 掘方土層堆積状態（西から）

G-18 区 SI-33 掘方完掘（北から）

G-18 区 SI-30・33 調査風景（北から）

G-18 区 P-32 完掘（西から）

G-18 区 SK-44 ～ 47 完掘（北西から）

G-18 区 SK-46 土層堆積状態（西から）

図版三〇　遺構（五次調査）

G-18 区 SK-47 完掘（西から）

G-18 区 全景（北から）

G-18 区 全景（南から）

G-19A 区 完掘（南から）

G-19A 区 土層堆積状態（西から）

G-19B 区 完掘（南から）

G-19B 区 完掘（南から）

G-20A 区 遺構確認状況及び土層堆積状態（南西から）

G-20A 区 遺構確認状況（北から）

G-20A 区 SI-6 南半土層堆積状態（西から）

G-20A 区 SI-6 遺物出土状況（東から）

G-20A 区 SI-6 南半遺物出土状況（南東から）

G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況アップ（北西から）

G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況アップ（北から）

G-20A 区 SI-6 北側遺物出土状況（北から）

G-20A 区 SI-6 南側遺物出土状況アップ（南から）

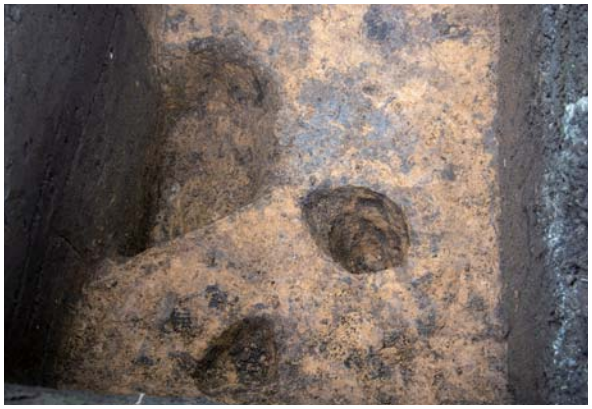
G-20A 区 SI-6 南側床面（東から）

G-20A 区 SI-6 北側完掘（北西から）

G-20A 区 SK-8・10・12 完掘（東上から）

G-20A 区 SK-10 完掘（西から）

G-20A 区 SK-9 完掘（西から）


G-20A 区 SK-10・13・14 完掘（北上から）

G-20A 区 SK-11 土層堆積状態（東から）

G-20A 区 SK-11 完掘（東から）

G-20A 区 SK-14 土層堆積状態及び遺物出土状況（南から）

G-20A 区 SK-15 土層堆積状態（北から）

G-20A 区 P-16 土層堆積状態（東から）

G-20A 区 完掘（北から）

G-20A 区 南側完掘（南から）

G-20A 区 完掘（南から）

G-20A 区 埋め戻し状況（南から）

G-20B 区 遺構確認状況（南から）

図版三四　遺構（五次調査）

G-20B 区 SI-5 確認状況（南東から）

G-20B 区 SI-5 土層堆積状態（南西から）

G-20B 区 SI-5 遺物出土状況（南東から）

G-20B 区 SI-5 カマド東西土層堆積状態（南東から）

G-20B 区 SI-5 カマド周辺遺物出土状況（南から）

G-20B 区 SI-5 カマド周辺遺物出土状況（南から）

G-20B 区 SI-5 床下含むカマド東西土層堆積状態（南から）

G-20B 区 SI-5 古期床面の状況（南から）

G-20B 区 SI-5 古期床面の状況（北から）

G-20B 区 SI-5 東壁掘方土層堆積状態（西から）

G-20B 区 SI-5 東壁掘方土層堆積状態（南西から）

G-20B 区 SI-5P1 完掘（東から）

G-20B 区 SI-5 掘方完掘（南から）

G-20B 区 SI-5 掘方カマド前面土層堆積状態（南西から）

G-20B 区 SI-5 カマド右掘方ピット完掘（南から）

G-20B 区 SK-17 完掘（東から）

図版三六　遺構（五次調査）

G-20B 区 P-18 土層堆積状態（西から）

G-20B 区 完掘（南から）

G-20B 区 完掘（北から）

G-20B 区 埋め戻し状況（北から）

G-20C 区 中央部土層堆積状態（西から）

G-20C 区 遺構確認状況（南から）

G-20C 区 SI-4 遺物出土状況（東から）

G-20C 区 SI-4 土師器坏出土状況（南から）

G-20C 区 SI-4 土師器片出土状況（南から）

G-20C 区 SI-4P1 土層堆積状態（南から）

G-20C 区 SI-4P1 完掘（南から）

G-20C 区 SI-4 床下完掘（西から）

G-20C 区 撹乱 1 土層堆積状態（西から）

G-20C 区 撹乱 2 土層堆積状態（西から）

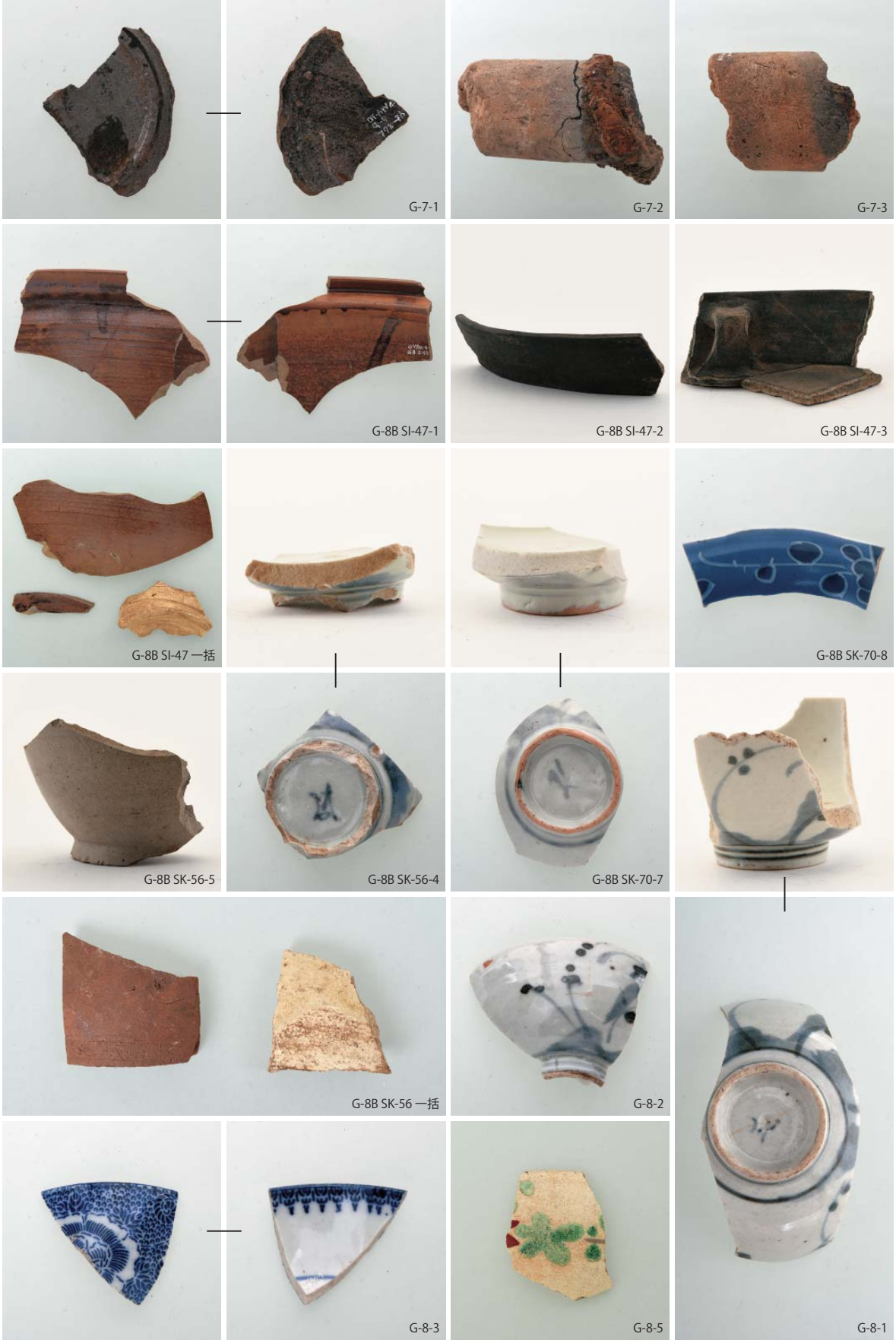
G-20C 区 完掘（北から）

作業風景（北から）

図版三八　遺物

G-1-1
G-4-3
G-4-2
G-4-1
G-4-4
G-4-5
G-5 SI-48-1
G-5-1
G-5-2
G-5-3
G-5-4
G-5-5
G-5-6
G-5-8
G-5-7
G-5-9
G-5 一括

図版三九　遺物


G-7-1
G-7-2
G-7-3
G-8B SI-47-1
G-8B SI-47-2
G-8B SI-47-3
G-8B SI-47 一括
G-8B SK-70-8
G-8B SK-56-5
G-8B SK-56-4
G-8B SK-70-7
G-8B SK-56 一括
G-8-2
G-8-3
G-8-5
G-8-1

図版四〇　遺物

G-8-18

G-8-21

G-8-22

G-8-19

G-8-20

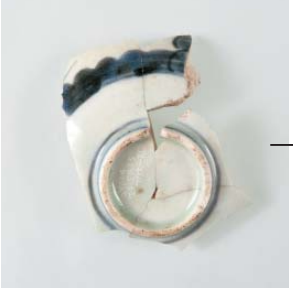
G-8 一括

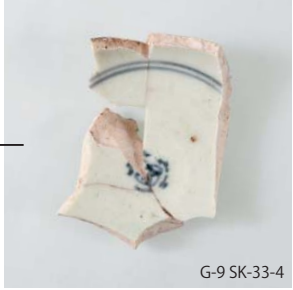
G-9 SK-33-1

G-9 SK-33-2

G-9 SK-33-3

G-9 SK-33-5




G-9 SK-33-4

G-9 SK-33-6

G-9 SK-33-8

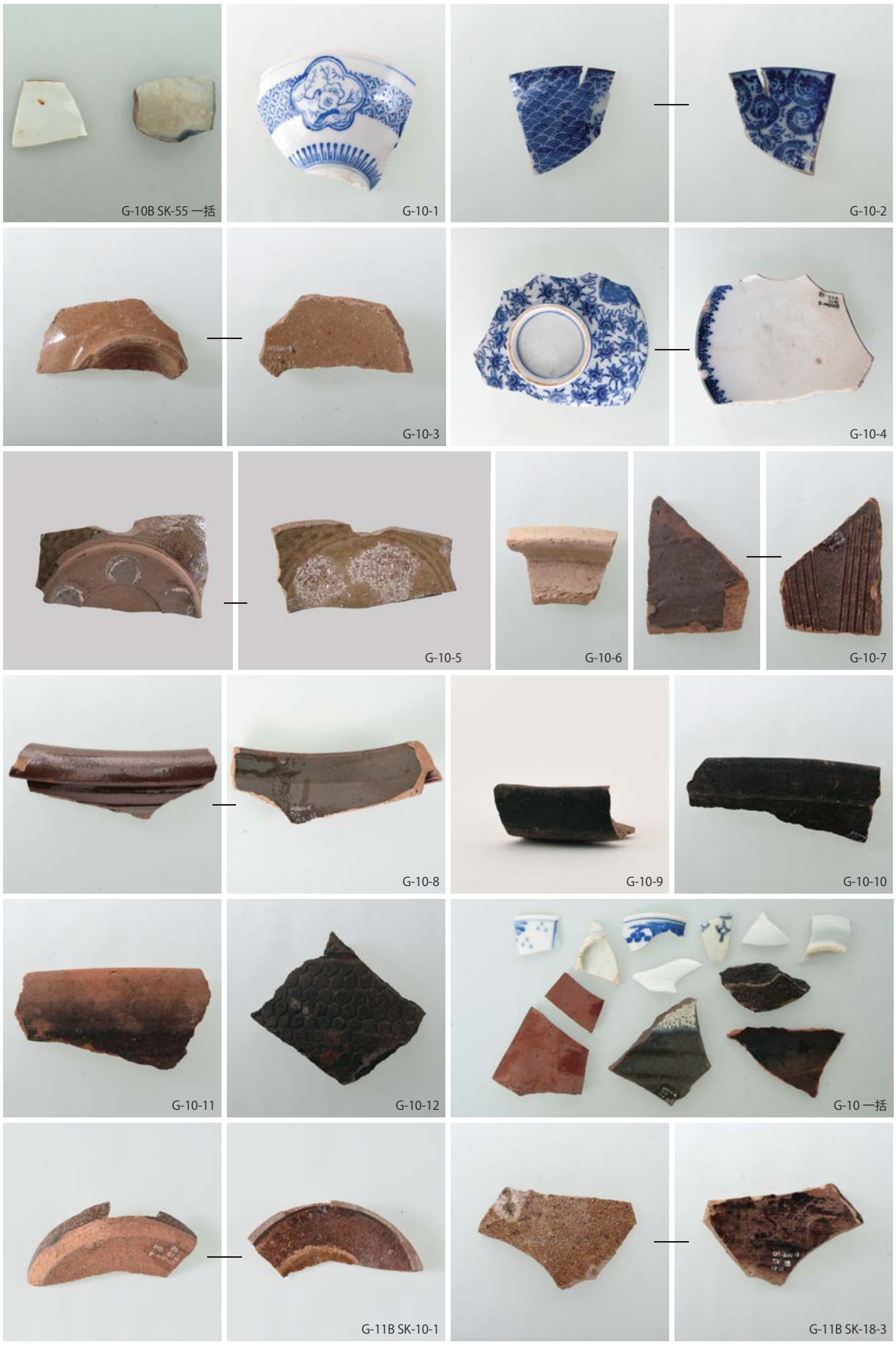
G-9 SK-33-9

G-9 SK-33-10

G-9 SK-33-11

図版四二　遺物

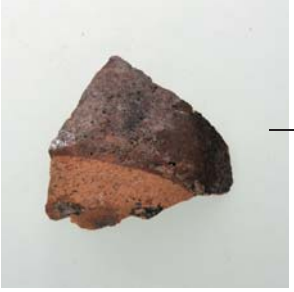
G-9 SK-33-12
G-9 SK-33 一括
G-9 SK-63-14
G-9 SK-63 一括
G-9-1
G-9-2
G-9-3
G-9-4
G-9-5
G-9-6
G-9-7
G-9 一括
G-10B SK-52-1
G-10B SK-53-4
G-10B SK-53-3
G-10B SK-52-2
G-10B SK-55-5


G-10B SK-55 一括
G-10-1
G-10-2
G-10-3
G-10-4
G-10-5
G-10-6
G-10-7
G-10-8
G-10-9
G-10-10
G-10-11
G-10-12
G-10 一括
G-11B SK-10-1
G-11B SK-18-3

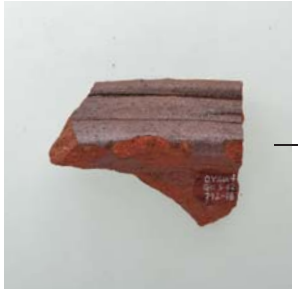
図版四四　遺物

G-11B SK-18 一括

G-11A SK-42-4



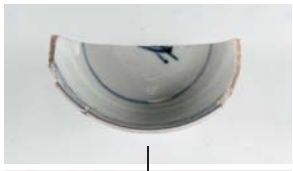
G-11A SK-42-5



G-11A SK-42-6

G-11A SK-42-7

G-11A SK-43-8



G-11B SK-15-1

G-11B SK-15-2

G-11B SK-15-3

G-11B SK-15-8

G-11B SK-15-5

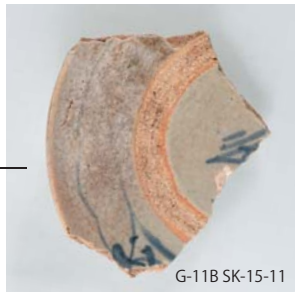
G-11B SK-15-6

G-11B SK-15-4

G-11B SK-15-7

G-11B SK-15-10

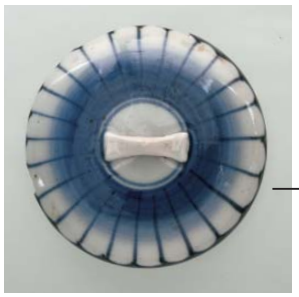
G-11B SK-15-13


G-11B SK-15-11

G-11B SK-15-12

図版四五　遺物

G-11B SK-15-14



G-11B SK-15-15

G-11B SK-15-17

G-11B SK-15-18

G-11B SK-15-19

G-11B SK-15-20

G-11B SK-15-21

G-11B SK-15-23

G-11B SK-15-22

G-11B SK-15-22

G-11B SK-15-26

G-11B SK-15-27

G-11B SK-15-24

G-11B SK-15-25

G-11B SK-15-28

G-11B SK-15-29

図版四六　遺物

G-11B SK-15-30

G-11B SK-15-32

G-11B SK-15-33

G-11B SK-15-34

G-11B SK-15-35

G-11B SK-15-36

G-11B SK-15-38

G-11B SK-15-37

G-11B SK-15-39

G-11B SK-15-40

G-11B SK-15-41

G-11B SK-15-42

G-11B SK-15-43

G-11B SK-15-44

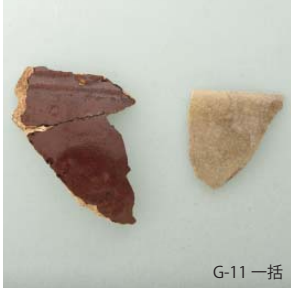
G-11B SK-15-45

G-11B SK-15 一括

G-11-1

G-11-3

G-11-4


G-11 一括

G-11-2

G-12 SK-45-1

G-12 SK-45-2

G-12 SK-45 一括

G-12-1

G-12-3

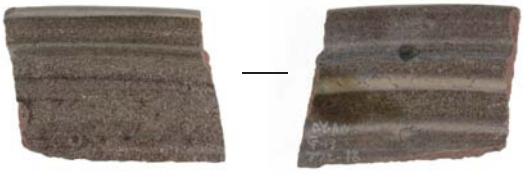
G-12-1

G-12-4

G-13-1

G-13-3

G-13-2


G-13-4

G-13 一括

G-21 SK-40-1

図版四八　遺物

G-21 SK-40-2

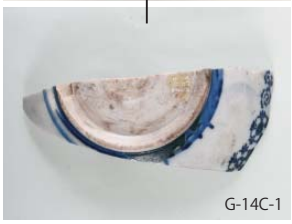
G-21-1

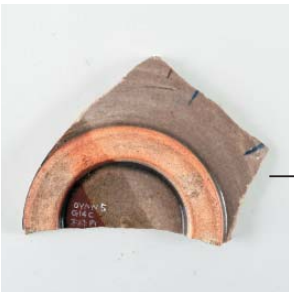
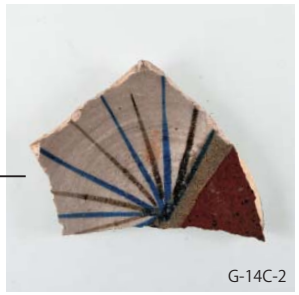
G-21-2

G-21-3

G-21-4

G-21 一括


G-14C-1



G-14C-2

G-14C-3

G-14C-5

G-14C-6

G-14C-4

G-14C 一括

G-14D SI-39-1

G-14D SI-39-2

G-14D SI-39-3

G-14D SI-40-4

図版四九　遺物

G-14D SI-40-5

G-14D SI-40-6

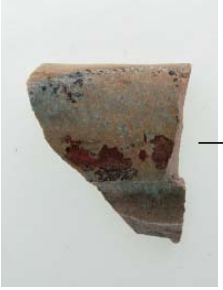
G-14D SI-42-7

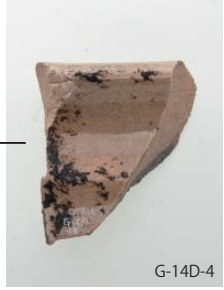
G-14D SI-39 一括

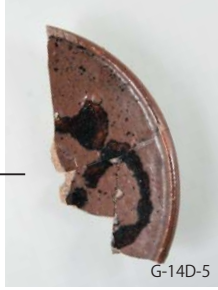
G-14D-1

G-14D-2

G-14D-3




G-14D-4

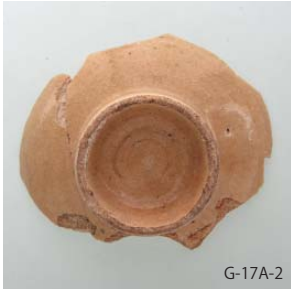

G-14D-5

G-14D-6

G-17A SK-22-2

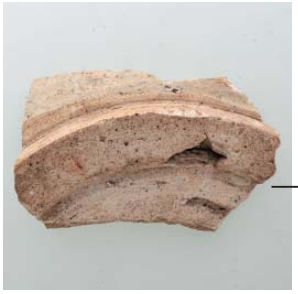
G-17A SK-22 一括

G-15-1


G-17A-2

G-17A-4

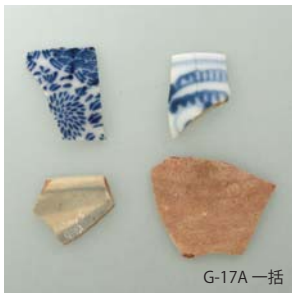
G-17A-1



G-17A-3

G-17A-5

図版五〇　遺物


G-17A 一括

G-17B 一括

G-18 SI-30-1

G-18 SI-30-4

G-18 SI-30-5

G-18 SI-30-9

G-18 SI-33-13

G-18 SI-33-14

G-18 SI-33-15

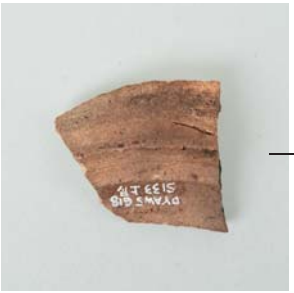
G-18 SI-33-16

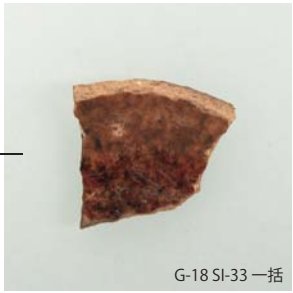
G-18 SI-33-17

G-18 SI-33-20

G-18 SI-33-21

G-18-1




G-18 SI-33 一括

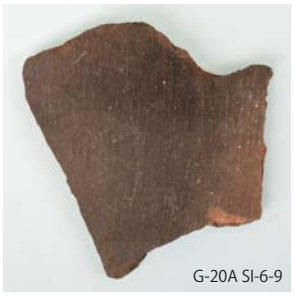
G-20A SI-6-1

G-20A SI-6-2

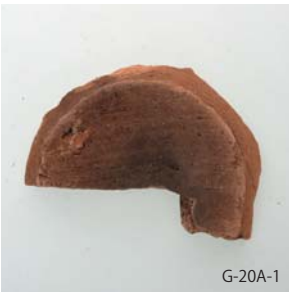
G-20A SI-6-3

G-20A SI-6-4

G-20A SI-6-7


G-20A SI-6-9

G-20A SI-6-10


G-20A-1

図版五一　遺物

G-20B SI-5-2

G-20C SI-4-1

G-20C-2

G-9 SK-33-9

G-9 SK-33-10

G-9 SK-33-11

G-11-17

G-13-25

表採

SK-485 出土漆器片

SK-485 出土漆器痕

SK-485 出土漆器痕

縄文

G-18 SI-33-1

縄文

G-18 SI-33-2

弥生

G-18-3

図版五二　遺物

G-4-1

G-4 一括

G-8-3

G-8-2

G-9 SK-33-5

G-9 SK-33-6

G-9 SK-33-7

G-9 SK-33 一括

G-9 一括

G-9 SK-33-4

G-9-8

G-11 SK-15 一括

G-11 SK-15-12

G-11 P-19-16

G-11 SK-15-13

G-11 SK-18-15

G-12-18

G-11 P-19 一括

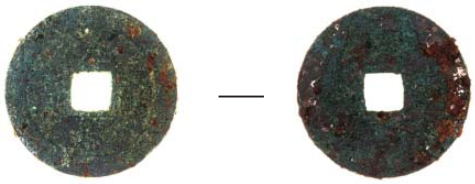
G-13-19

G-13-23

G-13-20

G-13-21

G-13-22


G-13-24

G-21-26

G-14C-27

G-14C-28

G-14C 一括

G-14D-29

G-14D-30

G-14D SK-37

G-17B-31

G-17A SI-3-34

G-17A SI-3 一括

G-17A SI-3-32

G-18 SI-30-35

G-18 SI-30-36

SK-485-38

G-18 SI 出土 -37

報告書抄録

ふりがな	あわのみやみやうちいせき
書名	粟宮宮内遺跡
副書名	一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査
巻次	
シリーズ名	栃木県埋蔵文化財調査報告
シリーズ番号	第409集
編著者名	今平昌子・杉浦昭博
編集機関	公益財団法人とちぎ未来づくり財団　埋蔵文化財センター
所在地	〒329−0418　栃木県下野市紫474番地　TEL 028−44−8411
発行機関	国土交通省　栃木県教育委員会　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
発行年月日	西暦　2022年３月30日（令和４年３月30日）

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °　′　″	東経 °　′　″	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あわのみやみやうちいせき 粟宮宮内遺跡	おやましし 小山市 あわのみやちない 粟宮地内	小山市 092088	16865	36°17′11″	139°46′50	第４次 20190822 ～20200331 第５次 20200501 ～20200331	第４次 1,118 第５次 1,316	一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
粟宮宮内遺跡	集落跡	奈良・平安 中世 近世～近現代	住居跡　14 井戸跡　1 溝状遺構　3 土坑　88 ピット　37	縄文土器・弥生土器・土師器・須恵器・土師質土器・陶磁器・焙烙・瓦質土器・石製品・金属器・古銭　等	縄文・弥生時代の散布地 奈良・平安・中世・近世～近現代の集落跡

要約	粟宮宮内遺跡は思川の東岸に位置する。今回の調査では奈良・平安時代の集落と、中世～近代現の日光道中・陸羽街道の沿線の集落の一部が確認された。遺物としては奈良・平安時代の土師器・須恵器、中世の土師質土器、近世以降の焙烙・陶磁器などの他、鍛冶関連遺物も出土する。 日光道中の間々田宿と小山宿の間の「立場（たてば）」に関連する集落と推察される。

栃木県埋蔵文化財調査報告第 409 集

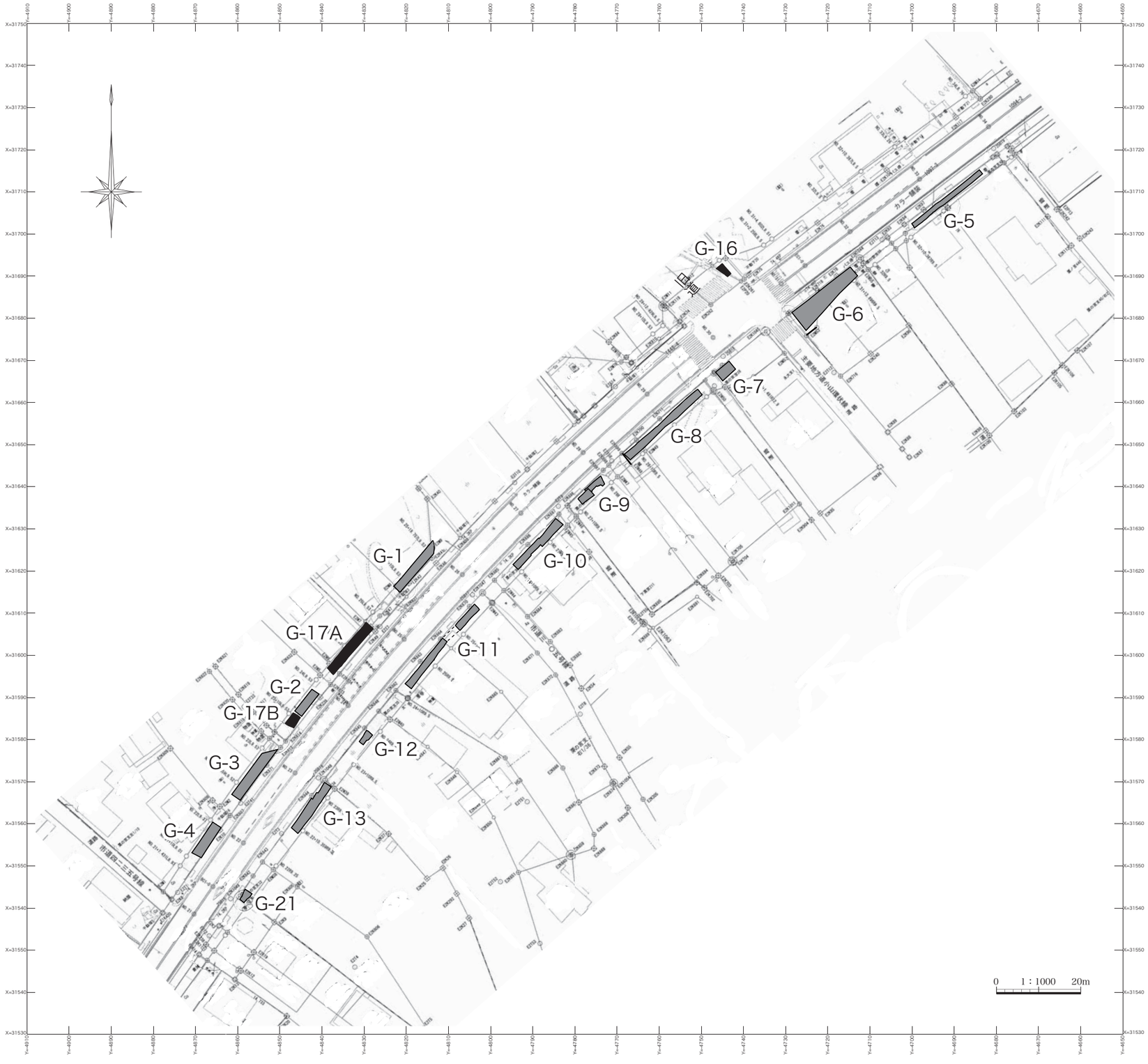
粟宮宮内遺跡

－一般国道４号（粟宮歩道整備）建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査－

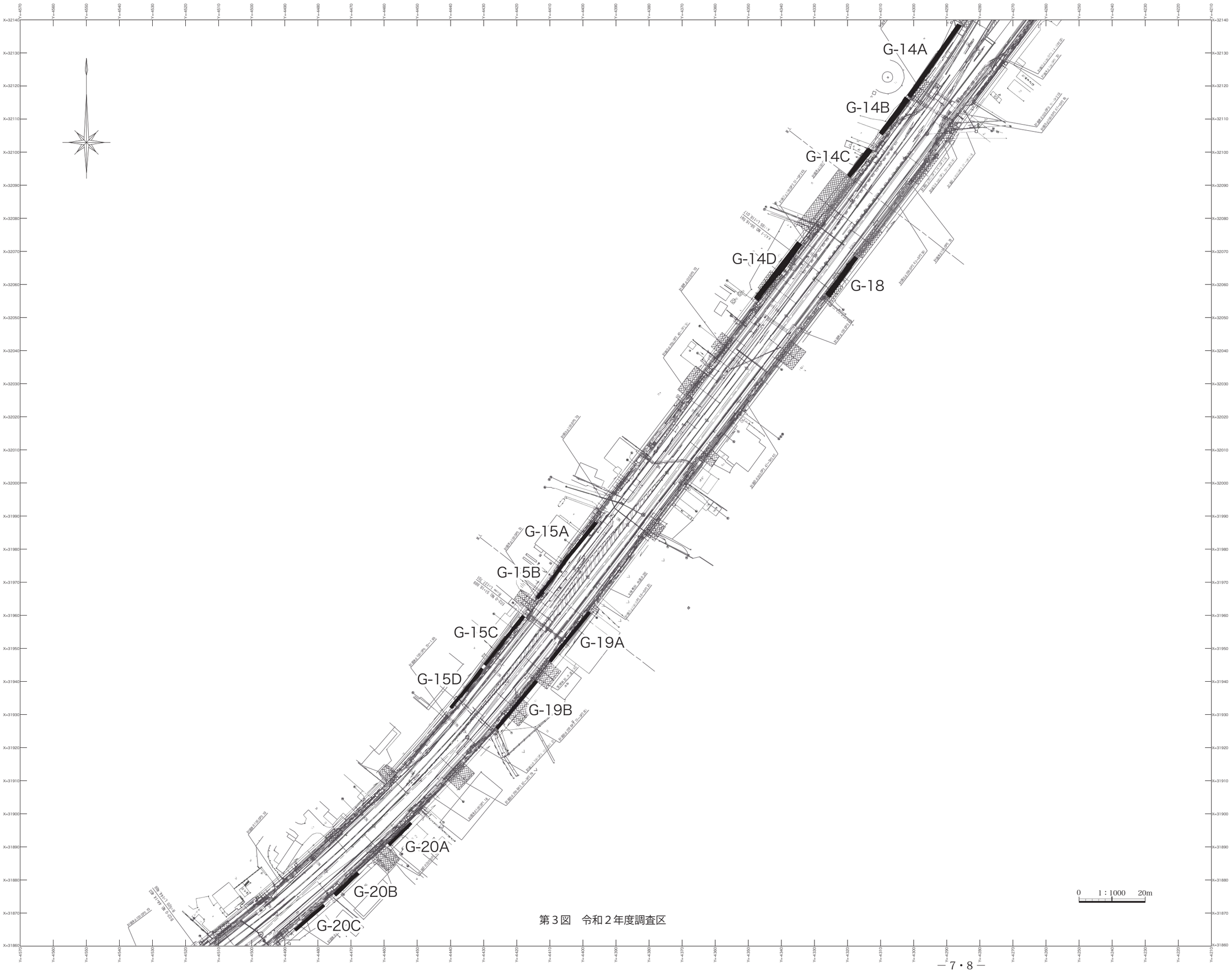
発　行　栃木県教育委員会
宇都宮市塙田１－１－20
ＴＥＬ　028（623）3425
公益財団法人とちぎ未来づくり財団
宇都宮市本町１－８
ＴＥＬ　028（643）1011
編　集　公益財団法人とちぎ未来づくり財団
埋蔵文化財センター
下野市紫 474 番地
ＴＥＬ　0285（44）8441
発行日　令和４年３月 30 日発行
印　刷　株式会社 大塚カラー

-5000.0
-4900.0
-4800.0
-4700.0
-4600.0
-4500.0
-4400.0
-4300.0
-4200.0
+32100.0
+32000.0
+31900.0
+31800.0
+31700.0
+31600.0
第１次 調査区
第２次 調査区
第３次 調査区
第４次 調査区
第５次 調査区
G-14A
G-14B
G-14C
G-14D
G-18
G-15A
G-15B
G-15C
G-15D
G-19A
G-19B
G-20A
G-20B
G-20C
G-16
G-5
G-6
G-7
G-8
G-9
G-10
G-1
G-11
G-12
G-13
G-17A
G-17B
G-2
G-3
G-4
G-21
市道小山線伏線
沼山線林線
湯浦4号

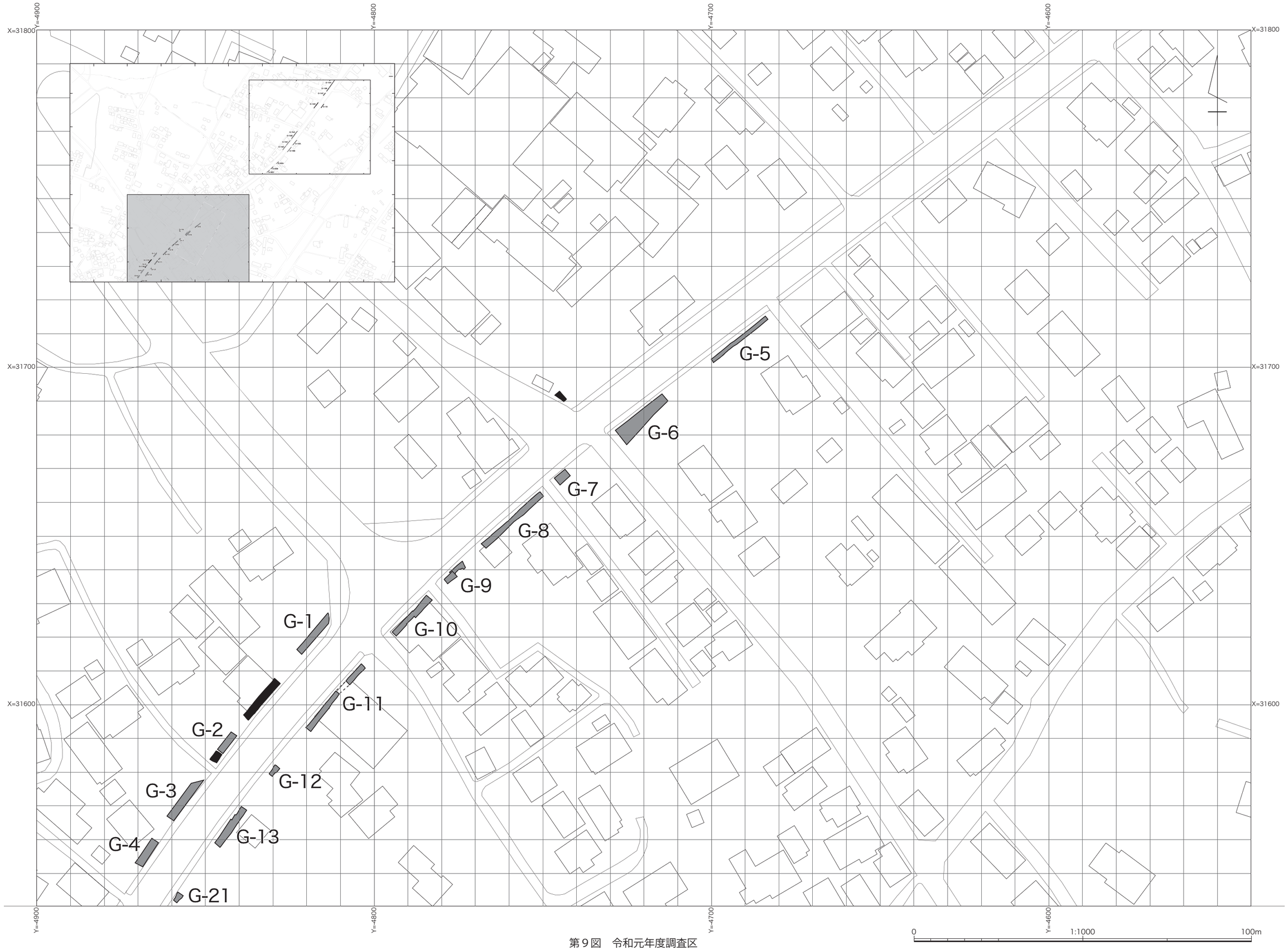
第１図　調査区全体図



第２図　令和元年度調査区（G-16・17 区は令和２年度分）



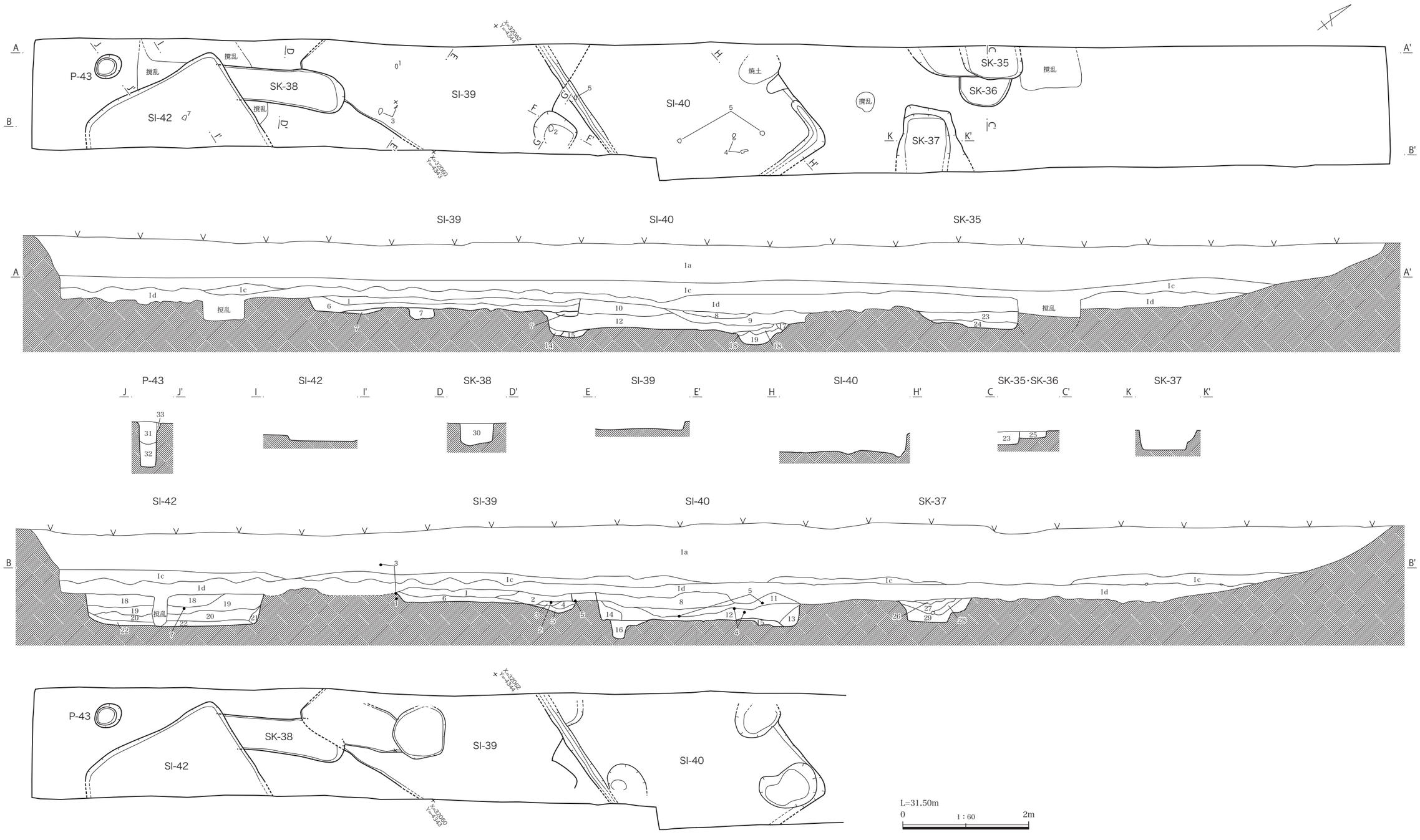
第３図　令和２年度調査区



第９図　令和元年度調査区

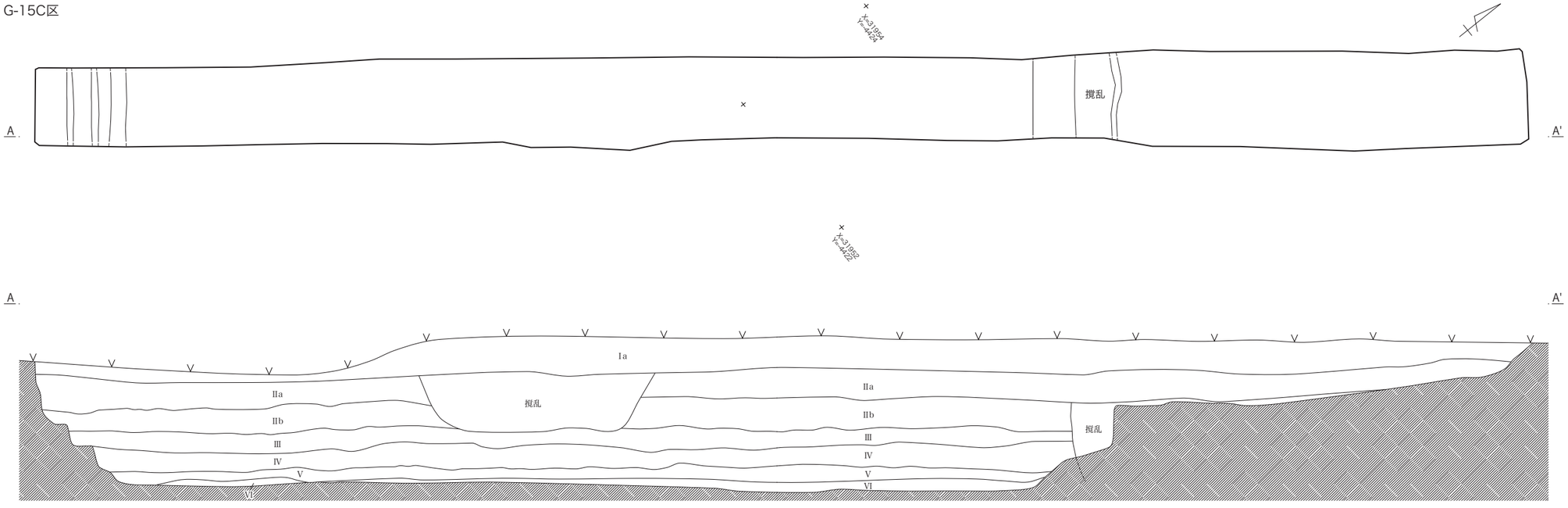
第 46 図　令和２年度調査区（２）

0　1:1000　100m

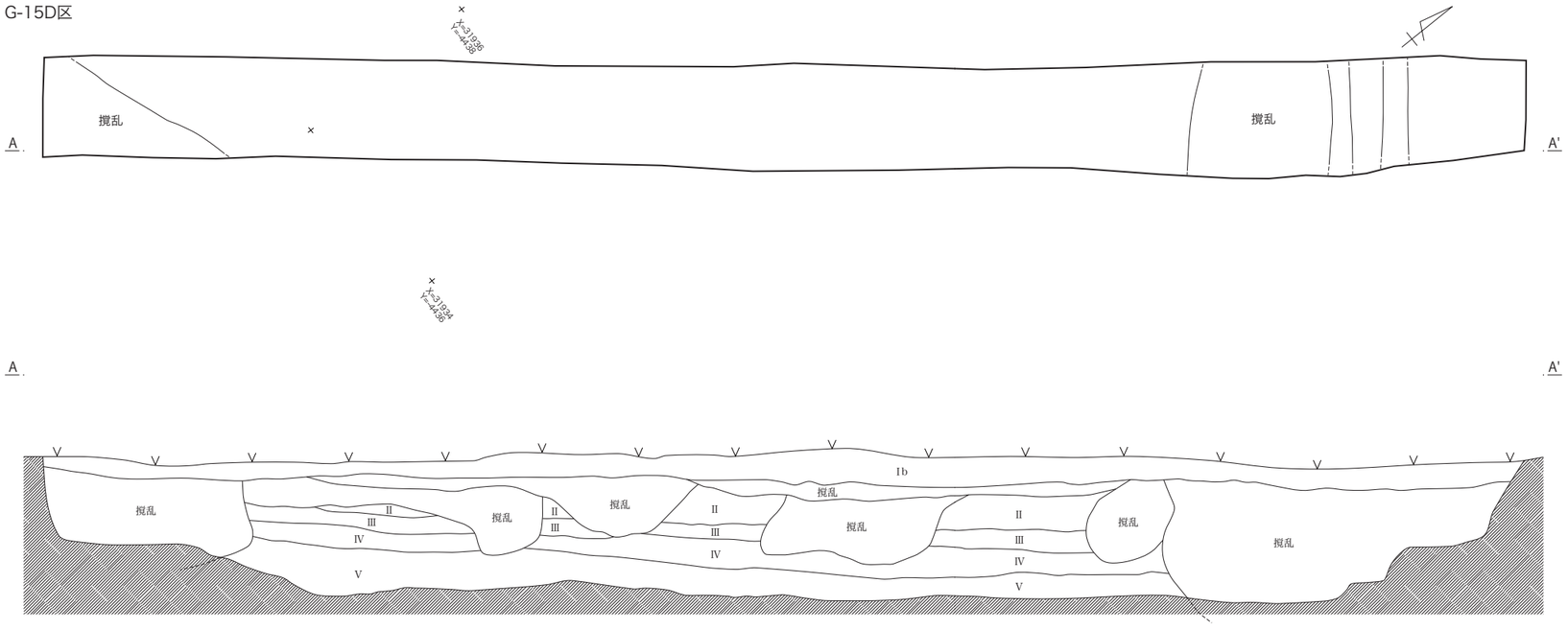


第 50 図　G-14D 区　SI-39・40・42，SK-35 ～ 38，P-43 遺構実測図（1）

G-15C区



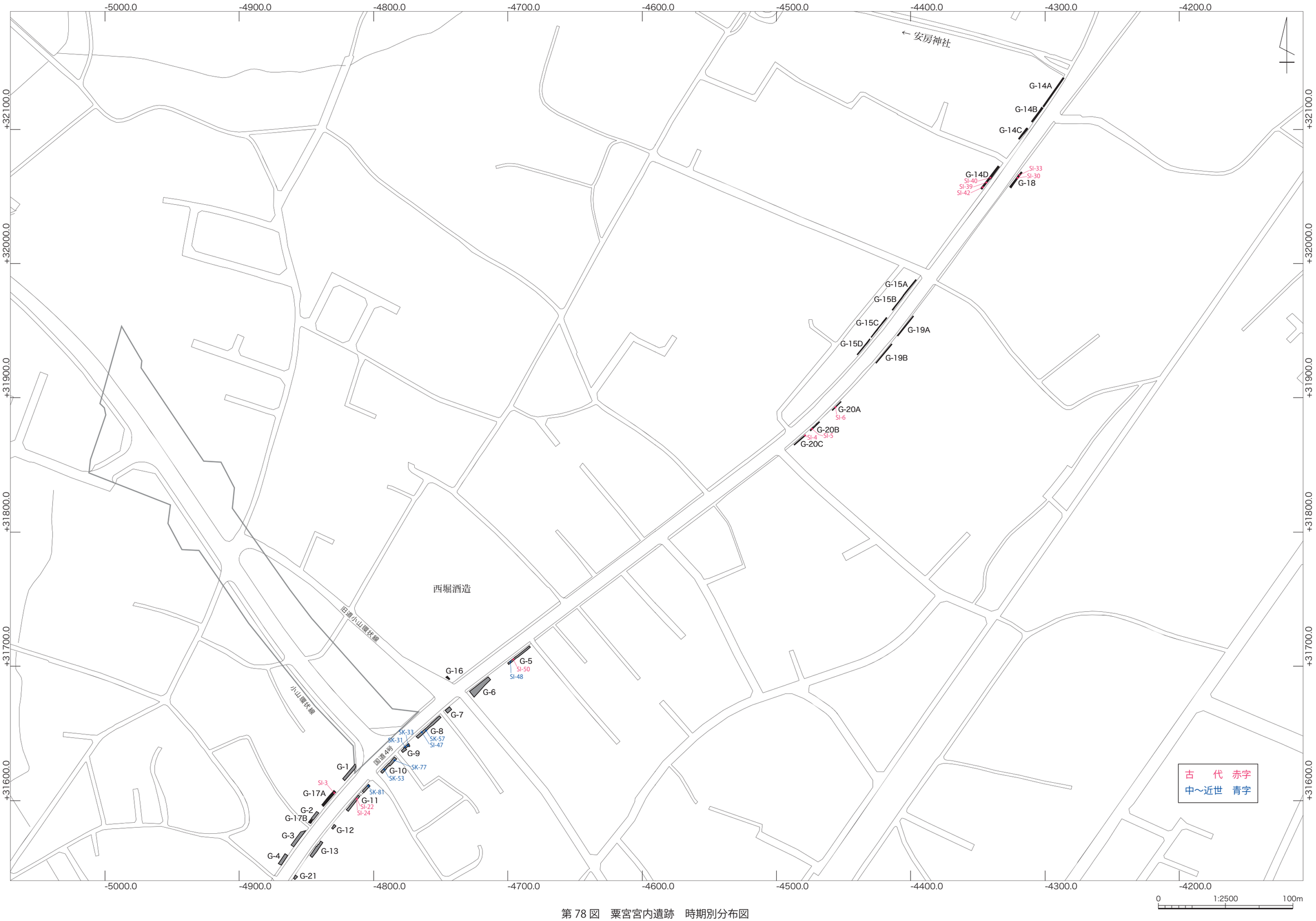
G-15D区



G-15C・D 区
Ⅰa　現代の路面整地層　砂利多量。
Ⅰb　黒褐色土　土壌の表土。
Ⅱ　褐色土　（中世～近世か）
Ⅱa　やや明るい褐色土　（中世～近世か）
Ⅱb　やや暗い褐色土　（中世～近世か）
Ⅲ　暗褐色土　As-B 以降とみられる（旧耕作土）
Ⅳ　黒褐色土
Ⅴ　暗褐色土
Ⅵ　ローム漸移層

L=32.50m
0　1：60　2m

第 55 図　G-15C・D 区　遺構実測図



第 78 図　粟宮宮内遺跡　時期別分布図